

平成9年度

第四期「信大YOU遊サタデー」の実践

—体験的学習の指導による実践的力量の形成—

Shin-Dai You Yu Saturday :

Saturday Fun Sharing Program at Shinshu University

-Training for Practical Teaching Skills and Qualities-

平成9年

5月24日・9月13日・9月27日・10月11日・11月8日・11月9日



信州大学教育学部

信州大学附属図書館

研究指導センター



0770667921

まえがき

藤沢謙一郎（附属教育実践研究指導センター長）

文部省は、都道府県・政令指定都市を対象に、「教員養成の実施状況等に関する調査」を実施し結果を公表しています。その中で、採用側が養成段階に期待するものとして、「教職につく明確な意志、教員の使命の自覚」（小学校 70.2%、中学校 64.9%）がもっとも高く、次いで「教職に関する専門知識」、「幼児・児童・生徒を把握し指導に適切に反映していく能力」が、いずれも50%以上の高さであげられています。また、採用時点での必須の資質（不足している資質）としてあげられたのは、「幼児・児童・生徒を把握し指導に反映していく能力」「学校の同僚、保護者、学校外の関係者と円滑なコミュニケーション、人間関係を保つことができる能力」「幅広い教養」で、いずれも65%～70%でありました。そしてこれらが不足している原因を、「大学での養成の在り方」や「家庭環境や社会環境の変化」にあるとしています。さらに、こうした状況への改善策として、教員養成機関に対し「理論中心のカリキュラムから、学校現場の実態やニーズを踏まえた実践的な内容を重視したカリキュラムに転換する」「教育方法について、子どもと直接ふれあうなどの体験的な実習や事例研究など効果的なものを工夫する」等を指摘しています。調査結果から、問題を抱える教育現場での期待する教師像が浮かびあがってきます。

こうした中で、文部省は平成9年度から「教員養成学部フレンドシップ事業」を、スタートさせました。これは、教職を目指す学生が、児童生徒と「直接ふれあひともに学ぶ」ことにより、実践的指導力の育成を図ることにより、体験の場と機会を大学と地元教育委員会が連携して設け推進するために予算化した事業です。信州大学教育学部も、今年度この事業に取り組みましたが、それを可能にしたのは、本センターが昨年度から1年生に必修として開設した臨床経験の授業「教育参加」と、これまでの学生諸君による「信大YOU遊サタデー」の活動実績によるところが大きいと考えています。これらは、フレンドシップ事業を先取りしたものであったと言えるからです。その「信大YOU遊サタデー」も第4期を迎え、これまでの大学キャンパスでの活動から「出張YOU遊サタデー」と称し、地域に出て活動を展開しました。これまでと異なるこの体験は、参加した学生諸君に何をもたらしたのでしょうか。参加するということは、ただ単にそこに身を置くということではありません。そこに身を置き活動し、何のための参加かを自ら問う営みです。個々バラバラに存在していた知識や技術が、参加・実践活動を通じて結合し、本物になっていくはずで、そこで改めて、己の無知や技術のいたらなさ気づかされもします。そこに新たな学習への出発があります。

本書は第4期「信大YOU遊サタデー」の実践報告です。学生諸君の生き生きとした姿が伝わってきます。これらの諸君によって明日の教育が拓かれるはずで、これからも地道な活動を期待しています。

なお、本年度も（財）長野県テクノハイランド開発機構から援助をいただきました。感謝とお礼を申し上げます。

— もくじ —

	page
◎まえがき	藤沢謙一郎 (附属教育実践研究指導センター長) 1
◎もくじ	2
◎第四期概要	4
○YOU遊サタデーの足跡 ('97)	林向達 (第1期YOU遊サタデー事務局長) 5
○YOU遊サタデーとは何ぞや	中村典史 (第4期YOU遊サタデー実行委員長) 8
○学生の自発・能動の取り組みによる力量形成	土井進 (附属教育実践研究指導センター) 11
○第4期YOU遊サタデー定例会議事録	13
○YOUサタカレンダー (9/27~11/9)	17
○カレンダーに関する資料	19
◎講座紹介・HOW TO サタデー・講座記録	44
○物作り講座	キャプテン 45
・ブーメランを作ろう!	松元徹 (保4) 59
・ブーメランを飛ばそう	柚木亘 (理4) 60
・楽しく作ろう 籐かご作り	澤田奈奈 (理3) 61
・宇宙生物スラスラスライム	浅沼康理 (数4) 65
・宇宙からやって来た Sura Sura スライムくん	真島紀章 (数3) 68
・スラスラスライム	吉沢麻衣子 (国3) 71
・ペーパーグライダーをとばそう	中村典史 (社4) 74
・自分で紙を作ってみよう・いい紙つくろう! 世界でたった1枚の紙を。	真島紀章・市川大輔 (数3) 77
・ステンシルって何?~君もやってみよう~	土屋淳子 (家4) 81
・やさしい木工教室	片桐宏 (技教・院2) 85
・からカラアート	森下房枝 (家3) 88
・うちわで書	村田恵 (国3) 92
・タオルマジック~タオルを使って動物をつくろう~	小倉佐知子 (家3) 95
・フィルムロケット~えっ!!フィルムケースがとぶの?~	登坂武人 (社3) 98
・作ってうれしいカレンダー	阿部利恵 (実3) 101
・天まであがればくのたこ	小木曾雄亮 (数3) 104
・あけてビックリ! 飛び出す絵本作り	武末裕子 (美2) 106
・永久ゴマをつくろう	柚木亘 (理4) 109
・折り紙ランド	斎藤聖子・増田紀子 (家3) 111
○体験講座	114
・サラサラドロドロカッチカチ (小麦粉粘土)	唐木紫織・森下房枝 (家3) 121
・でっかいでっかいシャボン玉をつくろう	金井弘子 (理3) 124
・ネイチャーゲームII	小池裕介 (実4) 128
・宝さがし (ネイチャーゲーム)	小池裕介 (実4) 131
・山あそび	千葉綾子 (理4) 135
・こま・コマ・独楽であそぼ!・こまであそぼ!	竹下雅道 (数4) 139
・銅が金になる!? 錬金術の秘密・つくってみよう銀の鏡	中條悟 (理4) 143
・気分はめいたんてい	平林徹 (数3) 148
○食べ物講座	151
・どーんとうどんを作ってみよう	平林徹 (数3) 155
・モコモコデンキパン	清水麻紀子・唐木紫織 (家3) 158
・カンカンアイスクリーム	長田ひろみ (家4) 162
・一本日わたあめ屋さん	宮下聡 (院2) 165
○運動講座	168
・いい汗かこう!! 春の大運動会	佐々木美恵 (家4) 172

・ドキドキの世界	佐野美佳 (保4)	174
・みんなでジャンプ	佐野美佳 (保4)	177
・これで私もババババ PUFFY でいい感じ!	山木隆行 (数4)	179
○その他		182
・いじめフォーラム'97・いじめ・不登校フォーラム'97秋	北島茂樹 (数4)	184
・ゾクゾク教育学部ってどんなところ	片桐宏 (技教・院2)	189
・世界の言葉と世界の遊びを楽しもう	矢澤由紀子 (英4)	191
◎参加者アンケート		195
・アンケート集計結果		196
・参加者アンケートより		200
◎本部係		205
・スタッフ長	千葉綾子 (理4)	206
・駐車場係	小木曾雄亮 (数3)	207
・誘導係	片桐宏 (技教・院2)	208
・受付係	長田ひろみ (家4)	208
・開閉会式係	佐々木美恵 (家4)	209
・備品係	宮沢元 (理4)	210
・本部係	中村典史 (社4)	211
・Cooking 隊	酒井由佳里 (家4)	211
・写真・記録係	成田英直 (理4)	212
・コンピューター係	浅沼康理 (数4)	213
・会計係	土屋淳子 (家4)	214
◎出張 YOU 遊サタデー講座記録		216
○更埴出張 YOU 遊サタデー		217
・チャレン児プラザ 21 について	宮沢元 (理4)	220
・宇宙生物スラスラスライム	宮沢元 (理4)	221
・飛び出す絵本	桐山潤 (国4)	223
○高遠出張 YOU 遊サタデー		225
・信州高遠フェスティバルについて	中村典史 (社4)	231
・宇宙生物ふるるんスライムを作ろう	片桐宏 (技教・院2)	233
・ペーパーライダーをとばそう	芦田英央 (社4)	235
・からカラアート	森下房枝 (家3)	237
・冒険ハイク～自然の中を探険しよう～	登坂武人 (社3)	239
・ネイチャーアート	土屋ひとみ (実2)	241
○小諸出張 YOU 遊サタデー		244
・乙女の森フェスタについて	佐々木美恵 (家4)	245
・でっかいでっかいシャボン玉をつくろう	山田尚美 (家3)	246
・フィルムロケットを飛ばそう～えっ!!フィルムケースが飛ぶの?!～	登坂武人 (社3)	248
・宇宙生物スラスラスライム	佐々木美恵 (家4)	250
◎学生スタッフ名簿		253
◎平成9年度「YOU 遊サタデー」学年別参加者数		257
◎あとがき	土井進 (附属教育実践研究指導センター)	258
◎編集後記	登坂武人 (社3)	

第四期概要



今期YOU遊サタデー実行委員会は、キャンパスで行われた第11回・第12回・第13回の3回を中心に出張を含めた計6回のYOU遊サタデーを成功させるべく活動を展開してきた。その活動内容をこの概要で振り返っていただきたい。

この概要は、第1期から第4期までの客観的考察、実行委員長の目から捉えた今期YOU遊サタデーの活動の姿、今期1年間の活動内容、さらに実際、第12回終了後から第13回に向けて実行委員会がどのような準備をしてきたのかをカレンダー形式にしてまとめてみたもの(9/27~11/9は高遠と小諸2つの出張YOU遊サタデーの準備も平行しておこなわれていたので、そのこともカレンダーにならべて記入しておいた)の4種類の原稿から構成されている。またカレンダーの中には、私たち実行委員会でのみ使われている言葉がいくつかあるが、それに関しては以下に脚注をもうけたのでそちらを参照していただきたい。

この第4期概要を読んで、今期私たちがどのような活動を、どのような考えに基づいておこなってきたのかをご理解いただければ、これ幸いである。

YOU遊サタデーの足跡（'97）

林向達（第1期信大YOU遊サタデー事務局長）

【1】はじめに

1994年度に信州大学教育学部においてスタートした「信大YOU遊サタデー」も4期を数えるまでになった。これまでの変遷を簡単にまとめておきたい。比喩的に表現すれば次のようになるだろう。

「信大YOU遊サタデーは、第1期で決意し土地を買い、第2期で土台を固め、第3期で屋根を作った。第4期になって、ようやく家の中のことに着手し始めた。」

【2】土地を買った第1期

第1期YOU遊サタデーは、無からの創造の時期。「もっと子ども達と触れ合いたい」という願いを実現するため、6月に実行委員会結成、9月には第1回開催というスピード展開であった。

第1期のスタッフにとって、信大YOU遊サタデーは真っ白なキャンパスに等しかった。そこに様々な理想を夢描きつつ、自由な発想にしたがって子ども達や地域社会との触れ合いの場を目指す。学校週5日制や、教員の実践的指導力の要請、開かれた大学の推進など、様々な追い風を背に受けて、手探りをしながらの出発であった。

（平成6年9/10・10/8・11/12開催、学生数延べ152名、参加者数延べ544名）

【3】土台を固めた第2期

YOU遊サタデーの2年目は、YOU遊サタデーの基本理念を明確化した時期。第1期での実践を見直し、問題点やこの活動そのものの意義について検討がなされた。この期では松本キャンパスでの開催が実現し、また「出張YOU遊サタデー」と呼ばれる、外部からの出前講座要請に応える試みも加わった。

大学と地域社会とが触れ合う新たな場を創造したことで自体に意義のあった第1期と異なり、第2期以降は、実践の内実が大いに問われてくる。そこで第2では、講座づくりに焦点を当て、指導案にあたる「遊学プラン」を軸としてキャプテン・スタッフのコミュニケーションの充実を図ったり、学部授業「教育実践学演習」との連携や実行委員会の定例化など、質実向上の努力がなされた。

（平成7年5/27・9/9・10/14・10/28、学生数延べ315名、参加者数延べ871名）

【4】屋根を設けた第3期

第3期では、ここまでの土台の上に、活動自体をより豊かなものにしようという性格を持っていた。またこの期では、外的な障害（オリンピック開催によるキャンパスの工事）や、信州大学教育学部の新たな教科目「教育参加」との連携といった要素が数多く降りかかってきたため、そうした状況に適應する努力もなされた。

この期の特徴としては、たとえばYOU遊サタデーの運営で常に問題となっていた仕事の集中化については「みんなで仕事をやろうDAYS」という活動呼びかけ、大所帯となった学生スタッフ間のコミュニケーションを促そうとした。また、YOU遊サタデーでの活動が当日以後も広がりを持つように「HOW TO サタデー」という冊子を作成、様々

な講座の教材紹介を配布するといったアイデアも取り入れた。

(平成8年5/25・9/14・10/12、学生数延べ396名、参加者数延べ871名)

【5】住みはじめの第4期

YOU遊サタデーのスタートは、子ども達とのふれあいの場を増やし、自分自身を磨いていきたいとする教育学部性の願いに端を発している。この本来の願いに注力できるようになったのは、第4期に至ってようやくであろう。この期では、飯綱・長野県自然保護研究所の協力を得て、野外活動をテーマとした講座を開設するなど、依然新たな挑戦が試みられている。

第4期がこれまでの期と異なっているのは、反省会の発言内容が単なる感想ではなく、自己の実践についての分析であるものが増えたことなど、各人の活動への関わりが深くなっている点である。器をつくる努力から中身に関する努力への移行を感じさせる。次なる段階への転換点だといえる。

(平成9年5/24・9/27・11/8)

【6】時・場・人

以上4期を通しての変遷を粗雑に並べてみた上で、3点についてポイントをまとめておきたい。

1. 活動は長期的な展望のもと継続されなければ、本来の主旨まで到達できない。YOU遊サタデーもまた、マンネリ化の弊害を免れないが、その域に達して初めて、私たちが追求すべき課題が見出されるのではないと思われる。
2. 場を活性化させる視点を持てるかどうか。子ども達や地域社会の人々と学生との触れ合いの場を設けるということは、単に一緒に同じ時間を同じ場所で過ごすことによるのみ達成されるわけではない。場全体を見通した上で、自分なりの関わりを展開する必要がある。
3. 各人の「人間力」を軸に据えることが大切ではないか。活動を一般化し理論的に記述する試みは大切であるが、その一方で、拭いきれない固有性も大切にしたい。活動の成功が、方法論でのみ達成されるのではなく、そこに参加した人間の力によって豊かなものとなるようにデザインしていくこと。

【7】おわりに

この時期、フレンドシップ事業の促進により他大学においても様々な取り組み、試みがなされている。そうした動向を注意深く観察すると、活動をタイプ分けすることができる。その際、2つの軸を立てることができるだろう。



この講座の中で、信大YOU遊サタデーは、複数の講座およびテーマを学生スタッフ側が事前に準備する点で「主催者主導・講座制」に近いが、当日は主催者である学生スタッフも参加者であり、本当の参加者とともに活動を進行させるという点では、「参加者主導・講座制」と考えられる。

他大学の中には、参加する子ども達と共に活動内容を決定し、全体で一つの目標に向かって活動を行なう形もあり、その場合には「参加者主導・全体活動型」と考えることができる。実際には、少人数のグループ単位に分かれて活動したり、細分化された活動を分担することになるだろう。このような軸以外にも、活動場所の違いにや、時間的な違いもタイプ分けにかかわってくるのが考えられる。改めて自分達の活動の位置づけを分析することが必要だと思う。

今後、信大YOU遊サタデーを継続していく中で、大きく活動を見直す時期が来ると予想される。その時、YOU遊サタデーを座標の中で大胆に動かしてみることも必要になってくるだろう。あるいは、期ごとにタイプを切り替えるといったことも活動に刺激を与えられるかもしれない。私達の人生の中、幾度か「引っ越し」があるのと同じように。



YOU遊サタデーとは何ぞや

～実行委員長の挨拶にかえて～

実行委員長 中村 典史

この実践記録を3年生が中心になって作りはじめた頃、当然実行委員長の挨拶というものが必要であろうということで、私にも書くようにとのほぼ命令に近い通達が来た。よくよく見ると去年もおとしもちゃんと実行委員長の挨拶というものが掲載されている。その中には、「ああ、あの人ならこういうことを書くだらうな」という人格のにじみ出た文章がつづられていた。

そこで私も卒論の疲れからか、自分の思いのまま文章を書きたいという衝動がふつふつと湧き上がってきたのであるが、はたして何を書けばいいのか。考えに考えた末、結局出てきたのが上記のタイトルである。編集委員の一人が横から見て、「本当にそれで書くんですか？」と言われてしまったが、私は本気である。

たしかにこのタイトルは一見もう考えられ尽くした観がある。第1期から第3期までの実践記録その他YOUサタに関する文章をひも解けば、たいていのところにその概念が記されている。そんな問題をなぜいまさら、という声が、遠くの方からこっそりと聞こえるような気もする。しかし一度考えられたことは考えないという姿勢では、YOUサタは成り立っていかない、という考えのもと、私は1年間YOUサタをやってきた。結局行き付いた先は今まで言われてきたこととさほど変わりのないことであり、無駄なことをしたような気もするが、1年ごとに活動する人間がころころ変わるYOUサタにおいては、その無駄なことに大きな意味があるのである。

・活動面から考えてみる

今年は様々な面で、これまでになかった活動が取り入れられた年であった。その端々で「YOUサタって一体なんだろう」と考える機会が、私だけでなくYOUサタをやっている多くの学生にあったと思う。実はそれを項目ごとに書いていこうと思って半分くらい書いてみたが、あまり興味をひかれるものとならなかったのもので、自分でボツにしてしまった。そこで、もっといいものを書く義務が生じてしまったわけであるが、こうした疑問を容赦なく私たちにぶつけてきた活動に出張YOU遊サタデーというものがあるので、それを中心に見ていきたい。ただし出張を行った際の詳しい経過や苦労話はそれぞれのページに書かれているので、私は出張がYOUサタ全体に及ぼす効果という点から考えていこう。

出張YOU遊サタデーというのは、別に今年始まった活気的な新企画ということではなく、毎年目立たないところでひっそりと行われてきた活動である。しかし今年はそんな隠居生活から俗世間に舞い戻ったように、出張がクローズアップされた年であった。

出張YOU遊サタデーとはその名の通り私たちが地域へ出張し講座を持つものである。今年は更埴、高遠、小諸へ出かけて、そこでのイベントに参加させていただいた。出張をするメリットには次のようなものが挙げられる。

1. 出張することによって新しい視点がYOUサタ内にも入ってくる。

主にイベントを取り仕切る主催者の意図やその運営方法が、私たちの活動の参考になるということ。

2. 新しい分野（出張）にチャレンジ出来る

大規模な出張という過去に例を見ない活動を取り入れることにより、頭を使う機会が増え、私たちの活動が活性化するということ。

3. 主催者側との交流で勉強になることが多い

主催者の方々との交流は、運営方法などを学ぶという点のみではなく、教師となったときの先輩として学ぶものがいくつもあるということ。

しかししたいの活動には、問題点というのも付きまとうものである。この出張も例外ではないが、それはYOUサタそのもののスタンスに関わるものであった。

1. YOUサタとの主旨の違い

こちらがお邪魔している立場で主旨が違くと文句を言うのも非常にあつかましいが、これが活動内容に影響してきては問題となっても仕方がない。できるだけたくさんの人に参加してもらおうというイベントの性格上、私たちのやっているようなじっくり2時間かけて行う活動が出来ないため、子どもとのコミュニケーションが取れず、私たちが目標としている子どもとの関わりを学ぶということが達成できない。厳しく言えば、私たちはイベント業をやりたくてYOUサタをやっているわけではないということである。

2. 出張による本来の活動への圧迫

いくら出張が大規模になっても、私たちの活動拠点にはキャンパスである。キャンパスのYOUサタは参加する学生の意識の面でも、学生がすべての企画をするという点でも、重要なものとなっていて、これをやめてまで出張に精を出すわけにはいかないということである。しかし今期においては忙しさのあまり、キャンパスでのYOUサタが「ただ開くだけのもの」になってしまったことは否めない。

こうした問題は、YOUサタ全体に対し多くの疑問を投げかけた。2時間同じ子ども相手に講座をする事と、流れ作業的に行うことの違いは何なのか？キャンパスでYOUサタを行う意味は何なのか？それぞれが難しい問題とジレンマをはらんでいて、簡単には解決する様子もない。しかし「YOUサタって何だろう」と考えるいい機会になることは間違いない。

・組織面から考えてみる

YOUサタは今年で4年目を迎え、次第に運営その他の活動もスムーズにこなされるようになってきた。この月にYOUサタを行うにはどれくらいの時期に何をしてどうするといい活動がリストアップされ、その気になれば全く参加していなかった人でもそれを見ればYOUサタの運営ができるまでになっている。また組織的にも明確に役割分担がなされ、実行委員長などは「これはどうしよう」という時の相談相手しかやることのない状態でもYOUサタが動くようになってきた。運営にかまけるあまり、一番の目的である子どもとの関わりを学ぶという点に比重がかけられないという問題をクリアする意味で、こうした進展はなおも期待される。

しかし逆に、こうしたことにより次にあげるような新たな課題が生まれてくることもまた事実である。

1. 活動のマニュアル化に伴うマンネリズムの進行

活動がマニュアル化されることにより、試行錯誤の必要性がなくなり、結果としていつもやることは一緒という状態に陥る。そればかりかなぜそういうことを行うのか、という根拠を持たず、去年やっていたからということだけで活動してしまう恐れがある。これはYOUサタそのものについても言えることであり、去年やっていたから今年もYOUサタやるか、という主体性のない活動では、講座の中身や安全面に問題が生じる。

2. 役職の専門化に伴う問題

役割分担がすすむにつれ、その活動が専門性を帯び、それに携わっていない人が入り込めなくなってしまう。そのためその人がいないとどうにもならないという問題が起きてくる。また常に問題になっているYOUサタ内部の閉鎖性の一因にもなる。

こうした課題を解決するためにも、最初に述べた「YOUサタについて考える」ということが必要になってくるのである。つまり常に自発的にYOUサタに関わろうという姿勢が最も重要な要素となってくるのである。

「YOUサタとは何ぞや」というタイトルでつらつらと書いてきたが、結局結論は何なのか？一応私の中で結論めいたものはあるのだが、あえてここでは書かない。それは私がケチだということや今までの記述と一致しないということも原因ではあるが、なにより、それはやはり自分で探すべきものであろうと考えるからである。私のこの文章は、それを考えるたたき台で十分である。YOUサタ関係者以外でこれを読む人にとっては困った文章であるが、そうした主旨をご理解いただきたい。

最後に、今年一年間、私の屁理屈の数々にも関わらず、いつもニコニコとYOUサタを全面的にバックアップしていただいた土井先生にお礼の言葉を送るとともに、来年YOUサタを創っていく後輩たちにエールを送り、私の挨拶を終えたい。



学生の自発・能動の取り組みによる力量形成

土井 進（附属教育実践研究指導センター）

1. 第四期実行委員会の発足

平成9年3月13日、卒業式を間近にしたこの時期に、実践センター104室には大学院生2名、4年生5名、3年生9名、2年生1名による白熱した討議が行われていた。教育学部全体の視点に立って、YOU遊サタデーの改善すべき点を話し合い、第四期実行委員会を発足させようという集いであった。

YOU遊サタデーという一つの場をきっかけに集った先輩と後輩が、絨毯の上に車座になって語り合っていた。そこでは、YOU遊サタデーは一般の学生にとっては閉鎖的な組織に見えること、YOU遊サタデーに参加した学生どうしても意外に話し合う機会が少ないこと、など様々な問題点が指摘されていた。一方、どんな問題でも語り合っていくことによってきっと乗り越えて行ける、仲間同志がスパークしあう建設的な話し合いこそが大事である、組織というものは有機的なつながりである以上閉鎖的な側面をもつが、実行委員長を中心にしっかりとした土台を作り、参加したいという学生には常にオープンな姿勢でいく、などプラス思考の意見もどんどん出された。そして、結局、YOU遊サタデーというのは実はすごいことをやっているのだという自覚に達し、YOUサタを継続していくために第四期実行委員会を発足させようということで一座がまとまった。

中村典史君（社会3年）が「たぶん自分は個性的ではないので、みなさんの個性を発揮していただいて、第四期YOU遊サタデーをやっていきたいと思います」と立候補宣言すると、全員が賛同の大拍手をおくった。

2. 長野県自然保護研究所での「山あそび」講座開設の経緯

飯綱高原にある長野県自然保護研究所（宮脇昭所長、平成8年9月30日開所）の陸斉氏（環境学習担当）が学校法人小山学園長野教育センター所長平沢信夫氏の案内で、平成9年3月28日にYOU遊サタデー実行委員会の学生を訪ねてきて下さった。そして、同研究所をYOU遊サタデーの会場として提供して下さいという有り難いご提案をいただいた。これまで野外活動の講座を開設したいという計画が何度も学生から出されたが、スタッフの手不足からくる安全面への不安と会場までの輸送経費が大きな壁となって、断念せざるを得なかった。しかし、今年度から文部省のフレンドシップ事業が始まり、信州大学では授業科目「教育参加」とともにこのYOU遊サタデーもフレンドシップ事業の一環として認めていただいたので、飯綱高原までのバス貸し切りが可能となってきた。これに勢いを得て早速4月に学生8名とともに実践し、陸斉氏の案内で山の中に入り、講座開設への夢をふくらませることができた。9月27日に「山あそび」講座を長野県自然保護研究所と共同で実施することができたことは、第四期の特筆すべき出来事であった。

3. 国立信州高遠少年自然の家での出張YOU遊サタデー開催の経緯

平成8年12月に漆戸邦夫・前センター長（現教育学部長）と上野登志男・教務係長と私の3人で国立信州高遠少年自然の家へ松下俱子所長をお訪ねした。それは平成8年度から開設した「教育参加」のメニューに同少年自然の家のご協力をお願いしたいと考えたからである。幸いご快諾を得たのであるが、その席で同所長からYOU遊サタデーの学生たちに高遠フェス

ティバルに参加してもらいたいとの要望が出された。これは学生に活躍の場を広げる上で大変有り難いご提案であったが、YOU 遊サタデーは学生の自発的な取り組みとして実施されているものである以上、私一存では返答することができなかった。

平成9年4月に松下所長が漆戸学部長を訪ねてきてくださり、その折に松下所長に学生たちに来ていただいた。そして、5月31日(土)に高遠下見ツアーが計画され、参加した学生5名が藤沢センター長と私の車に分乗して高遠に向かった。4年生の学生たちは車中でも教員採用試験のための勉強に余念がなかった。百聞は一見に如かず、やはりすばらしい自然環境の中にくると学生たちの活動意欲、創造性が刺激される。是非、秋には高遠でのYOU サタを実現したいという決意が固まったようである。高遠町の春日多喜子さんのご案内で城下の見事な桜、高遠藩校・進徳館と伊澤修二の生家を見学して帰った。10月11日(土)に学生33名が参加して高遠での出張YOU サタが実現したのは、フレンドシップ事業ならびに長野県テクノハイランド開発機構のご支援があったからこそである。

4. 小諸市文化センターでの出張 YOU 遊サタデー開催の経緯

平成9年6月に長野県教育委員会佐久教育事務所の上原美次指導主事がYOU 遊サタデー実行委員会の学生を訪ねて来てくださった。父親の家庭教育参加を考えるフォーラム「乙女の森フェスタ・親子で遊ぼう、作ろう」にYOU サタの学生の参加をお願いしたいというものであった。現在信州大学教育学部に学んでいる学生の4割にあたる約500名は長野県出身であり、県内120市町村にまたがっている。それぞれの市町村ではこれらの学生がやがて地元へ帰ってきて郷土の教育に骨を埋める覚悟で取り組んでくれることを強く願っておられる。養成段階である学生時代に、一度でもいいから自分の生まれ育ったところで、子どもたちと触れ合う体験をすることは、教育を地域社会という視点から考えていく上で重要である。このような考えに基づき、上原指導主事に佐久地方出身の学生に来ていただいた。教員採用試験、卒業論文、YOU 遊サタデーと忙しいさ中ではあったが、学校現場では毎日が忙しさの連続であり、それに流されなくて厳しく自己の力量形成を図っていくことが課題であることを聞き、この学生も発憤して小諸での出張YOU サタ(11月9日)に挑戦することになった。

5. 学生の自発・能動の取り組みによってのみ成立する YOU 遊サタデー

上述の出張YOU 遊サタデーのほかに今年度は、長野県社会部が主催して更埴市の長野県立歴史館・科野の里歴史公園を会場に実施された「ちゃれんじ児プラザ21」(9月13日)にも参加することができた。どの活動においても学生が自ら判断し、自ら決定して参加しているところにYOU 遊サタデーの最大の特色がある。ここが授業科目化された取り組みとは根本的に異なるところである。

学生たちが何故YOU サタをやるのか、不思議である。そこに人間形成にとって重要な何かがあるように思われる。それが何であるのか、本報告書に記述された学生の実践記録を熟読して把握するように努めたいと思う。

第四期のYOU 遊サタデーが、学生たちの自発・能動の情熱によって見事に推進され、無事故で終了できたことに感謝の気持ちでいっぱいである。YOU 遊サタデーに関わってくださったすべての皆様に心から御礼申し上げます。

定例会議事録

まずはじめに、**定例会**というものについて説明したい。

定例会とは、毎週木曜日に行われ、YOU遊サタデー当日に向け、執行部と参加スタッフ間の連絡事項のやり取りや、意志の疎通をはかるため行われる。これによって、YOU遊サタデーに参加する学生全員の志気が高まっていく。また必要に応じて**YOUサタ通信**（資料.1参照→P.21）も発行される。

下の表は各定例会の議事内容をまとめたものである。これから第4期YOU遊サタデーの1年間の活動の姿を見てもらいたい。

月/日	定例会	内容
4/4	第1回定例会	1.配布物配布 藤沢センター長の挨拶 2.年間計画発表 飯網・高遠への下見 3.YOUサタの説明 4.登録カード 必要事項の記入
4/10	第2回定例会	1.講座募集 第11回開講講座 2.連絡 ・4/10 講座決定、11 新聞社へ講座一覧表発送 17 講座紹介締め切り、28 遊学プラン締め切り 備品一覧回収、30 キャプテン会議(16:30～)、 5/6 受付開始(~5/17) ・次回定例会 4/17(12:40～) ・高遠(5/31又は6/1)下見、飯網(4/19)下見
4/17	第3回定例会	1.執行部の紹介 2.飯網下見参加者募集
4/24	第4回定例会	1.スタッフ名簿配布 ・講座スタッフ ・本部スタッフ 2.今後の日程(追加) ・5/19 みんなでやろう Days(~23日)、23日 前日準備、24日 当日 ・次回定例会 5/1(12:40～) ・9/27会場 長野・飯網に決定 3.牛乳パック・ペットボトル・トレイ収集の呼びかけ 4.キャプテンに会場レイアウト配布
5/1	第5回定例会	1.連絡 「更埴ちゃれん児プラザ21」参加講座募集 ・9/13 10:30~16:00 長野県立歴史館にて 「路上 DE YOUサタ」 ・歩行者天国でYOUサタしてみませんか？ 2.スタッフ名簿配布

		3.顔合わせ
5/8	第6回定例会	1.タイムスケジュール、本部スタッフ一覧を用意し各係ごとに打ち合わせ 2.当日参加の受け入れ、HOW TO サタデーの確認 (キャプテン)
5/15	第7回定例会	1.連絡 ・備品係、会計係 ・ビニル袋2~3枚当日持参 ・講座毎に準備をすすめる 2.9月講座募集
5/22	第8回定例会	1.講座紹介、成果発表、遊学プラン、当日受付人数、前日予定の変更確認 (キャプテン) 2.係毎に最終打ち合わせ 3.備品準備の確認 (キャプテン)
5/24	第11回 YOU 遊サタデー(松本会場)	
5/29	第9回定例会	1.高遠について 2.次回講座7月に募集 3.6/12~7/10まで休み 4.反省会(pre) ・本部とスタッフ間の連絡等のつながりについて ・非現実的意見についてどうしたら良いか ・講座の反省と全体の反省
6/5	第10回定例会	1.YOU サタ高遠について ・高遠 Q&A ・参加申し込み 2.YOU サタの発展・充実へ 3.今後の日程 ・6/12~7/10 定例会休み ・7/17、24 9月 YOU サタ、高遠の講座募集
7/17	第11回定例会	1.連絡 ・9/13 更埴にて出張 YOU サタ ・9/27 の講座&高遠の講座決定(7/24) ・11/8 の講座は夏休み明けに決定 2.本部スタッフ一覧 3.長野・高遠参加アンケート
7/24	第12回定例会	1.YOU サタとは 2.講座紹介 3.前回来なかった人へのアンケート 4.キャプテンアンケート締め切り
9/4	第13回定例会	1.各講座打ち合わせ 2.スタッフ一覧配布 3.各講座必要物品をたのむ 4.HOW TO サタデー用紙を渡す 5.受付方法の確認

9/11	第 14 回定例会	1.連絡 ・9/13 出張 YOU 遊サタデーin 更埴、9/18 定例会&How to サタデー締め切り、9/19 YOU サタ in 長野 受付締め切り、9/23～9/26 みんなでやろう Days、9/27 YOU 遊サタデーin 長野・飯綱、9/30 高遠遊学プラン締め切り、第 12 回反省会 ・メーリングリストの登録案内
9/13		出張 YOU 遊サタデーin 更埴
9/18	第 15 回定例会	1.高遠 YOU サタ参加者に宿泊の有無を確認 2.高遠講座内容について (キャプテン) 3.スタッフマニュアル確認 4.HOW TO サタデーを集める
9/27		第 12 回 YOU 遊サタデー(長野会場・飯綱会場)
10/2	第 16 回定例会	1.12 回アンケートの提出
10/9	第 17 回定例会	1.プリント配布 ・高遠への持ち物・集合時間の確認 ・定員、備品、教室の確認 (キャプテン) 2.第 13 回について ・教室、講座名、定員、講座紹介、備品一覧、遊学プラン締め切り 14 日確認 (キャプテン)
10/11		出張 YOU 遊サタデーin 高遠
10/16	第 18 回定例会	1.連絡 ・キャプテン会議① 10/16 ② 10/17 ・10/20～11/4 受付期間
10/23	第 19 回定例会	1.会計係から。備品の購入の仕方について 2.写真の配布 3.打ち上げアンケート 4.スタッフ一覧確認
10/30	第 20 回定例会	1.プリント配布 ・スタッフマニュアル、スタッフ電話番号 2.備品チェック 3.連絡 ・HOW TO サタデー31日締め切り ・名札、修了書、領収書作成 (キャプテン) ・備品購入によるレシート、領収書を会計係へ ・手ぬぐいを集める ・11/3～11/7 みんなでやろう Days 4.講座毎に打ち合わせ

11/6	第 21 回定例会	<p>5.連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反省会は 11/13 又は 11/14 ・名札等の確認、遊学プランを指導教官に見せる (キャプテン) <p>明日の準備予定(16:30 集合)</p> <ol style="list-style-type: none"> 2.各係り打ち合わせ 3.漆戸先生のお話、実行委員長のお話 4.参加者の名簿配布、当日受付人数・参加費の確認 (キャプテン)
11/8	第 13 回 YOU 遊サタデー(長野会場)	
11/9	出張 YOU 遊サタデー in 小諸	



YOUサタカレンダー (9/27~11/9)

9月27日(土)	第12回YOU遊サタデー(長野・飯縄)	
⋮		
10月1日(水)		
2日(木)	第13回YOU遊サタデー講座募集※1	
3日(金)	第12回YOU遊サタデーの反省会※2	[高遠出張YOU遊サタデーについて]
4日(土)		高遠出張YOU遊サタデー遊学プラン〆切
5日(日)		
6日(月)		高遠出張YOUサタ打ち合わせ会
7日(火)		
8日(水)		
9日(木)	講座決定※3・講座紹介※4〆切・各マスコミ※5	高遠へ出発
10日(金)		〆発送
11日(土)		高遠出張YOU遊サタデー(10/11)
12日(日)		
13日(月)		
14日(火)	遊学プラン※6, 備品一覧※7〆切	
15日(水)		
16日(木)	} キャプテン会議※8	
17日(金)		
18日(土)		
19日(日)		
20日(月)	受付※9開始(11月4日まで)	[小諸出張YOU遊サタデーについて]
21日(火)		7月31日 実行委員会※13出席
22日(水)		9月24日 実行委員会出席、準備
23日(木)		
24日(金)		小諸打ち合わせ、下見、備品買い物
25日(土)		
26日(日)		
27日(月)		
28日(火)	各講座へ備品を分ける	小諸スタッフ打ち合わせ、準備
29日(水)		
30日(木)	スタッフマニュアル※10配布	(上記の他にTELでの打ち合わせ、連絡
31日(金)	HOW TO サタデー※11〆切	十数回あり)
11月1日(土)		

2日(日)	<p>▼ <u>みんなでやろう DAYS</u> ※12</p> <p>前日準備(本部、各講座)</p> <p>第13回 YOU 遊サタデー(長野キャンパス)</p>	<p>準備(本部、各講座)</p> <p>小諸出張YOU遊サタデー</p>
3日(月)		
4日(火)		
5日(水)		
6日(木)		
7日(金)		
8日(土)		
9日(日)		



- ※1. **講座募集**とは、次回のYOU遊サタデーにおいて講座を開いてみようというキャプテンを募集することである。キャプテンとなるための条件はなく、学生・教職員・一般の方を問わず、講座を開きたい者であれば自分の講座を開くことができる。講座を開くキャプテンは、講座名や参加対象、参加人数、服装、持ち物、参加費、必要スタッフ人数などを考えて執行部に提出する。(資料.2 参照)
- ※2. **反省会**とは、一回ごとのYOU遊サタデーが終わった後に行われ、次のYOU遊サタデーへのステップとも言える。この反省会では、当日の講座や本部係の反省はもとより、前日までの準備段階の反省や問題点などが指摘され、次回のYOU遊サタデーの糧になる。
- ※3. **講座決定**とは、講座募集において集まった講座を定例会のときにYOUサタスタッフに報告することである。ここで講座が決定される。また、講座だけが決まっていってキャプテンが未定の場合もこの時点でキャプテンをしてみようという人が現われればキャプテンが決定する。また、講座の募集人数や参加対象が未確定だったりする場合も、この時点で調整が行われる。
- ※4. **講座紹介**とは、次回のYOU遊サタデーで行われる講座の内容を参加者に伝えるためのものであり、子どもたちに分かりやすいように絵などを交えて描かれるものが多い。また、講座紹介の他に講座名、キャプテン名、募集人数、対象学年、持ち物・参加費などを表にまとめた**講座一覧**がある。資料請求が来た時は、この二部を送り返す。(資料.3 参照)
- ※5. **各マスコミ**とは、主に各新聞社のことをさす。次のYOU遊サタデーにおいて行われる講座名や募集定員、対象学年などを通知して新聞に載せてもらうようお願いする。市民の皆さんがこれを見て、YOUサタの講座に申し込まれることが多い。(資料.4 参照)
- ※6. **遊学プラン**とは、学校の授業の指導案のようなものである。具体的には何をするか、キャプテンのこの講座における願い、講座の展開、準備するものなどが書かれる。キャプテンは書いた後に、執行部に提出する。そして、この遊学プランはキャプテン会議の時に、キャプテンや執行部のみんなによって吟味される。その後、書き直すこともある。(資料.5 参照)
- ※7. **備品一覧**とは、講座を開くにあたり必要な備品を準備する時に参考になるものである。備品一覧には、YOU遊サタデーで使うことができる備品の在庫数が書かれており、各キャプテンはそれを見ながら自分の講座に必要な備品を確保する。また、講座時に使うもの、講座の準備のために使うものと分けて書くようになっており、備品係が準備しやすいようになっている。備品係は各講座から出された備品一覧を見て、各講座ごとの備品を準備する。(資料.6 参照)
- ※8. **キャプテン会議**とは、執行部と各講座のキャプテンで組織される。講座のキャプテンが自分の講座の遊学プランについて説明をし、安全面や講座を展開していく中で問題点などがないか検討する。そして、問題点がある場合は話し合わせ解決を図る。キャプテン会議は、キャプテン同士が客観的に話し合い、それを通してお互いの講座を高めて行こうとするものである。また、備品や会計係から備品の数や予算についての最終的な確認もこの時に行われる。
- ※9. **受付**とは、講座参加に申込は往復はがきによって行われる。参加者は往復はがきに希望講座名(第一から第三ぐらいまで)を書いて送ってくる。その往復はがきの内容に沿って講

座への受付を行う。そして、往復はがきの返信の側にゆうゆうカード(入場券)を印刷し送り返してあげる。(ゆうゆうカードについては資料.7 参照) また、受付の後期になると募集定員がいっぱいになってしまい、希望どおりの講座に受け付けることができなくなることが多い。その様な時には、参加希望者に電話連絡をして他の講座に移ってもらうこともある。受付の作業と平行して、参加者の名札作り、領収証、修了証書きが行われる。(名札、修了証については資料.8 参照)

※10. **スタッフマニュアル**とは、執行部とYOUサタスタッフとの間において円滑に意志の疎通を図るものであり、これを見ればYOUサタがどのように流れていくかがわかる。YOUサタ当日のタイムスケジュールや講座一覧、注意事項、スタッフ一覧、緊急事態マニュアル、会場地図などが書かれている。(資料.9 参照)

※11. **HOW TO サタデー**とは、YOU遊サタデーの講座で行われた内容を家庭に帰ってからも行うことができるように、主に物作り講座の作品の作り方などが書かれている。。また、自分の参加した以外の講座で行われた内容も知ることができたり、作ることができるように作り方の紹介がされている。(資料.10 参照)

※12. **みんなでやろうDAYS**とは、YOU遊サタデー当日までの一週間のことをさす。この一週間は講座のキャプテンとスタッフが集まって講座の準備をしたり、練習したりする。当日が近づくにつれて、どの講座も練習や準備に熱が入ってくる。

※13. **実行委員会**とは、出張 YOU 遊サタデーが行われた小諸の乙女の森フェスタの実行委員会のことをさす。乙女の森フェスタの一部としてYOU遊サタデーが参加したため、速い段階からYOU遊サタデースタッフもこの実行委員会に出席し、打ち合わせなどを行っていた。実際に参加していたのはYOU遊サタデー実行委員長と副委員長である。



'97YOUサタ通信

第1号

4月4日発行

《連絡（今までに決定した事）》

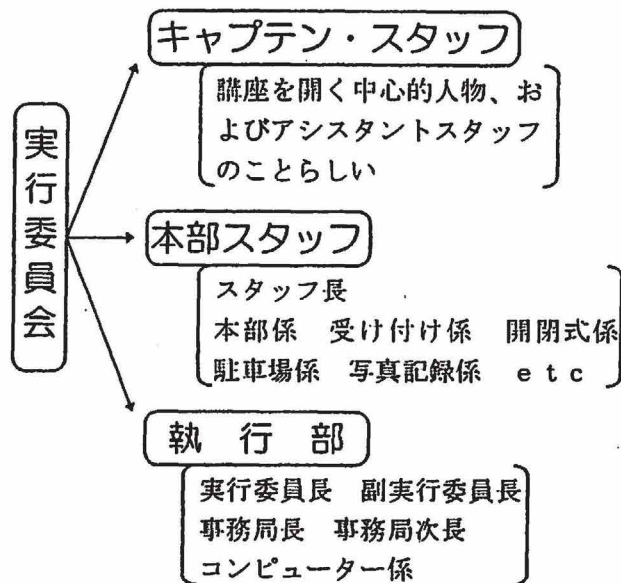
- ★年間計画 5月24日ー松本キャンパス、
- 9月27日ー長野キャンパス
- 10月11日ー高遠自然の家
- 11月8日ー長野キャンパス

★第11回のキャプテン希望者は4月10日まで
に講座名を決定して執行部（土井研究室）へ報
告してください。

★次回の実行委員会は
4月7日（月）12:40～
（実践センター104）

§ YOU遊サタデーへの連絡は
TEL/FAX 026-237-6127

ゆうサタのしくみの謎に迫る！



みんな、わかったかな？ やっぱわかんないか まあいいや！

'97YOUサタ通信

第2号

4月10日発行

♪これからの予定

- 4月10日 講座決定
- 11日 新聞社へ講座一覧を発送
- 17日 講座紹介×切
- 28日 游学プラン×切
- 30日 キャプテン会議
- 5月 6日 受付開始（～5月17日）

♪『高遠・飯綱へ下見に行くツアー』

参加者大募集中！！

講座を開こうかな？という人、ぜひどうぞ。

高遠：5月31日 or 6月1日（未定）

飯綱：4月19日

♪お知らせ

次回の実行委員会は
4月17日（木）12:40～
実践センターにて

♪ YOU遊サタデーへの連絡は

TEL/FAX 026-237-6127

暖かくなってきましたね。今度みんなでお花見に行きましょう

by H.O

◇『YOUサタ執行部の紹介』

今期の実行委員の主要メンバーがこのように決まっちゃいました。お互いに助け合ってがんばっていきましょう。

実行委員長 中村 典史 (社会4年)
副実行委員長 佐々木美恵 (家庭4年)
 小木曾雄亮 (数学3年)
事務局長 宮沢 元 (理科4年)
 土屋 淳子 (家庭4年)
スタッフ長 千葉 綾子 (理科4年)
Computer係 長田ひろみ (家庭4年)
 井出寛孝子 (家庭4年)
 浅沼 康理 (数学4年)

暇だったら、土井先生の研究室に遊びに来てね。来ると、ただでお茶が飲めます。

◇『飯網へ下見に いこうよツアー』 参加者大募集中!!

講座を開こうかな?という人、自然の中でフローラルエッセンスの香りにひたりたい方、ぜひどうぞ。

飯網: 4月19日(土)

飯網ツアーに参加する方は、当日9:30にセンターに集合してください。

◇これからの予定

4月17日 講座紹介×切
28日 遊学プラン×切
30日 キャプテン会議
(4:30~)
5月 6日 受付開始
(~5月17日)

◇『5月24日までに フレンドリーになろう!! 飲み会の開催』

いわゆる交流会ということです。みなさん、出会いと感動を求めて参加してみたいかがでしょうか。たぶんイッキもありません。楽しくやりましょう。

日時: 5月2日 (予定)
場所: (巴鰭)

いい場所を知っていたら教えてください

◇お知らせ

次回の実行委員会は
4月24日(木)
12:40~
実践センターにて
みんな、来てね!

☆連絡

5/2(金) 6:00~巴鰭にて
「5/24までにフレンドリーになろう」
飲み会

☆今後の日程

4月28日 YOU学プラン・備品一覧×切
30日 キャプテン会議4:30~
5月 6日 受付開始(~17日)
19日 みんなでやろうDAY
23日 前日準備
24日 当日 イエーイ!!
31日 or 6月1日 高遠下見

☆次回定例会

次回定例会
5月1日(木) 12:30~

☆いづな報告

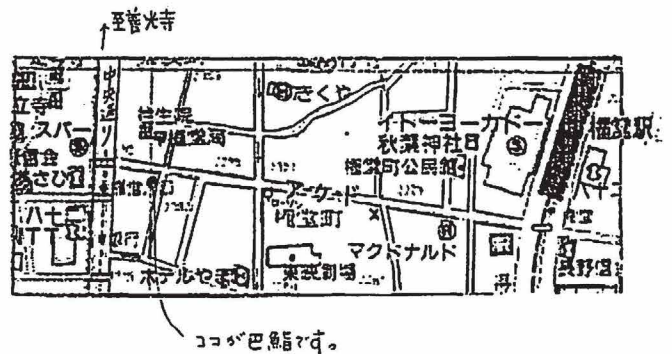
9月27日(第4土)のYOUサタは
長野キャンパス+飯網に決定!!

♪連絡♪

- ・5/2 「フレンドリーになろう飲み会」
6:00 センター前集合
一次会 会費 3000円+α
- ・5/8 次回定例会 12:40~
- ・「更埴ちゃんねん児プラザ21」参加募集!!
9/13 (土) 10:30~16:00
長野県立歴史館にて
- ・「路上DeYOUサタ」参加について
歩行者天国でYOUサタをしてみませんか?
6/15 13:00~17:00
7/ 6
8/12 17:00~
9/23 13:00~17:00
中央通りにて

今回は去年YOUサタ通信を発行していた野本さんが号外を作っていただきました。先生をなさっている現在の近況報告あり、今期のYOUサタ通信に対する苦言(期待とも言う)あり…の楽しい号外です。

今年はYOUサタ通信の役割を連絡事項の伝達手段と位置づけ「字を大きく、簡潔・かつ的確に」ということを心がけて発行していますが、連絡事項のほかにも、YOUサタのスタッフの活躍や、舞台裏などを、これから加えていきたいと思えます。皆さんも、こんな事を載せて欲しいということ、どんどんスタッフに伝えてください! 下に5/2の飲み会会場の略図を示します。



とうとうやってきましたね。お待ちかねの日が。各講座の準備の進み具合はどうか。うまく行っているところもうまく行っていないところも、お互いに助け合いながらがんばりましょう。

今後の日程

- 5月23日(金) 3コマ終了後、荷物の積み込み
- 5月24日(土) YOUサタ 当日 & 飲み会
- 5月29日(木) 定例会 12:40から
反省会 16:30から

当日の日程

7:30 実践センターに集合 (時間厳守)

当日の持ち物

靴を入れるビニール袋 お金
YOUサタマニュアル

もし何かが起こったら

アクシデント発生! 当日、行けなくなったりしたらどうしよう。

心配無用! 貴方の心のとも「宮沢 元」が電話でお応えします。

電話番号はこちら
010-705-9875(携帯だよ!)
何かあったら、必ず連絡すること

◇松本YOUサタ 終了

みなさん、お疲れ様でした。今回のYOUサタは準備が大変な松本であるうえに、YOUサタ始まって以来の雨天決行ということでドキドキした人も多かったと思います。そんな中で、子どもたちに怪我もなく、楽しんでいってもらえたということはとても素晴らしいことです。これも皆さんの協力があったことです。これからもYOUサタを発展させるべく、いっしょにがんばっていきましょう。

今回の実行委員会は
6月4日(木)
12:40~
実践センターにて
みんな、来てね!

◇出張YOU遊サタデー in 高遠少年自然の家

10月11日に高遠少年自然の家という名前のところだったと思うけど、ここで何とかフェスティバルというものをやる事が決定しています。そこには子どもがいっぱい来るから、そこでうちらも何かやろうよとゆうわけ。

ちなみに、去年はこんなことをやったらしい。

- ・フライングゴルフ ・藤細工
- ・マレットゴルフ ・草木染め
- ・ポニー乗馬などの体験講座
- ・土笛などの物作り講座 etc

当日開く講座は2時間半の予定です。講座の数、種類については現地の日とか開催する講座との兼ね合いもあるので、詳しいことは未定です。

今回の出張YOUサタは遠い上に、いつもとパターンが違うから、準備のために前日10月10日からのお泊まりツアーになります。

◇『高遠へ下見に いこうよツアー』 参加者大募集中!!

講座を開こうかな?という人、自然の中でフローラルエッセンスの香りにひたりたい方、ぜひどうぞ。参加希望者は下の切り取り線から切って、もってきてください。

高遠:5月31日(土)

高遠下見ツアーに参加する方は、当日8:45にセンターに集合してください。

高遠の下見ツアー(5月31日)に、(参加します・参加しません)

名前 _____

どちらかにまるをしてください

車を (だせる・だせない)

'97 YOUサタ通信

第8号
6月5日発行

YOUサタの発展・充実へ

以下の内容が松本YOU遊サタデーの反省として出されました。これらの反省を生かして、これからのYOUサタが益々いいものになるよう、みんなで頑張りましょう。

- ・サークル協議会と学部の両方に直接連絡をとる
- ・子どもへの接し方を理解していないスタッフ(ex 1年生)にキャプテンはしっかりと話す。(話す時間を作る)
- ・定例会の内容などは、土井先生の研究室のノートか1Fの黒板を活用する。Eメールの活用も考えていく。
- ・領収証の他に明細証も作り、いつでも見せられるようにする。
- ・講座の問題などを話し合う場が欲しい。
- ・各係間の連絡がうまくいっていない。
- ・保護者など一般の人への接し方が問題。
- ・雨対策がもっと必要。
- ・前日準備で広場のゴミ拾いをしよう。

今後の日程 → 写真撮影 12:40~センター前
6/12~7/10 定例会お休み
7/17、24 9月のYOUサタ+高遠の講座募集

お知らせ

このフィルム探しています
5/24のYOUサタの時になくなりました。
藤かごやステンシルの講座の写真がいっぱい入っています。
見つけた方は土井研究室まで。



YOUサタ高遠についてのQ&A

- Q: いつやるの?
A: 国立信州高遠で10月11日(土)、12日(日)にフェスティバルが行われます。YOUサタでは11日の午後に講座を出す予定です。
- Q: 泊るの?
A: 泊ります。(10日の夜に泊って準備)でも都合のつかない人は11日に日帰りしてもいいですよ。
- Q: 自費ですか?
A: お金が出る予定です。
- Q: 日帰りもO.K.?
A: まだハッキリしませんが、予定の会う人同士で日帰りしてもいいかもしれませんよ。
- Q: どのような人が参加するのですか?
A: 11日は申し込みのあった人で、当日宿泊していく人が参加します(約250名)。12日は一般開放されますので、高遠の町などから多くの人 comes (2000名)。年齢層は2歳~成人まで幅広いです。
- Q: じゃあ、講座の申し込みもあるのですね。
A: 11月に関してはありますが、12月は誰がくるか分かりません。
- Q: 講座は何分くらいやるの?
A: 分でいえば165分です。時間で言うと2時間45分くらいです。

- Q: 何人行っても大丈夫なの? (定員のこと)
A: 大丈夫
- Q: どんな講座が出せますか?
A: 職員の方の話では、むこうの催し物(*注)と重ならない方がいいとのことですが、基本的にYOUサタでやっているような講座を出せばいいと思います。
- (*注) ペットボトルロケット・そ作り・もちつき・押し花絵作り・紙粘土細工・顔細工・竹細工・草木染め etc
- Q: どんな場所でやるのですか?
A: 各施設の写真を取ってきたので参考にして下さい。

7/17、24(木)の定例会のとき、9月の分と合わせてキャプテンを募集します。たくさんのお応募お待ちしております。

切り取り線

どちらかに丸をつけてください 名前

高遠へ行くのかな

ちょっと無理かな

- 10月11日に高遠で行う出張YOU遊サタデーに参加できますか。 *ちなみに高遠へは10日に行きます。
- YES/NO
- YESと答えた方へ
- ① 具体的に考えている講座があったら書いてください。(キャプテンを希望していても何か案があったら書いてください)
- ② 特にやってみたいと思う希望の本部スタッフがいたら書いてください。
- ③ 夏休み中の連絡先(実家)を教えてください。
- 10月11日に高遠で行う出張YOU遊サタデーに参加できますか。
- YES/NO
- YESと答えた方へ
- ① 具体的に考えている講座があったら書いてください。(キャプテンを希望していない人でも何か案があったら書いてください)
- ② 夏休み中の連絡先(実家)を教えてください。

きりとり線

講座名	キャプテン
理科実験	中條 悟 (理4)
世界の言語と世界の遊びを楽しくもう	北澤 朋樹 (教言)
すてきなステンシル	土屋 淳子 (家4)

9月27日の講座予定

本部スタッフ一覧
受付係 : 来た子どもたちの受付をする。
駐車場係 : 車と参加者の誘導をする。
誘導係 : 駐車場から受付・受付から開閉会式会場まで、参加者を誘導する。
開閉会式係 : 開閉会式会場内の参加者の誘導をする。参加者の側にいる。
写真撮影係 : 各講座をまわり写真を撮る。(講座には参加できない)
Cooking 隊 : 前日から、スタッフが当日昼・夕食の用意をする。

次回の定例会
七月 二十四日 (木)
十二時四〇分

実習・教養、お疲れさまでした。さて、YOUサタもいよいよ忙しくなってきました。頑張りましょう。

お知らせ

- ① 9月18日に定編で出張YOU遊サタデーがあります。
予定講座: すらいむ/飛び出すびっくりカード.....参加希望者募集中!
② 9月27日の講座と高遠の講座は、7月24日まで決定します。
③ 11月8日の講座は、夏休み明けに決定するので、考えておいてください。

「信大YOU遊サタデー」って何？

暑中、実習に教壇にお疲れ様です。2年生は今のうちにしっかり遊んでおいた方がいいと思います。

さて、突然こんな見出しで驚きますが、先週の木曜日定例会を開いたところ、初めて参加してくれるという人が大勢いました。中にはYOUサタがどんな活動をしているほとんど知らずに飛び込んできた強者もいます。そこで今回は、今までYOUサタが何を考え、どんな活動してきたかを、簡単に紹介したいと思います。

「信大YOU遊サタデー」は、始まってから今年で4年目となりました。最初は教育実習の終わった4年生が子どもとふれあう場として考え出されましたが、だんだん規模を広げて、1年生から院生までの大きな活動になってきました。

形としては、各講座に別れての活動になります。講座を開く学生をキャプテンといい、それをサポートする学生をスタッフと呼びます。講座の参加者の受け付け、講座の準備、当日の講座の運営などは、このキャプテンが中心となって進められます。

また講座に参加するスタッフは、本部の仕事も手伝うことになります。いつもの例でいえば、設営係、受付係、誘導係、開閉開式係などの係りがあり、YOUサタ全体の準備の手伝いをしています。

そのYOUサタで去年合い言葉になっていたのが、「楽しく、安全に」ということです。「楽しく」というのは当然のことですが、「楽しく、安全に」

ということになると、難しくなります。YOUサタに来た子どもが怪我して帰って行ったということになると、その次からのYOUサタでいくら安全だから大丈夫、と言っても信用してもらえなくなります。また大学からも、「怪我人の出るような企画に教室を貸すわけにはいかない」と言われてしまいます。そもそも怪我をしてしまった子どもも、怪我をさせたしまった講座も楽しくなくなってしまおう、というのが一番の問題です。

そこで「安全」ということは絶対条件になってくるのですが、安全対策を徹底しているようにみえても、スタッフ一人一人の意識が高くないはいけません。YOUサタに参加するスタッフはその事をしっかり認識していただきたいと思います。

しかし、YOUサタ全体を楽しくするには、スタッフが楽しんでYOUサタに参加することが大切なので、まずは深く考えず、YOUサタを体験してみてください。

おしらせ

来る8月12日(だいぶ先だけど)5:00より
飲み会をやります。今までにYOUサタをやっていた卒業生もたくさん来るそうです。出席できる人は来てみてください。
YOUサタ誕生の秘話が聞けてしまうかもしれない。

名前 出席/欠席

YOUサタ通信

9/4

- ◆10/11: 高速フェスティバルの予定講座
- ・リース作り
- ・スライム
- ・からカラアート
- ・ネイチャーアート
- ・電気ペン

- ◆9/27: 飯橋会場参加者・スタッフの動き
- 大学図書館2階で午前の部の開会式に参加

バスで飯橋高原へ移動(スタッフの移動手段は車になる可能性もある)

↓ 講座開講

昼食(スタッフは朝のうちに各自用意する。子どもは弁当持参。)

↓ 講座閉講

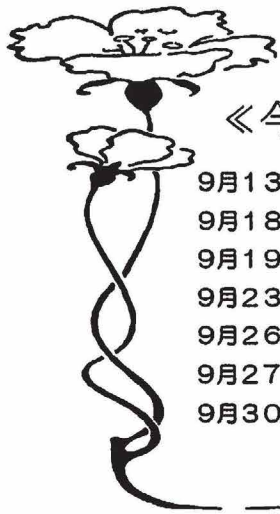
バスで大学に戻ってくる(スタッフは車の可能性もある)

↓

大学図書館2階で午後の部の閉会式に参加

◆本部スタッフ

- 【受付係】 当日、参加する子どもたちの受付を担当する
- 【駐車場係】 当日、送迎の車及び子どもを誘導する
- 【誘導係】 当日、参加者及び保護者を案内・誘導する
- 【開閉開式係】 当日、開閉開式会場までの誘導及び開閉開式会場内の誘導をする
- 【写真記録係】 当日、各講座の様子を写真に撮り記録する
- 【Cooking隊】 前日から、スタッフが当日食べる朝食・昼食の用意をする



《今後の予定》

- 9月13日 出張YOU遊サタデー in 更埴
- 9月18日 定例会 & How to サタデー 〆切
- 9月19日 YOUサタ in 長野 受付〆切
- 9月23~26日 みんなでやろうDAYS
- 9月26日 定例会をやるだろう (本番前日)
- 9月27日 YOU遊サタデー in 長野・飯綱
- 9月30日 高遠遊学プラン 〆切
第12回の反省会

メーリングリストに登録したい方、及びこのことに関する詳しい情報を知りたい方は、hirosik@gipc.shinshu-u.ac.jp (片桐さん) までメールをください。折り返し、返事を出させていただきます。また、知っている人に直接聞いていただいても結構です。また、電子メールの使い方を教えてほしい人も、気軽に相談してください。



～おしらせ～

「いつも活字ばかりのYOUサタ通信ではつまらない」と思い、今回のYOUサタ通信では、ちょっとだけ visual 度をアップしてみました。どう? イケてるかなあ? 自分で作っというてなんですが、あまりいいデザインとはいえませんな。

今日のお知らせは、YOUサタのメーリングリストに入ってみませんか、というお願いです。

Mailing List を使うと、電子メールを使って、List に登録してある人全員にメールを送ることができます。例えば、N氏が『最近、おしょうの鼻毛が気になって、夜も眠れないんだ』とメールで送れば、スタッフ全員にその情報が行き渡り、返事がもらえるなど、いわばYOUサタに関して言いたいことがいえる情報交換の場であるわけです。どうだ、わかったか!

…というこで、やってみやへん?

登録してみようかな… という人は←をみてね♪



第12回 YOU遊サタデー in 長野・飯綱 無事終了! よかったね♪



反省会 10月3日(金) 4:30



～親分からの一言～

9/27 は本当にお疲れ様でした。今回のYOUサタの参加者は212名でした。

子どもからアンケートが続々とどいていますが、参加した子どもやその保護者から予想以上に好評で、大成功のYOUサタだったと思います。スタッフ一人一人のYOUサタへの接し方も、今まで以上に充実したもので、みんなのパワーが全開したようなYOUサタでした。ぜひアンケートを見に来てください。土井先生の部屋にあります。この気持ちを忘れずに、次回は、もっともっと良いものを目指してがんばっていきましょう。

さて、前回までの感想はここまでとして、次回 11/8 の準備をさっそく始めないと間に合わない状態になってきています。講座を募集しているので、ぜひまた素晴らしい講座を開いていきましょう。

《今後の予定》

《高遠に向けて》

- 10/3 (金) 遊学プラン 〆切
- 10/6 (月) 打ち合わせ

《11/8に向けて》

- 10/9 (木) 講座決定、講座紹介 〆切
- 10/10 (金) 新聞社へ発送
- 10/14 (火) 遊学プラン、備品一覧 〆切
- 10/17 (金) キャプテン会議
- 10/20~31 受付やるぞ!!

【講座募集】

講座を開くにあたって（9月27日長野・飯綱）

- ・講座名 ()
- ・キャプテン名 (専攻 学年)
- ・参加者対象 ()
- ・参加者定員 (名)
- ・1人分の材料費 (およそ 円)
- ・参加者持ち物・服装 ()
- ・希望の教室 ()
- ・希望の時間帯 (午前のみ/午後のみ/午前午後1回ずつ/どちらでも良い)
- ・スタッフ必要人数 (名)

自分でスタッフを集める場合は、その人数とその人の名前を書いてください。

(名)

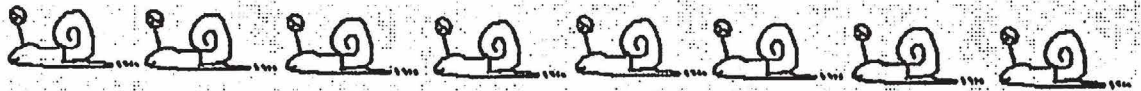
()

1年生スタッフが参加を希望した場合、受け入れられますか？（1年生は事前に1日、こちらへ打ち合わせに来てもらう予定です）

YES/NO

YESと答えた方は何人まで、受け入れられますか？

(名)



講座を開くにあたって（10月11日高遠）

- ・講座名 ()
- ・キャプテン名 (専攻 学年)
- ・参加者対象 ()
- ・参加者定員 (名)
- ・参加者持ち物・服装 ()
- ・スタッフ必要人数 (名)

自分でスタッフを集める場合は、その人数とその人の名前を書いてください。

(名)

()

第13回信大YOU遊サタデー(11月8日)講座一覧表

No.	講座名	キャプテン	対象学年	午前	午後	定員	材料費、持ち物、服装
1	タオルマジック ～タオルを使って動物をつくろう～	小倉佐知子(家3)	小4～一般成人	○		10	さいほう道具、500円
2	フィルムロケット ～えっ!!フィルムケースがとぶの?～	登坂武人(社3)	小1～小4	○		15	はさみ、体育館シューズ、200円
3	宝さがし(ネイチャーゲーム)	小池裕介(実4)	小3～一般成人	○		20	なし、カッパ(雨天のとき)
4	こまであそぼ!	竹下雅道(数4)	小1～おじいちゃん おばあちゃん	○		20	なげごま(持っている人)、100円(こまを持っていない人)
5	みんなでジャンプ	佐野美佳(保4)	小4～中3	○		20	運動できる服装、体育館シューズ、タオル、休憩の時ジュースを買うお金
6	でっかいでっかい しゃぼん玉をつくろう	金井弘子(理3)	なし	○		40	汚れてもいい服装
7	いい紙つくろう! 世界でたった1枚の自分の紙を。	真島紀草(数3)	小1～一般成人	○		10	新聞紙3日分、タオル、400円
8	モコモコデンキパン	清水麻紀子 唐木紫織(家3)	小1～一般成人	○		12	牛乳パック(1L)、はさみ、エプロン、三角巾、200円
9	作ってうれしいカレンダー	阿部利恵(実3)	小1～小4	○		15	はさみ
10	天まであがればくのたこ	小木曾雄亮(数3)	なし		○	10	はさみ、竹ひご2本(1皿くらの太いの)、体育館シューズ
11	これで私も パパババPUFFYでイイ感じ!	山木隆行(数4)	なし		○	10	ジーパン着用、無地のTシャツ(長袖可)、古着
12	気分はめいたんてい	平林徹(数3)	なし		○	20	動きやすい服装、えんぴつ、カッパ(雨天のとき)
13	つくってみよう銀の鏡	中條悟(理4)	中1～一般成人		○	5	汚れてもいい服装
14	スラスラスライム	吉沢麻衣子(国3)	なし		○	30	汚れてもいい服装、200円
15	一本日わたあめ屋さんー	宮下聡(院2)	小学生		○	15	アルミ缶、罩手、200円
16	からカラ・ア～ト	森下房枝(家3)	小1～一般成人		○	10	筆記用具
17	あけてびっくり! 飛び出す絵本作り	武末裕子(美2)	なし		○	10	はさみ、カッター、のり、鉛筆 色鉛筆、クレヨン、マーカーなど
18	永久ゴマをつくろう	柚木亘(理4)	中1～一般成人		○	5	300円

#裏面もご覧ください

信大Y.O.U遊サタデー実行委員会からのお願い

- (1) 信大Y.O.U遊サタデーは雨天決行ですが、一部の講座で使用教室(場所)などが変更になります。
- (2) お申し込みの際は午前か午後のどちらか一つの講座でお願いします。講座によっては定員いっぱいでは締め切りとさせていただきますので、講座は第2希望までお書き下さい。お申し込みは1人につき1枚でお願いします。
- (3) 大学構内の駐車場には限りがありますので、できる限り公共の交通機関をご利用ください。長野駅からバスでお越しの際は「若槻団地經由若槻営業所行き」「西条、若槻営業所行き」「宇木行き」のいずれかにご乗車いただき「信大入口」で下車してください。運賃は大人150円、子ども80円です。下車した後は大門交差点で西へまがり約500メートルほどです。
- (4) 当日は、大学周辺および大学構内に「黄色い腕章」をつけた学生を配置し、誘導いたします。お困りの点がございましたら、遠慮なくお尋ね下さい。
- (5) 午後の講座終了後、昼食に信大内の生協食堂をご利用いただけます。
- (6) 欠席の場合には、当日までに、必ず信州大学教育学部附属教育実践研究センター(電話番号:026-237-6127)留守電あり)までご連絡下さい。
- (7) 保護者の方は参加していただいても結構ですし、送り迎えだけでも結構です。安全には十分配慮いたしますので、安心しておあずけ下さい。
- (10) ご家族、お友達と一緒に申し込みの際も、ひとりにつきハガキ一枚でお申し込み下さい。

井お申し込み方法

- ① 参加費/100円(傷害保険料と教材費)、また講座によっては別途材料費が必要になる場合があります。
- ② 日程/[午前の部] 8:30受付 9:00開会式 9:30~11:30講座 11:40閉会式 12:00解散
[午後の部] 13:00受付 13:30開会式 14:00~16:00講座 16:10閉会式 16:30解散
- ③ 申込期間/10月20日~11月4日
- ④ 往復はがきに郵便番号、住所、氏名、(ふりがな)、電話番号、学年、参加を希望する講座名を記入し、下記のあて先までお送りください。左図参照→
- ⑤ あて先/〒380 長野市西長野6-1-10 信州大学教育学部実験センター
信大Y.O.U遊サタデー係 TEL/FAX:026-237-6127

返信	ゆうびんばんごう	
	じぶんのなまえ	じぶんがじゅうしよ
		① たまえ(ふりがなをむつけて)
		② ゆうびんばんごう・じゅうしよ
		③ ぜんわばんごう
		④ がくねん
		⑤ さんかしたいこうざ だい1きぼう だい2きぼう だい3きぼう

Web上では非公開

Web上では非公開

Web上では非公開

Web上では非公開

第(13)回信:大YOU遊サタデー遊学プラン

講座名	一本日 わたあめ屋さん	平成9年11月8日(土) (午前・午後・終日)
キャプテン	宮下 聡 (理科 専攻112年)	アシスタントスタッフ数 名 参加者数 名
指導教官	巖 教官	使用教室 教室

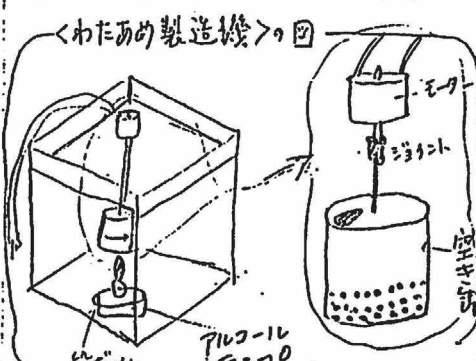
何をするのか(具体的に)

・空き缶にシャフトをつけ、モーターと連結し、缶が回転するようにする。缶の中にざらめを入れ、アルコールランプで缶を熱し、溶けたところで、回転させ、わたあめをつくる。

どんなことを伝えたいか(キャプテンのねがい)

・手軽に手に入る材料を使って、楽しいことができること。
・仲間と助け合って作業することの大切さ。・けがをしないように工夫して、工作すること。

講座の流れ

活動内容	子どもの動き	スタッフの支援	時間	備 考
①自己紹介	・グループに分かれる。 ・自己紹介をしながら仲間を確認。	・キャプテン→スタッフ→子どもの順に行う。 ・緊張している子どももいると思うので、リラックスさせるために、明るい雰囲気。	15分	・大きな声で
②作業手順の説明	・今日、これからどんなことをするのか分かる。	・キャプテンが、作業の概要を説明する。 ・スタッフがどのグループを担当するかを確認。	5分	・手順は作業を進めながら順次説明するので、この1
③作業開始	(1) アルミ缶の下部3~5cmに小さな穴をたくさん開ける。 (2) アルミ缶にシャフトをつける。 ↓ (3) シャフトとモーターをつなげる。 ↓ (4) モーターを電池につなげる。	・スタッフは自分の担当するグループも責任を持って支援する。安全に最も留意する。 ・(1)の穴を開けるのは、針が1枚通しを使う。手も怪我しないように、支援する。	60分	・作業を左の4つに分けて、段階的に進める。 ・グループの足並みがそろわうようにする。
④わたあめをつくる	・ざらめを缶の中に入れ、アルコールランプで熱し、溶けたところで、モーターのスイッチを入れ缶をまわす。	 <p>〈わたあめ製造機〉の図</p>	25分	・缶がとて熱くなるので、火傷に注意
⑤後片付け	・片付けて後片付けする。	・道具を元に戻す。 ・全員で行う。	10分	
⑥修了証	・修了証を渡す。 ・わたあめづくりを思い出させる。	・今日の成果を認め合う。	5分	

・使用する道具(例:セロテープ2巻)

釘、かなづち、千枚通し、ドライバー、ペンチ、ドライヤー、ざらめ、ダンボール
アルコールランプ、バケツ、ぞうきん

・希望する教室(例:水が使え教室)

水が使え教室

講座名

キャブテン名

備品一覧表

BB. 10. 1 班

当日必要なものがあれば、その数を書いてください。

備品	在庫	希望数	備品	在庫	希望数
マジック(8色)	15ケース		木工用ボンド	20本	
ボールペン	10本		万能ボンド	20本	
カッター	10本		ガムテープ	8巻	
ストロー	1袋		セロテープ	15巻	
クレヨン	11ケース		両面テープ	7巻	
色鉛筆	10ケース		ビニールテープ	2巻	
えのぐ	15ケース		ビニール紐(白)	4巻	
ペンギ(白、青、黄)	各1缶		ビニール紐(赤)	1巻	
はけ(大)	8本		ビニールシート	7枚	
はけ(小)	17本		ビニールプール	2枚	
筆	15本		バケツ(大)	2個	
画用紙(各色)	多数		バケツ(中)	14個	
ケント紙(各色)	多数		洗面器	28個	
模造紙	多数		雑巾	100枚	
折り紙	多数		のこぎり	3本	
ろうそく	2箱		ミキサー	2台	
メジャー	1つ		延長コード	2つ	
きりふき	5つ		ホース	1つ	
のり	26本		マグネット	20個	
わりばし	100膳		はさみ	18個	
新聞紙	多数		うちわ	5個	
ホチキス	5個		サンドペーパー	20枚	
輪ゴム	2箱		製本テープ	1巻	
ペットボトル	多数		クリアカップ	250個	
ラミネーター	1個		クリアホルダー	19枚	
オーブントースター	1台		水さし	5個	
仮止めテープ	4巻		たこ糸	1巻	
サラシラップ	4個		石けん	5個	

ピンセット	5個		マーブリング絵具	2箱
脚指綿	1袋		蚊取り線香	2箱
虫よけスプレー	1本		ほうき	5本
クーピー	5箱		クッキングペーパー	3箱
ハンドソープ	1つ		油性マジック	25本
軍手	2つ		ニス	1本
ちりとり	5つ		コンテパステル	11箱
アクリル絵具	7本			

購入して欲しいもの

*購入するものがあある場合は、遠慮なく会計まで相談に来てください。予算を超過します。
*前日までの準備に必要なお品に貸し出しますので遅くなくでいいです。

ゆうゆうカード (入場券)
YOU遊サタデーへのお申し込みがあります。
あなたが参加する講座のお知らせです。
当日は紙物をしないように紙を一つはお越しく下さい。
それでは、会場でお会いのを楽しみにしています。

お名前

キャプテン ()

持ち物

ゆうゆうカード (入場券) ……このカードです
100円 (傷害保険料 参加費)、靴を入れるビニール袋

開演日 日 6月24日 (出) (雨天決行)

受付 12:30~12:50.

終了 16:10(予定)

※欠席の場合は、必ず前日までにご連絡ください。

当日は遅りなようお越しく下さい。

なお、教材費などにつきましてはお越り銭のないようお預
い致します。

<連絡先> 〒380 長野市西長野6-1-0

信州大学教育学部附属教育実践センター

信州大学YOU遊サタデー係

TEL/FAX 026-237-6127

お知らせ

いつもYOU遊サタデーに参加していただき有り難うございま
す。今回のYOU遊サタデーはいかがでしたか?

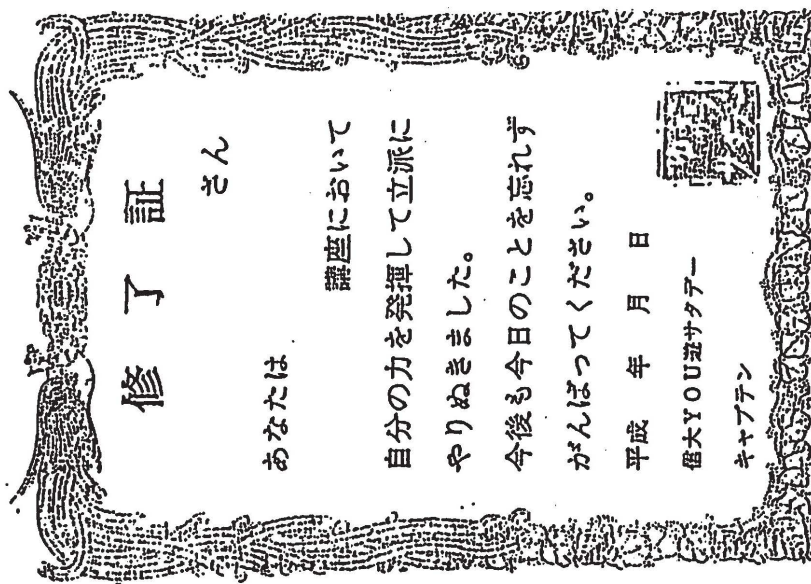
ところで、第12回のアンケートに「次回のYOU遊サタデー申
込案内の資料請求手続きを事前にしておきたい」というご要望があ
りました。そこで、ご希望の方はこちらから第14回の資料をお送
りしたいと思えます。つきましては、以下の申し込み用紙に必要事
項をご記入のうえ、80円切手を同封し、アンケートとともにお送
りください。

……………キリトリ……………

住所 〒

電話番号

氏名



修了証

さん

あなたは

講座において

自分の力を発揮して立派に

やりぬきました。

今後も今日のことを忘れず

がんばってください。

平成 年 月 日

信大YOU遊サタデー

キャプテン



名札

なかむらのりふみ
中村典史

YOU 遊サタデー スタッフマニキュアル

遠大は望み、剛強は意志
土井遊 (附属教育実践研究指導センター)

第19回信大YOU遊サタデーの開催、誠にありがとうございます。
瀬戸学部長、藤沢センター長をはじめ、皆さんが所属されている研究室の指導教官の先生方、そして、職員の皆様の応援に見守られて、第4期最後のYOUサタデーに取り組めることをお互いに喜び合いたいと思います。

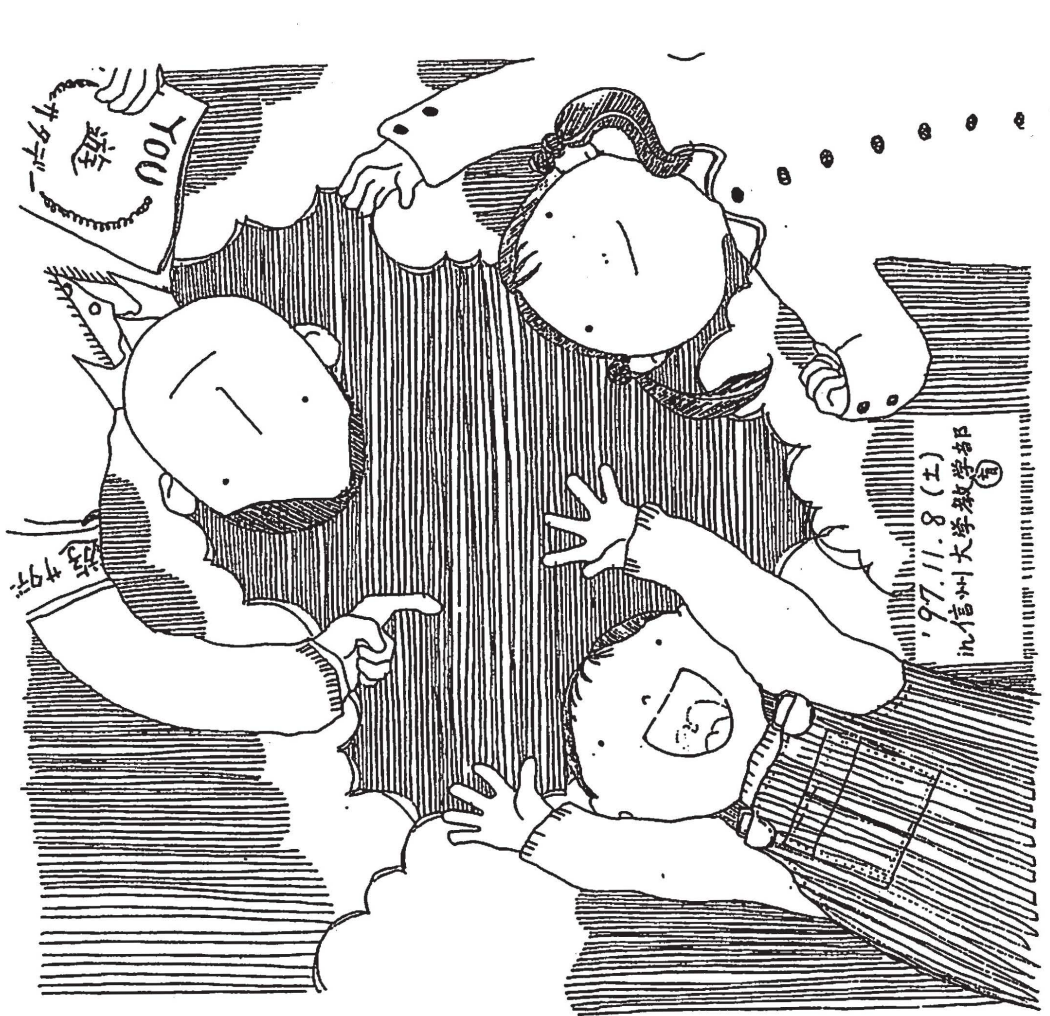
今回も松本から20名を超える1年生がYOUサタデーのスタッフとして参加してくれています。この人たちが卒業する年が2001年8月です。間もなく新たな100年が始まります。この百年は、学校が完全に5日制になり、高度情報通信社会が進展し、国際化もさらに進んでいくことでしょう。そのような時代に教育の専門家として活躍していくためには、教科を指導できる高度な専門的力量と児童・生徒一人ひとりに関わる人間的力量を磨き続けていなければなりません。YOUサタデーは人間と人間とのふれあい、切磋琢磨をとおして自らの力量形成を図る場です。参加されたお一人お一人が、将来の遠大なる目標に向かって、不屈の闘志をもって、教育のプロへの道を前進されるよう願っています。

最後だ

中村 典史 (社会科4年)

とうとう最後のYOUサタデーになってしまいました。最後にピンッと締めたいところですが、言いたい事は言い尽くしてしまっただので、気分転換にクイズを出したいと思います。

「太郎くんは花子さんの部屋にいました。そこへ電話がかかってきたので花子さんは部屋を出て行きましたが、勢いよくドアを閉めたため、金魚ばちが倒れました。数分後花子さんが部屋に戻ってみると、太郎くんが倒れていました。どうして太郎くんは倒れてしまったのでしょうか？」 答えはp.128です。



第13回大YOU遊サタデースタッフ一覧表 【午前】

No.	講座名	キャプテン	アシスタントスタッフ
1	タオマルマジック	小倉佳知子 (家3)	森下朋枝 (家3) 溝口久仁子 (社4) 武末裕子 (家2) 野村麻実 (社2) 土屋博子 (家4)
2	フィルムロケット	聖坂武人 (社3)	原博子 (心2) 相島真 (社4) 尾沼直也 (幼2) 加藤豊司 (理1) 山田理恵 (実1) 杉山雅幸 (生1)
3	宝さがし	小池祐介 (家4)	田代奈美 (音1) 常盤井美和 (家3) 岩田哲也 (社2) 常盤井美和・寺嶋宏江 (家3) 大島智子 (音3) 藤城拓 (理学4) 中尾愛・尾悦子 (家1) 林祐介 (社1)
4	こまであそび!	竹下雅道 (家4)	日経清香 (家4) 庄司昭子・丹下亜衣 (社2) 中條浩 (理4) 小市有希 (理3) 斎藤聖子・山田尚美・谷川英佳 (家3) 千葉綾子 (理4)
5	みんなでジャンプ	佐野英佳 (保4)	真島紀章 (家3)
6	でっかいでっかい しゃべん玉をつくろう	金井弘子 (理3)	有岡竜也 (家3)
7	いい紙をつくろう!	真島紀章 (家3)	増田紀子 (家3) 吉沢麻衣子 (理3) 下園裕子 (理3) 早川千絵美 (心3) 長田ひろみ (家4)
8	モコモコペンキペン	唐木紫織・清水麻紀 (家3)	阿部利恵 (家3)
9	作ってうれしいカレンダー	阿部利恵 (家3)	

本館スタッフ		スタッフ名
係名とその活動内容	スタッフ長【全体の指示にまわる】	佐々木美恵 (家4)
受付係【参加者の受付を行う】	受付係【参加者の受付を行う】	①吉沢麻衣子 (理3) 1. 溝口久仁子 (社4) 2. 相島真 (社4) 3. 大島智子 (家3) 4. 寺嶋宏江 (家3) 5. 日経清香 (保4) ②小本智穂花 (家3) 山本雅行 (家4) 成田英直 (理4) 中嶋亮太 (実3) 岩田哲也 (社2) 尾沼直也 (幼2) 庄司昭子・丹下亜衣 (社2) ③平林綾 (家3) 藤城拓 (理学4) 長田ひろみ (家4) 中條浩 (理4) 森下朋枝・斎藤聖子・谷川英佳 (家3) 下園裕子 (心3) 金井弘子 (理3) 原博子 (心2) 武末裕子 (家2) 野村麻実 (社2) 早川千絵美 (心3) 有岡竜也・油井幸樹 (家3) 青柳友美 (理生) 田代奈美 (音1) 加藤豊司・久保田洋 (理1) 原須良寛・中尾愛・尾悦子・山田理恵 (実1) 小林真紀 (理1) 林祐介 (社1) 内田亜矢子 (家1) 杉山雅幸 (生1) ④佐々木美恵 (家4) 岩田哲也 (社4) 遠藤明里 (心3) 尾野英佳 (幼4) 竹下雅道 (家4) 小池祐介 (実4) 佐野英佳 (保4) ⑤井口佳英 (家3) 浅沼麻理 (家4) 寺町知江子 (家4) 中村楓史 (社4) 佐々木美恵 (家4) 平林穂・小本智穂花 (家3) ⑥山田尚美 (家3) 溝口久仁子 (社4) 寺町知江子 (家4) 大島智子 (音3) 谷川英佳 (家3)
駐屯場係【車を誘導する】	駐屯場係【車を誘導する】	9:05まで待ち場にいる。 帰りは11:50頃待ち場につく。
誘導係【参加者を誘導する】	誘導係【参加者を誘導する】	
閉会式係【会場の準備をする】	閉会式係【会場の準備をする】	
写真・記録係【写真・ビデオで撮影する】	写真・記録係【写真・ビデオで撮影する】	
本部係【当日受付、テントで待機】	本部係【当日受付、テントで待機】	
Cooking係【当日のおにぎりを作る】	Cooking係【当日のおにぎりを作る】	

【午後】

No.	講座名	キャプテン	アシスタントスタッフ
10	たこ	小木智穂花 (家3)	相島真 (社4) 藤城拓 (理学4) 森田ひろみ (家4) 林祐介 (家4) 原博子 (家1) 加藤豊司 (理1)
11	パパパパPUFFY	山本雅行 (家4)	浅沼麻理 (家4) 尾沼直也 (幼2) 丹下亜衣 (社2) 吉池志帆 (社4) 田代奈美 (音1)
12	気分はめいたんてい	平林穂 (家3)	岩田哲也 (社2) 下園裕子・遠藤明里 (心3) 遠藤明里 (心3) 常盤井美和 (家3) 庄司昭子 (理3)
13	つくってみよう! 紙の遊	中條浩 (理4)	渡辺祐一・小市有希 (理3) 田代奈美・橋本哲 (理3)
14	ストラステラタイム	吉沢麻衣子 (理3)	真島紀章 (家3) 原博子 (心2) 日経清香 (保4) 阿部利恵 (家3) 佐々木美恵 (家4) 久保田洋 (理1)
15	本日おたあめ屋さん	吉下聡 (家2)	小倉佳知子・谷川英佳・山田尚美 (家3) 溝口久仁子 (社4) 大島智子 (音3) 望月政和 (院2) 伊賀直樹 (理4)
16	からカラ・ア〜ト	森下朋枝 (家3)	原須良寛 (実1) 寺町知江子 (家4) 寺嶋宏江 (家3) 相田紀子 (家3)
17	あけてびっくり! 飛び出す絵本作り	武末裕子 (家2)	小林真紀 (理1) 西沢優子 (心2) 清水麻紀子・唐木紫織 (家3)
18	永久ゴマをつくろう	柚木直 (理4)	野村麻実 (社2) 早川千絵美 (心3) 桐山潤 (理4)

本館スタッフ		スタッフ名
係名とその活動内容	スタッフ長【全体の指示にまわる】	千原綾子 (理4)
受付係【参加者の受付を行う】	受付係【参加者の受付を行う】	①真島紀章 (家3) 10. 相島真 (社4) 11. 尾沼直也 (幼2) 12. 常盤井美和 (家3) 13. 小市有希 (理3) 14. 日経清香 (保4) ②斎藤聖子 (家3) 岩田哲也 (社2) 成田英直 (理4) 中嶋亮太 (実3) 庄司昭子・丹下亜衣 (社2) 増田紀子 (家3) 浅沼麻理 (家4) ③聖坂武人 (社3) 唐木紫織・清水麻紀子・小倉佳知子・谷川英佳 (家3) 下園裕子 (心3) 原博子 (心2) 阿部利恵 (家3) 金井弘子・宮崎佳月 (理3) 寺町知江子・長田ひろみ (家4) 藤城拓 (理学4) 野村麻実 (社2) 早川千絵美 (心3) 渡辺祐一 (理3) 田代奈美・橋本哲 (理2) 青柳友美 (理生) 田代奈美 (音1) 加藤豊司・久保田洋 (理1) 原須良寛・山田理恵 (実1) 小林真紀 (理1) 原博子 (心2) 伊賀直樹 (理4) 林祐介 (社1) 杉山雅幸 (生1) ④佐々木美恵 (家4) 竹下雅道 (家4) 佐野英佳 (保4) 吉池志帆 (社4) 小池祐介 (実4) 遠藤明里 (心3) 渡辺智美 (幼4) ⑤井口佳英 (家3) 中村楓史 (社4) 竹下雅道 (家4)
駐屯場係【車を誘導する】	駐屯場係【車を誘導する】	13:05まで待ち場にいる。 帰りは16:25頃待ち場につく。
誘導係【参加者を誘導する】	誘導係【参加者を誘導する】	
閉会式係【会場の準備をする】	閉会式係【会場の準備をする】	
写真・記録係【写真・ビデオで撮影する】	写真・記録係【写真・ビデオで撮影する】	
本部係【当日受付、テントで待機】	本部係【当日受付、テントで待機】	
備品係【備品の管理】	備品係【備品の管理】	

第13回借大YOU遊サタデー (11月8日) 講座一覧表

No.	講座名	キャプテン	対象学年	午前	午後	定員	材料費、持ち物、服装
1	タオルマジック ～タオルを使って動物をつくろう～	小倉佐知子 (家3)	小4～一般成人	○		10	さいほう道具、500円
2	フィルムロケット ～えっ!!フィルムケースがとぶの?～	登坂武人 (社3)	小1～小4	○		15	はさみ、体育館シューズ、200円
3	宝さがし (ネイチャーゲーム)	小池裕介 (実4)	小3～一般成人	○		20	なし、カップ (雨天のとき)
4	こまであそぼ!	竹下雅道 (教4)	小1～おじいちゃん おばあちゃん	○		20	なげごま (持っている人)、100円 (こま を持っていない人)
5	みんなでジャンプ	佐野英佳 (保4)	小4～中3	○		20	運動できる服装、体育館シューズ、タオル、 休憩の時ジュースを買うお金
6	でっかいでっかい しゃぼん玉をつくろう	金井弘子 (理3)	なし	○		40	汚れてもいい服装
7	いい紙つくろう! 世界でたった1枚の自分の紙を。	真島紀章 (教3)	小1～一般成人	○		10	新聞紙3日分、タオル、400円
8	モコモコデンキパン	清水麻紀子 磨木紫織 (家3)	小1～一般成人	○		12	牛乳パック (1L)、はさみ、エプロン、 三角巾、200円
9	作ってうれしいカレンダー	阿部利恵 (実3)	小1～小4	○		15	はさみ
10	天まであがればくのたこ	小木曾雄亮 (教3)	なし		○	10	はさみ、竹ひご2本 (1mくらいの太いもの)、 体育館シューズ
11	これで私も パパパPUFFYでイイ感じ!	山木隆行 (教4)	なし		○	10	ジーパン着用、無地のTシャツ (長袖可)、 古着
12	気分はめいたんてい	平林徹 (教3)	なし		○	20	動きやすい服装、えんぴつ、カップ (雨天 のとき)
13	つくってみよう銀の鏡	中條悟 (理4)	中1～一般成人		○	5	汚れてもいい服装
14	スラスラスライム	吉沢麻衣子 (国3)	なし		○	30	汚れてもいい服装、200円
15	一本目わたあめ屋さん	宮下聡 (院2)	小学生		○	15	アルミ缶、軍手、200円
16	からカラ・アート	森下勇枝 (家3)	小1～一般成人		○	10	筆記用具
17	あけてびっくり! 飛び出す絵本作り	武末裕子 (実2)	なし		○	10	はさみ、カッター、のり、鉛筆 色鉛筆、クレヨン、マーカーなど
18	永久ゴマをつくろう	柚木亘 (理4)	中1～一般成人		○	5	800円

当日予定

7:45 集合 (点呼・朝会)

8:15～ 本朝スタンプ

8:30～9:00 受付

9:00～9:20 開会式

9:30～11:30 午前講座

11:40～12:00 開会式

12:00～12:45 昼送り 昼食 午前十時～十時後講座

12:45～ 本朝スタンプ

13:00～13:30 受付

13:30～13:50 開会式

14:00～16:00 午後講座

16:10～16:30 開会式

16:30～18:00 昼送り 午後片付け

18:00～ 打ち上げ (in生協)

先生あいさつ
司馬あいさつ
日野園長

宇宙からやって来た

Sura Sura スライム君

- よういするもの
- ☆PVAせんじくのり
- ☆ビニールコップ 2コ

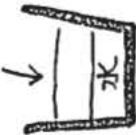
- ☆四ホウさんナトリウム
- ☆わりばし
- ☆みず

さあ スライム君をたんじょうさせよう!

① ビニールコップに、おみずをいれる。



② PVAせんじくのりを、おみずと
おなじりよくいれる。



※おみずは、PVAせんじくのりより
すこしおおくいれてもいいよ。

水：PVA洗濯のり=1：1

③ 色をつける。ふーくまぜてぬ。

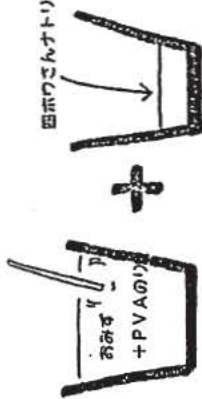


※色は、しよくバに(あか、きいろ、みどり)、
えのぐ、チョークの色、などでも色がつくよ。

いろいろな色をつくってみよう!

④ きれいにうらがうたら、四ホウさんナトリウムすいゆうをまぜいれて...

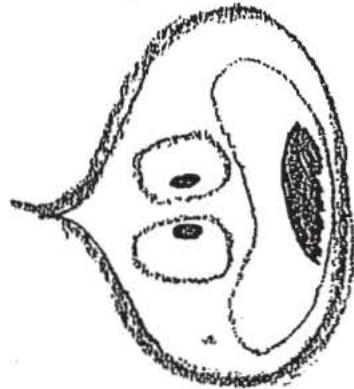
※四ホウさんナトリウムは、
みずにとがして、とけなくなるまでとがしてぬ。



四ホウさんナトリウム飽和水溶液は、
コップの1/4

⑤ かたまったら、コップから出して みるめる。

※バたべたは、四ホウさんナトリウムをすこしつけるとたくなるよ



スライムくんの
できあがり

お家の方へ

おせんぽう

スライムの保存法

...ビニール袋や、冷凍用パック袋にいれて水分を保てるよう
にして下さい。 また、袋のままおいて置いてもいいし、冷
凍してもかまいません。

りょうりゆう

スライムの利用法

...スライムとして遊ぶ他かに、夏の暑い日の保冷剤、熱さま
しのアイスノンとしてご利用下さい。

しりゆう

スライムの処理法

...可燃ゴミとして捨てて下さって結構です。 また、乾燥させ
て捨てたり、土に埋めてしまっても問題ありません。(ビー
ズが入っていたりするスライムは、土に埋めないので下さい。)

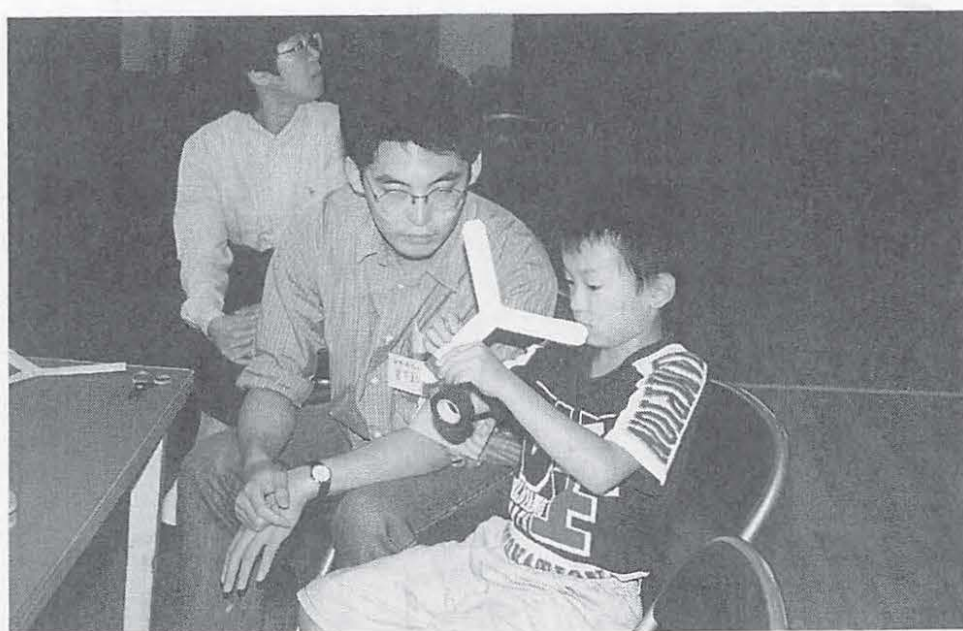
※四ホウさんナトリウム水溶液は、ペットボトルなどの底に蒸るぐらいに水に混ぜ、飽和状
態(もうそれ以上溶けない状態)にしてください。

※食紅は、唇のすこしでかなり色が付きますので、気を付けて入れて下さい。

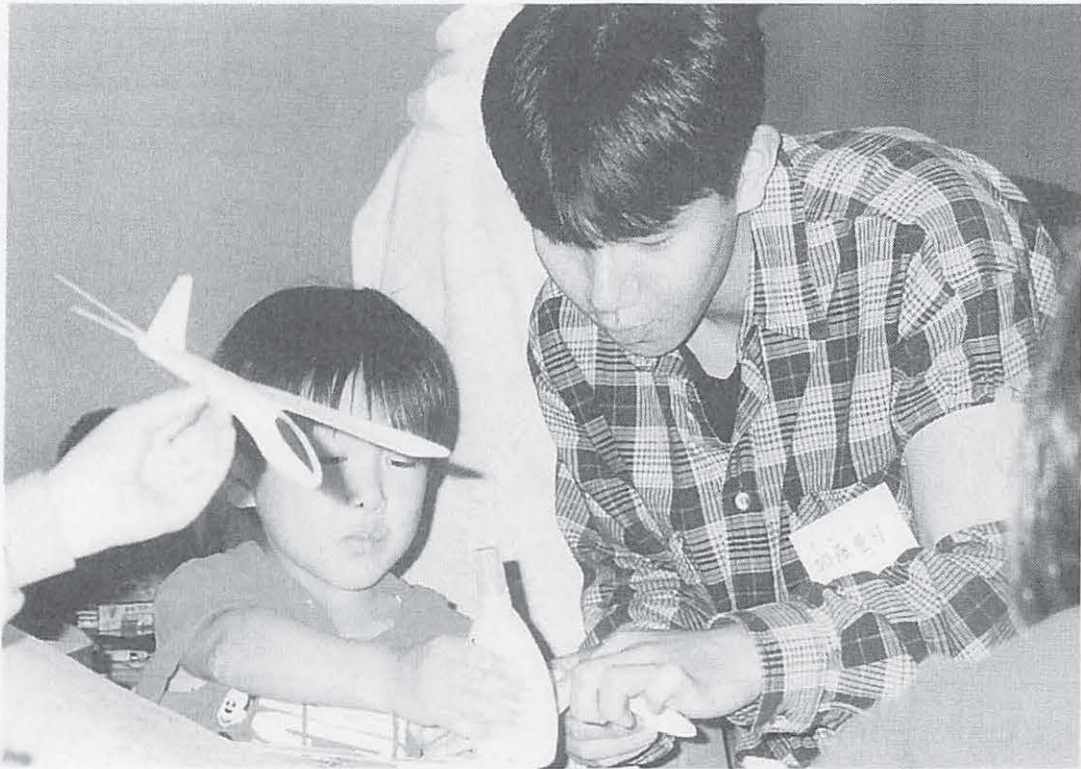
※四ホウさんナトリウムを購入する場合は、薬局で、「ホウ砂」と頼んで下さい。

※小さいお子さんが、口に入れてしまわないように注意して下さい。

講座紹介
HOW TO サタデー
講座記録



物作り講座



1.

講座名
No.1 パーティ小僧 3つ!

講座紹介



2.

講座名
No.11 プーメランをとぼそう

講座紹介

さて、ここで問題です。

「一度は手からはなれたのに、またもどってくるものはなんでしょう。」

- ① お金
- ② 彼女
- ③ プーメラン

正解は、

- ③ プーメラン

3.

講座名
No.18 楽しく作るうたなご作り

講座紹介



4.

講座名
No.6 宇宙生物 スラスラ スライム

講座紹介



5.

講座名
No.10 宇宙から来たスライム スライム

講座紹介



6.

講座名
No.14 スラスラ スライム

講座紹介



7.

講座名
No.7 ペーパーグライダーを飛ばそう

講座紹介



8.

講座名
No.7 いい紙つくろう!世界で1枚の自分の紙を。

講座紹介



9.

講座名
No.10 ステんシルって何?

講座紹介



10.

No.3 **やさしい本ニ教室**

講座紹介

1日かけて、本箱を作ります。
どんな形かにしようかな... そんなことを
考えて参加して下さい。

一枚の板が、帰るころには、いっしょに
本箱に変身しています。大学生の
お兄さんが、一人一人について、
作業を助けてます。失敗をしても
大丈夫! みんなで一緒に万歳を
食べます。楽しい1日になること
まちがいない!

11.

No.16 **カラカラアート**

講座紹介



12.

No.9 **うちわで書**

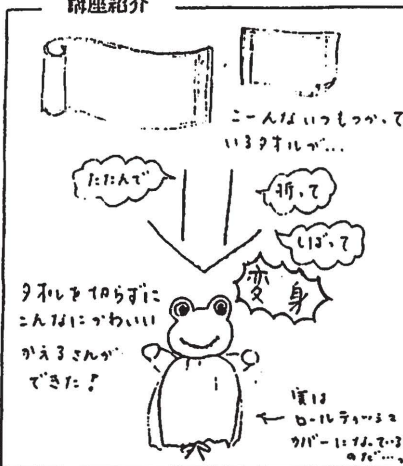
講座紹介



13.

No.1 **タオルマジック**

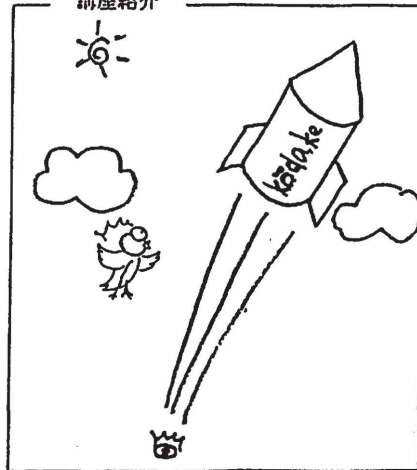
講座紹介



14.

No.2 **フィルムカット**

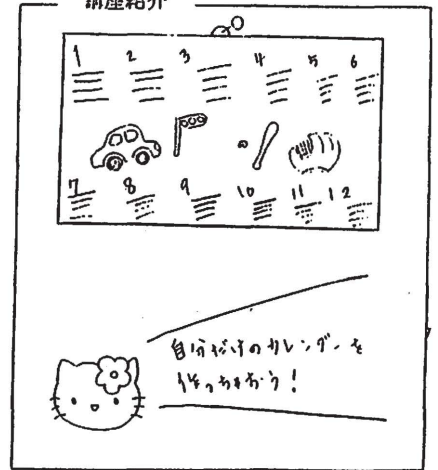
講座紹介



15.

No.9 **14ヶのうれしいリレー**

講座紹介



16.

No.10 **天まであがれぼくのたこ**

講座紹介



17.

No.17 **飛び出す絵本**

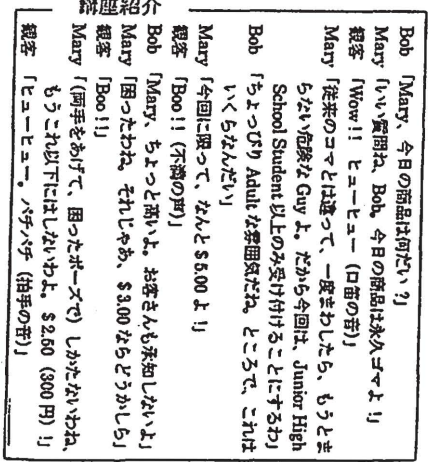
講座紹介



18.

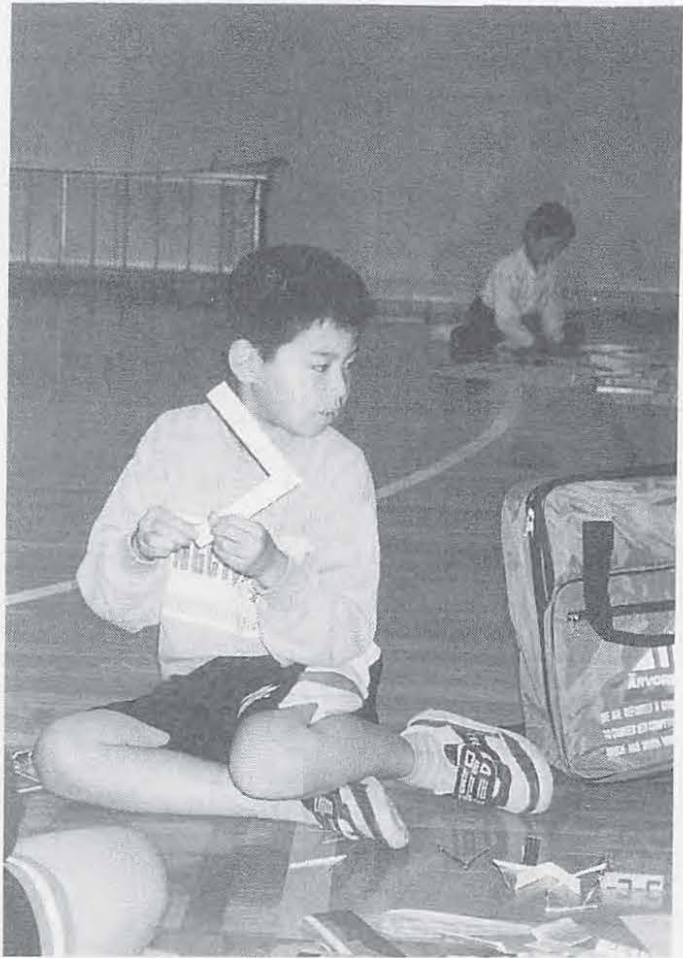
No.18 **永久グッズをつくろう**

講座紹介



No.8 279 講座名
おりがみランド

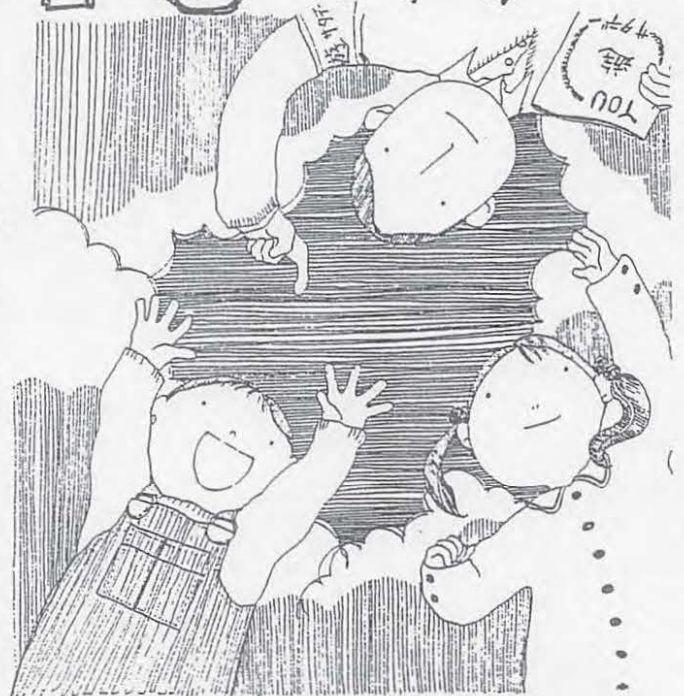
講座紹介



HOW TO サタデー

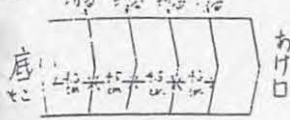
この「HOW TO サタデー」は、YOU遊サタデーの講座の中で御家庭や地域でも手軽にできる講座を紹介したものです。ぜひ御活用ください。

第4期 信大YOU遊サタデー
実行委員会
発行日 1997.9.27

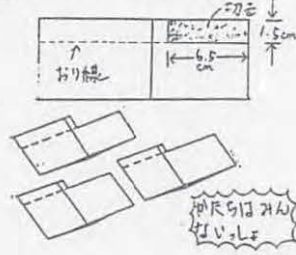


牛乳パック用メラン

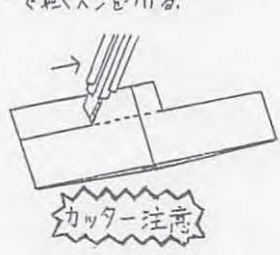
① 牛乳パックを24等分する



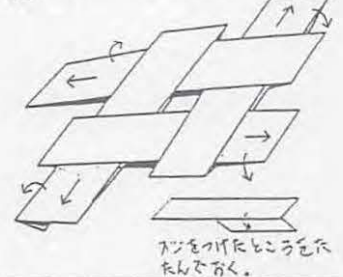
② 4.5cm幅の紙4枚を羽根を作る



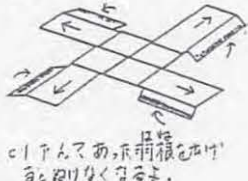
③ お雛様にやさしくカッターナイフで軽くスズをつける



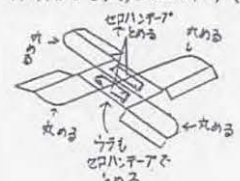
④ 図のように羽根を組む



⑤ はしをひいて羽根を太くする

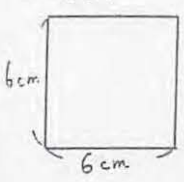


⑥ 羽根の向きがせんぶ同じことを確かめてから、かじを丸めビロハンテープで止める



2号

① 古ハガキを正方形に切りとる

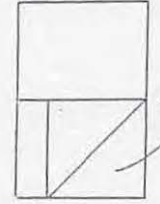


② せんぶ線を斜めに切る

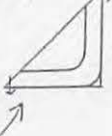


3号

① 古ハガキを正方形に切りとる

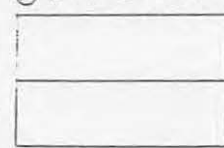


② 2枚を3角形に切りかじを丸くする



1号 古ハガキ用メラン

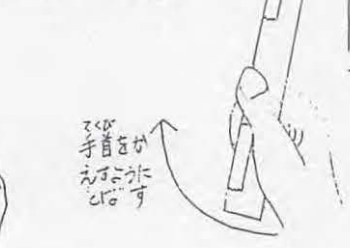
① 古ハガキを半分にする



② かじを丸めて折りをつける



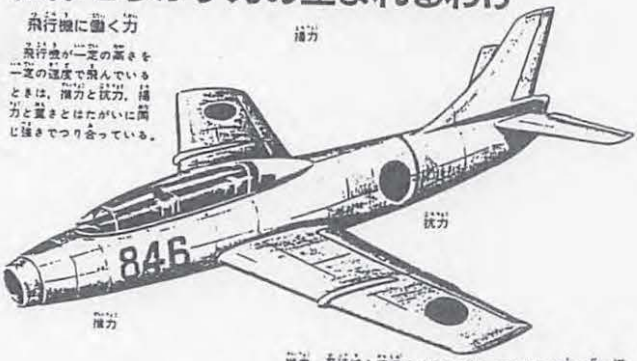
③ 折り紙を2つ折りしてテープで止める



機体をうかす力の生まれるわけ

飛行機に働く力

飛行機が一定の高さを一定の速度で飛んでいるときは、揚力と抗力、推力と重力とはたがいに同じ大きさでつりあっている。



空気の流れと働く力

物が進むと、まわりの空気に流れがおきて、力が発生します。物の形によって、空気の流れ方が違ってきます。

ボールが回転しながら飛ぶときは、図の上のように空気の流れとボール自身がつくる空気の流れが組み合わさり、一方の流れがもう一方の流れよりも速くなります。

空気には、流れの速いところは、小さいところから比べて、圧力が低くなるという性質があります。圧力が低くなると、高いところから低いところに向かって力が生まれます。図による空気の流れの速さのちがいが原因で、ボールはこの力によってまがります。野球の変化球は、このような原理でまがるのです。飛行機ではつばさの形を工夫して、つばさの上側と

下側の流れの速さがちがうようにつくられます。飛行機のつばさの断面は、揚力が後方にくらべて大きくするように設計されていて、揚力が重力とつりあって飛行機をうかせます。

回っているボールのまわりを流れる空気。ボールを回すように回すと、空気は速く流れ、若しくはおそく流れます。そのとき、ボールの周囲の空気の圧力が、右側より低くなり、ボールは左にまがります。



つばさの上下を流れる空気

つばさの断面とそのまわりを流れる空気



飛行機のつばさは、横から見ると上の方がより丸く、下の方がより尖っている。そのため、つばさのまわりを流れる空気は、上側が速く、下側がゆっくり流れます。流れる方が速いほど、圧力が低くなるので、つばさを上に押し上げるような力、つまり揚力が生まれるのです。

空気は、物にたがって流れるから、つばさからは空気が、みだれた流れになる。

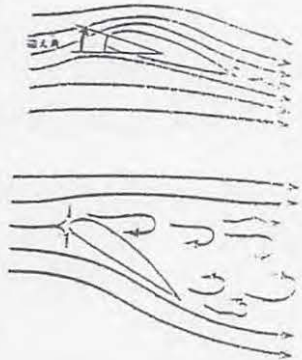
流れが速いところでは圧力が低くなる

空気の流れが速くなると圧力が低くなることを、実験で確かめてみましょう。右の図のように、ちよど正方形を置いて2枚の紙をたらし、紙と紙の間をふさぎます。すると、紙はくっついてしまします。これは、流れの速いところでは、圧力が低くなり、まわりから押し込まれるからです。



空気のあたり方

空気の流れに対するつばさのかたむき方を迎え角といいます。つばさの形のほかに、迎え角によっても揚力が発生します。つばさの迎え角を大きくしていくと、それに伴って揚力が増えます。しかし、迎え角を大きくしすぎると、つばさの上側の流れがはかれ、揚力が急に小さくなってしまいます。これを失速とよびます。飛行機のつばさは、できるだけまわりの流れをスムーズにして、揚力を引き出すように設計されています。



(上) 迎え角を大きくすると揚力は増す。つばさの後ろは、空気のおぼりのために流れが少しみだれる。

(下) あまり迎え角を大きくすると、つばさの上側の流れがはかれて、失速してしまふ。

飛行機のしくみ 飛行機はなぜ飛ぶか 揚力ってなに?

飛行機が飛んでいるのは、ホウキで空気を流すからだ。

飛行機は、いわば「空気の流し」と言えるために、はやくはやく飛んでるんだよ。

翼に「空気の流し」があるとき、飛行機はつりあいで飛んでる。

ホウキのひしぎ性質を説明するね!

ホウキで空気を流すのは、

① 速く流れるところでは、圧力が低くなる。

② 遅く流れるところでは、圧力が高くなる。性質があるんだ。

水の流れにスプーンを近づけてみると、スプーンが吸い付くぞ。

これと同じことが翼に起こっているわけなんだ!!

さて、飛行機が翼の形で主翼に空気の流しがあったら...

この翼の上では、空気が速く流れるので、圧力が低くなる。

この翼の下では、空気が遅く流れるので、圧力が高くなる。

こうして、翼の上と下に圧力差ができるんだね。

この圧力の差によって、翼を吸い上げる力がはたらく。これが「揚力」なんだ。

例えば、350人のジャンボ機が離陸する時は、主翼には550kgの揚力が350kg以上にはたらくというわけだ。

空気の力のおかげで揚力、とてもすごく大きな力なんだよ。

●揚力をふやしくみ・フラップ

翼の先端を折ることで、翼の面積を増やして揚力を増やせる。翼の面積を増やせば、揚力も増える。翼の面積を増やせるようにする。

●翼の形にはわけがある

後退翼 (Retractable wing)

前進翼 (Canard wing)

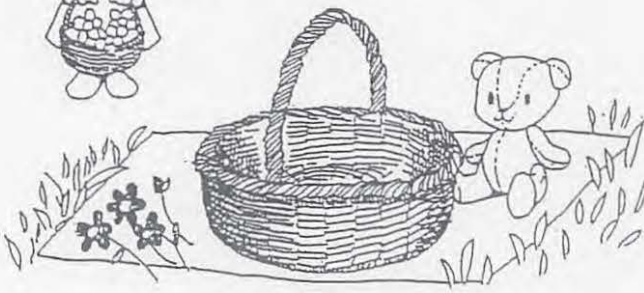
三角翼 (Delta wing)

可変翼 (Variable wing)

楽しく作ろう 籐かご作り

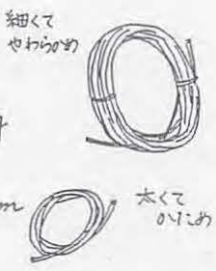


手作りのかわいいかごを作ろうよ!



材料

- ・ホーム(クラフト)ラタン 2mm丸芯の本ざらし...30g
- ・ホーム(クラフト)ラタン 5mm丸芯...2/cm (柄に使います)



道具

- ・はさみ (籐を切る時に使います)
- ・メジャー (籐の長さを計ります)
- ・洗面器 (籐を水に浸す時に使います)
- ・タオル

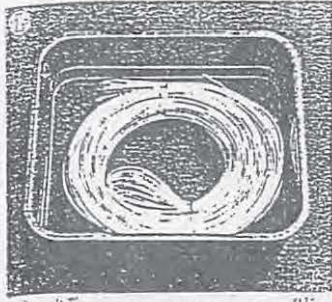


(その他に、目打ち、平打ち、エンマボンチなどがあると便利です)

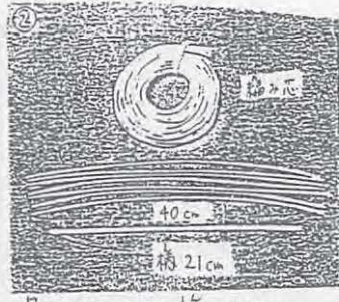
籐って何?

籐とは、植物のこぶです。その植物の茎(つる)を水にひくと、やわらかくなり、乾くとかたくなるという性質があります。

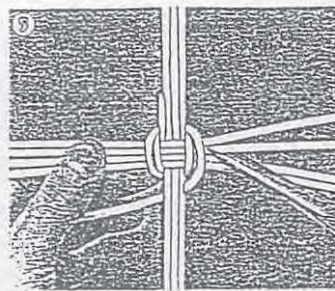
作り方



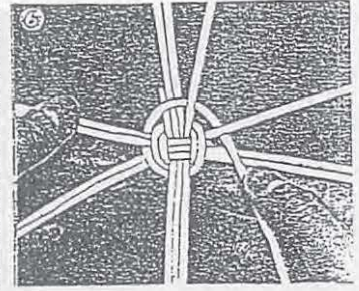
① 籐の束をそのまま、5分ほど水に浸します。



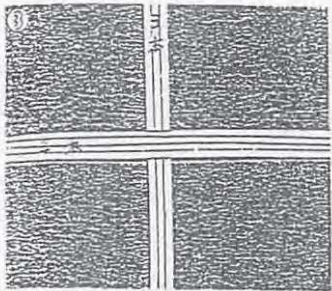
② 輪をほじいて、たて芯にするための40cmの籐を用芯にします。



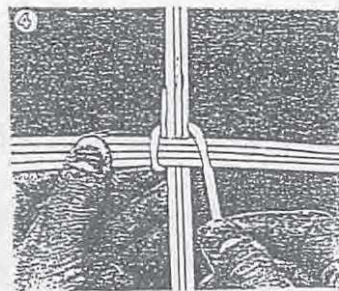
③ 2回目をまっすぐに締めて巻きます。右側の上から2本目を切つて芯の数を奇数にします。



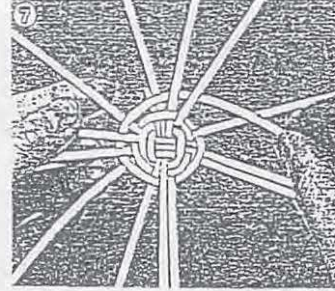
④ 左側からたて芯を2本ずつに分け、たがいちがいにくぐらせて編みます。2本にはない角の所は、隣とあわせて2本にします。



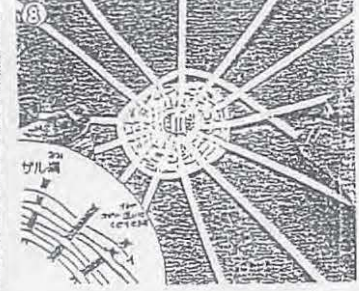
⑤ たて芯を3本と4本に分け、それぞれの中心で、たてに3本をおき、その上に横4本をまっすぐに揃えてのせます。



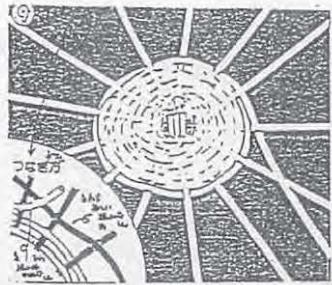
⑥ 籐を1本選び、たて芯の十字が曲がらないように指で押え、すまみあがきのようにひとまわります。



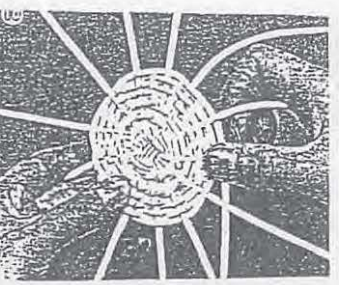
⑦ 芯が奇数なので、2回目は前段と1目ずつ編み目がずれます。たて芯を等間隔にひかすのばら直径6cmまで編みます。



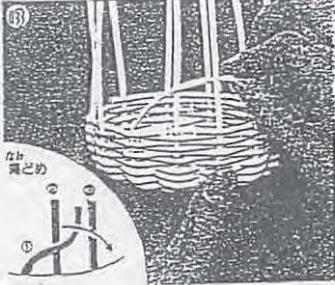
⑧ たて芯を1本ずつに分け、編み芯をたがいちがいにくぐらせて編みます。



⑨ 直径8cmで、底がたて芯あがりです。いつも芯を同間隔にし、編み芯を引っ張りすぎないこと。



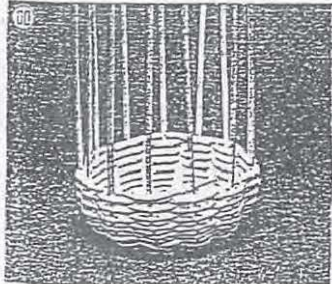
⑩ 芯を軽く曲げて立ちあがりのくせづけをします。このとき、しばらく乾かしておくくと曲がりやすいです。この場合は、編み芯を少し引、ほりきみにきつ編むとうまく立ちあがります。



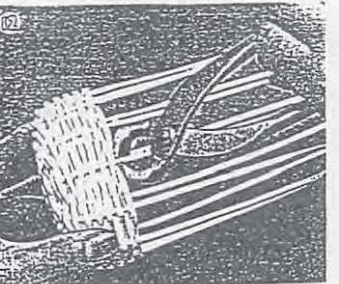
⑪ 縄どめをします。よく使われる基本的なとめです。はじめに①と②の外を通過して、②と③の間から内に入れます。



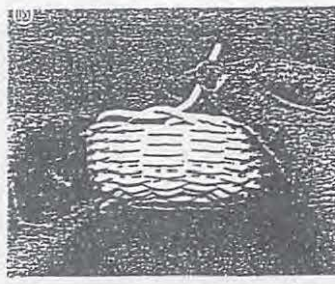
⑫ 今度は、②と③の外を通過し、③と④の間から内に入れます。これをくり返し、すまみがあかないようにきちんと編みまわらせます。



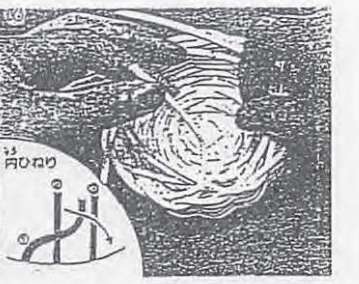
⑬ 側面を高さ2.5cmまで編みます。芯をまっすぐに、形がいびつにならないように注意して編みまわらせます。



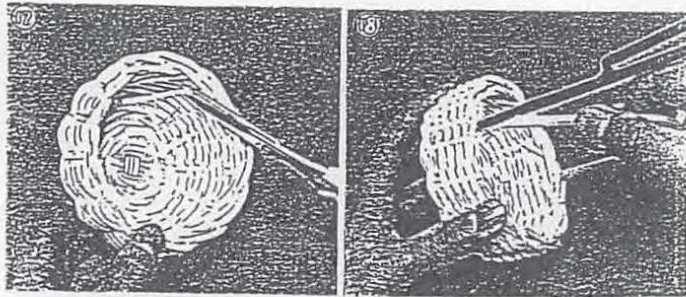
⑭ たて芯をとめるので、せわらかくするために、米に浸します。インマペンチをもちている人は、たて芯の根もとを軽くかんで折れぐせをつけます。



⑮ 最後に残った1本のとめ終りの入れ方です。はじめのたて芯が立っているものとして、糸わりたて芯を少しみ、内から引きます。



⑯ 内に入れた芯をさらに①と②の外を通過して②と③の間に入れ、これをくり返してとめます。(これを内ひねりといいます)



⑰ 芯の余分を切り落とします。短かく切りすぎると、乾いてから、表面のしめがとぎれてしまうことがあるので注意しましょう。

⑱ 柄の両端をナイフで斜めに切り、水に浸して柔らかくします。柄を少し曲げ、かごに(あれば)甲打をさしこんですまをあげ、しっかりとさしとみます。

覚えておきましょう



ここがポイント!



そのⅡ: 籐が乾いてきたら、その度に水につけて柔らかくして編んでいこう!

そのⅢ: 編み芯は、手ちんとしめながら編んでいこう。

そのⅣ: とにかくたのしく作ろう。

《材料について》



籐は手芸屋さんや手芸センターなどで、おいてあるところや、注文して取り寄せてくれるところもあります。

太さ2mmのもの500円で2500円(お店によっては300円で売ってくれます。)がわり多めなので、何人かで分けるといいと思います。



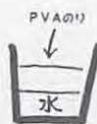
宇宙からやって来た Sura Sura スライム君

よういするもの

- ☆PVAせんたくのり
- ☆四ホウさんナトリウム
- ☆みず
- ☆ビニールコップ 2こ
- ☆わりばし

さあ スライム君をたんじょうさせよう!

① ビニールコップに、おみずをいれる。



② PVAせんたくのりを おみずとおみじりゃくいれる。
※おみずは、PVAせんたくのりよりすこしおおくいれてもいいよ。

水:PVA洗濯のり=1:1

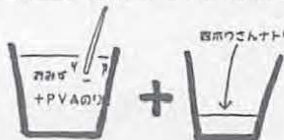
③ 色をつける。よくまぜてね。



※色は、しよくべに(あか、きいろ、みどり)、えのぐ、チョークの色、などで色がつくよ。

いろんな色をつくってみよう!

④ きれいにいうがついたら、四ホウさんナトリウムすいようえきをいれて...

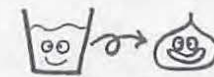


※四ホウさんナトリウムは、みずにとがして、とけなくなるまでかしてね。

四ホウ酸ナトリウム飽和水溶液は、コップの1/4

⑤ けたまったら、コップから出して まるめる。

※べたべたは、四ホウさんナトリウムをすこしつけるとなくなるよ



スライムくんのできあがり

お家の方へ

スライムの保存法

...ビニール袋や、冷凍用パック袋にいれて水分を保てるようにして下さい。また、袋のままおいて置いてもいいし、冷凍してもかまいません。

スライムの利用法

...スライムとして遊ぶほかに、夏の暑い日の保冷剤、熱さましのアイスノンとしてご利用下さい。

スライムの処理法

...可燃ゴミとして捨てて下さって結構です。また、乾燥させて捨てたり、土に埋めてしまっても問題ありません。(ビーズが入っていたりするスライムは、土に埋めないで下さい。)

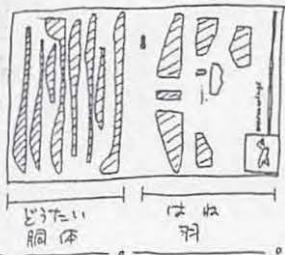
※四ホウ酸ナトリウム水溶液は、ペットボトルなどの底に残るぐらいに水に混ぜ、飽和状態(もうそれ以上溶けない状態)にしてください。

※食紅は、ほんのすこしでかなり色が付きまますので、気を付けて入れて下さい。

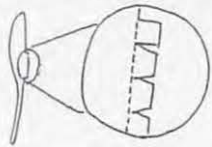
※四ホウ酸ナトリウムを購入する場合は、真鍮で、「ホウ砂」と頼んで下さい。

※小さいお子さんが、口に入れてしまわないように注意して下さい。

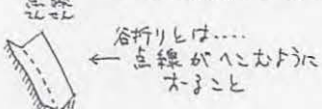
ペーパーグライダーの簡単な作り方 (型紙を用意して下さい)



① // // // // // のとこを切りとよ!



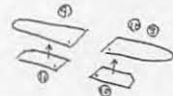
② ^{たのり} のとこを谷折りにす!



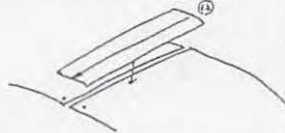
③ ^{どろたい} 胴体をつくり
右の絵のように、①~⑦まご
ならべてはりあわせよ!



④ は、た 胴体はラウンページに
はさんでおく。



⑤ ^{はし} 羽をつくり
⑥を②に、①を④にはり!
(.のししを合わせ)



⑥ ⑤ごつく、た羽を③ごつく、つけろ!
(←と、のししを絵の具に
あわせ)



⑦ ←を前にしてはる!
⑧も後ろにつけろ



⑧ ごきあがり!!

いい紙つくろう!
世界がたった1枚の自分の紙を。

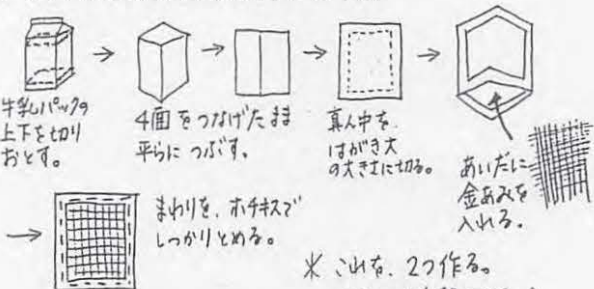
~牛乳パックから紙づくり~

用意するもの

- 牛乳パック (たこま)
- 新聞紙
- 金網 (17×12cm) 2枚
- タオル
- ミキサー
- カッター
- たらい (洗面器、バケツ)
- ホチキス
- アイロン
- 絵の具や色紙
- 木の葉 ほど

作り方

1. まず、紙をすく時に使う枠を作ろう。



* この箱、2つ作る。
(2つを1組にする。)

2. 牛乳パックを大きめに切り、カッターで切り目を入れ、水につけおく。(1日〜2日)
3. 水から、牛乳パックを取り出し、切り目と切り目から、表面のサイロをはがす。(両面とも)
4. 3で出したものと、その3〜4倍の水を、汁漉しにかけ、ドロドロにする。(この時、色紙や、絵の具を入れると色がつくよ。)
5. ドロドロになったら、それをたらいに移す。(紙を入れていると、汁漉しから1111の紙がはがれやすくなる。) (紙を入れていると、汁漉しから1111の紙がはがれやすくなる。)
6. 枠を、ドロドロの紙の中に入れ、おきの上にドロドロの紙を均等に伸ばす。(ドロドロの紙が少なくなると、ドロドロの紙が、ペーパーが薄くなる。) (多めにしよう。)
7. 6で出したものに、もう1つの枠を重ね、水をきく。
8. 7のものを、枠を新聞紙にはり、強めに、水を切る。(脱水する。)
9. 枠から紙を出し、新聞紙にはり、その上にタオルを敷き、アイロンをかける。(アイロンには、くわい46の紙をつかう。)
10. できた紙を平らにするために、新聞紙にはり、重しをのせておく。
11. できあがり (土曜を、はみで切り、さしこむ。)

(6の時に、落ち葉はどろのせ、その上からドロドロの紙をすく、のぼすと、落ち葉入りのはがりになるよ。)

これが！ ステンシル だ！

ステップ1 型紙を作る。

- 用意するもの
- ・ステンシルシート (画用紙でも可)
 - ・えんぴつ
 - ・サインペン
 - ・カッター
 - ・しんぼんし (厚紙、画用紙でも可)

- ① 作りたい作品の図案を選び、ステンシルシートにのせて、えんぴつで写し取ります。
- ② しんぼんしの上で、カッターを使い型紙を取り取ります。



ポイント①
・外側のえんぴつは太く太く。
・書き進めるときは、えんぴつを動かさず、紙を動かす。

ステップ2 紙にステンシルする。

- 用意するもの
- ・ステンシルブラシ (他にハブラシ、スポンジでも可)
 - ・えのぐ
 - ・トレイ (パレットでも可)
 - ・キッチンペーパー
 - ・水入れ
 - ・マスキングテープ

ポイント②
①は細かいところや、いきなりしたい色にしたいときは、②に大きいところや、やさしい色を出したいときに使おう。

- ① えのぐをステンシルしたいところにのせて、テープで固定する。
- ② トレイにえのぐを少し出し、ブラシにえのぐをつけてつけます。キッチンペーパーで余分なえのぐを拭き取ります。



ポイント③
かすめるくらいがよい。

- ③ 色があざやかになると、ブラシの毛先がえのぐを吸い取ってしまうので、えのぐを少し減らして、再び塗ります。
- ④ 色があざやかになると、2つ目の点線まで塗りつけたときに、えのぐを拭き取ります。



ポイント④
色があざやかになると、ブラシの毛先がえのぐを吸い取ってしまうので、えのぐを少し減らして、再び塗ります。

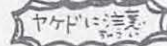
ステップ3 布にステンシルする。

- 用意するもの
- ・ステンシル用の布
 - ・アイロン
 - ・ミシン

- ① 布にえのぐを少し出し、ミシンの針をアロンコで縫い付けます。
- ② トレイにえのぐを少し出し、ミシンの針をアロンコで縫い付けます。



- ③ ステンシルするときと同じように、えのぐを塗ります。
- ④ アイロンをかけます。ミシンの針は、えのぐを塗ったところから離します。



うまくできたかな？

からカラアートにちょうせん。

よいするもの

- ・たまごのカラ
- ・画用紙(板)
- ・水性ニス
- ・えのぐ
- ・ホスターカラー
- ・木工用ボンド

- ① たまごのカラを中まできれいにあらって、よくかわかそう。
- ② すきな大きさの紙(板)に下絵をかこう。(えんぴつ)
- ③ いろんな色にしようかな。



よくあらってかわかそう。



こんな風にしようかな？



夜のあざやかには色にしようかな。

おつきさまの色はなに色？

あなたんこの色はなに色？

- ④ ①に、えのぐ・ホスターカラーで色をぬる。
- ⑤ えのぐがかわいたら、カラをてきとうな大きさにちぎって②にはりよう!!
- ⑥ ボンドがかわいたら、水性ニスをうすくぬって、できあがり

えのぐにカラをのせてぬる。



あざやかにはりよう。

ホスターカラーのほうがかきやすくていいよ。

ボンドをぬって



※こまかいところは、ピンセットを使うとよい。



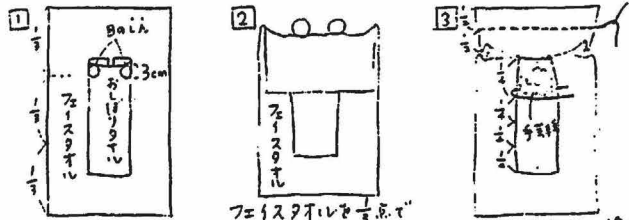
じょうずにできあがりかな？

タオルマシク ~ タオルを使って 季節物をつくろう ~

♡ かわるのロールティッシュカバー
(材料) 1コ



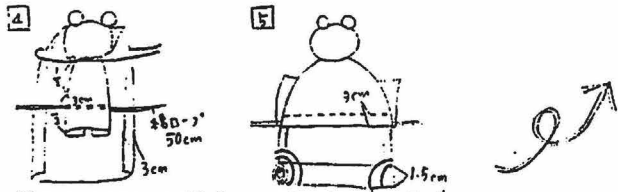
フェイスタオル 1枚、おしぼりタオル 1枚、手芸綿適量
フェルト(黒、白)各1枚、目の中に入れ玉(直径3cm) 2個、
太さ0.6cmの綿ロープ 1.5m、厚紙 45cm x 13cm、
ロールティッシュ1コ、不織布



1 フェイスタオルの上に、
たてに2つ合わせて
おしぼりタオルを置き、
目の入りに玉を置く

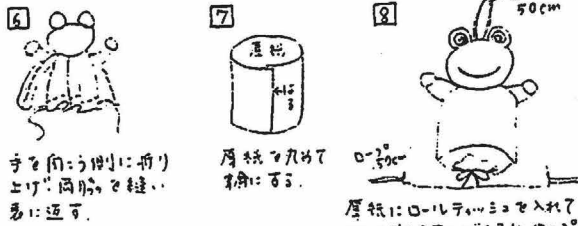
2 フェイスタオルを半分に
折り、3枚のフェルトを
上に糸で縫い、目の
土台をつくる

3 おしぼりタオルに綿を
詰め、目の位置を糸で
縫い、フェイスタオル
上側に糸を縫い合わせる



4 綿をフェイスタオル上側で
くまなく詰め、目の位置を
糸で縫い、おしぼりタオル
の目の位置にロープを通す

5 おしぼりタオルを裏に、
ロープを1.5mずつ折り上げ、
3cmずつ縫い合わせる。
フェイスタオルの底を別の
布に縫い合わせる



6 手を両側に折り
上げ、両側を縫い
合わせる

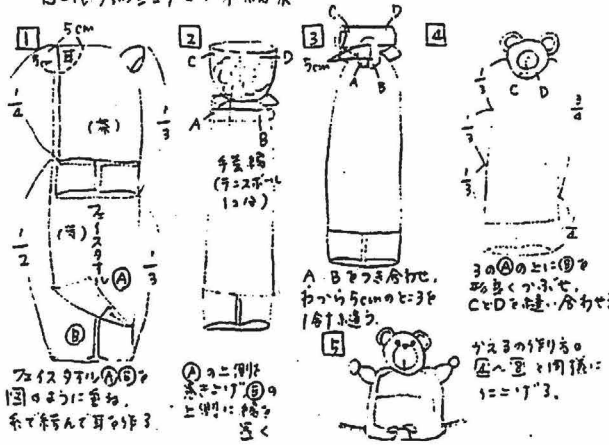
7 厚紙を丸めて
筒にする

8 厚紙にロールティッシュを入れて
おしぼりタオルでくまなくロープ
をしばり、テープでフェルトを
閉じて目を縫い、口はテープ
をする。首にロープを通して
飾る

またまた作りたい人は...

♡ くまのロールティッシュカバー (材料) 1コ

フェイスタオル 2枚、手芸綿適量、目玉用・鼻用ボタン 直径1cm
3コ、太さ0.6cmの綿ロープ 1.5m、厚紙 45cm x 13cm、
ロールティッシュ1コ、不織布



1 フェイスタオル(茶)の
目の位置にボタンを
糸で縫い合わせる

2 Aは上側、
Bは下側、
Cは鼻、
Dは口

3 A・Bを縫い合わせ、
ボタンを5cmの位置に
縫い合わせる

4 3の目の位置にボタン
を縫い合わせる、
C・Dを縫い合わせる

5 かわるのロールティッシュ
の目玉・鼻用ボタンを
縫い合わせる

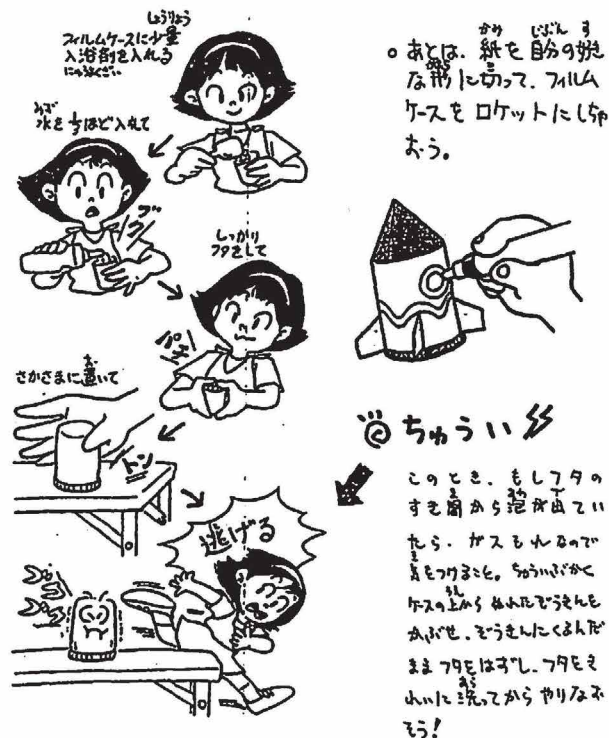
フィルムロケット !!

1. 準備するもの



フィルムロケットは、お風呂に入るときに
お風呂に入るときは、お風呂に入るときに
お風呂に入るときは、お風呂に入るときに

2. 飛ばしかた



お風呂に入るときは、お風呂に入るときに
お風呂に入るときは、お風呂に入るときに

③ ちゅうい

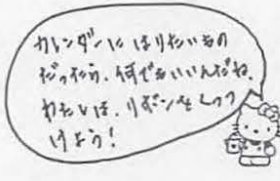
このとき、もし7月の
お風呂に入るときは、お風呂に入るときに
お風呂に入るときは、お風呂に入るときに

作ってうれしいカレンダー

～手作りカレンダーのすすめ～

★材料

- ・カレンダーの日付の部分
- ・画用紙 (台紙)
- ・おりがみ
- ・雑誌などの切り抜き などなど...



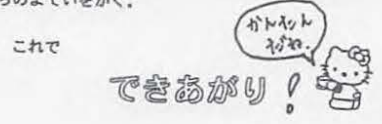
★道具

- ・はさみ
- ・のり
- ・セロハンテープ または ガムテープ
- ・マジック
- ・色えんぴつ などなど...



★作り方

- ①カレンダーの日付の部分を好きなかたちに切りぬく。
- ②台紙 (画用紙など) をつくる。好きな大きさ、かたちにする。紙をいっぱいつけて、大きくしてもいい。
- ③出来た台紙にカレンダーの日付の部分をはりつける。
- ④好きな絵をかいたり、いろいろな物をはりつける。
- ⑤できたら、カレンダーに自分のたんじょうびやかぞくのたんじょうび、これからのよていをかく。



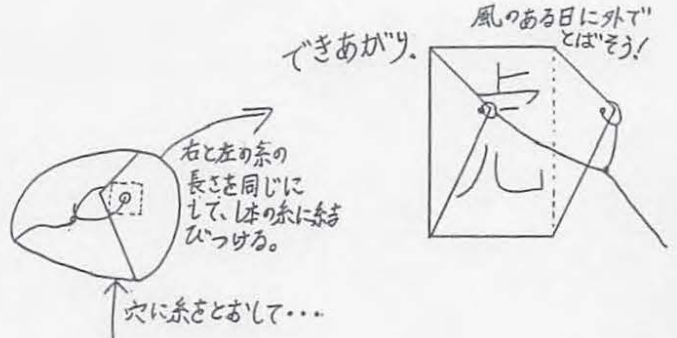
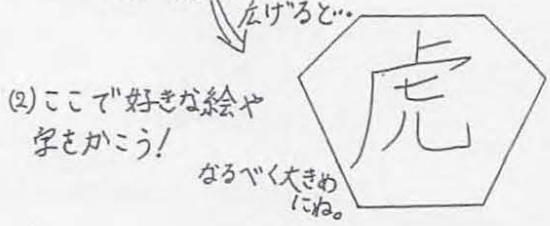
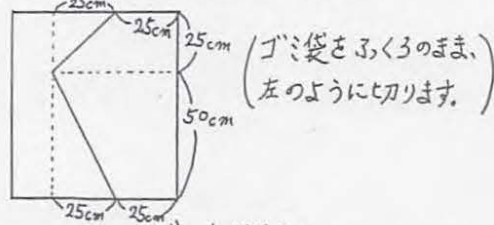
あら、わかんないも、あつと年をくわると自分だけの楽しいカレンダーになるよ。毎日のスケジュールを書いて、楽しく生活できるかも...♡ わずれ物も入るかも...♡ うれしいことだらけ。幸せがいっぱい!?

天まであがれ ぼくのたこ

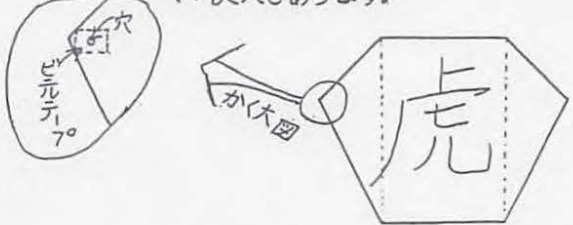
1. よういするもの
- ・とうめいなゴミ袋
 - ・竹ひご2本 (1mくらいの太いもの)
 - ・はさみ または カッター
 - ・ゴミ袋に穴をあけられるもの
 - ・たこ糸
 - ・ビニルテープ
 - ・油性マジック
 - ・セロハンテープ

2. 材料がよいできたら、さそく作ってみよう!

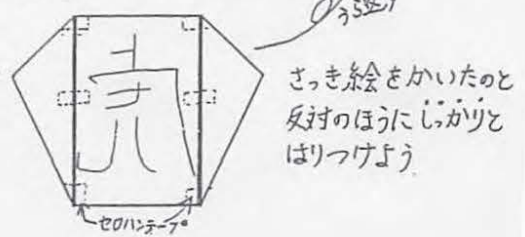
(1) まず「ゴミ袋をたこの形に切るぞ」



(4) ビニルテープを回のようにはって(戻そうも)、その後穴をあけます。



(3) 竹ひごをたこにはりつけます。



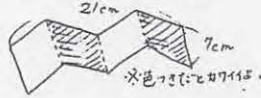
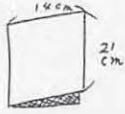


飛び出す絵本

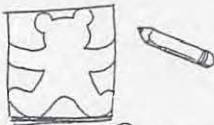
（応用編）

飛び出すくまさんカート

- ① 1枚のタテ21cmヨコ14cmの紙を半分に折る。これが台紙になる。
- ② 次に別にタテ7cmヨコ21cmの紙を用意する。紙を半分に折り、さらにアコーディオン折り（ヤマ折り）→タニ折り→ヤマ折り）で“回”のように、半分に折る。紙に折り線が3つできる。



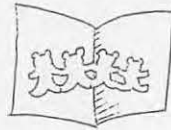
- ③ アコーディオン折りに1枚の紙を折り、表にクマの絵を描く。（他動物でもOK）
※ 絵柄には必ず手か足を描き、手（足）の端は圓の外側に、紙の端までのぼす。
- ④ 絵柄を切り取って、紙を開く。開くとくまが4匹手をのびている。（色を塗るとキレイ。）



- ⑤ もう一度折りにこめて、裏（1）のほうで、カート左奥の中央に貼る。カートを開いたりの軽くこめて押さえる。
- ⑥ カートを開き、左奥に貼られた絵柄の裏に1の紙の軽くこめて押さえる。



- ⑦ カートを開くとくまさんが手をのびているよ！



いろいろ作ってみよう。



おりがみランド スノーレッツをつくろう!!

A. スッキー（ももいろを土に）

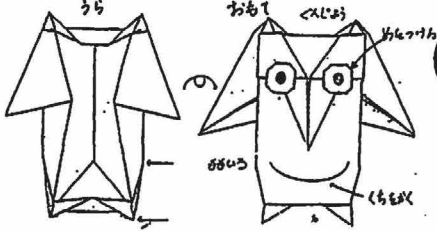
- ① ② ③
1. 三角に2箇所を折る。
2. 下のまん中のせんにあわせて、手を折り、
- ④ ⑤
- ⑥ ⑦ ⑧

〈用意するもの〉 おりがみのうらとうらを はりあわせる。

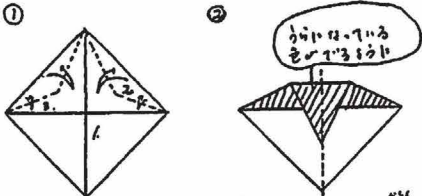
	からし (1枚あたり 10.5 x 10)	め
A スッキー	15cm x 15cm (6.6寸 x 6.6寸)	3.5cm x 3.5cm (1.4寸)
B ノッキー	"	あまのこ / オレコ
C レッキー	"	うしろのこ / オレコ
D ヴッキー	"	あまのこ / オレコ

- ⑨ ⑩の1 ⑩の2 ⑩の3

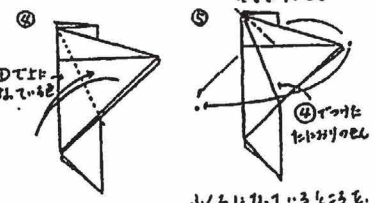
A. スキーのイデアがバグ!!



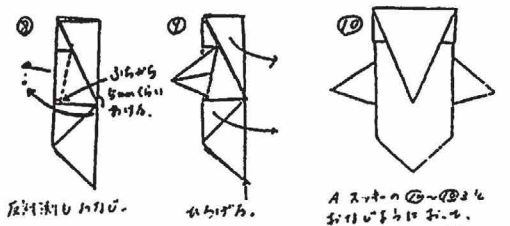
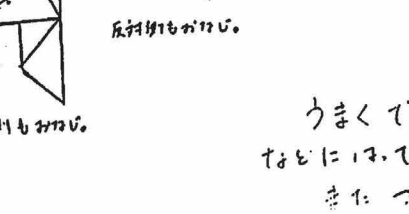
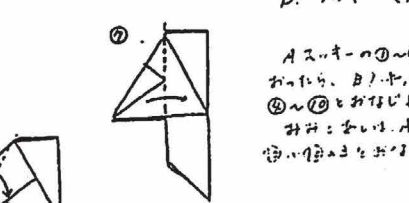
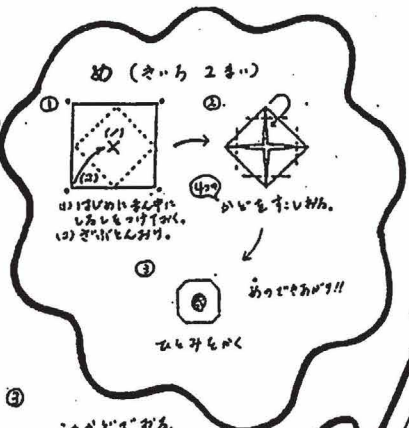
B ノッキー (オレンジをよ) C レッキー (きりぎりすをよ)



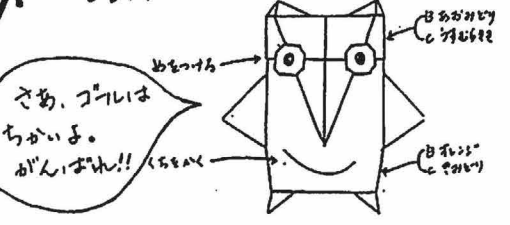
1. 二面を二つ折る。 (Fold the two sides in half.)
2. 折った部分を中心にして折る。 (Fold along the center of the folded part.)
3. 折った部分を中心にして折る。 (Fold along the center of the folded part.)



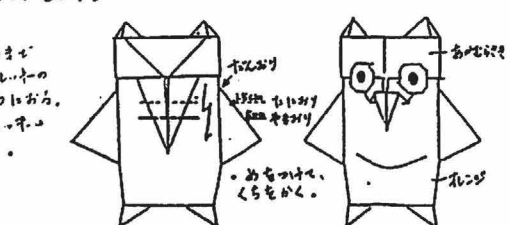
4. 折った部分を中心にして折る。 (Fold along the center of the folded part.)
5. 折った部分を中心にして折る。 (Fold along the center of the folded part.)



A スキーのイデアがバグ!!



B ノッキー C レッキー



D ツッキー (オレンジをよ)

うまくできたらかな? つくったスキーの紙。画用紙
 には、はておくと、かざることもできます。
 さい、つくって、お楽しみ。

第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	ブーメランを作ろう	第11回 5月24日(午後)
		アシスタントスタッフ数 5名
		参加者数 15名
キャプテン名	松元 徹 (保体専攻 4年)	
指導教官名	渡辺 敏明教官	

・講座のねらい

牛乳パックや古ハガキを使って、様々な(形やデザインなど)なブーメランを作り、飛ばす。
ブーメランの昔と今の使われ方や、工作する楽しさなどを知ってほしい。

・講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
1. 自己紹介。	○キャプテン、スタッフが先に自己紹介をし、子どもたちがそれに続く。 ・笑顔でよい印象を与える。	3分
2. 現在や昔のブーメランを劇などを入れながら説明する。	○子どもたちみんなに聞こえるように元気に話す。 ・劇をやる人は恥かしくない。	17分
3. 今日作るブーメランを紹介する。	○誰か一人がブーメランを飛ばす。絶対戻ってこさせる。	3分
4. グループ分けを発表する。	○グループに自己紹介をする。 ・作り方のプリントを配る。 ・場を盛り上げる。	3分
5. 制作、飛ばす。	○けがに十分気をつける。(カッターなど) ・子どもによっては型紙を渡し、切るだけにする。 ・飛ばしている時の安全面にも気をつける。 ・飛ばし方の指導をする。	84分
6. 修了証を渡す。	○キャプテンは一言何かを言ってから修了証を配る。	10分

第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	ブーメランを作ろう	第 12 回 9 月 27 日 (午後) アシスタントスタッフ数 2 名 参加者数 8 名
キャプテン名	柚木 亘 (理科専攻 4 年)	
指導教官名	癸生川武次 教官	

・ 講座のねらい

①ブーメランがなぜ戻って来るのか、簡単なしくみを作りながら知ってほしい。②工作する楽しさを知ってほしい。③ブーメランのデザイン、飛ばし方の工夫等を考えることにより創造力と研究の態度を伸ばしてほしい。

・ 講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
1.キャプテン・スタッフが自己紹介をする。	○笑顔でニコニコ、良い印象を与える。	5(分)
2.ブーメランの秘密を紹介する。	○普通のブーメランと平らなブーメラン(戻ってこない)を比較して、羽のカーブに気づかせる。 ・ブーメランの飛び方に着目させ、1円玉等の回転の例を合わせて示し、ブーメランの原理を簡単に説明する。	30
3.製作	○紙をくぼり、作り方を説明する。	30
4.とばす	○うまく飛ばない子どもに適切な助言をする。 ・遠くへ飛ばしたい等と考えている子どもに対しても助言を与える。 ・安全に注意する。(他の子にブーメランが当たらないようにする)	50
5.修了証をわたす	○一言何か言ってわたす。 ・補足プリントを合わせてわたす。	5

楽しく作ろう籐かご作り

澤田 奈奈（理科専攻 3年）

1 講座を開くにあたって

私は2年生の時にYOU遊サタデーで籐かごを作る講座にスタッフとして参加しました。その時私は初めて籐かごを作りましたが、籐を編みながらかごを作ることが、大変楽しいことだと思いました。そして何よりもその時の子ども達の真剣な姿を見て、私も多くの子ども達にこの楽しさを味わってほしいと思い、この講座を開こうと思ったわけです。

2 籐かごについて

材料に籐を選んだ理由としては、あけびなどと違い、水に浸けると柔らかくなり、小学校低学年の子どもでも危なくなく自由に扱えること、それほど高価でなく、手軽に手に入れることが出来るということが挙げられます。

作品をかごにしたのは、籐編みの中では一般的であり、小さいかごだとあまり時間もかからないからです。また、はさみやメジャーといった身のまわりにある道具を使って手軽に作る事ができるという利点もあります。

日頃目にする籐を材料とする様々なかごは、ぴちっと固く、その繊維は折ろうと思えばポッキリと折れてしまうものです。しかしそのかごは、作る時に水に浸すと、大変しなやかになり、曲げたりすることができるために編むことができるということに、子ども達ばかりでなく私達も、驚くものです。そういった籐の性質を利用して、自分だけのオリジナルの籐かごを作ることが出来るというわけです。

3 子ども達の様子

全体的な様子を見ていて思ったことは、どの子どもも、思い思いのかごを作ろうと一生懸命に編んでいて、会場が静まり返る場面が多かったということです。編み方がわからないところになると、となりのスタッフに聞いたりして、熱中して、取り組んでいる姿がありました。中には、早く出来上がってしまったため、もう一つ作りたがる子どももいて、その意欲の旺盛さに驚かされました。一つは自分の分で、もう一つはお母さんにあげるんだと言って二個目を作り始める子どももいて、その子の心の温かさに触れることもあり、大変うれしく思いました。

また、私が関わった子どもは、小学校1年生で、高学年の子のようにうまく編むことが出来なかったのですが、かごを持ってあげたり、修正を加えながら手助けをしていくことで、不格好ながらもかごを完成することができました。その子が「これにたまごを入れたい」をうれしそうに言うのを見て、その子なりに、かごを作る苦しみや難しさを乗り越えて、充実感と喜びを味わうことができたのではないかと思います。

参加者の中には、子どもさんを連れてきたお母さん方も何人かいらっしゃいました。11回目に参加していたお母さんは、実用的に作ろうとして、大変大きなかごを作ろうと、底を大きくしていました。でもこれはさすがに大きくしすぎて、籐が足りなくなってしまう、間の大きく開いたかごが出来てしまいました。「パンを入れることが出来るようなかごを作りたい」とおっしゃっていたお母さん方は、さすがに主婦だな

と感心してしまいました。でも、お母さん方の楽しい会話もはずんで、会場がやわらかな雰囲気になっていたように思います。スタッフや子ども達の緊張も解けていたようで、お母さん方の力に私自身助けられていたのだなと思いました。

4 工夫した点

籐かご作りの講座は、第11回と第12回の2回開講しました。よって、前年度や第11回の反省を生かして、改善した点がいくつかありました。

まず、籐かごのスタッフには、事前に作っておいてもらって、当日はスタッフ自身は作らずに、子どもが作るのを見守る役目に徹していただいたことです。それは、前年度の反省で、スタッフの人数が足りなかったことや時間が足りなくなってしまったことを検討し、少ないスタッフでも、子ども一人一人に対応できるようにしたいと考えたからです。幸い第11回は、スタッフの数と子どもの数が同じだったため、一人一人に丁寧に教えることができました。第12回も、やや参加者の人数の方が多かったものの、スタッフが一人～二人を見ることができたため、スムーズにきました。こうして、スタッフの皆さんの努力のおかげで時間通りに終わることが出来たので、大変感謝しております。

また、かごを作る過程で、籐が乾いる時に、洗面器に籐を浸しながら編んでいくのですが、それをもう少し手軽に行えないものかと考えて、霧吹きで籐を湿らす方法を使うことにしました。こうすることで、洗面器にいちいち浸さなくてもよくなり、より扱いやすくなりました。編んでいくうちに乾いてしまう籐を、こまめに湿らせながら編んでいくことは、籐かご作りの大事な行程なのです。

5 次回に向けて

今回の反省点をいくつか挙げてみようと思います。次回講座を開く時の参考にさせていただきたいと思います。

籐かごの作り方ですが、仕上げの部分でやや不明な点があります。もう一度作り方を確認して、よりわかりやすいマニュアル作りに励んでいただきたいと思います。

また、対象年齢についてですが、今回の参加者の中にも1年生が含まれていました。本来小学校中～高学年のつもりですが、子どもの発達段階から考えると、やはりそのくらいが適当かと思われます。しかし、YOUサタ全体を考えると、対象年齢が低学年の子どもたちの参加する講座が少ないという問題があります。こういった現状をうけてこの講座ができることは、低学年の子ども向けに、ざるなどのもっと簡単な籐細工を設けるなどの工夫が挙げられます。年齢に応じて柔軟に対応できるといいなと思います。

6 講座を開講しての感想

スタッフとして参加した時に比べて、いざキャプテンともなると、いろいろ大変だということがわかりました。講座の準備や時間、天候に伴う場所の準備やスタッフへの指示、子どもたちへの語り方など、考えなければいけないことがたくさんあるなと思いました。キャプテンとしてしっかりできたかどうかはわかりませんが、親しみやすいキャプテンとして子ども達の目に写っていたらいいなと思いました。

子どもたちの作った籐かごは、作り方が同じであるにもかかわらず、どうしてこんなに一つ一つ違うものになるのかと、毎回驚かされました。力の入れ方や、底の大き

さなどに個性が表れていて、私たちが思いもよらない工夫をする子どももいました。とかく間違った方法や形ができると、それをだめだと言いがちですが、それを個性だと捉えて、誉めてあげることができるような教師になりたいなど、子どもたちの姿を見ていて思いました。

講座に参加した子どもたちが、苦勞して作り上げた籐かごを、発表の時にいつまでも高々と掲げている姿を見て、この講座を開いてよかったなあと思いました。協力してくださったスタッフの皆さんにも深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	宇宙生物 スラスラスライム	第11回 5月24日 (午後)
		アシスタントスタッフ数 9名
		参加者数 33名
キャプテン名	浅沼 康理 (数学専攻4年)	
指導教官名	吉田 稔 教官	

・講座のねらい

スライムを作って遊ぶことの楽しさを味わいながら、いろいろな工夫や遊びを發明していくことによって、豊かな発想力、想像力を育てたい。

・講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間	
1、子ども達を席につかせる			
2、キャプテン・スタッフの自己紹介	・明るく、元気よくあいさつをする	10	
3、この講座での注意と約束について	・講座が終わったら、必ず後片付けをしましょう。(PM 3:00) ・スライムを食べたり、人に投げつけてはいけません。 ・できるだけ、スライムを床に落とさないようにしよう。 ・分からないことがあったら、友だちやまわりのお兄さん、お姉さんに聞いてみよう。 ・トイレに行きたい人は、お兄さん、お姉さんに言って下さい。	5	
4、スライム作りの説明 (全員を集めて説明)			
5、スライムを作ってみよう (活動開始)			30
6、いろんな材料を使って、スライムを作ってみよう (ビーズ、型取り、BB弾など)		・子ども同士が気軽な関わりを持てるような、環境を作ってあげる。	30
7、大きなスライムを作ってみよう (洗面器を使って、みんなで作る)		・一人の子どもが材料を使いすぎないように注意する。	30
8、あとかたづけ	・不足した材料を補充する。	20	
9、修了証書をわたす	・個人で使った道具はきちんと自分で片づけるように呼びかける。	10	

宇宙生物スラスラスライム

浅沼 康理 (数学専攻 4年)

講座を開くにあたって

何かようわからんけど、とりあえず簡単そうなんやってみるか、ということでスライムの講座をすることになった。今回、初めてのまともな参加、及びキャプテンということで、まず何から始めたらいいのかがわからなかった。以前にスライムの講座をやったことのある人に問題点や、準備物についていろいろと教わりながら、準備を進めていった。スライムは第1回YOUサタからずっと引き続いている、いわば、ご長寿講座ということで、ビーズや型取りを教材として新しく導入することによってスライムづくりの講座のレベルアップを図ってみた。

スタッフの様子

今期のYOUサタでは、第1回目を松本で行うということで、1年生がスタッフとして参加することになった。連絡が不十分であるということと、子どもに対する扱い方をどう考えているのかといった不安はあったが、予想以上に積極的によく動いてくれた上に、とても落ち着いた状態で子どもに接してくれたので、講座中は安心して子どもたちを任せることができた。

今回の講座では、子どもを年齢別にわけ、低学年のグループにはスタッフをたくさんつけることにした。それでも手が回らず、スタッフ全体がとても忙しそうに見えた。でも、それなりに楽しくやっているようだった。

子どもたちの様子

スライム作りの説明が始まった。初めてスライムが出来上がっていく過程を見て、「うわあ〜」という驚きの声と、早く自分で作りたいという思いが教室の中を渦巻く。スライムを作っている子どもたちの表情は実に様々だ。スタッフが少ない上に低学年の子が多く集まってしまい、スタッフがサポートしきれなくて手が止まってしまう子も中にはいたが、そんな環境の中でも子どもたちの眼は真剣そのものだった。新しいスライムを作ると、「みて、みて!」と駆け寄ってくる。とても表情が生き生きとしていて、微笑ましさが感じられた。

次回へ向けて

作ることに専念してしまいがちなスライムの講座。今回のテーマとして「スライムをつかって遊ぶようにもちかける」ということがあったが、完全には達成されなかったように思う。どのようにもちかければ遊ぶことの喜びも味わってもらえるのか、追究していつてもらえればと思う。

また、ペットボトルの件も改善した上で、様々なアイデアを取り入れて、次回以降はより楽しいスライムの講座となることを期待する。

感想

今回キャプテンをやって、キャプテンって本当に大変だと思った。何と言っても準備が大変。こんな準備を僕一人ではできないので、いろいろとスタッフの皆様へ命令して、押し付けてしまった。ごめんなさい。特に、備品係を中心とした本部の皆様、お世話になりました。

実習が松本だったのでとてもはりきっていたが、当日は何と、となりの教室でバンドのコンサートを開くというハプニングが起こってしまった。「おいおい、マジかよ」と思いつつ、講座開始まで時間がないにもかかわらず、教室移動を断行した。その時に、講座の異なるスタッフなどみんなと一緒に協力してくれたおかげで、子どもにとって楽しいスライム作りを無事終わらせることができた。この時、助けてくれたみんなに感謝せずにはいられなかった。こういったお互いのスタッフを思いやるあたたかい気持ちこそが YOU サタのすばらしいところであり、子どもたちに感動や喜びを与える原点となるのではないかなと思った。



第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	宇宙からやってきた SuraSura スライムくん	第12回 9月27日 (午前) アシスタントスタッフ数 8名 参加者数 13名
キャプテン名	真島 紀章 (数学専攻3年)	
指導教官名	鈴木 次雄 教官	

・講座のねらい

自分で、...ものを作ることの楽しさを伝えたい。...また、...普段の生活では、...あまり体験することができないスライムの感触を通して、...こんなものからできるんだという意外性を持って欲しい。.....

・講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
1. 自己紹介	・キャプテン、スタッフから自己紹介し、次に子どもたちがするように促す。雰囲気がかたくならないように。	10
2. スライムの作り方と注意（口に入れない。絶対に投げない。）を聞く。	・全体で、大まかな作り方を説明した後に、グループ内でスタッフが見本を見せるようにする。	10
3. スライムを作る。 a. 普通のスライムをつくろう！ b. 色を付けてみよう！ c. 折り紙やビーズを入れてみよう！ d. 大きなスライムを作ろう！ (飽きて来たら、次のステップに行く。)	・各自スライムを作るように促す。 ・スタッフはグループ内の子どもを見まわり、作り方が分からない子どもがいたら、支援する。あくまで、スタッフが作ってしまわないようにする。 ・巨大スライムは、グループごとに色を決めて作る。できたものは、グループ内のみんなに分ける。	75
4. あとかたづけをする。 ・身の回りの道具を片付ける。	・全員で片付けをする。片付けの大切さを伝えたい。	15
5. まとめをする。 ・グループごとに席に付くようにする。	・修了証をわたして、講座の感想を発表する。	10

宇宙からやってきた SuraSura スライムくん

真島 紀章 (数学専攻 3年)

1. 講座を開くにあたって

この講座は、YOU遊サタデーの看板とも言える講座であり毎回参加者数が多く、人気のある講座である。そのため、計画の段階で募集定員を 30 名に設定した。また、幼稚園の子どもたちからお父さん、お母さんまで誰でも楽しめる講座にしていこうと思い、対象年齢の設定はしなかった。対象年齢を設定しないで安全の面は大丈夫なのかという疑問があると思うが、スライムはそんなに危険な薬品を使っているわけではないし、スタッフがついて一緒にやっていくから小さな子どもでも安心して作ることができると考えたわけである。それと、小さな子どもたちにもスライムの不思議な感触を味わって欲しかった。私が抱いていた子どもたちへの願いとして、意外性というのがある。これはスライムがこんな物質を材料として、こんなにも早い時間でできてしまうんだということを、まず感じて欲しいと考えた。私自身、最初にスライムを作ったときにはこんなに早くできるんだと驚いてしまった。意外性や驚きが出発点となり、子どもたちの中に「なぜこんなに早くできるのだろうか?」「なぜ、こんなものを混ぜただけでできるんだ?」といった疑問が生まれ、子どもたちが少しでも興味を持ってもらえればよいと思う。最近の子どもは、無関心、無感動などといわれている。小さな活動が大きな感動を生み、いろいろなことに関心を持ってくれるようになればと思い、この講座を開いたのである。

2. 講座の様子 (子どもたちの活動)

参加者がとても多かったため、教室に入ってきたとき混乱しないように座席を予め決めて置き、黒板に書いて置いた。そのためか、スムーズに講座を始めることができた。座席は、全部で6グループに分けて1グループに参加者5、6人とスタッフ1、2人というようにした。先程書いたように、スライムはそれほど危険なものではないので、参加者とスタッフとの割合はこのぐらいがちょうど良いのではないかなと思う。さて、それぞれの席に着いた子どもたちであるが、まず、スタッフの説明にしっかりと耳を傾けていた。このときは、まだ、実際にスライムがどのようなものかは参加者に見せていない段階なので、とても興味深げな様子だった。最初から「スライムはこんなものなんだよ」と見せてしまうと、子どもたちがスライムを作ったときに味わうことのできる新鮮味が半減してしまうと考えた。説明が終わり、各グループのスタッフが見本を見せて、それから参加者が実際に作ってみるという形になった。今考えると、スタッフのお手本の時間はとらなかったほうが良かったのではないかなと思う。スタッフのを見てから作るのではなく、スタッフと一緒に作って見るという形で進めれば良かった。なぜかという、先程の新鮮味と関連するのである。自分が作る前に実物のスライムを見てしまっているのである。自分が作ったのと人が作ったのでは、感じ方なども違ってくると思う。スタッフと一緒に作っていけば、まず、自分が作っているスライムの方に気が取られるので、これは自分が作ったスライムなんだという思い入れが強くなる。そして、驚きや意外感なども強く感じるのではないかなと思う。では、話を講座の方へ戻そう。自分のスライムを作り始めた子どもたちであるが、

中には小学校入学以前の子どももいた。その子どもたちには、子ども同士（兄弟同士）協力して作るという光景が見られた。講座全体を見ていて感じたことであるが、どの子どもも、いろいろな色のスライムを作っていてその子の個性がよく表れていたと思う。大人だったら考えることができないが、長い間よく集中して一つのこと（スライムを作ること）に取り組めるなど感じた。やはり、それが子どもたちの持つ素晴らしさである。興味のあることや楽しいことは長い間続けていくことができるのである。このことは、生涯教育につながるといっても過言ではないだろう。しかし、そのような中でも時間がたてば飽きてしまう子どもたちも現れた。2回3回とこの講座に来てくれている子どもたちは、毎回同じようなことをしているので飽きてしまうのだと思う。スライムを作るだけでなく、そろそろスライムを利用した遊びを考えていかなければならないと感じる。子どもたちが飽きるということは、もうつまらなくなってきたということなので、つまらないという思いをさせないためにもいろいろ考えていく必要があるだろう。

3. 講座を開いて思うこと

キャプテンは忙しい、講座では子どもとあまり関わりを持ってない、確かにそうである。しかし、キャプテンをしてみて感じることは大きな大きな充実感である。特にこの講座は参加者数が多くて、果たしてこんなに多くの子どもたちをまとめることができるだろうか、講座を始める前はとても不安だった。その不安の解消を手伝ってくれたのはスタッフのみなさんであった。スタッフがいたからこそ講座をうまく進めることができたし、私一人だけではこんなにも多くの参加者に対応することはできなかった。この講座では、スタッフの重要性を知ることができた。また、スライム講座のスタッフの方々は、どの人をとってみてもYOUサタへの思い入れが強い人ばかりで、こちらからいろいろ指示を出さなくても自覚を持って子どもたちと接することができていたのではないかと感じる。スタッフにとっても楽しい講座になればいいというのが私のYOUサタ観の一つにある。このスライム講座では、おそらく子どもにとっても、スタッフにとっても楽しい講座になったのではないかと感じている。このようなことを書いているが、スタッフとの打ち合わせが十分だったとは必ずしも言えないのである。講座の途中で備品の場所が分からないスタッフの人もいた。これは、スタッフの人がいけないのではなく私がいけなかったのである。作り方や参加者やグループだけを確認するだけでなく、やはり、もっと細かいところまで打ち合わせしておくことが必要ではないだろうか。講座を開いてみてのわたしの雑感である。

第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	スラスラスライム	第13回 11月8日(午後) アシスタントスタッフ数 9名 参加者数 32名
キャプテン名	吉澤 麻衣子 (国語専攻3年)	
指導教官名	梅原 恭則 教官	

・講座のねらい

洗濯のりという身近な素材を用いてスライムが作れてしまうという感動から、子どもたちが自分で作る楽しさを見つけて欲しい。

・講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
1、自己紹介	<ul style="list-style-type: none"> ○キャプテン・スタッフが先に大きな声で自己紹介する。 ○よく話せない子は班のスタッフが助ける。 	10 分
2、スライムの作り方の説明を聞く	<ul style="list-style-type: none"> ○色画用紙を使って説明を工夫する。 ○服や、友達に髪に付けないように注意する。 	10 分
3、スライム作り <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな色の絵の具や食紅で自分の好きな色のスライムを作る。 ・水の代わりにお湯を入れて作ってみる。 ・ビーズなどを入れて、ぶつぶつキラキラのスライムを作ってみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スタッフは班の小さい子につき、大きい子が小さい子を教えてあげられるように支える。 ○お湯でやけどをしないように気をつける。 ○後半になったら、ビーズを配る。スタッフはビーズを入れて作ってみることをすすめる。 	60 分
4、片付け <ul style="list-style-type: none"> ・スライムを作るのをやめて自分の班のテーブルをきれいにする。 ・スタッフの指示に従って使った材料を片付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなで片付けるよう見守り、手が動いていない子どもがいないように指示を出す。 	20 分
5、まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・一人ずつ修了証を受けとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「よくできました」とみんなで拍手してあげる。 	10 分

スラスラスライム

吉澤麻衣子(国語専攻 3年)

1. 講座を開くにあたって

初めてスライムを作ったのは大学の理科の講義の時間です。洗濯のりと水と、なんだかよくわからない薬品を入れて混ぜ合わせるだけでできたそれは、わたしにたまらない興奮を与えてくれました。こんな感動を子どもたちがもつことができれば、きっと楽しい講座になるなと思っていました。そこで、第9回の時に“宇宙生物スラスラスライム”の講座でスタッフの一人として、子どもたちが自分で作ったスライムを手にした時の感動を一緒に体験しました。毎回スライムの講座は大人気で今回も沢山の子どもたちにスライム作りを楽しんでもらいたいと思い、この講座を開きました。

スライムは作り方が分かっただけで小学生なら5分程度で一個作れてしまいます。毎回スライムのキャプテンを悩ませていたのは時間が余るという事であると判断した私は、“遊べるスライム”を作る事を考えました。「砂鉄を入れて作ったスライムに磁石を近づけると磁界が見える」とか、「重曹を入れるとスーパーボールになる」とか「スライムに関する本が売られている」と言った情報をもとに、砂鉄入り、重曹入りを試してみましたが、実際に講座に導入できたのは水の変わりにお湯を使うというものだけでした。お湯を入れると温かくてベタベタしにくいスライムができます。(これだけはスタッフにも理解されたのです!)それだけの事ですが、何か一つでも新しい事をという点にこだわってみました。

2. スライムを作る子どもたち

「水入れて～」 「見て見て～」とせがむ子どもから、一人で黙々と作り続ける子どもまで一人ひとりが自分のペースで色とりどりのスライムを作っていました。子どもたちが一番感動するのは、四ホウ酸ナトリウムの飽和水溶液を入れてかき混ぜる場面です。洗濯のりと水、それと自分の好きな色が入ったクリアカップの中に四ホウ酸ナトリウムの飽和水溶液を加え、割り箸でかき混ぜるとみるみるうちにコップの中身がゲル状になり、割り箸にくっついてきます。そこで子ども達は「わーっ」という歓声をあげます。(この歓声を聞く時がたまらなくうれしい時です!!)そして、まだべちゃべちゃしているスライムを手に取り出した時にももう一度「うぎゃーっ」という歓声をあげてくれます。そして出来上がったスライムを一つずつビニールの袋に入れて(中には一つの袋に入れて色を混ぜてしまった子どももいましたが…)嬉しそうにしていました。

私としては、のばしたり、つぶしたりしてスライムの感触を楽しんでもらいたかったのですが、遊ぶよりもどンドン作ることに熱中していました。

3. 講座を開いての反省と今後の課題

先述したように、スライム作りの講座はYOUサタの講座の中でも人気の高い講座です。しかし作業が簡単だからといって、ただひたすら作り続ける講座にしたくなかったのが今回は試行錯誤の結果“お湯のスライム”を導入してみました。結果はまずまずの反応だったと思っています。しかし、それ程出来上がりに差のないことから、やはり子どもが飽きてしまったように感じられました。次回のキャプテンには是非私が作る事の出来なかったスライム作りも導入し、上手に時間を使って欲しいと思います。

今回の会場はN館の303教室(北校舎の3F)でしたが、この教室は外に面していてベランダがあり、その柵は間隔の広いものでした。本当に不注意だったと反省しているのですが、スライムの講座には小学生以下の子どもが10数名参加していたのです。中には、スライム作りに飽きてしまいベランダに出て柵をよじ登ろうとする子どもがいて、ひやっとするシーンがありました。会場は危険のないよう、十分考慮して決めて欲しいと思います。

参加者から送られてくるアンケート用紙の講座の感想の欄に、一生懸命な字で『楽しかった』と書いてくれた子がいます。障害を持ったお子さんだったのですが、この講座をその子なりに楽しんでやっていたように思えます。私はYOUサタに限られた子どもを対象とするのではなく、どんな子ども達にも開かれた存在であって欲しいと考えます。特別「障害を持ったお子さんも参加できます」などとしなくても、スタッフを信頼して参加して下さるYOUサタを築いていきたいと思います。



第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	ペーパーライダー をとぼそう	第11回 5月24日(午後) アシスタントスタッフ数 6名 参加者数 20名
キャプテン名	中村 典史 (社会 専攻 4年)	
指導教官名	阿久津 昌三 教官	

・講座のねらい

・自分が苦勞して作ったペーパーライダーが飛ぶ感動を伝えたい。.....

・上手な工作の仕方を伝えたい。.....

・講座の展開

活 動 内 容	注 意 事 項、支 援、そ の 他	時 間
自己紹介	・子供たちの緊張をほぐし、明るい雰囲気を作るようにする	10
配る	・さっさと配る ・配られた子どもから作り始めるように伝える	5
作成 飛ばす	・作成中はスタッフで手分けして子ども一人一人目を配る (1年生スタッフは子どもの中に入る) ・切り方について危険なものは安全な切り方を教える。 ・子どもの中でうまい作り方をしている子に見本になってもらう。 ・外へ出ていった子どもにはスタッフがついていく。	75
飛行コンテスト (実際にはやっていない)	・遠くに飛ばしコンテストをする。 ・2回飛ばし、距離を測る	20
コンテストの表彰式 アンケート 修了証配布 そうじ	・勝者、参加者をたたえる ・筆記用具を持ってきていない子どもには貸す。 ・自分で出したゴミは責任を持って片づけるように伝える	10

ペーパーライダーをとばそう

中村 典史 (社会専攻4年)

この講座は私がやっただけでも3回、私以外の方がやったのも含めると6回になり、スライムほどの派手さはないが、地味に続いてきた講座である。ということで講座開設の理由や名前の由来などはとうの昔に忘れてしまった。実はこの実践記録でなにを書かか、ということも危うく忘れそうだったのだが、運のいいことに講座の感想が残っていたので、それを活用していきたい。

1. 変わった点

まず講座のことである。講座に限って言えば、「ペーパーライダーをとばそう」は成功とも不成功とも言いにくい、微妙なものであった。

昨年と変えてみた点で、私自身顕著に現れたと感じたのは、技術的な助言という点である。これは去年の実践記録の「カッターの使い方などの細かい助言はしない方針だった。」という私の記述を見たある中年男性が「別に教えたっていいじゃないか」といったことに始まる。よく考えてみれば、野球やサッカーなどでは手取り足取り、という状態が当たり前である。それならここでやっても良いんじゃないか、ということから実験的に行うことにした。さらに年齢制限を無しにしたため、例年より年齢層が低くなり、どうしてもはさみやカッターの使い方がぎこちなく、その技術的な指導を積極的におこなうことになった。これは、この講座で少しでも身になるものがあれば、という願いによるものである。この助言の効果は、子どもによってまちまちであるが、なかにはなるほど、と納得して教えたやり方をまねしてくれる子どももいて、少しは役に立ったかと思う。

しかし、当初の予定ではそばでやっているスタッフのやり方を見て自分でどう違うか気づいてもらおうと思っていたが、予想外のスタッフ不足で一人当たり5人ほどの子どもを見る勘定になり、直接教えることになってしまった。

2. 人の交流

子どもの感想のなかに、「新しい友達ができた」というものがあつたが、これはうれしかった。この講座は個人作業の講座で、なかなか子供同士の交流が図れない。しかも今年は飛行コンテストをやめてしまったので、ますます交流の場は狭くなっていた。

しかしコンテストをやめた理由のひとつに、子どもたちの班編制がある。これは、前述のスタッフの問題と絡み、班を作った方がいいと言うことが、去年わかつたので、今年もやや強引に、作っている途中の子どもの机を動かしてまで、班を作った。友達のできた子どもたちは別に班で知り合ったわけではなく、それ以前から一緒に座っていたが、子どもたちの新しい交流の場としてYOUサタが存在できたことはうれしいことである。

当日1年生が3人欠席し、全部で7人のスタッフで22人の子どもに対応した。なかでも工学部の三宅が参加してくれたことは、興味深いものであった。YOUサタの主旨を十分説明しないまま参加してもらったが、私の必死の姿をみてか、長年のつきあいのおかげか、少ない言葉でよく動いてくれた。

1年生とYOUサタの関わりについてはあとで述べるが、私の講座に出てくれた1年生

は、4人ともがんばってくれた。子どもは絶対一人にしないでほしいという私の言葉どおり、すぐその水道に手を洗いに行くときすら、子どもを一人にするようなことはなかった。しかし、雨のせいでとばすのが遠い教室のなかになってしまい、しかもやたら走り回る子どもがいて、その教室間を駆けめぐったので、スタッフもさぞかし疲れたことと思う。ただ一人、教育学部の4年生でスタッフになってくれた芦田は、さすが何回も出ているせいか、細かいところに目が届いていた。特に、開会式直後、迷子になった子どもを教室まで連れて行ってあげていたところは、奴ならではある。

3. 反省点

最後の反省点は、こちらの備品不足である。今回は保護者の方が5人みえていたが、誰一人用意を持っておらず、こちらに貸し出す用意もなく、結局子どもを手伝っていたが、あそこでこちらに用意があれば、作っていただけたのではないかと思う。また子どもが用意を忘れてきていたら、ということを見ると、たかが用意されど用意である。しかしそういった保護者は子どもと一緒に作っていたので、結果的には親子で作業するいい機会にはなったかもしれない。

子どもの中で「飽きちゃった」と言って走りまわっていた子どもがいた。今回はその子に翻弄されたと言っても過言ではないほど、対応に追われていた。しかし今にして思えば、飽きちゃったという子どもに無理矢理やらせず、スタッフと一緒にあそばせるようにしてもよかったのではないかと思う。そこまで気が回らなかったのも反省の一つである。

4. まとめ

全体的にあわただしい講座だった。それは私が講座のみに集中できなかったということが原因でもあるし、雨が降っていたということが原因でもある。また松本でやったということが原因でもあるし、今期初めてのYOUサタだったということが原因でもある。

しかしそういった原因はすべて我々の努力でカバーできるものであり、そういったことを言い訳にして講座をないがしろにしては、楽しみに来てくれた子ども達に失礼である。そういうことからすれば、今回の講座は反省すべき事をいろいろ残してくれたといえる。



第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	・自分で紙を作ってみよう！（第11回） ・いい紙つくろう！世界で たった一枚の自分の紙を。（第13回）	第11回 5月24日（午後） アシスタントスタッフ数 8名 参加者数 13名
キャプテン名	真島 紀章（数学専攻3年） 市川 大輔（数学専攻3年）	第13回 11月8日（午後） アシスタントスタッフ数 8名
指導教官名	鈴木 次雄 教官	参加者数 16名

・講座のねらい

..自分で作品をつくるという喜び..楽しさを味わってほしい..また..資源の大切さ、.....
..リサイクルについて気づいてほしい.....

・講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
1. 自己紹介（スタッフ、子ども）	・学年と名前程度	5
2. 今日使う道具の注意や、作り方を説明する。	・グループ（3つ）ごとに説明する。	5
3. 牛乳パックのビニールをはがす。	・子どもたちが、牛乳パックの構造に気づくように、1,2枚程度のパック片を扱うようにする。（他は事前にはがしておく。）	10
4. 紙をつくる。 (1) 3で取れたものに、水を加えてミキサーにかけドロドロにする。（色を付ける場合は、ここで、色紙や絵の具を入れる。） (2) (1)でできたものを、たらいの中に入れ、枠にくぐらせて紙をすく。 (3) 枠をとり、紙を取り出して、新聞紙、タオル、アイロンなどで乾かす。 (4) 工夫して、いろいろな紙をつくる。	・紙づくりは、段階ごとに場所を分けておく。（一人に一つ洗面器を配る。） ◇ミキサーで紙をドロドロにする 場所 ◇紙をすく場所 ◇紙を乾かす場所 ★それぞれの場所に、スタッフを配置して、子ども全員とふれあうことができるようにする。	75
5. 後かたづけをする。 ・身の回りの道具や、濡れた新聞紙などを片づける。 ・帰る支度をする。	・アイロンには、くれぐれも気をつける。 <u>（子どもだけでは使わない。）</u> ・スタッフで片づけをやってしまわないようにする。	15
6. まとめ（お友だちの作品を見たり、感想の発表。修了証の贈呈）	・子どもたちが使った枠をお土産にするので、新聞紙にくるんで渡してあげる。	10

いい紙つくろう！世界でたった一枚の自分の紙を。

真島 紀章（数学専攻 3年）

1. 講座を開くにあたり

この講座は、第三期のYOU遊サタデーにおいて開かれていたものを継続した形になった。遊学プランや準備品のリストなどはほとんどと言ってよいほど第三期に佐々木さんがやられたものを参考にさせていただいた。今期では春の第11回と秋の第13回で開いたのであるが、活動内容としては春秋ともに牛乳パックからはがきを作るというものであった。内容的に小さな子どもでもできる講座なので、対象を両方とも小学生に設定した。第11回の講座ではほとんどが低学年であった。高学年の子どもも若干いたが、この傾向から高学年の子どもには内容が容易すぎるのではないかと考える。また、第13回の方でも同様な傾向があった。しかし、第13回では、小学校入学以前の子どもたちも参加してくれた。第11,13回とも定員をこえる参加者があり、対象学年の設定は適切だったのではないと思う。

私が講座を開く上で毎回感じていることは、たった二時間ではあるが楽しい二時間にして欲しいということである。当たり前なことであるが、せっかくの休日に信大のキャンパスに集まってきてくれるのだから、子どもたちを飽きさせたり、つまらないと感じさせたりしてはならないのである。当たり前なことだからこそ大切であって、このことは、講座を開く際に最も考えなくてはならない部分である。この部分をしっかり考えることを通して、講座の中身がよりいっそう確かなものになってくるのではないと思う。どこをどのように工夫したら子どもたちは喜んでくれるだろうかや、どのようにしたら時間内に終わるだろうかなど、キャプテンをすることでいろいろ考えることができた。話は戻るが、楽しさを提供することについては、子どもたちにはもちろんであるが、スタッフにとっても同様である。スタッフはキャプテンとは少し違い子どもたちと最も多くふれあうことができるのである。そのスタッフがつまらなさそうにしていれば、子どもたちにもそのことが通じてしまう。私の持論であるが、YOUサタでは子ども、スタッフともに楽しめる講座を用意しなければならないのである。

2. 子どもたちにとっての紙づくりとは

紙づくりの講座では、牛乳パックを原料として紙を作るのである。紙づくりというより“紙すき”の方が正しいかもしれない。その紙すきであるが、私にとって最初の紙すき経験は小学校の卒業証書を作ったときであった。私が卒業した小学校は自分で自分の卒業証書をつくというのが恒例になっていて、和紙の卒業証書なのである。その卒業証書は今でも私の大切な宝物なのだが、自分で作ったものだからなおさら大切であり、また愛着もある。このように、自分でものを作るということは何か特別なことを、私たちの心の中に生み出してくれるのではないだろうか。そのような活動をYOU遊サタデーでやることは、意義があると思う。牛乳パックで紙を作るということは子どもたちにとっては、意外性を持って活動できるのではないだろうか。普段よく見かける牛乳パックが違った紙に変身してしまうのだから、興味を持って活動ができるのではないと思う。そして、色を決めて自分で紙をすき、世界でたった一枚しかない紙ができるのである。この紙は、子どもたち

にとってどんなものなのだろうか。キャプテンをした私からすれば、宝物にして欲しいが、特に宝物にしなくても、子どもたちの心の中に「YOU遊サタデーで紙を作ったなあ。」という経験は残ると思う。私は、小さいときにいろいろな経験をしておくことは大切であると思う。ものを作ったりするプロセスの中では学ぶことも多い。普通に生活していたのでは学ぶことのできないことを、紙づくりの講座で知ることができたのではないだろうか。

3. 活動の様子（子どもたちの様子とスタッフの働きかけ）

「今日の紙づくりは楽しかった？」と講座の最後に子どもたちに聞いたら、「楽しかった。」と答えてくれた。子どもたちは、満足のできる紙を作ることができたのではないだろうか。私が子どもたちと一緒に活動していて最も驚いたことは、子どもたちがしっかりとミキサーなどの用具を使う順番を守っていたことである。備品の関係から限られた数しか道具がないし、参加者の多くが低学年ということから道具の取り合いになったらどうしようと心配していたのだが、子どもたちの中で秩序というものがあり順番が守られていた。また、子どもたちが、いろいろな色の紙を作っていたことも印象に残った。2時間の限られた時間の中で、10枚も作った子どももいた。私としては、学年や備品の数からせいぜい5枚程度かなと思っていたのだが、準備の方も紙の原料が余るくらいに用意しておいて正解だったと思う。ここで、準備のことについて少し書いておこうと思う。準備は講座を運営していく上では、おそらく一番上位にくるものだろう。準備をしない講座なんてないだろうし、準備や予備実験をすることで子どもたちのことを考えることができる。準備がおろそかでは、講座がうまく流れていかないどころか、集まってきた子どもたちに迷惑をかけてしまう。子どもたちに楽しさを伝えたいという私のYOUサタ観を貫くためにも準備は当日以上に力を入れたような感じがする。講座の成功は準備にかかっているといっても過言ではないだろう。その点で、紙づくりの講座はどうだっただろうか。振り返ってみると、先程書いたが、道具や原料の準備はできていたと思う。しかし、スタッフとの事前の打ち合わせがあまりよくできなかつたと感じる。練習を一回ぐらいしかせず当日を迎えてしまった。また、キャプテンの指示がうまく届かなくて思い通りにならなかったこともあった。もう少しキャプテンとスタッフとの打ち合わせに時間をとっておけばよかった。キャプテンがこの講座で本当にやりたいことを正確にスタッフに伝えておき、キャプテンと同じ気持ちで講座を作り上げていくんだという気持ちがスタッフに生まれるぐらい打ち合わせや準備をしないといけないと思う。この講座ではスタッフとの打ち合わせがあまり取れなかったので、講座の最初の段階では少しとまどってしまったが、子どもたちの名前を呼んであげたり、一緒にアイロンを使って乾かしたりと子どもたちとコミュニケーションがとれていたと感じる。一年生スタッフのみなさんも期待していた以上に子どもたちと関わって活動していた。

4. 反省を生かして

第11回の講座の反省としては、2つほどある。1つはスタッフとの打ち合わせを事前に綿密にとっておかなかつたこと、もう一つは、スタッフ全員が全ての参加者と関われなかったことである。後者については、ミキサーの個数の関係からグループを3つに分けてそれぞれにスタッフを配置して行ったため、スタッフもそのグループ内の子どもたちとだけ

しか関われなかったのである。講座内の反省会の時にスタッフの方から、今度この講座を開くときには、スタッフ同士で役割を分担して何らかの形で参加者全員とふれあうことができるようになればいいという意見があった。私もそのことについては多くの人間とふれあって欲しいという願いがあるため、第13回は第11回とは違う形で計画をした。その計画とは、参加者ができる限り多くのスタッフとふれあうことができるように、活動の段階ごと（ミキサーの場所、紙をすく場所、乾かす場所、など）にスタッフを配置するというものであった。しかし、その計画は実行にはうつせなかった。理由は、子どもの年齢差があり活動の均衡が保てないからである。また、小学校入学以前の子どもたちもいたため、グループ内で行き届いた支援を心がけた方がよいと思ったからである。結局、13回の時も11回の時と同じようにグループに分けて活動した。毎回、多くの子どもたちとふれあうのがよいか、特定の子どもと深く関わるのがよいかで迷ってしまうのだが、今も私自身どちらがよいか答えが出せていない。子どもたちにとってはどちらの方がよいのだろうか。このことについてはこれからも考えていかなければならない部分である。

また、13回の時に工夫した点として、牛乳パックの表面のビニールをはがす時間を多めにとった。これは前回の時にあまり時間がとれなかったからであり、この活動を通して牛乳パックの構造も知ることができるのではないかと考えた。活動から得る知識も大切にしていたのである。

5. 講座を開いてみて

私は、3年になって初めてYOU遊サタデーに参加したのである。最初はキャプテンをやる気など更々なかったのであるが、キャプテンをやることと決意してからは、YOUサタに対する思いこみが増してきた。どうせやるなら最高なものと思っていろいろやってきたが、キャプテンの仕事は思った以上にきつかった。初めてのYOUサタでキャプテンをやり遂げることができたのも、4年生や今までやってこられた方のアドバイスがあったからだを感じる。やはり、講座を開いてみて最も印象に残っているのは子どもたちの紙を作り上げたときの笑顔である。子どもたちの笑顔は、何にも代えることができない私たち講座を開くものにとってのエネルギーである。



第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	ステンシルって何？ ～君もやってみよう～ (第11回) (第12回)	第11回5月24日(午後) アシスタントスタッフ数 8名 参加者数 14名
キャプテン名	土屋 淳子 (家庭専攻 4年)	第12回9月27日(午後) アシスタントスタッフ数 7名
指導教官名	栗津原 宏子 教官	参加者数 18名

- ・講座のねらい
 - ・物を作る楽しみを子どもたちに伝えたい。
 - ・既製品に少し手を加えるだけで、自分らしい違った表情を見せることを伝えたい。
- ・講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
1、自己紹介をする。 (キャプテン、スタッフ、子供の順)	・子どもの緊張をほぐし、楽しめるような自己紹介を心がける。	5分
2、ステンシルの説明を聞く。	・模造紙・実物を使い、簡単に分かりやすく説明する。	5分
3、製作	・安全確認(カッター、アイロン)をする	
①型の製作	・活動時間の目安、終了時間を伝える。	
・図案を選ぶ。	・グループ毎に進めていく。	
・ステンシルシートに図案を写す。	・各々の進度に合わせて、一人ひとりに適切な支援をする。	30分
・カッターで切り抜く。	◎カッターで手を切らないよう気を配る。	
②布にステンシルする	・見本を示すなどして、子どもが考えるような支援をする。	50分
・布の上にシートを置き、固定する。	・子どもの作品には極力手を出さない	
・ステンシルブラシを使い、叩くようにして絵の具を布につける。	・子ども同士がモノを貸し借りできるような環境を作る。	
・アイロンをかけて絵の具を定着させる	◎アイロンでやけどしないように気を配る。	
4、片づけをする。	・早めに終了を知らせ、片づけを促す。	15分
・筆洗、ごみ捨て、荷物整理をする。	・子どもを教室から出さない。	
5、感想発表	・がんばったことを最大限たたえる。	15分
・自分の作品をみんなに見せ、感想、気に入っているところを述べる。	・修了証、アンケート、ステンシルについて書いたプリントを渡す。	

ステンシルって何?～君もやってみよう～

土屋 淳子 (家庭専攻 4年)

1、講座開講まで

「どうしてもキャプテンをしたい。」昨年、教育実習の中で自分の力不足を実感し、実力をつけたいと感じていた。そんな私にとって、YOU遊サタデーは身近で魅力的な存在だった。「キャプテンをすれば何か得られるかもしれない。」そんな気持ちだった。

料理講座や裁縫など、家庭科的な講座を開講したかったのだが、料理は会場の都合で、裁縫なども良い教材が見つからなかったので断念した。ステンシルは、中学生のときに初めてその作品を見て、きれいだなあ、かわいいなあと感じ、その後趣味としてはじめたものである。しかし、かなりメルヘンチックで、奥様の趣味の講座的な内容であるので、これを教材にするのは抵抗があったし、また、費用がかかることもあって迷いがあった。そんな時、土井先生に「自分が自信のあることをするのが一番だ。」とおっしゃっていただき、ステンシルの講座を開こうと決めた。

2、開講に向けての問題点

まず、費用の問題があった。普通に道具をそろえると、ステンシルブラシ(筆)¥350、アクリル絵の具(1本)¥400、プラスチックシート(型)¥350など…。やり方によってはブラシを使わず、絵の具は水彩絵の具を使い、シートを画用紙で作るという方法もあったのだが、布にステンシルし、できるだけ本物に近いものを参加者に提供したいという思いがあった。そこで、ホームセンターを回って安い材料を調達した。また、ステンシルブラシは絵筆の毛先を切って作り、コストダウンを図った。また、水差し、パレットなどはペットボトル、トレーを使った。しかし、それでも500円という高額を参加者から取ることになってしまった。お金をかけない講座のあり方という点から、再考の余地があると感じている。

また、時間の問題があった。子どもたちはカッターをどの程度使えるのか、また、どのぐらいの時間があれば作品を仕上げられるのか予想がつかなかった。そこで、時間が余った子が暇をもてあそばないように、ステンシルするための予備の画用紙を用意しておいた。また、時間が足りなくならないように型をたくさん用意しておき、それも使ってもらうようにした。

次に、安全面での問題があった。この講座ではカッターとアイロンを使うため、スタッフを増やし、各スタッフに十分注意してもらった。また、ステンシルの方法を説明する際にカッターとアイロンの使い方を教え、こわい顔で危険を伝え、参加者に注意をうながした。

3、第11回YOU遊サタデー

今回は学部生スタッフ3名、1年生スタッフ4名という構成であった。学部生スタッフは事前に練習をし、また、講座の準備をする中でステンシルについて勉強した。1年生スタッフには、注意事項を書いたプリントを渡したり、当日、学部スタッフがマンツーマンで指導したりして、スタッフ全員が参加者を指導できるように徹底した。

新しい講座が少なかったことと、「ステンシルって何?」という講座名が人目を惹いたためか、予想外にたくさんの参加申し込みがあり、当初10名だった定員を15名に増やした。当日は1人の欠席者もなく、参加者14人が4つの班に分かれ、それぞれ活動した。各班には2名のスタッフがつき、指導にあたった。中には、友達とバラバラの班になった子もいたが、はじめて会った子と友達になった場面も見受けられた。2名の主婦の方もおり、バラエ

ティーに富んだ講座となった。

心配していた安全面では1人のけがも出ず、各自が気を遣っていた様子が窺えた。カッターについては2、3年生の中にうまく使えない子もいたが、スタッフの指導でがんばっていた。また、型を用意しておいたことで、うまく切れなかった子もそれを使って上手にステンシルすることができた。

参加者はまさに三者三様で、1つの型を丁寧に丁寧に作る子や、カッターを器用に使って次々と作品を作る子、作業は速いが、どんな配置にしようか、何色にしようかしっかり考えている子、おとなしい子、たくさんしゃべりかけてくる子など一人ひとり全く違っていた。作品の進度も当然違い、布いっぱいいろいろな模様がステンシルされている子や、隅の方にワンポイントステンシルされている子などさまざまな作品ができた。どの子も楽しんでくれていたようであったが、「もっと時間があればたくさんステンシルできたのになあ。」という声も聞かれ、ゆとりを持った時間配分、個々に応じた弾力的な指導ということが必要であると強く感じた。

それぞれのスタッフは各班の参加者とうまく接しており、仲良くなった様子がうかがえた。1年生スタッフからは、「はじめは子どもが寄ってくるか不安だったがすぐに打ち解けてくれてうれしかった。」「むずかしいなあ。」「いろいろな子がいるなあ。」などの感想があった。2年生の子は「1年の時とは違った関わりができた。3、4年になるともっと違った見方ができるようになると思った。」という感想を聞かせてくれた。また、1年生スタッフの中から「時間がなくて手伝っちゃった…。」という反省も聞かれ、スタッフからも大事なことを気づかせてもらった。スタッフからはその他に、時間配分を子どもに伝えた方がいい、教材についてもっと子どもの視点から研究した方がいい、手芸店などを紹介して参加者の今後の活動につながるようにした方がいい、グループに分けることで交流の範囲が狭まってしまうのは残念などの意見が出された。

4、第12回YOU遊サタデー

11回の反省として出された「ゆとりを持った時間配分、スタッフは参加者の支援にまわる。」ということを最大課題としてもう一度講座を開講した。

時間については<練習として画用紙にやってみる>という工程を省くことで、布にステンシルする時間を増やした。しかし、連絡不徹底な部分もあり、型作りに夢中になる子もいて、後半は忙しい展開になってしまった。

また、スタッフの支援という点では、子どもの作品に手を出さない、見本を見せるようにするということが事前に伝えていたが、今回は幼児もおり、型の切り抜きは手伝うという場面もあった。また今回は、布がなくなり最後に出てきたというハプニングがあり、スタッフが手伝って作品を完成させたということもあった。しかし、臨機応変な対応ができたことはよかったと思う。子どもからも「お兄さん、お姉さんが手伝ってくれてよかった」という声が聞かれた。

スタッフからは、もう少し小さいシートを配れば型作りに没頭しないかもしれない、型を1つ作って→ステンシルを繰り返した方がいいかもしれない、最初にもっと説明した方がいい、などの意見が出された。また、今回はスタッフ：子ども＝7：18であったが、目をかけてしまう子とそうでない子がいて、スタッフがたくさん助言した子はいいい作品ができている気がしたという意見も出された。

今回と前回ではスタッフも参加者も、スタッフと参加者の割合も違い、全く違う講座になったと感じる。考えていたようには進まなかったが、そのことがかえって勉強になったように思う。

5、最後に

講座の準備段階や、講座中、講座後の反省などで、スタッフの皆さんにたくさん力を貸していただき、助言をもらい、そして本当にたくさんの方のことを学ばせていただきました。大変な講座でしたが、忙しい中時間を作っていただいたこと大変感謝しています。

また、本部の皆さんにも講座の準備を手伝ってもらったり、相談にのっていただいたり、その他私用でたくさん迷惑をかけたりしましたが、手を貸していただいたこと大変感謝しています。

YOUサタやキャプテンをやって具体的に何か得た、力がついたとはいえませんでした。いろいろな見方、考え方に触れることができたことは、私が「YOUサタからもらったとても貴重なお土産」だったと思います。本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。



第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	やさしい木工教室	第12回9月27日(終日)
		アシスタントスタッフ数 7名
		参加者数 6名
キャプテン名	片桐 宏 (技術教育専修2年)	
指導教官名	北澤 競 教官 杵淵恭宏 教官	

・講座のねらい

...本立ての製作を通して、木のぬくもりやにおいを体で感じたり、試行錯誤しながら.....
木工道具を使ったりして、木材工作の楽しみを経験する。.....

・講座の展開

子どもたちの活動内容	キャプテン・スタッフの援助内容
◎自己紹介(今日の抱負も交えながら) ◎注意事項を確認する	<ul style="list-style-type: none"> ・「やさしい木工教室」の趣旨の説明 ・子ども→キャプテン→スタッフの順番に自己紹介する ・ペアの発表 ・全体的な注意事項を確認する(プリント配布) <ul style="list-style-type: none"> ①周りの機械や道具にはさわらない ②のこぎりやげんのうの扱いには十分注意する ③わからないことがあったらスタッフのお兄さんに聞く ④なんでもチャレンジする
◎材料について知る ◎材料を選ぶ ◎お兄さんと一緒に本立ての製作をする	<ul style="list-style-type: none"> ・「集成材」と「一枚板」についての説明 ・一方的な話にせず、子どもとのコミュニケーションを図る ・ペアの子どもと材料を選ぶ(子どもの意志を十分に尊重) ★マンツーマン指導の原則 <ul style="list-style-type: none"> ①安全第一(絶対に怪我はさせない!) ②作品を修正するのはなるべく最終の段階のみにして、子どもにできるだけ多くの活動を経験させてあげる ③子どもとのコミュニケーションを大切にする ④子どものリズムで進める <制作活動について> <ul style="list-style-type: none"> ①全てスタッフに一任する ②子どもの意見を尊重しながらも、与えられた板材の範囲で完成できる本立てを一緒になって考えてあげる ③けがきはスタッフが行う(寸法取り以外は子どもも可) ④切断・釘打ちにおいては、スタッフが必ず示範する ⑤切断線を2本引いたり、釘打ちの位置を示すなど、子どもの発達段階に応じた手だてを講じる ⑥素地磨き～塗装までは進み具合に応じて行う ⑦子どもが作業しやすいような補助を考えて行う
◎後かたづけをする ◎今日の木工教室のまとめをする	<ul style="list-style-type: none"> ・後かたづけを子どもと一緒にやる ・ペアごと、全員で写真を撮る ・簡単な感想を子ども→スタッフの順に発表する ・修了証を配布する ・キャプテンがまとめをする

やさしい木工教室

片桐 宏 (技術教育・院2年)

(1) 講座の意図

「やさしい木工教室」は第1回YOU遊サタデーで初めて開講した講座である。今回で3回目の開講となるが、製作品は3回とも「本立て」と変わっていない。この講座は、子ども自身に木のにおいや肌触りを感じてもらいつつも、自分自身で材料に道具を使って働きかけることを通して、木材工作の楽しさや完成した時の喜びを味わってもらうことをねらっている。子どもに絶対けがをさせないという「安全第一」をモットーに、子どもの「こんな本立てにしたいな」という「ねがい」をできる限り可能にしてあげることが大事にしている。そのため指導形態は、完全なマンツーマン体制であり、約一日同じ子どもと、会話をし、工作し、お昼を食べる行動を共にしている。学生スタッフは、あくまで「補助」的な役割に専念し、子どもの失敗を修正したり、子どもができない加工の手助け以外は「手を出さない」ことを基本としている。そして今回は、新たな試みとして板材の変形をできるだけ小さくするために、スギの集成材を用いることにした。一枚板を用いた場合、側板と底板を緊結する際、材料に「反り」が生じて、ガタガタする本立てになってしまうことが多々あった。また今回は、背板の分量を多めに取り、スライド式本立てを作れるように配慮した。

(2) 当日の様子～私の担当した子どもとともに～

今回の参加者は5名、学生スタッフは6名であった。学生スタッフが1名多いのは、スタッフの中に技術専攻1年生が加わったためである。1年生スタッフには上級生スタッフが補助に入った。今回も技術専攻後輩諸氏の応援をいただいた。

参加者とスタッフの簡単な自己紹介とペアの発表の後、あらかじめ配布しておいた「注意事項」のプリントをもとに、安全面での注意事項を徹底した。

今回は初めての試みとして、購入してあった板材を机の上に並べ「材料選び」を経験してもらった。また同様の試みとして、同じ大きさの一枚の板材と集成材を比較することによって、一枚の板材を製材する「価値」と木材の有効利用について考える場を設けた。前者は材料を自分で選ぶことによって、本立て手作りへの意気込みを奮起させ、後者は、自分の選んだ木材が貴重な資源を最大限に生かしたものであることに気づかせ、材料に対する愛着を持たせることをねらった。このような場を設けたことによって、木工教室がただ本立てを作って終わるだけでなく、更に一步深まった講座になったものと信じている。

続いて、いよいよペアごとに製作に入った。どんな本立てにするのか？大きさはどうするのか？を子どもと一緒に考え、アイデアを練った。私の担当した女の子は、どうしても大きな本を入れたがっていたが、材料には制限があること、大きな荷重には耐えられないことを説明して、文庫本が入るスライド式本立てを作ることにした。大きさを「スケール」で確かめながら、それぞれの寸法を決定し、いよいよけがくことになった。彼女は「けがきをどうしてもやりたい」ということだったのでチャレンジしてもらった。やはりさしがねを使うのは難しいのか、最終的には彼女が引いた分の修正も含めて私がけがくことになった。

いよいよのこぎりで切断する場面に入った。自分の足で固定し、私が更に固定の補助をしながら、2本のけがき線の間をのこぎりびきした。のこぎりの角度や力加減を教えてあげながら、曲がったら直し曲がったら直しの悪戦苦闘で何とか切断した。そこで私が、余った板

材で、簡単に示範し、再度チャレンジしたところ、前回よりもまっすぐに切断することができた。部品を切断し終えたら、側面の形を半円状に仕上げるため、糸のこ盤を用いた加工を行った。切断する形状が曲面であること、糸のこ盤が彼女よりかなり大きい理由より、私が代わりに加工を行った。その間彼女は、部品をサンドペーパーで磨いていた。さて、スライド式の本立てにするため、案内の溝を2カ所作らなければならない。スムーズにスライドができるように、底板を三等分することにした。この部分は作業の効率化を目指すため、糸のこ盤と同様に私が担当した。また背板を2枚用いて、背板側にも案内溝を作り、部品加工は終わった。いよいよ組み立てとなるのだが、今回の木工教室では「速乾木工ボンド」と釘を用いて、強度を強くした。ここから先の接着剤の塗布、釘打ちは全て彼女一人でやった。私は材料を押さえたり、曲がった釘の修正のみを行った。

徐々に本立ての姿になってくると、彼女は満面の笑みを浮かべながら、黙々と釘打ちをしていた。途中飽きて集中力がなくなったり、面倒がっていた時もあったが、やはり、完成した時の「笑顔」は充実感を感じる。彼女が夢中になって釘を打つ姿に、人間が対象（材料）に手段（道具）を用いて働きかける技術教育の原点を見た。

（3）私にとっての「木工教室」とは ～結びにかえて～

今まで3回の木工教室において、自分自身感じたこと、学んだことを綴ってみる。

- 1) 何よりも一人の子どもに集中して関わりあえた
- 2) 子どものねがいをかなえてあげるために、自分自身の技術的な技量を発揮できた
- 3) 補助や修正を行うなかで、自分自身の不足している知識や技能がわかった
- 4) 子どもがどういう時に喜び、悲しみ、飽きたりするのがみえた
- 5) 自分自身で講座の計画をたて、講座を運営するまでの一連の活動を経験できた

「木工教室」をやったからと言って、将来「木材加工」領域の授業がうまくできるとは限らない。しかし「木工教室」をやってみて初めて、わかったこと、考えたことが数多くあった。出張の「木工教室」を含めると4回、子どもたちと本立てづくりを共有したことになる。「木工教室」では、たった一回の子どもとの出逢いを大切に、子どもの作りたいイメージを大切に、そして何よりも子どもの夢中になる姿と笑顔を大切にしてきたつもりである。反省材料も残り、自分自身が有頂天になることは厳に慎まなければならないが、「木工教室」は、「子ども」と「木材加工」と「私」とを結び続けた。「教師になりたい」という夢を追い続けるなかで、いろんなヒントを与えてくれた。

お約束となってしまいますが……。 「木工教室」を開講するにあたり、遊学プランの検討や講座の進行方法等の助言をいただいた北澤競教官にお礼申し上げます。「木工教室」のために、木工室と木工道具の使用をご快諾いただいた杵渕恭宏教官にもお礼申し上げます。また、今まで「木工教室」のアシスタントスタッフを快く引き受けてくれた技術専攻同士にお礼申し上げます。そして私のような老兵を快く仲間に入れてくれ、「最後に木工教室なんてどうですか？」と粋なアドバイスまでしてくれた、第4期実行委員会事務局の皆さんに感謝します。最後に、長い4年間公私にわたり様々な面でご助言・ご指導いただいた土井進教官に心より感謝します。ありがとうございました。

第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	からカラアート (第12回、13回)	第12回 9月 27日 (午前) アシスタントスタッフ数 3名 参加者数 4名
キャプテン名	森下房枝 (家庭専攻3年)	第13回 11月 8日 (午後) アシスタントスタッフ数 4名
指導教官名	松岡英子 教官	参加者数 11名

・講座のねらい

..身近な材料を使って作品を作ることを通して、...ものづくりの楽しさや満足感を味わう..
..ことができる。.....

・講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
○自己紹介	○「キャプテン→スタッフ→子ども」の順に自己紹介をする。 ・子どもたちがリラックスできるよう明るい雰囲気をつくる。 ・自己紹介ができない子どもがいた場合はスタッフが支援する。	5分
○作業の手順や、注意事項を聞く	○作業手順 1 下絵を選ぶ。 2 色を決める。 3 殻を適当な大きさに砕き、下絵に塗ったボンドの上に貼る。 (細かい部分はピンセットを使う) ○注意事項 ・ピンセットはみんなでする。 ・目などを突かないようにする。	5分
○作業開始	○スタッフも一緒に作る ・楽しくつくる。 ・できあがった子どもの作品にニスをかける。	95分
○後片付け	○身の回りをきれいにしよう指示 ・忘れ物のないように ・手を洗う	10分
○修了証を渡す ・頑張ったところ、上手にできたところなどを発表する。	○作品の良いところを褒める ・頑張ったことを称える。	5分

からカラアート

森下房枝（家庭専攻 3年）

1. 講座開講にあたって

第12回で、どんな講座を開講しようかと考えていたときに、ふと小学生の夏休みの宿題で卵の殻を使って貼り絵をしたことを思い出しました。単純な作業ではあるが、できあがった作品は、近くで見ると上手にできていなくても、遠くから見ればきれいに見えるため、誰もが満足感を味わうことができるのではないかと思い、「卵の殻を使って貼り絵をする講座」＝「からカラアート」を開講することにしました。

そこで「からカラアート」の講座では、「ものづくりの楽しさと満足感」と、「身近な材料で貼り絵を作ることができる」というこの2点をねらいとしました。

2. 講座名を考えよう

講座を開講するときにはまず考えなければならないのは講座名でした。講座名は参加者が講座の内容を知る上で、一つの手がかりとなるため、「講座内容が分かり易いものを」そして「どうやってつくるのだろう」「どんなものができるのだろう」という参加意欲が湧きそうなものを、と思いましたが。そこでできたのが『から（卵のから）カラ（色の付いた）アート（絵）』＝「からカラアート」なのです。しかし、「講座内容が分かり易い」という点では少し劣っていたのかもしれませんが。なぜならば、第12回ではなかなか参加者が集まらなかったのに、第13回においては同じ講座名でも参加者がすぐに集まったからです。これは第12回の講座紹介や成果発表で、講座の内容がやっと参加者に伝わったためではないかと思えます。

ここで私はもっと講座内容の見える講座名を、考えなければならないということ学びました。

3. 教材研究

講座名を考えた後にしなければならなかったことは、講座の流れを考えることです。

そこでまずこの講座では色を塗った殻を使うため、殻にあらかじめ色を塗ったものを用意しておくか、それとも子どもたち自身で色を塗りながら作品を作っていくかどちらにするか考えました。そこで色を塗って乾くまでの時間を見たところ、2時間の講座の中で殻の色塗りからはじめることは無理であることが分かり、あらかじめ何色か色を塗った殻を用意しておくことにしました。

つぎに、試作品をつくってみることをしました。B4の画用紙全面に割と細かな色使いをする下絵をコピーして、早速製作に取りかかりました。思っていたよりも細かいところが多く難しかったため、完成までに数日かかりました。これでは2時間の講座の中ではできないということ、また色使いが細かいと飽きることが分かったため、はがきサイズの画用紙に簡単な色使いで複雑でない下絵を用意することにしました。

4. 第12回と第13回の講座の展開

1) 第12回からカラアート

生まれたてのからカラアートは、参加者の子ども4人とスタッフ4人という、こじんまりとしたスタートになりました。子どもとスタッフは1対1になり共にそれぞれの作品を作るようになりました。スタッフは練習をしていないため子どもと共に頑張る姿で、子どもと同じような気持ちで講座に参加することができたのではないかと思います。

下絵として用意したものはクマのプーさんやティガー、たまごっちのキャラクター（てんしっち、まめっち）、ぴかちゅう・らいちゅう、の5種類を用意しました。はじめのうちはいろいろなおしゃべりをしながら、製作していたが次第に夢中になりスタッフも含めて皆無口になっていきました。

できた作品には水性のニス塗ることになりました。刷毛で塗るニスのため、ボンドづけがあまかった殻が、刷毛についてしまいはがれることがあり、次回の課題であると感じました。

2) 第13回からカラアート

今回で2度目のからカラアートは、参加者の子ども11人とスタッフ5人という前回よりもグンと人数が増え、5人・6人の2グループに分けて講座を勧めることになりました。子ども2人につきスタッフが1人という割合になりました。

今回は下絵としてミッキーマウス、ティガー、プルート、ムーミン、てんしっち、まめっち、の6種類を用意しました。作り方を説明し、またピンセットが全体で5本しかないため仲良く貸し借りするように伝え製作に入りました。今回も前回と同様に始めはいろいろなおしゃべりがスタッフと子どもの間から聞こえていたが、次第に静かになり皆製作に夢中になっていました。

今回は前回のニスについての反省を生かし、スプレー式のニスを使うことにしました。スプレー式のニスは、早く・斑なく・薄く塗ることができ、また殻がはがれ落ちることがなくとても便利でした。

5. 講座の内容と子どもの様子

「からカラアート」は、色を塗った卵の殻を適当な大きさに砕き、下絵にボンドで貼り、ニスを塗って仕上げます。下絵は子ども自ら描くことができるように、白い画用紙と、絵を描くことが苦手な子どもでもできるように、あらかじめ数種類の下絵を用意しておきました。

第12回に参加した子どもたちは、皆あらかじめ用意しておいた下絵を使って作品を作っていました。第13回に参加した子どもたちは、はじめから自分で下絵を描いて作品を作っていたり、2枚目では自分で下絵を描いて作品を作っている子どもの姿を見ることができました。

また、参加した子どもたちはそれぞれ自由に色を決め、好きな大きさに殻を砕いて貼り、その子らしい作品を作ろうとする意欲的な姿を見ることができました。

しかし、時間が経つにつれて、細かいことが苦手な子どもや飽きやすい子どもたちは、「疲れちゃったから、もうやらない」「私の作品は大きい殻できれいなじゃない」とつぶやく姿も見られました。このような子どもたちには、キャプテンやアシスタントスタッフの励ましの声かけや、補助によって対処しながら、参加者全員が作品をそれぞれに作り上げることができました。

また、第13回では子ども間の関わりあいを持つことができるようにと思い、また、備品の数からもピンセットを2～3人で一本を使うようにしました。しかし、一人でずっと使っていたり「貸して下さい」と言えない子どもがいたため、スタッフが間に入って貸し借りをするようになり、活発な子ども同士の関わり合いを見ることができませんでした。ところが閉会式場へ向かう途中、お互いが違う小学校ではあるが仲良く作品を見せ合っている姿を見ることができ、どこかで仲良くなるきっかけがあったことを感じました。

6. 反省

私はこれまでアシスタントスタッフとして講座に参加したり、既存の講座を開講していました。そして今回初めて一から講座をつくり上げていくことを体験しました。講座名の重要さや、キャプテンは一人で全体に常に目を向けていなければならないという責任ある仕事であるということを経験することができました。また、第12回、第13回とどちらでも「あと30分で片付けはじめよう」と、子どもたちに伝えると、「エーもう終わりなの？」とか「もう少しやりたいよ」という声があがり、そして一生懸命作った作品を誇らしげに見せる姿から、開講して良かったと思いました。

しかし、準備の段階でどこから手をつけたらよいのか分からず、前日にばたばたと準備をすることになったり、事前の打ち合わせが十分にできなかったり、また試しづくりを事前にする事なく講座に望むようなことになり、アシスタントスタッフの皆さんに大変なご迷惑とご心配をかけてしまいました。この場を借りてお詫び申し上げます。



第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	うちわで書 (しよ)	第 1 2 回 9 月 2 7 日 (午前)
		アシスタントスタッフ数 6 名
		参加者数 2 名
キャプテン名	村田 恵 (国語専攻 3 年)	
指導教官名	市澤 要三 教官	

・講座のねらい

障子紙にマーブリングしたものに、書をかき、粋なうちわを作る。.....
 いろいろな筆使い、文字の構成、字配り、墨の濃淡、潤濁など、書には様々な表現方法があることを知り、それぞれの特徴を工夫して表現することの楽しさを味わうこと。....

・講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
1、自己紹介をする。説明を受ける。	・できあがったうちわを見せ、作り方の説明をする。	10分
2、マーブリングで色付けをし、乾かす。	・乾かす時にしわにならないように気を配る。	20分
3、書く字を決め、練習する。	・いろいろな筆使い、文字の構成、字配り、墨の濃淡、潤濁などの見本を見せる。	40分
・うちわの形を書いたプリントにレイアウトを考え、字を書いてみる。	・マンツーマンで練習に付き添い、多様な書表現をアドバイスする。	
4、マーブリングした紙に清書する。	・絵を添えたり、印を押したりしてもよいことを伝える。	10分
5、紙を貼るために、紙の縁に切り込みを細かく入れる。	・作業がスムーズに進むよう、見本を見せる。	30分
・墨と印が乾いたら、紙をのりでうちわの骨に貼る。		
・きれいに仕上げるために、おもしろをのせて乾かす。		
6、片づけをする。	・修了証を渡す。	10分

うちわで書

村田 恵（国語専攻 3年）

1. 講座開設の理由とねらい

書道というと、どうしても堅いイメージがつきまとう。「学校で習う書写教育的なものだけが書ではない」ということを少しでも知ってもらいたい。普段手にすることが少ない筆でお手本を真似るのではなく、自由に楽しい書道を体験してほしい。そんな思いから筆と墨を使って自由に表現する楽しさに重点を置いた。

2. 教材観

書道を楽しんでほしいという願いから、ただ半紙に文字を書くだけではつまらない。畳〇帖分というような大きな紙に書くという案もあったが、せっかく出来上がった作品を飾ることができないというのは残念であるということで採用にいたらなかった。そんな中、頭に浮かんだのが「うちわ」であった。「うちわ」であれば、出来上がった作品を、日常生活に生かすことが出来、実用的であるという点も魅力的である。そして、うちわにする場合、真っ白い和紙に墨文字だけでは、子ども達にとって物足りないのではないかと思い、マーブリングで色づけもしようと考えた。しかし、あくまで書に重点を置くのであって、色付けに集中しすぎないように気をつけようと思った。そのため私たちがここで気をつけたのは、次の2点である。

- ・書く時間を十分に確保すること
- ・1つの文字を多様に書いた見本を提示すること

「1つの文字を多様に書いた見本を提示」とは「面」という字の、古代文字（篆書・隸書）を見せ、文字というのは、普段習っている楷書体だけではないということを知ってほしいためである。

3. 参加者の取り組みの様子

うちわにしたときのイメージが浮かびやすいようにと、うちわ型をふちどったプリントを用意し、そこに練習する活動を取り入れた。

マーブリングに集中しすぎてしまうのではないかとも思われたが、書への切り替えはスムーズであった。また、マーブリングの色合いに合わせて、書く言葉のイメージをふくらませている子どもも見られて、マーブリングがただの「色付け」にとどまらなかったことはよかったと思う。

4. 反省

今回は参加者が2人と少なく残念であった。これはYOUサタの参加者の多くは低学年であるにもかかわらず、対象年齢を小学校3年以上としたためであると思う。活動を振り返ると、この「うちわで書」は、危険な活動もなく、作業も簡単であるので、次回からは、対象年齢を下げてもいいのではないかと感じた。

書道は日本の伝統文化にもかかわらず、なかなか親しむチャンスがないのが現状であ

ろう。子ども達が、この講座をきっかけに、少しでも「書」に興味を持ってくれたら
と思う。



第四期 信大YOU遊サタデー遊学プラン

講座名	タオルマジック ～タオルを使って動物を作ろう～ (第13回)	第13回 11月8日(午前) アシスタントスタッフ 5名 参加者数 15名
キャプテン名	小倉 佐知子 (家庭専攻3年)	
指導教官	松岡 英子 教官	

・講座のねらい

タオルを用いて小物を作ることで、身の回りのものを使って、しかもタオルを切らずに簡単で実用的なものを作ることのできる楽しさと驚きを伝えたい。

・講座の展開

活動内容	注意すること・支援・その他	時間
1、グループ分けをする ・あらかじめ決められているグループに分かれる。	・自分の担当のグループに分かれ、子どもがくるのを待つ。 ・子ども同士が仲良くなれるように、積極的に声をかける。	10
2、本日の活動内容を確認する ・カエルのティッシュカバーを見て、自分で頑張りたいことを考える。		
3、自己紹介をする ・名前と今日頑張りたいことを、みんなに発表する。	・ゆっくり自己紹介をする。	
4、製作に取り組む ①フェイスタオルをつまんで目を作る ②ひもで首の部分を結んで顔を作る(綿を入れる) ③タオルの先をひもで結んで手と足を作る ④腹の部分をひっくり返し、トイレットペーパーを入れる。 ⑤顔に目と口をつける。 ・できるだけ多くの人と友達になって、たくさんお話ができるようにする。	・実際に子どもと共にかえるを作りながら、楽しく説明する。 ・難しいところは手伝ってやり、苦手意識からつまらないと思わせない。 ・工夫できるところ(顔など)は、どんどん工夫する。 *はさみの取り扱いには十分気を付ける。 *けがの無いように気を付ける。	65
5、片づけ ・自分で使った道具やゴミは自分で片づける。	・製作の遅れている子どもの手伝いをする。 ・片づける場所を案内する。	15
6、修了証を渡す ・作ったかえるをみんなに見せる。 ・修了証とアンケートをもらう。 ・閉会式に向かう。	・作った作品を誉め、自信を持たせる。 ・閉会式に遅れないようにする。 *末永く自分の作品を愛す。	

タオルマジック

～タオルで動物を作ろう～（第13回）

小倉 佐知子（家庭専攻 3年）

1、講座開講にあたって

今、このページを読んで下さっているあなた！あなたはこれから、タオルでぬいぐるみを作ろうとしています。さあ、タオル以外に必要なと思う道具を挙げて下さい。
…挙がりましたか？もしかして、その中に「断ちばさみ」なんて挙げてはいませんか。

家庭科専攻の私にとって、物を作ることは、「はさみ」なしでは考えられない。そんな私の今までの常識を覆したのが、図書館で出会った1冊の本であった。その本の、「切らずに作れる」という表現に一瞬とまどったが、とてもカラフルなタオルを、糸で縛って結んで...というだけで、本当に様々な動物ができるのです！しかも、決して無理のない、とても自然な動物たちが。

この講座を開くにあたって、そのきっかけになったのは、ただ、自分がやってみたかった、ということのほかには何もない。ただ、もし参加してくれる子どもたちがいるのならば、タオルという身近なものを使って、それが切るという作業なしで素敵な動物に変身するという驚きを一緒に体験したいと思っただけである。

2、教材について

まず、始めは自分で試しに作ってみないと、と思い、自分用に材料を調達した。

まあ、なんと。カラータオルの値段の高いこと、高いこと。カエル1匹に使うたった2枚のタオルで、すでに私の中にある予算をかなり超えていた。これでは子どもに値段が言えない。ということで、町中で一番やすいタオルを必死に探したのであった。

次に、作っていく中で、こんなのは買わなくてもいいじゃん、と思えたスチロール球（目の芯になる）は、家にあった余り布を小さく丸めて代用。目に使う動眼は、フェルトで代用し、形を各自工夫できるようにした。

さらに、本の中で述べられている作り方には分りにくいものが多かったため、もっと簡単に作れるように、作り方も少々工夫した。

このような過程を経て、タオルというのは一般的な布に比べて非常に織り目が粗く、手縫いでかなり粗く縫っても、全くといってよいほど縫い目が目立たず仕上がりも美しく見えるため、手縫いに自信がないと思われる子どもたちにとって、最適な素材となる。また、布の厚みも適度にあるため、扱いやすい、ということが分かった。

このカエルのティッシュケースを作ることで、子どもたちは物を作ることに楽しさを感じてくれるだろうと考えた。

3、参加者の様子

小学4年生から幼児連れの主婦の方まで、多くの方々に参加していただいた。はじめは静かな雰囲気です少し心配だったが、後半は楽しくやっていた。スタッフが作り方を指示するだけでなく、子どもと一緒にカエルを作りながらしたことで、説明が分かりやすくなった

気がする。グループ活動にすることで、子どもに分かりやすいようにしたつもりであったが、裏を返せば、ただのもの作りに終わってしまい、もっと全体的にみんなで楽しむという場面があってもよかったのではないかと思った。

また、作り方の紙を黒板に張っておいたのだが全く意味がなく、しかし、雰囲気づくりには役立っていたようである。

そして、幼少のお子さんを連れた方は、講座中に子どもがぐずって大変そうだったので、子どもの面倒を見てあげられるようなスタッフがいたらよかったなと思った。

4、講座を振り返って

今までに1回しかYOUサタに参加したことがないにもかかわらず、2回目にしていきなりキャプテンを引き受けることになり本当に戸惑いばかりでした。分からないことが多く、ほとんどを仲間のスタッフに助けられました。準備不足ながら無事に終えることができたのは、やる気があれば誰にでもキャプテンができるということだと思います。やってよかったと思います。

仲間の中から、タオルはこちらで用意するべきだったか、タオルの色はみんな同じ必要があったかという声が挙げられました。確かにこれについてはやってよかったことであるが、別にカエルは緑と決まったわけではないし、例えばピンクのカエルがあってもいいわけで、それならば家から様々なタオルを持ってきてもらった方が変化に富んでいて成果発表も楽しかったかなと思います。これについては次回のスタッフと検討することにします。その他の点については、特に問題もなく、順調に進んでよかったです。

しかし、今回のYOUサタを終えて、私の中にとってももやもやしたものが残りました。それは、今回の経験から、私は何を学んだのか、ということです。とにかく今回は経験がなかったので、無事に終わったからそれでよかったと満足はしていたものの、次からはそれだけでは駄目であるということを感じたのです。自分でこうしたい、と思う気持ちがなければ、本当の充実感は得られないと思います。その点で今回は、自分が物を作るということに必死で、本当にみんなが楽しかったのか、作品が完成して喜びを感じることができたのかという点が、非常に不安です。しかし、ある子どもから、「まだ学校で家庭科を習っていなかったけど、上手にできて嬉しかった。」という声が聞かれたので、少し安心しました。

また、私は今回のYOUサタを見ていて、もっと親子で参加できる講座があったらいいなと思いました。せつかくの休日だから、家族そろって参加して楽しんでもらいたいと思います。せつかく親子で参加していても親は付き添いだけだったりすると、何かすごくもったいないことをしているような気がしました。今、家にいても、なかなか家族とふれあう機会が少ないので、YOUサタが少しでもそのお手伝いができたら・・・と、少し思いました。

とにかく今回は何もかもが良い経験でした。講座の準備が間に合わないとき、私よりも先に教室に行って用意してくれた仲間、講座に様々な案を提供してくれた仲間、その他、いろいろ協力してくださった方々、本当にありがとうございました。来期も私はnew ideaで頑張ります。

第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	フィルムロケット ～えっ!!フィルムケースが飛ぶの??～	第13回 11月8日(午前) アシスタントスタッフ数 8名 参加者数 13名
キャプテン名	登坂 武人 (社会専攻 3年)	
指導教官名	鵜飼 照喜 教官	

・講座のねらい

..自分で物を作って遊ぶことの楽しみを知り...また..「どうして入浴剤で飛ぶんだろう..?」
..という疑問を持ち...フィルムロケットの原理に興味・関心を持つことができる.....

・講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
I. スタッフ・子ども達の自己紹介	○子ども達よりも元気に、明るく、笑顔で自己紹介をする。	10分
II. フィルムロケットの作り方の説明をする。	○模造紙にかいた説明書やあらかじめ作っておいた実物を使って、今日作るものや遊び方の説明をする。	15分
III. フィルムロケットを作る。	○基本的には子ども自身で作るが、子どもが「てつだって!」と言って来た時は手伝う。とにかく出すぎない。 ・スタッフも子どもと一緒にフィルムロケットを作る。	35分
IV. 外に出てフィルムロケットを飛ばす。	○子どもと一緒に楽しむ。 ・エネルギー(バブを削ったもの)がなくなったら、子どもと一緒に作る。 ・つねにペットボトルに水が入っているように気を配る。	35分
V. 修了証をわたす。	○拍手をして、子どもを誉める。	10分
VI. 片づけをみんなでする。	○子どもと一緒に片づけをする。 ・片づけをしていない子どもがいたら、一緒に片づけをするよう促す。	15分

フィルムロケット

~えっ!!フィルムケースがとぶの?~

登坂 武人 (社会専攻 3年)

①フィルムロケットとは

まずはじめにフィルムロケットとはどのようなものかについての説明をしておきたと思う。

フィルムロケットとは、写真のフィルムケースに、色画用紙などに描いてある型紙を切り抜いたものをはりロケットの形にしたものである。だからといってそのロケットを作った終わったのでは、この講座に子ども達は何ら面白味を感じないだろう。この「フィルムロケットをとばそう」の講座で面白いのはこのあとからである。文字どおりフィルムケースを飛ばすのである。

どのように飛ばすか?ここで登場してくるのが「入浴剤」である。入浴剤??と思う人が大多数でしょう。お風呂に入れる入浴剤でフィルムケースが飛ぶんです。だからといって、どんな入浴剤でもいいというわけではありません。発泡材が入っていないければ飛ばないんです。つまり炭酸ガス入りの、ブクブク泡の出る入浴剤だと飛ぶと言うことです。具体的に言ってしまうと、「バブ」みたいなやつですね。実際今回の講座の中でもバブを使いました。市販されているバブをこなごなに砕き、フィルムケースに少量入れ、その中に水を数滴たらし、ふたをしてさかさまに置くと、ケース内に炭酸ガスが充満し、圧力がかかってケースの筒の部分が空高く飛んでいくのです。驚くほどよく飛びます、建物の2階ほどの高さまでは飛びます。これを使って、子供たちと遊ぼうと思って、今回の講座を開いたわけです。

②動機とねらい

それでは、なぜフィルムロケットをYOUサタの中の講座として開いてみようと思ったのか、その動機について書きたいと思う。

事の発端は第12回の反省会で「低学年を対象とした講座が少ない」という意見が出た所にある。私自身、第13回のYOUサタで何か講座を開いてみたいなあとは漠然と考えてはいたのだが、この意見を聞いたことと、教育実習が小学校2年生で、その子ども達がとてもかわいかったことから、低学年向けの講座を何か考えようとするにいたったわけである。そんなおり、とあるテレビ番組で、このフィルムロケットのことを知り「これなら低学年の子ども達でも楽しめるかもしれない」と思ったわけである。つまり講座の対象学年を先に決めてから、講座の内容を決めたのだから、今回この講座を開いた動機は「低学年の子供たちが楽しめると思ったから」の一言だけだろう。

次にねらいであるが、参加した子ども達全員が楽しく遊べるという大前提があった上で、何がねらいであったかという、子ども達に「どうしてバブでフィルムケースがこんなに高く飛ぶんだろう」という疑問を抱いてほしいというのが私のねらいであ

った。そして原理の説明ははじめからしなかつた。

③子ども達の様子

私個人のみから見たこの講座に参加した子ども達の様子についてであるが、正直言って私が考えていたよりも楽しんでいたように思う。講座の内容上、個人とする作業が多く、私もそのことを懸念していたのだが、これといった打開策が見つからないまま当日になってしまい結局2人1グループで作っていくという苦肉の策で始めてしまった。確かに始め体育館の中でロケットを作っている工作の時間は個人作業で進んでいき、子ども達も静かだったが、それが完成しひとたび外に飛ばしに出かけてからは、私の懸念など吹き飛んでしまうほど子ども達同志楽しそうに遊んでいた。自分のロケットにバブを入れ、水を注いでふたをしてから飛ばすまでの間の緊張感が、子ども達にはたまらなかつたようだ。

子ども達はフィルムロケットを介在として、他の子どもと関わる事ができた様子で、何もこちら側が意図して子ども達同志関わりが持てるような場面を作らなくても、そのきっかけとなるような物だけでも提供してあげれば、子ども達は楽しく遊ぶことができるのだということを、今回の講座の中で、私は子ども達から学ぶ事ができた。

④今後に向けて

今後も「フィルムロケット」の講座が「スライム」のように存続していく事を前提として、ここでは「フィルムロケット」の講座を今後に向けてどうしていけばよいかについて、私からいくつかの提言をしておきたい。

まず、いかに子ども達同士が交流をもてるような企画を考えるかについてである。もの作りの講座は、一度作業に入ってしまうとなかなか子ども同士の交流が持たなくなってしまうがちな点である。確かに子ども達が作業に集中出来る場を作り出す事はとても大事な事だが、周りと関わり合いがなく、ひたすら個人作業をしていたのではYOUサタに参加した意味がないと思う。だから、「フィルムロケット」を作って飛ばすのを講座のメイン企画にするのではなく、「フィルムロケット」を子ども同士が交流していく際のひとつの手段としてとらえ、利用し、フィルムロケットを作ることで、フィルムロケットを飛ばすことで友達が増えたと子ども達が感想で言えるような講座にしたい。「フィルムロケットの」講座に限らずどの講座でもそうだと思うが、講座内での主役は子ども達であって、私達でも、そして教材でもないのだ。この事が最小にして最大の注意事項だろう。

第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	作ってうれしいカレンダー	第13回 11月8日(午前) アシスタントスタッフ数 5名 参加者数 15名
キャプテン名	阿部 利恵 (教育実践科学専攻 3年)	
指導教官名	山口 恒夫	教官

・講座のねらい

自分だけのカレンダーを友達と楽しく作っていくことを通して、手作りの楽しさを知ったり、祝日や記念日を書き込み、毎日を楽しく過ごせるようなきっかけが出来る。

・講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・説明 ・材料配布 	説明は模造紙に書いて簡潔に。 班ごとに材料をあらかじめ配布しておく。	15
<ul style="list-style-type: none"> ・カレンダー作りに取り組む ①台紙を選ぶ。 ②日付部分を書く、あるいは配置して貼る。 ③絵を描いたり、自分の好きなものを貼ったりする。 ④誕生日や祝日を書き込む。 	<ol style="list-style-type: none"> 1、声かけをして子どもの作りたいものを把握しておく。 2、最初に日付から取り組むようにしたいので、どこに日付部分を貼るかを明確にしておく。 3、絵を描いたり貼る際、道具が足りないかもしれないので、②、③はスタッフが臨機応変に対応していく。 4、誕生日や祝日などを書き込みつつ、カレンダーを更に工夫したり、子ども達が毎日に期待できるような声かけをしていく。 	75
<ul style="list-style-type: none"> ・後片付け 	班ごと後片付けをする。	10
<ul style="list-style-type: none"> ・発表会&修了証を渡す 	一人ずつみんなの前で発表する場を設け、頑張ったことを認めていく。また、どこに貼りたいかという発問をして家に帰ってからもカレンダーに関心が持てるよう配慮する	20

作ってうれしいカレンダー

阿部 利恵(教育実践科学専攻 3年)

1. 講座開設の理由

今回、今年度最後のYOU遊サタデーに参加させていただくことになり、何かオリジナルティーのある講座を開設したいと考えた。何か子ども達が自分達で作上げ、また家庭でも生かせるような講座はないかと考えた時、季節柄から、カレンダーづくりはどうかと思いついた。

カレンダーの利用方法はただ貼っていることに満足してしまっている人や細かな予定を書き込んでいる人など千差万別である。本来、数字と7つの漢字だけで成り立つカレンダーが、何故世間では様々な工夫がなされているのかと考えた時、人々にとってのカレンダーの重要性、暦の必要性を感じずにはいられない。そこで、子ども達が身近にあるカレンダーを実際に作っていくことを通して、来年の楽しい行事やイベントが印象付き、毎日を目的を持って楽しく過ごしていくきっかけになればと思い、この講座に取り組んだ。

2. ねらいと素材研究

カレンダー作りのねらいとしては、手作りの良さに気付くということと先述したように来年に向けての意欲が高まり、また残り僅かとなった今年の生活も大事にしていこうという思いが芽生えるという2点が挙げられる。前者はグループ毎の活動やカレンダー作りの過程や完成した時の達成感、また後者は予定を書き込んだりしていく活動を通して子ども達が学べるよう、講座開設にあたり考慮した。

カレンダーは出来るだけ子ども達が大きな満足感を得られるようにと思い、画用紙2枚分の大きな年間カレンダーを作るようにした。何処まで手作りにしていいたかと考えたが、限られた2時間という時間の中で講座を行うことを考えた結果、月毎の数字(暦)部分と台紙はこちらで用意し、子ども達は数字の部分好きなように切って、好きなように配置し、また自由に絵を描いたりあらかじめ持ってきたものを貼ったりするようにした。試作品を作っていく中で、大学生のスタッフでもかなりの時間を要することがあったが、凝り始めるときりがなく、またカレンダーは予定を書き込んだりしていくものなので未完成のままでもいいのではないかと思ひ、ある程度形を作る所までを目標として、そこから子ども達が家庭で絵を書き加えたり、様々な工夫をしていくことが出来たら、家庭でも生かされることに繋がるのではないかと考えた。また、シンプルな作品を短時間で作り上げる子ども達のことやオリジナルのカレンダーを作るということを考慮に入れ、祝日やいろいろな日(ex.犬の日、アイスクリームの日など)をまとめたものを各班のスタッフに配布し頃合いを見計らって子どもに配るようにした。

3. 子ども達の取り組みの様子

時間内に終わるのかという一抹の不安があったのだが、想像以上に子ども達が思いつくままに作業を進めていたので、全員が気持ち良く発表会に臨んでいた。対象学年を低学年と中学年にしてはいたのだが、低学年の子ども達はインスピレーションでさっさとカレンダーを作っていたのに対して、中学年以上の子ども達は考えたり悩んだりする時間を多く必要としていたので、2時間という限られた時間では完成という所までは到達出来ていなかった様である。しかしながら、家に帰ったらこうしたいということが明確でもっと作り

たいという意欲は十分感じられた。

スタッフ1人と子ども3人という班編成で活動していったのだが、スタッフが子ども達に声かけをよくしていたので、最初は打ち解けていなかった子ども達も次第に道具を貸し合ったり、絵の描き方を話し合ったり、また「この日は何の日なの？」というような会話も聞かれるようになっていった。また、スタッフが直接子どもの作品に手を出すのではなく、子ども達が発想に行き詰まった時や子ども達が意欲的に取り組んでいる時に適切な支援をしていたので、子ども達も自由に自分だけの作品を作り上げていったように思う。

自分の誕生日や家族の誕生日などを書き込む場面では、多くの子ども達がプリクラを貼ったり目立つように印を付けたりしていた。また「この日は何の日なのかな？」と聞くと嬉しそうに自分の誕生日などを説明してくれる子ども達の表情も印象的であった。また自分から「この日は〇〇ちゃんの誕生日なの。」と話し掛けてきてくれる子ども達の姿から、子ども達にとって大事な日というものがたくさんあるということ、またそのような日を認識するという事は子ども達にとって嬉しくて楽しい気分になるのだということを実感した。

4. 反省

ねらいの達成を考えると、手作りの良さが直接子ども達に伝わったとは言えないが、自分の作ったカレンダーをととても大事にしている子ども達の姿から、自分の作ったものに愛着を持ち、大切にしているのではないかと感じた。また、毎日を楽しく過ごすきっかけづくりという面では、今回の2時間という時間では達成し難いが、今後子ども達が家に帰ってからカレンダーを活用していくことを期待している。

また、スタンプや動物の型紙などをもっと用意してもよかったと思う。アイディアがなかなか浮かばない子どもに対して、そこから脱して行けるような役割を果たすものがなかったように感じた。また、家からカレンダーに貼りたいものを持ってくるようにしていたが、そこで少し個人差が顕著になったので、そのような差に対してもこちらで少し配慮してもよかったと思う。

先述したことであるが、学年の差で進み方が多少異なった。短時間でカレンダーを作る際には、低学年の方がダイナミックで完成度の高いものが作れるように思う。中、高学年は時間をかけ、記念日を作ったりいろいろな日を自分で調べるというような活動の方が向いているのかもしれない。

5. YOU遊サタデーを終えて

今回、経験の浅い私がキャプテンをやり終えることが出来たのは、スタッフの協力やいろいろ教えてくださった運営委員の方のおかげだと思います。本当にありがとうございました。当日までは不安や興奮で毎日が落ち着かなかったのですが、当日は嵐のように過ぎていきました。カレンダーづくりで子ども達と接して、子ども達の才能、創造力には驚かされました。試作品を作っている時は時間が足りなのではないか、難しいのではないかと心配がありましたが、いざ蓋を開けてみると子ども達は私が今まで見てきたカレンダーとは一味違った素晴らしいカレンダーを作り上げていきました。子どもの持つ底知れない可能性を痛感すると共に、私の子どものみとりが浅かったことを身に染みて感じています。最後に、このような良き学びの場のきっかけを私に下さった土井先生に心から感謝申し上げます。

第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

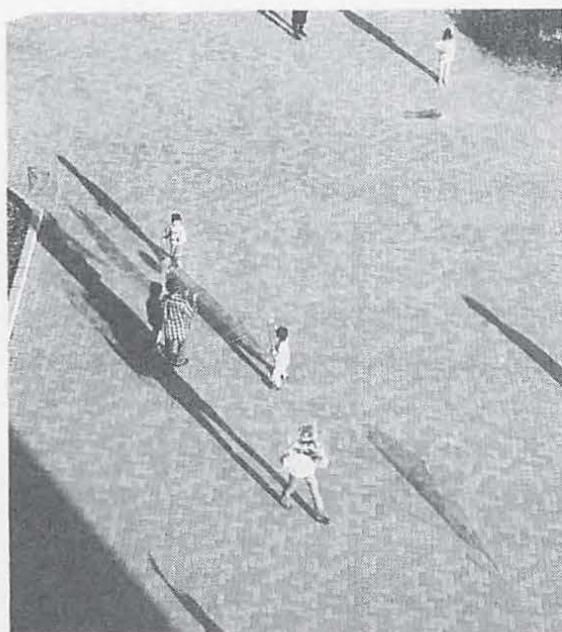
講座名	天まであがればくのたこ	第13回 11月8日(午後) アシスタントスタッフ数 7名 参加者数 14名
キャプテン名	小木曾雄亮(数学専攻3年)	
指導教官名	岩永 恭雄 教官	

・講座のねらい

- ..自分で作ったたこが空高く上がった時のすがすがしさ..喜びを知ってほしい。.....
- ..風をうければ、こんな簡単に作れるものでもたこになるんだという驚きをもって欲しい。

・講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
・自己紹介	・参加者が雰囲気になじめるように、明るい雰囲気作りに努める。	10
・型紙に合わせてビニルを切り取る。 ・セロテープで竹ひごをはりつける。 ・ビニルに好きな絵を描く。 ・糸をつける。 ・できあがり！！ ・糸の調節をしながら高くあげてみよう！	・はさみでビニル以外のものを切らないように気をつける。 ・絵は大きく描くように言う。 ・目打ちで人や体をつかないように気をつける。 ・あがったら一緒に喜ぶ。	85
・片付け、そうじ	・みんなで力を合わせてやる。	10
・終了証をもらい、感想を言う。	・拍手をして、出来上がったことをたたえる。	15



天まであがればくのたこ

小木曾雄亮 (数学専攻 3年)

1. 講座を開くにあたって

僕自身、たこ作りは小さい頃から好きでした。僕が子どもにたこ作りの楽しさを伝えようと思って「面白いよ」といくら言っても、作り方が難しかったり、作ったものが飛ばなかったりしたら、結局子どもは「何だこんなもん」と思ってしまうものです。そこで今回は作り方もそんなに難しくなく、かつ誰が作ってもよく飛ぶたこを僕自身の経験の中から探しだしてきました。

2. 今回作ったたこについて

今回作ったたこは一般的には「ぐにゃぐにゃだこ」などと呼ばれているたこです。ゴミ袋を六角形に切り取って、竹ひごのほねを付けて糸をつなげるだけのごく簡単なものです。それに絵を描くことによって自分だけのたこができるように工夫しました。

3. 子どもたちの様子

作り方は簡単だということもあって、全員なんとか自分で作ろうとしていました。小学校に入る前の子どもから小学校6年生まで歳の差があって作る速さに差が出てしまうのではないかと心配していたのですが、実際は歳は作るスピードに全然関係ありませんでした。歳は関係なかったのですが、6年生でも全然進まない女の子がいたり、幼稚園児なのに一番先に作ってしまう男の子がいたりと一人ひとりの得意な分野がよく分かりました。絵に力が入ってしまったりずっと絵を描いている女の子がいたり、出来上がったたこを夢中になって飛ばしているうちに何回も壊してしまう女の子がいたり、本当にそれぞれやりたいことが違うんだなということを実感しました。そしてそういった子どもたちへの対応もまた様々なんだということがわかった一面もありました。

4. 講座をやってみての反省

この講座を開く前に個人的なことで忙しく、スタッフのみんなへの連絡がYOUサタ直前になってしまいました。そのため、当日の動きやいろいろな場面での対策がきちんとできていなかったことは本当に申し訳なかったと思いました。スタッフのみんなに不安感を持たせないためにも早めの連絡、早めの打ち合わせをしっかりとすることが大切だと思いました。それによってスタッフに任せられるところは任せればキャプテンの負担も軽くなると思います。

講座中はどの子どもも自分のペースでたこを作っていました。好きな絵を描いて自分なりに工夫したたこを作っていました。「自分だけのもの」というものが講座の中に入ると一生懸命になれるような気がしたので、これから先にはそんなことも考えに入れて講座を開いていきたいと思いました。

第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	あけてびっくり飛び出す絵本	第13回11月8日(午後) アシスタントスタッフ数 8名 参加者数 13名
キャプテン名	武末裕子 (美術専攻2年)	
指導教官名	横田通教官	

・講座のねらい

紙という身近な材料を用い創造することの喜び、作品を通しての他者との交流、カードづくりでは大切な人のためにカードを作り、送る喜びを感じて欲しい。

・講座の展開

過程	活動内容	注意すること・スタッフの動き、
導入 (10分)	1、自己紹介をする。	自己紹介はキャプテン・スタッフから。元気に明るく。スタッフ1人につき子ども2人ほど、目が行き届くように座るが、特定の子どもにばかり話し掛けることの無いよう気を配る。
展開 (80分)	2、飛び出す絵本の作り方の説明を聞く。自分達で作ってみる ①はなしをうらにかく。 ②きりはなす。 ③絵を描く。 ④糊づけ。	キャプテンが予め作っておいた作品を見て構造を知る。(話づくりに時間がかかりすぎないように注意。) 子どもと交互に座り時々見てまわるなどして気を配る。
	3、(時間があったら)カードを作る。	送る人へのメッセージも書き加えるよう助言する。「もらった人は嬉しいね。」と誉める。
終わり (20分)	4、片づけ。 5、発表、終了証をもらう。	持参のものが多いため忘れ物がないようによく確認させる。 一人ずつ前に出て発表。仲間の作品をよく見る。

開けてびっくり！飛び出す絵本作り

武末 裕子（美術専攻 2年）

1、講座設定理由

第三期で国語科の桐山潤さんが開いていた『飛び出す紙芝居』に参加して身近な紙工作の面白さを子どもと楽しめたため、今回カード作りも交えて簡単でおもしろい仕掛けの紙工作をしようと思い開講した。

お話お考えること、絵を描くこと、貼り付けることは小さな子どもでも出来ると思ったので年齢制限をしなかった（実際、一番年少だった子は4歳だったが、とてもユニークで素晴らしい作品を作り上げて帰っていった。）

2、講座のねらいと題材について

子ども達が自分で作った話に絵を付け（または、絵に話を付け）ひらくと飛び出す仕掛けを利用することにより、より一層インパクトがあり面白いそして世界に一つしかない自分だけの絵本づくりを楽しんでもらう事が大まかなねらいである。幼い子は絵一枚にも物語を持っており、一部分一部分にも意味づけがある。そのような絵を本にして、また成長してからみるとそのときの思い出もよみがえって来るだろう。もし文字がかけなくとも、お話を絵に織り込んで立派な本にすることが出来るはずである。

カード作りでは送る人へのメッセージも付け加えて人に送るカード作りの喜びにつなげてもらいたいというのがねらいであった。絵本は折り込みがうまく行くようにケント紙を用い、鉛筆、クレヨン、色鉛筆、マーカー等で色づけしていく。

年齢制限もなく小さな子ども達もいたので、カードの飛び出し部分もあらかじめ型を用意しておいた。カードは絵本よりオリジナリティーに欠けるが、顔を書き込むことによってその子らしくかわいらしい作品になると思った。自分の物を自分で管理してもらい、そこで知りあった新しい友達とも使用する道具を貸し借りすることによっての交流を図りたいと思い道具はほぼ持参させ、YOUサタ備品からの道具もすくなめに用意してみた。

3、参加者の取り組みの様子

お話をまず考えてから絵本作りに入ったためはじめは手がつかない子が目立った。しかし時間ぎりぎりではあったが子どもたちは楽しそうに活動していた。スタッフと子どもがほぼ交互に座っていた為、スタッフと子ども間のコミュニケーションは取れたが、新しい友達同士での交流は少なかったように思う。

年齢制限がなかったこともあって年齢の幅（4歳から11歳まで）はあったが、みんな真剣にすばらしい作品作りをしていた。また、当日参加の子どもも楽しんでくれたようだったが、道具をあまり余分に用意していなかったため道具の事についてはもう少し用意しておいたほうがよいかもしれない。元気な子は教室中を跳ね回っていて（4歳の女の子）、滑って転んでスタッフとしてはひやひやした場面も見受けられた。年齢制限がない講座ではスタッフの目が行き届くようにスタッフの人数と参加者人数を出来る限り同じぐらいにすることが出来ればと思う。

結果的にはすべての子が絵本を作り上げる事が出来たので（カードまで行かなかった子もいた）子供たちもお家に帰って保護者の方に見せると、満足してくれたよう

だった。みんな真剣に取り組んでいたのでも一人一人すばらしい作品となった。話しが書けなかった子も楽しい作品作りが出来ていた。

4良かった点・反省点

良かった点はまず何よりも、子供たちが閉会式にたどり着いた時の第一声が「あー楽しかった。」だったということである。そして作品が完成したこと。ご両親に帰って作品を見てもらうことが子どもの楽しみである為、作品を完成させることはこの講座においてはそのことがとても重要であったと思う。

また、この講座に前回のキャプテンでいらっしゃった桐山さんがいて下さり、良いアドバイスをいただけたこともとてもよい点であったと思う。

改善点としては作り方の説明をもっと詳しくしていたなら、子供たちの手がかもっとスムーズに進みよかったのではないかとおもう。また、スタッフの中にも作り方において間違いをしている人もいた。これはスタッフ同士の打ち合わせが不十分であったためでもあると思う。やはり事前の打ち合わせはしっかりと説明しておくとともに、どんなにいそがしくても実際作ってみてもらおうほうがよいだろう。

さらに残念ながら、鉛筆をなくしてしまい泣いてしまった子がいて スタッフが一緒に探したのだが見つからなかった子もいた。このように悲しい思いを子どもがすることのないよう注意しておくべきであった。やはりせっかくYOUサタに来たのだから楽しんで帰ってもらいたかった。

そして何より残念だったのは発表の時間が少なくて、一人一人にお話を声に出して読んでもらえなかったことである。(絵本を開いてみんなに見せ合う時間しか持てなかった。)もっと子どもの作業ペースを予測して時間配分が出来ていたらよかったと思う。

5参加者・保護者の声より

アンケートの結果では皆、楽しんで帰って来たと思ったのでとても嬉しかった。帰ってから満足げに報告をし絵本を見せてから、また絵や話をかきたした子もいたようだ。

又、「情熱をいつまでも忘れないで。」との声援や、問いかけをもっと具体的にしてみた方が子どもは話しやすいただろうとのアドバイスもあった。

そしてだれより気にかかっていたえんぴつをなくしてしまった子のお母さんから『なくしていた鉛筆がその後サインペンの袋からひょっこり出てきました。親も、本人が納得するまで一緒に捜していただいたこと、とても印象に残りました。娘は、気のせいかなその後泣くことが少なくなり、少しずつ泣かずに頑張っているように見受けられます。先生方、ありがとうございました。』というありがたいおはがきをたった今(本当にたった今、“5参加者…”を書き始めようというこの文の〆切日である12月19日20時)に「今日届いたんですよ。」と土井先生からいただいた。

こんな偶然のようなことも、土井先生やYOUサタに関わる全ての人、また、子どもたち、保護者の方々のはたらきかけあつてのことなのであろう。

第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	永久ゴマをつくろう	第13回 11月8日 (午後) アシスタントスタッフ数 名 参加者数 3 名
キャプテン名	柚木 亘 (理科 専攻 4 年)	
指導教官名	癸生川武次 教官	

・講座のねらい

.....
 電磁誘導とトランジスタを利用して、まわり続けるコマを作る。

.....
 電磁誘導またはトランジスタについて理解してほしい。

・講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
1.自己紹介		10
2.コマを作る		70
3.原理および電磁誘導、またはトランジスタについての説明		30
4.修了証を渡す		5

永久ゴマをまわそう

柚木 亘 (理科専攻 4年)

1. ねらい

誘導電流とトランジスタを利用して、磁石で作ったコマをまわしてみましよう。

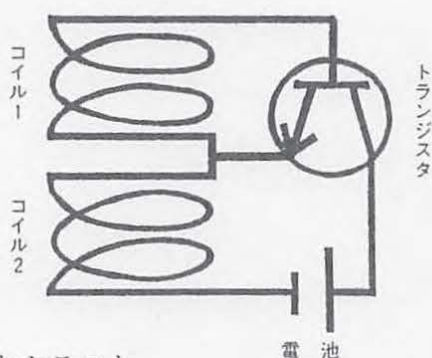
2. 用意するもの

コイル、トランジスタ、電池、磁石で作ったコマ、コマが回る台。

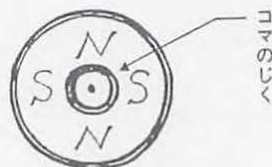
3. やり方

コイル、トランジスタ、電池を図2のようにつなぎます。その上にコマがまわる台を置き、その上で磁石で作ったコマをまわしてみましよう。コマが、まわり続けます。

<図2>



<図3>



4. わかること

このコマに使われていた磁石は図3のようになっています。例えば、コマのN極がコイル1に近づくと、コイル1には、コイル1の上部がN極になる向きに誘導電流が生じます。すると、トランジスタがその生じた電流を増幅して、コイル2に流します。コイル2は、コイル1とは逆向きにエナメル線がまいてある為、コイル2の上部はS極になります。そのため、コマが引き付けられて加速します。その逆に、コマのN極が遠ざかろうとするときは、コイル2の上部はN極になり、コマは反発して加速します。そのためにコマはまわり続けるのです。

5. 参考になる本

『日常の物理辞典』 近角聡信著 東京堂出版
兵庫物理サークル(にわたりの卵)ホームページ

第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	おりがみランド	第12回 9月27日(午前)
		アシスタントスタッフ数 3名
		参加者数 5名
キャプテン名	齊藤 聖子 (家庭専攻3年) 増田 紀子 (家庭専攻3年)	
指導教官名	栗津原 宏子 教官	

・講座のねらい

- ...一枚の正方形の紙が様々な形に変化する楽しさを感じてほしい。
- ...折り紙を折り、自分らしい作品を作る喜びを感じてほしい。

・講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
1. 自己紹介(スタッフ、子ども) 2. 今日の活動の流れを説明する。	・学年と名前程度 ・説明すると同時にあらかじめ作っておいた見本を示す。	15
3. 製作をする (1)スノーレッツを折る。 (2)スノーレッツを4羽すべて折ることができたら、画用紙にそれらをはって、自由に絵を描いてもらう。 (3)スノーレッツの作品ができあがったら、用意した本などを見て自由に折り紙を楽しむ。	・子ども一人に対しスタッフが一人つき、一緒にコミュニケーションを取りながら折っていく。 ・子どもが自由に工夫できるように支援する。 ・はさみなどの扱いに注意する。 ・子どもの良い所を褒め、みんなに伝えるようにする。 ・楽しい雰囲気になるよう、トトロのBGMをかけておく。	90
4. 片づけ、成果発表をする。	・使った道具をきちんと片つけるようにし、紙くずのないようにする。 ・一人一人スノーレッツの作品をみんなの前で発表する。 ・終了証をわたすとき、あらかじめ作っておいた折り紙のペンダントを首にかける。	15

おりがみランド

斉藤聖子・増田紀子(家庭専攻3年)

1. はじめに

2年生からYOU遊サタデーにスタッフとして参加しはじめ、この第12回で早くも5回目の参加となった。今回は初めてのキャプテンということで、特別な思いで臨んだYOU遊サタデーであった。私たち3年生は約1ヶ月前に教育実習を終えたばかりで、まだ子どもたちとの思い出や、授業に対して「こうすればよかった」という後悔の念に引きずられている時期であった。したがって、教育実習の思いが残っているこの時期だからこそ、実習での体験を生かして、実習で出来なかったことをYOU遊サタデーでやってみようという気持ちになった。初めてのキャプテンで不安は尽きなかったが、様々な試みをし、何かひとつでも得るものがあればいいと願いながらYOU遊サタデーに臨んだ。

今回、「おりがみランド」という講座を設定するにあたって、考えたことが2つある。まず1つは、私たち自身が楽しめるものであるということである。なかなか講座を決定できなかった私たちに、先輩方があげてくださった講座の候補の中に、「おりがみ」があった。もともと好きであったというのが一番の理由であるが、「おりがみ」ならスタッフも楽しむことが出来るのではないかと思い決定した。キャプテン、スタッフである私たちが楽しむことによって、その気持ちが少しでも参加してくれた子どもたちに伝われば、子どもたちは「楽しかった」という言葉を残して帰ってくれるのではないかと思った。

2つめは、一枚の平面である「おりがみ」が、折り方によって様々な立体に変化するおもしろさを知ってもらいたいということである。また、「おりがみ」は、市販のおりがみを用いなくても、新聞紙、広告、いらない紙等を使ってできるという手軽な遊びであるという点も、講座を設定した理由のひとつである。

また、スノーレッツをみんなで折るという設定にしたのは、オリンピックが長野で行われるからということもあるが、実際にぬいぐるみなどで動いているものも、折り紙で折ることができ、それを自分の手で作り上げたという喜びを味わってほしかったからである。

以上のように、様々な思いで臨んだYOU遊サタデーであったが、当日どのような講座になったのかを以下に述べていきたいと思う。

2. 当日の様子

当日は、初めて開く講座、初めてのキャプテンということで、少し緊張し、どきどきしていたが、子どもたちが楽しんでくれるように、居心地が良い講座になるように配慮した。前日までの準備では、折り紙という個人的で地味な作業をより楽しく明るくできるように、「おりがみランド」という文字を画用紙で作ったり、模造紙で大きなスノーレッツを折り絵の具で色を塗ったり、他の装飾品を折り紙で作ったりして壁にはりつけ、さらに、折っている途中場が静かになってしまうことを考えて、子どもが喜びそうなトトロの音楽をかけた。子どもたちが和める楽しい雰囲気を作る努力をした。少人数だったため、スタッフ一人一人にスノーレッツの折り方を覚えてもらい、マンツーマンで子どもたちに折り方を教え、スタッフも教えるだけでなく子どもと共に折った。そしてただスノーレッツを折るだけでなく、それを画用紙に貼り付けて、それぞれの子どもの個性がでるように、空いて

いるところに絵を描くことにした。さらに、スノーレッツを折り終えた子ももっといろいろなものを折ることができるように、他の折り方の本も用意した。

幼稚園の子もおり、みんなうまく作ることができるかとても不安だったが、折り紙が好きな子どもが集まったせいか、真剣に取り組んでいて、できあがったときはうれしそうな笑顔が見られた。また、飲み込みが早く、一回折り方を教えるとかなり難しい折り方でも慣れてしまい、スタッフがあまり指示しなくてもどんどん折り進めていく子どももいた。画用紙にはりつけて、絵を描く場面では、スノーレッツがスキーをしたり、雪合戦をしている様子を描く子、オリンピックに関連づけて描く子、女の子をとなりに描き、「この女の子に恋をしているの!」と豊かな想像をしている子…などそれぞれの子が、周りの子やスタッフに感わされることなく、自分らしい、自分だけのスノーレッツを作り上げていった。スノーレッツを作った後も、それぞれ自分の好きなものをどんどんと作ることに取り組んでいた。また、トトロの音楽を流したことに関して、子どもたちもそれにのったり、一緒に口ずさんだりと明るい雰囲気となってよかった。

スタッフは、子どもに言葉掛けをしながら(学校の様子を聞くなど)、一緒に折り紙を折る楽しさを感じ、子どもに作り方を教えながら自分の作品も完成させて、子どもと同じ喜びを味わうことができた。子ども一人一人に寄り添って共に作り、子どもの良いところを認め、他の子どもたちに伝えることにより、個人的な作業である折り紙を通してコミュニケーションを図ることができてよかった。

3.反省・感想

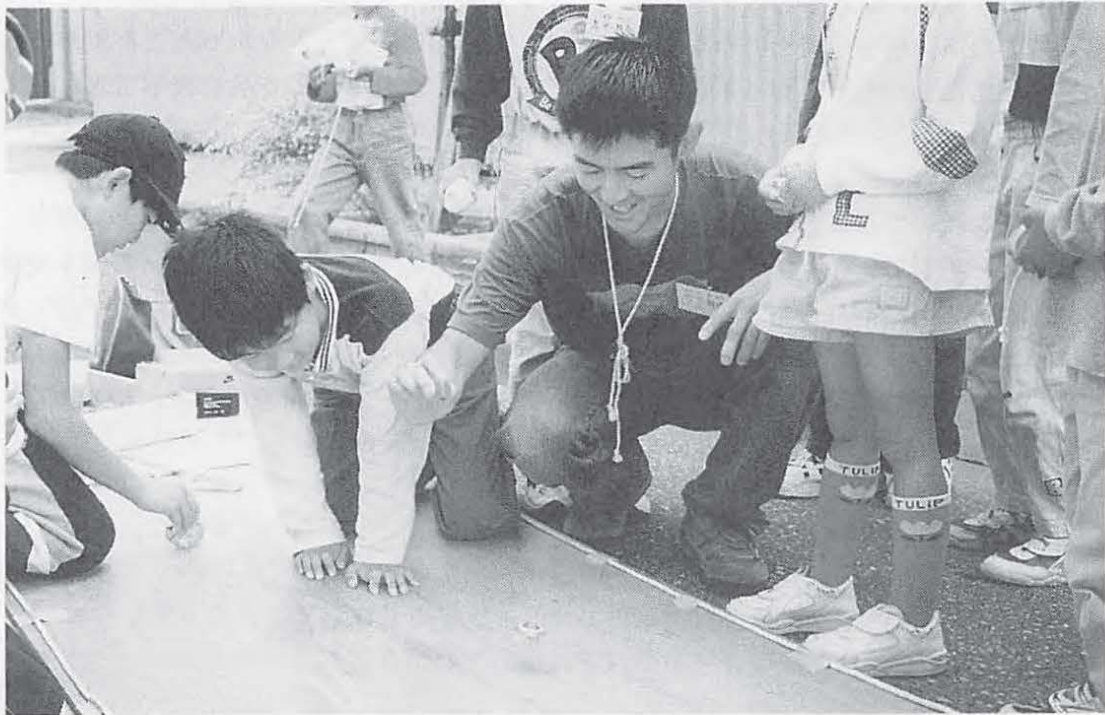
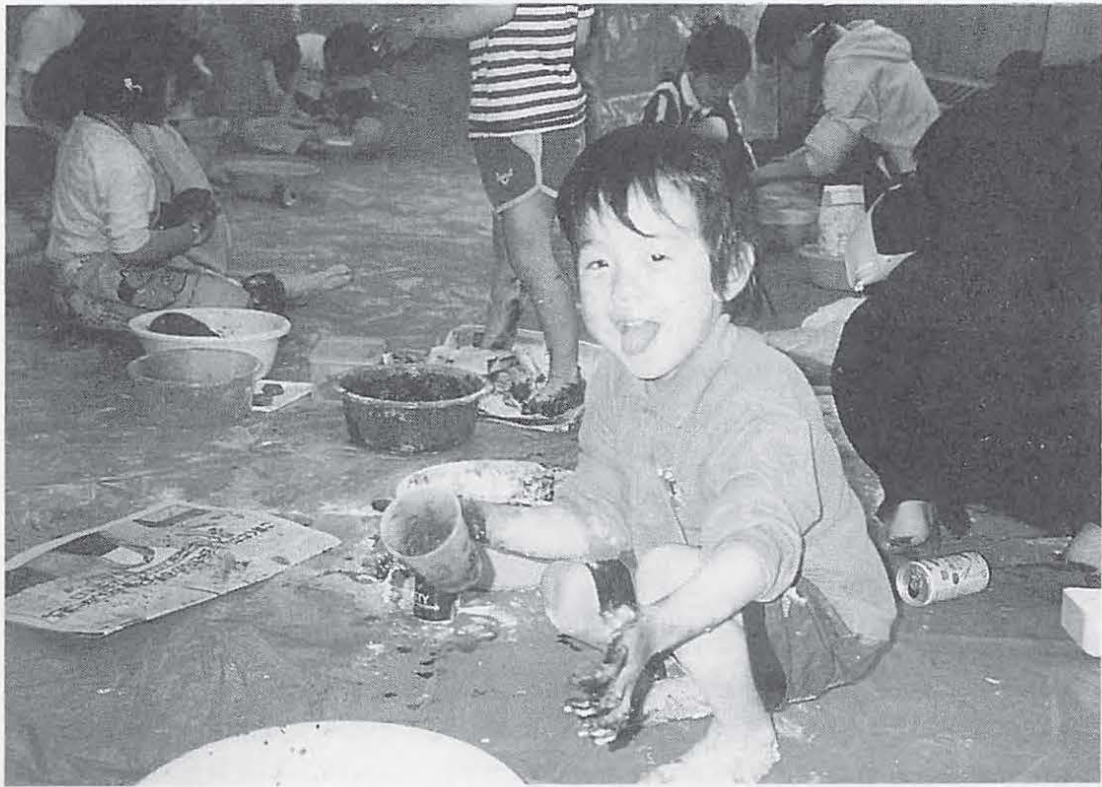
今回講座を開いてみて、良かった点と反省すべき点をあげてみようと思う。

まず良かった点は、人数が少なく、アットホームな雰囲気の中、一対一で子どもと向き合い、コミュニケーションをとりながら教えてあげることができたことである。また、自分で作ったスノーレッツを画用紙にはり、そこに絵を加えることにより、それぞれの個性が豊かに表現された自分だけの作品を作ることができた。

反省すべき点は、子どもとスタッフが一対一であったため、子どもとスタッフとの交流は多く持てたが、子ども同士のつながりをあまり深めることができなかったことである。また、子どもたちがもっともっと自由に動けるように、より多くの作品を提示できればよかった。

今回講座を開いてみて、自由な発想を素直に表現できる子どもたちの創造力と純粋な心に感激した。そして、キャプテンとして講座を開くことの大変さを実感した。準備が完璧だと思っても、前日や当日の朝、やり残したことに気づき、直前になって慌ててしまうことがあった。また、子どもたちを預かる責任の重さや、子どもに楽しんで帰ってもらう工夫の重要性を感じた。そして、キャプテンになって、一から講座を作り、やり抜くことで、YOU遊サタデーをやったという充実感を味わうことができた。

体験講座



1.

No.2 講座名 サラサラ・ドロドロ・カッチカチ



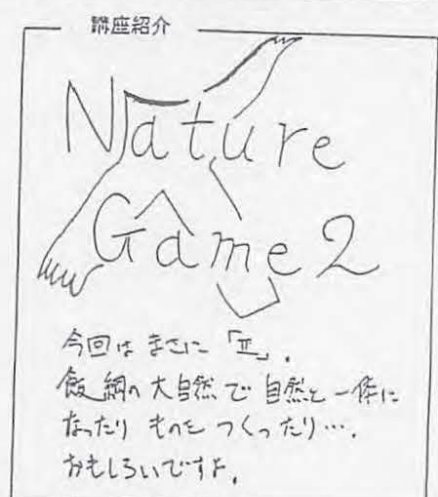
2.

No.6 講座名 でっかいでっかい しぼん玉をつくらう!!



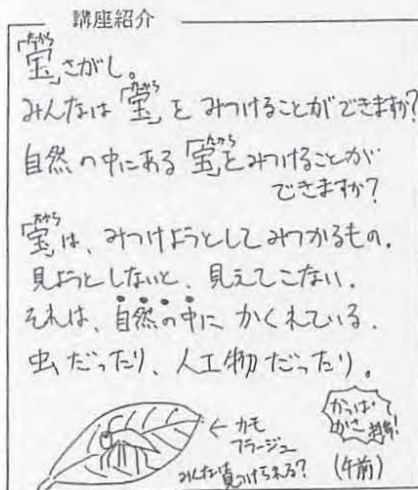
3.

No.1 講座名 ナチュラルゲームⅡ



4.

No.3 講座名 宝さがし



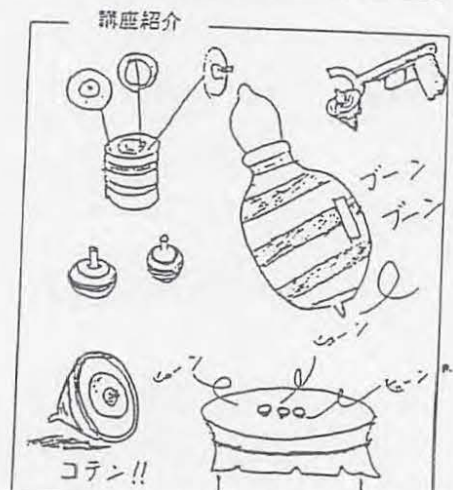
5.

No.2 講座名 山あそび



6.

No.6 講座名 こま、コマ、独学で遊ぶ!



7.

No.17 講座名 金剛が金になる!? 錬金術の秘密



8.

No.13 講座名 つくらひま 銀の鏡



9.

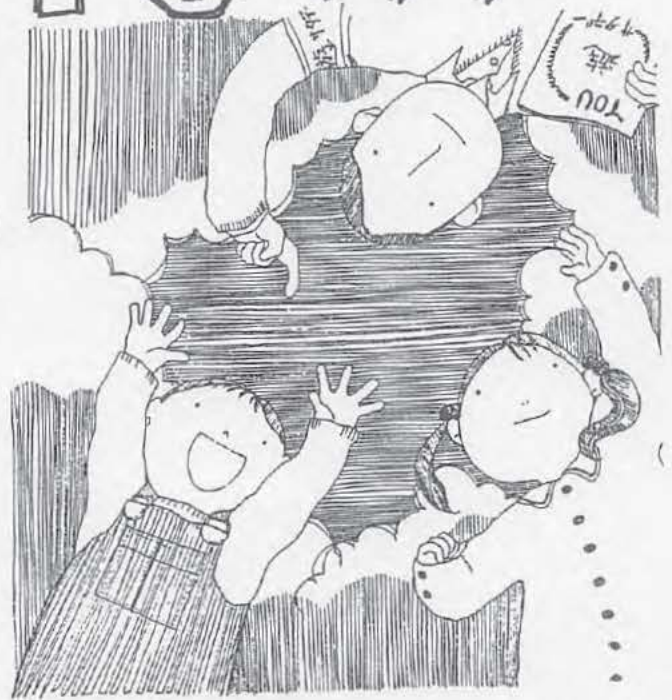
No.12 講座名 気分はめいたんてい



HOW TO サタデー

この「HOW TO サタデー」は、
YOU遊サタデーの講座の中で
御家庭や地域でも手軽にできる
講座を紹介したものです。ぜひ
御活用ください。

第4期 信大YOU遊サタデー
実行委員会
発行日 1997.9.27



(こむきこで
ねんどをつくろう)

- よいするもの—
- ・こむきこ 1kg
 - ・みず
 - ・しお
 - ・よしやくベに
 - ・でんしレンジ
 - ・よじれてもよいふくそう

①



じんご
こむきこで
いいよ

②



うさぎ
はしに
なごう

③

みずをすこしかつくわえ、しおを
たくさんいれておみねくらいつ
かたさになるまでよくこねよう。



ヤムベト
こについで
くるよ!!
かまじい
なご

④



⑦



できあがり



おひさまのもとで
ゆっくりさわがせよ。

⑥

でんしレンジで、ひよめんが
けわくまでチンしよう!!



ちん
らいさいものなら30びょう
おおきめのなら1じぶんくらい。

⑤

かたちをつくらう!!



たええばしまうま。

いろをつけるために
よしやくベに
まぜよう!!

※よくべには
いろが
はいるよ!!
いろのこが
あまるよ。

よ〜くこねると、まんべん
なくこむきこねんとたいう
がっくよ。かんぱ、てこねよう



- ① よういするもの
- 600ml 入りの台所洗剤 洗剤A
 - 300ml 入りの台所洗剤 洗剤B
 - グラニュー糖
 - グリセリン (薬局で400円位)
 - お水 (できれば精製水)

② シャボン液のつくりかた

- ① 水 80 ml に グラニュー糖 27g を入れて よくかきませよう。

- ② 水 530 ml に 洗剤A 135ml と 洗剤B 45ml とグリセリン 90ml を入れよう。

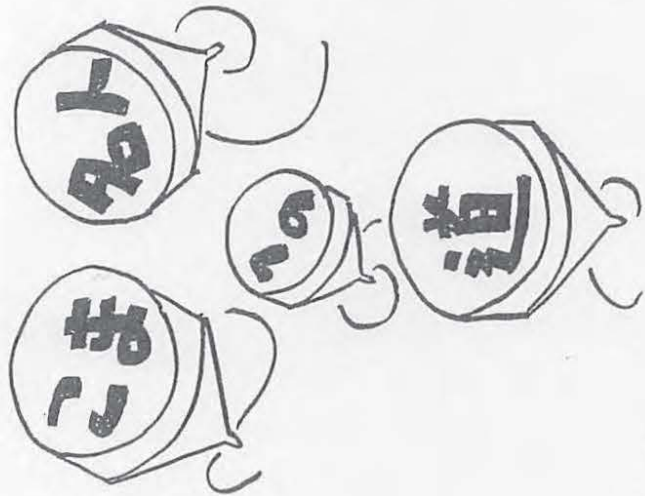
- ③ ①と②を あわだてないように、よくまぜたら できあがり~~~~

ここでちょっとヒ・ミ・ツ
 高くとばしたい時は、炭酸ジュースを入れるとよくとぶよ。
 つよくて大きなシャボン玉をつくりたかったら洗たくのりを入れるといいよ。

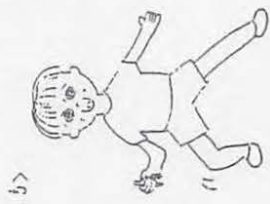


④ さあ とぼさう。

おもしろい道具を紹介するね。

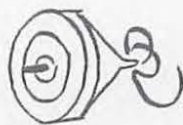


① たこ糸のつくりかた
 たこ糸は、たこ糸のつくりかた
 たこ糸のつくりかた
 たこ糸のつくりかた
 たこ糸のつくりかた
 たこ糸のつくりかた



② たこ糸のつくりかた
 たこ糸のつくりかた
 たこ糸のつくりかた
 たこ糸のつくりかた
 たこ糸のつくりかた

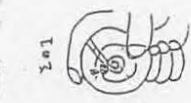
③ たこ糸のつくりかた
 たこ糸のつくりかた
 たこ糸のつくりかた
 たこ糸のつくりかた
 たこ糸のつくりかた



④ たこ糸のつくりかた
 たこ糸のつくりかた
 たこ糸のつくりかた
 たこ糸のつくりかた
 たこ糸のつくりかた

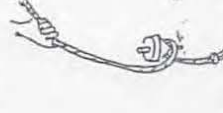


⑤ たこ糸のつくりかた
 たこ糸のつくりかた
 たこ糸のつくりかた
 たこ糸のつくりかた
 たこ糸のつくりかた



⑥ たこ糸のつくりかた
 たこ糸のつくりかた
 たこ糸のつくりかた
 たこ糸のつくりかた
 たこ糸のつくりかた

こぶのやり



くせいの花びら

① 右足の踵を踏みこむように、膝の上に手を置き、手首を上下に動かす。くせいのやりやすい。

くせいのやり

② 右足の踵を踏みこむように、膝の上に手を置き、手首を上下に動かす。くせいのやりやすい。

くせいのやり

③ 右足の踵を踏みこむように、膝の上に手を置き、手首を上下に動かす。くせいのやりやすい。

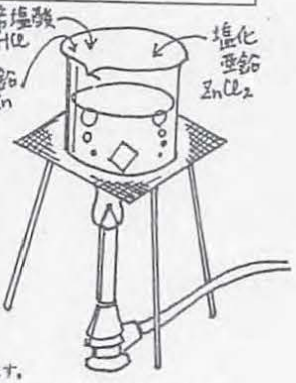
銅が金になる！？ 錬金術の秘密

銅が金になるなんて、そんなことがあるのでしょうか？
でもこの実験では、銅が見事に金色になってしまうのです。

●実験で使う材料

銅板	希硫酸 (約6%)	塩化亜鉛 (飽和水溶液)	純水
亜鉛 (粉末)	希塩酸		

- ☆実験のやりかた
1. 亜鉛粉末約5gをビーカーに入れ、希塩酸を少量加え、さらに塩化亜鉛飽和水溶液を加えてビーカーの2/3くらいまで満たします。
 2. 1のビーカーをガスバーナーで加熱しておきます。(沸騰すると、溶液の小さな泡が飛ぶことがあるので注意！)
 3. 銅板を希硫酸で洗い、さらに水洗いします。
 4. ピンセットを使って、きれいにした銅板をビーカーの溶液の中に入れ、数分間おきます。
 5. 銅板が金色になったら取り出し、水分をとります。



6. 金色になった銅板をピンセットではさみ、ガスバーナーの炎の中で加熱します。
 7. 金色になったら炎から出して冷まし、水洗いしてできあがりです。
- やけどに注意！

くせいのやり



くせいのやり

① 右足の踵を踏みこむように、膝の上に手を置き、手首を上下に動かす。くせいのやりやすい。

くせいのやり

② 右足の踵を踏みこむように、膝の上に手を置き、手首を上下に動かす。くせいのやりやすい。

くせいのやり

③ 右足の踵を踏みこむように、膝の上に手を置き、手首を上下に動かす。くせいのやりやすい。

-9-

くせいのやり



くせいのやり

① 右足の踵を踏みこむように、膝の上に手を置き、手首を上下に動かす。くせいのやりやすい。

くせいのやり

② 右足の踵を踏みこむように、膝の上に手を置き、手首を上下に動かす。くせいのやりやすい。

くせいのやり

③ 右足の踵を踏みこむように、膝の上に手を置き、手首を上下に動かす。くせいのやりやすい。

葉っぱに、電気めっきをしよう！

葉っぱには電気が流れません、それなのに電気めっきなんておもしろいと思うかもしれませんが、電気が流れるようになる処理をすれば不可能ではないのです。

●実験で使った材料

ヒイラギの葉	水酸化ナトリウム水溶液 (3%)	希硫酸 (0.1%, 0.01%)
塩化第一スズ	塩化パラジウム	次亜リン酸ナトリウム
硫酸ニッケル	水酸化ナトリウム	純水
		エタノール

準備し、電解槽を作ります。

- a. ヒイラギの葉を8%の水酸化ナトリウム水溶液で30分漬けます(手に溶液が付いたり目に入らないよう注意！)
- b. 茶色くなったら取り出し、流水でよく洗います。そして、歯ブラシで軽くたたく。葉内を取り除きます。



③ 強くとくと、葉脈も切れるので気を付けて！

準備は準備に準備がつくようにする溶液を、2種類作ります。

溶液1. 0.1%の希硫酸500mlに、塩化第一スズ0.5gを溶かします。
溶液2. 0.01%の希硫酸1lに塩化パラジウム0.2gを溶かします。

④ 注意！ 溶けるのに2時間くらいかかるよ！

- 準備は準備に準備がつくようにする溶液を、2種類作ります。
- a. 200mlの純水に21%の次亜リン酸ナトリウム溶液を10ml入れます。
 - b. よく混ぜたら39.5%の硫酸アンモニウム85mlを混ぜます。
 - c. さらに、ケエン酸三ナトリウム30gを入れます。
 - d. 次に、26.5%の硫酸ニッケル溶液を50ml加え、よくかき混ぜます。これに15%の水酸化ナトリウムを少しずつ加えて、pH9にします。
 - e. できた溶液に純水を足し、500mlにします。

☆さあ、電解めっきをしましょう。

① 電解槽 エタノールにひたして水分をとります。 ② さらに準備で作った塩化第一スズ溶液に1分間ひたし、純水でよく洗います。 ③ 次に塩化パラジウム溶液に1分間ひたし、水洗いします。これで、電気が通ります。 ④ ニッケルめっき液を両面にかけて、50℃~60℃に温めます。 ⑤ 電解めっき液に浸します。水洗いして乾かしてできあがり。

⑥ 手に溶液をつけないように。

※この実験は、理科の先生の指導で行って下さい。



YOU遊サタデー 「つくってみよう銀の鏡」講座 教材研究

講座の内容

- <実験1. アルデヒドの還元性を利用した銀鏡反応>
- <実験2. グルコースの還元性を利用した銀鏡反応>
- <実験3. マジックミラーの作成>

- <実験1. アルデヒドの還元性を利用した銀鏡反応>

試験管に硝酸銀とアンモニアの混合水溶液を入れ、ホルムアルデヒドで還元して管内壁に銀鏡を作る。

高校化学でも扱う有名なものだが、これだけではきれいな銀鏡にならない。そこで独自の工夫として、あらかじめ管内壁に酸化還元触媒(Pd)を付着させてから反応させた。

実験手順

硝酸銀(AgNO₃)—アンモニア(NH₃)混合水溶液の調整 (事前の準備)

銀イオンが水溶液中に安定に存在できる条件をつくるため、アンミン錯体(ジアンミン銀イオン)を生成させる。



- ・ 蒸留水 100ml に硝酸銀 4.2g、濃アンモニア水(25%)8mlを加え、よく溶かす。

試験管への酸化還元触媒(Pd)付着



1. 試験管にSnCl₂水溶液を入れ、放置(感受性化)。3分間たったらこれをあける。

[SnCl₂水溶液は、濃度2%のものを使用]

2. 試験管にPdCl₂溶液を入れ、放置(活性化)。3分間たったらこれをあける。

[PdCl₂溶液は、1リットルの0.01%HClにPdCl₂ 0.2gをとかしたものを使用]

主反応(アルデヒドによる銀イオンの還元)



- ・ 酸化還元触媒(Pd)を付着させた試験管に、硝酸銀—アンモニア混合水溶液を入れ、スポイトでホルムアルデヒド(HCHO)を加える。加えた瞬間に銀鏡ができる。

<実験2. グルコースの還元性を利用した銀鏡反応>

ガラスを硝酸銀とアンモニアの混合水溶液に浸け、グルコースで還元して銀鏡を作る。

<実験3. マジックミラーの作成>

- 2と同じ操作を、溶液の濃度や実験手順を変えて行うことにより、マジックミラーを作る。

実験手順はHow to サタデーを参照。「'97 青少年のための科学の祭典」より抜粋した。

- ・ 使用した器具(スポイト、ピーカーなど)も全て銀鏡ができてしまうので注意。
- ・ 反応に時間がかかるので、あらかじめガラスを湯につけて暖めることにより反応速度を高めた。充分に銀鏡ができるまでの所要時間は約10分。
- ・ アルデヒドで銀を還元するためには、溶液をアルカリ性にしておくことが必要である。ただし単純にアルカリ性にすると酸化銀Ag₂Oをつくって沈殿してしまうので、アンミン錯体をつくっておく。
- ・ ここでは、Snは反応にあまり大きな寄与を及ぼさないようである。ガラス面を感受性化させる効果があるか?
- ・ 廃液をそのままにしておくこと、爆発性のあるアジ化銀AgN₃を生成してしまふ。これを防ぐためには、廃液に食塩を入れ、銀イオンを塩化銀AgClにして沈殿させておく。

[ガラスの準備]

顕微鏡のスライドガラスを用いる。(大きなものでは、反応に時間がかかる上に、むらができやすく、素人では難しい。)地学科、岩井先生にわけて頂いた。

メッキ反応は汚れに敏感であり、ガラスがきれいになっているかどうかで反応の成否がほぼまってしまう。

ガラス洗浄の手順(前日の準備)

1. 食器用洗剤で洗い、水道水で流す。
 2. 蒸留水で流す。
 3. アセトンにつけ、有機物を除去。
 4. 8%NaOHにつけ、ガラスの表面ごと、こびりついた汚れを落とす。
 5. 蒸留水につけ、使用直前までおく。
- このあと超音波洗浄を行うと良い。

昔は、有機物の除去に2クロム酸カリウムK₂Cr₂O₇と硫酸の混合物(クロコンとよばれる)が使われていた。これを使うと非常にきれいに洗浄できるが、環境汚染が著しいため、現在では使用が禁止されている。

鏡をつくってみよう

東京都立川区立高野中学校 大久保 秀樹

●どんな実験なの？

現在の鏡の多くは、真空蒸着法といって、真空中に近い状態にした容器の中にガラスを入れ、銀の蒸気をガラス面につけることによりつくられています。しかし、この実験では、銀腐反応といって、水溶液中の銀イオンをガラス面の上で元の銀にもどします。今でもこの方法で実際に鏡をつくっている職人さんがいます。ここでは、職人さんに教えていただいた「伝統的」な方法で鏡づくりをします。

●実験のしかたは？

① 薬品の調合

- A液 硝酸銀 4.2g
ブドウ糖 50mL
蒸留水 100mL
- B液 水酸化ナトリウム 2.5g
蒸留水 200mL
- B液の中にA液を入れる。

② ガラスの洗浄

- 1) 中性洗剤をスポンジでガラス面に塗る。
2) 塩化ナトリウム溶液(2%)で洗う。



③ 鏡の面をつくり

- 1) ガラス面に合わせた大きさの紙を貼る。
2) A+B=混合液 300mLにブドウ糖 5g(2%)を加える。
3) 2)のガラス面に貼る。

④ 鏡の面の保護

- 1) 鏡の面に合わせた大きさの紙を貼る。
2) エタノールで洗う。ドライヤーで乾燥機を使う。
3) エタノールスプレーを吹く。4) 保護紙をはがす。

⑤ 枠をつくり

- 1) 枠の紙を貼る。
2) エタノールで洗う。ドライヤーで乾燥機を使う。
3) エタノールスプレーを吹く。4) 保護紙をはがす。



シリムパック(両面)は大手スーパーなどの実験用品売場で、だいたい100円程度で売っています。

●気をつけよう

- ・A液(硝酸銀+アンモニア水の溶液)とB液(水酸化ナトリウム溶液)を混合するとき、B液の中にA液を入れます。逆にすると危険です。(B液はアルカリ性です。)
- ・硝酸銀が含まれている溶液に直接触れると茶色に色がつくので、ゴム手袋をして実験してください。万一、肌についたら、すぐに水でよく洗ってください。
- ・混合液を長く放置するとアジ化銀ができて爆発の危険があります。実験が終わったら、すぐに食塩を加えて多量の水でうすめてから捨ててください。

●もっとくわしく知るために

この実験は、私がきれいな鏡を作りたくて、職人さんに教えていただいたものです。薬品の分量などは、職人さんが長年の「勘」でやっているものを、実験室でもできるように数値化しました。高校の化学の教科書や学習図鑑などに、銀鏡反応として載っていますが、使う薬品や分量が少し違います。この少しの違いがきれいな鏡をつくるために重要なのです。溶液の温度などは、当日の天候にもよるようです。協力 鈴木製鏡所(東京都荒川区)

マジックミラーを作ろう

東京都立立川区立高野中学校 大久保 秀樹
向 金田 民江

●どんな実験なの？

鏡は、ガラスの裏に薄い銀やアルミニウムをメッキしてあります。この薄い銀をもっと厚くしていくと、一部の光が鏡を通り抜けてしまいます。この原理を利用したものがマジックミラーです。マジックミラーは、鏡のようだけど、反対側から見ると向こうが見えてしまうというもので、玄関のドアミラーなどに利用されています。

銀(イオン)が溶けている液体と、水にブドウ糖を溶かした液体を混ぜ合わせると、ピカピカの銀の膜ができます。今回はスライドガラスを小さな手鏡のようなマジックミラーにしてみよう。

●実験のしかたは？

硝酸銀 1.7g
蒸留水 100mL

A液 B液

ブドウ糖 2%水溶液

C液

1) A液 4mL
2) 蒸留水 100mLを加えて溶液を透明にするまでを加える。
3) B液 2mL

2) 鏡の面に貼る

3) 鏡の面を乾かす

スライドガラスはきれいに洗って塩化ナトリウム水溶液ですすいでから使用する。白い紙のスライドガラスの上で作業する。約5分後スライドガラスの上に水をかける。そしてもう一度水洗。

2) 水洗

透明になるまで乾かす

●気をつけよう

- ① 銀イオンの溶けている液を直接手で触れると手が茶色になるので、ゴム手袋をしましょう。
- ② 水酸化ナトリウム水溶液はアルカリ性が強い液体なので、万一が皮膚に触れたら大量の水で洗い流してください。
- ③ 実験後はC液は保存せず、食塩を加えてから多量の水でうすめて捨ててください。

●もっとくわしく知るために

- ・榎原正気 「化学と教育」 39巻 2号 p.133 「あれ！顔がうつる！」 (1991)
この鏡作りについては上の本をもとにして、立川高校の化学部の人たちが開発しました。
- ・黒瀬雄士 「化学と教育」 42巻 4号 p.246 「鏡をつくる」 (1994)
- ・大久保秀樹 「'96 青少年のための科学の祭典全国大会実験解説集」 p.176 「鏡をつくってみよう」 (1996)

第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	サラサラ・ドロドロ ・カッチカチ (小麦粉粘土)	第11回 5月 24日(午後) アシスタントスタッフ数 6名 参加者数 20名
キャプテン名	唐木紫織 森下房枝 (家庭専攻3年)	
指導教官名	萩原應至・松岡英子教官	

・講座のねらい

小麦粉から粘土を作る作業のなかで小麦粉の感触を楽しみ、造形することを通して、
小麦粉の性質に気付くとともに身近な物で遊ぶことができることに気付く。

・講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
・準備 靴下を脱ぐ トイレに行く ・自己紹介をする キャプテン→スタッフ→子ども ・小麦粉粘土を作って遊ぼう 見本を提示 粘土を作る 「サラサラ」な感じを体験 水をいれる 「ドロドロ」な感じを体験 よくこねる 食紅で色をつける 形を造る いろいろな型や、空缶などを使って 造形遊びをしよう 電子レンジで乾かそう ・後片付け 粘土をしまう 手、足をよく洗う 必要な子どもは着替える ・修了証、メダルを渡す	・用具を準備する。 ・くつ、靴下の管理に気を付ける。 ・緊張しないよう楽しい雰囲気で行なう。自分で自己紹介ができない子供には、キャプテンが助ける。 ・水、食紅、塩の管理。 ・床が濡れる場合があるため、転ばないように注意する。 ・小麦粉の形態の変化に気付かせる。 ・遊びから後片付けへの切り替え。 ・一人で片づけることができない子供にはスタッフが手伝う。 ・仲良くしっかり遊べたことを評価する。	10 5 70 30 5

サラサラドロドロカッチカチ～小麦粉粘土～

唐木紫織（家庭専攻 3年）

森下房枝（家庭専攻 3年）

1. 講座開講に至るまで

私たちは前年度、小麦粉粘土のアシスタントスタッフとして講座に参加した。そして今期に入り、小麦粉粘土のキャプテンをやってみようということになった。

そこでまず、遊学プランをたてることにした。講座の流れはこれまでと同じように進めていこうということになり、第4期の実践記録を参考に遊学プランをつくった。そして指導教官の御指導をいただきに伺ったところ、「なぜ小麦粉を使うのか？食品で遊び捨てることはもったいない」との御指摘があった。

これまでの小麦粉粘土は「製作よりも小麦粉に全身を使って関わる」ことを重視していた。そのため、子どもたちは全身小麦粉でドロドロになるまであそんでいた。これはこの講座の趣旨に沿っていたが、指導教官の御指摘に対応することができるだけの内容が十分でなかった。

そこで私達は「なぜ小麦粉を使うのか」を明確にするとともに「どうしたら形あるもの・保存できるもの」ができるのか、また全身を使って小麦粉と関わる方法について、教官や先輩のご意見等を参考にし、教材研究をすすめることにした。

1) 教材研究

「なぜ小麦粉を使うのか」

小麦粉はどの家庭にもある身近な材料であり、これを利用して安全でかつ造形あそびをすることができる。また、「水を加えると粘りをだす」という不思議感を体験するとともに、小麦粉の性質を実感することができる。

「どうしたら形あるもの・保存できるものができるか」

水と小麦粉の量に着目し、水の量を加減することによって、造形にとって最適の固さができる。これはクッキーの生地の硬さが適しているとなった。

次に保存性に関しては、保存の利く乾麺からヒントを得た。腐敗防止のため、乾麺は塩を用いるとともに、水分を蒸発させている。そこで小麦粉粘土の製作過程の中に塩を入れる作業と、乾燥させる作業を導入した。乾燥は短時間でかつ、殺菌作用も持つ電子レンジを用いた。

さらに対象年齢が幼児～小2までのため、造形活動を支援するために、ゼリー型・クッキー型・空き缶を用意し、必要に応じて使えるようにした。

2) 講座準備

全身を使って活動ができるように、床にビニールシートや新聞紙を敷き詰め、広い活動の場を用意した。また直接水道を使うと、固形物で水道が詰まる恐れがあるため、バケツやたらい、紙コップを準備した。

造形にあたってより楽しく活動ができるように、食紅（赤、黄、青、茶、緑）、ゼリー型、クッキー型、空き缶を準備した。そして仕上げにニスを塗るため準備した。

保存を利かせるため、塩と電子レンジを準備した。その他に、石鹸、雑巾を用意した。

子どもには、小麦粉 1kg と汚れても良い服装、洗面器そして粘土や作品を持ち帰るための容器を準備してもらった。

2.子どもたちの活動の様子

子どもたちは、小麦粉に触れたとき、そのサラサラとした感触を楽しんでいた。そして、水を加え手にまとわりつくドロドロとした感触を体験していた。粘土を作る段階（小麦粉をこねる）で、一生懸命にこねる姿が見られた。たとえば、足を使ってこねる子どもや、体重をかけてこねる子どもの姿である。

また、食紅で色をつける時、どんなものを作ろうかと考える姿や、色をまんべんなくつけようと、さらにこねる姿があった。用意した空き缶に粘土を巻き付け、恐竜を作ったり、ゼリー型を使って花を作ったり、クッキー型を使っている姿が見られた。

さらに、形ができた子どもの作品から順に電子レンジにかける時、子どもたちは、「どうなるのだろうか？」と電子レンジの中を覗き込んでいた。また、ニスを塗る時にも興味深そうに取り囲んでいた。

親子で参加した子どもが多く、また一人で参加した子どもにはスタッフがつくようにしたため、どの子どもも作品をつくりあげることができた。また帰るとき子ども達は、何かやり遂げることができた満足気な顔をしていた。

3.講座を振り返って

今回の講座は、「食品である小麦粉をなぜ用いるのか」との問いかけにより、以前とは別の方向にも大きく展開した。そして、水を加えた時に起こる小麦粉の変化を楽しみながら、その特性を体で感じ、さらには造形を行い、作品として残すというところまでもっていくことができた。しかしその問いに、答えられるだけのことができたかどうか、確かな自信はない。他にもアプローチの仕方があったのではないかと意見もいただいた。しかしながら、体中を粉だらけにしながらか夢中になって小麦粉をこね、真剣な顔で形を作っている子どもたちの様子を見ると、小麦粉の感触を体験しながら体全身を使って造形あそびをするというねがいは達成することができたのではないかと思う。そして、なによりも、子どもたち自身が満足してくれたのではないかと思う。

もし、食品である小麦粉をなぜ用いるのか？との問いかけがなかったら、ここまで教材を研究するに至らなかったであろう。そして、大勢の方々のお力添えがなかったら、この講座をここまでにはできなかつたと思う。この場を借りて、お礼を申し上げたいと思う。本当にありがとうございました。

その他にも問題点として、水加減がうまくいかない子どもがいたり、電子レンジでは厚みのある作品の乾燥がうまくいかないといった点が挙がってきた。

これらの問題とともに、もう一度、“講座を開くということ”について考えていきたい。また、これは小麦粉粘土に限ったことではなく、私達一人一人が、改めてその意義を考え直してみる必要があるのではないだろうか。

第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	でっかいでっかいしゃぼん玉をつくろう。	第 11 回 5月 24 日(午後) アシスタントスタッフ数 7 名 参加者数 13 名
キャプテン名	金井 弘子 (理科専攻 3年)	第 13 回 11月 8 日(午前) アシスタントスタッフ数 10 名
指導教官名	伊藤 武 教官	参加者数 28 名

・講座のねらい

今までに作ったこともないような『大きなしゃぼん玉』を楽しく作る。また、この遊びを通して、新しいお友達をつくったり、汚れることを恐れず『どろどろ≡敷草』であることを伝えたい。

・講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
・スタッフの自己紹介をする。	・分かりやすくはっきりと自己紹介と抱負を言う。	5分
・子どもたちが自己紹介をする。	・注意事項の説明 ・みんなで輪になり手をつなぐ。	15分
・たくさんのしゃぼん玉を作ろう。	・スタッフは子どもたちの間に入り、名前が言えるような雰囲気を作る。 ・言えない子どもがいたら、一緒に名前を言い、自己紹介をする。	80分
・片付けをする。	・子どもたちと一緒にシャボン玉を作る。 ・安全面には、十分配慮する。 ・万が一、液を飲んでしまったり、目に入ってしまったら、すぐに対処をする。 ・しゃぼん玉液がなくならないように注意する。 ・あまり怒らず見守る。	20分
	・子どもたちの手や顔を洗う。 ・しゃぼん玉液を片付ける。 ・修了証を渡す。 ・会場まで連れて行く。	

でっかいでっかいしゃぼん玉をつくろう

金井 弘子 (理科専攻3年)

1. 講座を開くにあたって

今までに作ったこともないような『大きなしゃぼん玉』を楽しく作って欲しい、汚れることを気にせず、『どろどろ=勲章』であることを伝えながら、お友達と楽しんで欲しい。私は、この2つのことを願いとして講座を開きました。

また、私は、今までに何回かしゃぼん玉の講座にスタッフとして関わってきましたが、いつもいつも参加してくれる子どもたちがいます。この要因はどこにあるのか探りたかったのもこの講座を開くきっかけとなりました。

2. 子どもたちの取り組み

参加してくれたのは、3歳から幼稚園児、そして小学4年生までと、幅広い年齢層でした。まだ自分の名前が言えない子どもも、たくさんのお兄さん、お姉さんに囲まれて、とても大きなしゃぼん玉をつくろうとはりきっている姿が見られました。また、しゃぼん玉の講座にきたのは2回目という子どもや、家では作れない大きなしゃぼん玉を作りきたという子どももあり、元気いっばいの声が響いていました。しゃぼん玉を作っている子どもの顔は、とても生き生きとしていました。しゃぼん玉がなかなか作れず、どうやったらうまく作れるのだろうと友達に聞いている子ども。友達が飛ばしたしゃぼん玉を追いかけて走りまわっている子ども。自分で飛ばしたしゃぼん玉を静かに手にのせ、「しゃぼん玉をつかまえた!」とはしゃぐ子ども。新聞紙をあおいで風を作り、友達と協力して空高くまで飛ばそうとがんばっている子ども。大きなしゃぼん玉が空高くのぼると、みんなが上を向いて、「わー、おっきいね。」「きれいだね。」と一時手を休めて、しゃぼん玉が割れるまで見守っているという姿もみられました。いろいろな大きな道具を振り回して、友達にぶつけてしまい、泣かせてしまった場面もありました。「ごめんね。」と言って、一緒にしゃぼん玉液洗いに行き、すぐに仲良く作っていました。同じ型の枠を作っておかなかったのも、どうしてもこの枠がいいと言ってきかない子どももいました。「かして。」と言っても貸してくれずに一人で遊んでいる子どもも、子ども同士でルールを作り、10回交代で遊んでいました。その時は、一人がしゃぼん玉を作って、もう一人は新聞紙であおぎ、風を作っていました。協力しながら遊んでいる時は、一人で遊んでいる時よりも、もっと楽しそうな表情で、私たちにとって忘れられない笑顔でした。最初はどうしても友達と一緒に遊べなかった子どもも、一回大きなしゃぼん玉を作ったのに自信をもったせいか、自分から友達の中へ入っていて、大きなしゃぼん玉を作るコツを教えてあげながら、みんなと楽しんでいる姿がありました。また、私たちに喜んでもらいたいからなのか、「ねえ、見て、見て。」と言って、しゃぼん玉を指差している子どももいました。スタッフが見ていなかったら、「もういっかい作るからね。」と得意そうな顔で頑張り、スタッフの手をひっぱり、大きなしゃぼん玉の作り方を教えている場面もありました。中には、大きなしゃぼん玉を作るのに飽きてしまう子どももいました。ただ石けんで泡をたてている子ども、水遊びをして服がビチョビチョになってしまった子ども…。しかし、どうにかしてしゃぼん玉で遊んでもらおうなんて思ってもいなかったのも、一緒になって遊びました。ストローを見つけると、それを束にして遊びはじめました。何をやるのかなあと見て見ていると、ストローにし

しゃぼん液をつけて小さなしゃぼん玉をたくさん作り、「ぶどうみたいだあ。」と言って、どろんどろん作りました。子どもはある物をどろんどろん使い、自分でかわったしゃぼん玉を発見しながら、しゃぼん玉を作っていました。「手でもしゃぼん玉ができるよ。」と、自分のからだ全体を使って、おもいっきり遊んでいました。なにげないものであったり、身近すぎて、自分で気がつかないものにふと出会ってみたり、子どもはいろいろな角度から、いろいろなものを見ているなあと感じました。また、子どもたちが自由に使える道具、場所、そして時間をどれだけ確保してあげるか、その確保の量によって子どもたちの笑顔の輝き方、回数が変わってくるのかと感じさせられました。

小学生も今回は来てくれました。最初は、「幼稚園児ばかりでやりたくない。見ているだけでいい。」と、なかなかみんなの中に入れてませんでした。それは無理ありません。小学四年生は一人で、一番大きな子でした。その子は、家では一番大きな子で、弟、妹はいませんでした。だから、小さな子どもに対してどう接していいのか戸惑い、小さな子どもが遊ぶという中に、どう入っていったらいいのか分からなかったのだと思います。その女の子は、一人で大きな棒を使い、しゃぼん玉を作り始めました。私たちも何とかして、一緒に遊べないかと考えていました。女の子はそんな中で、大きなシャボン玉をどろんどろん作っていました。すると、一人の幼稚園の女の子が「お姉ちゃん、すごいねえ。私にも教えて。」と話しかけたのです。女の子も嬉しくなって、持ち方やしゃぼん玉液の付け方などをととても丁寧に教えていました。そして、二人で一緒にしゃぼん玉を作っていると、周りに幼稚園の子どもが二、三人集まってきた、みんなで楽しそうにしゃぼん玉を作っていました。私たちがどうする事もできなかった女の子は、幼稚園児によって、輪の中へ入って行けるきっかけを作ってもらいました。その幼稚園児に救ってもらった気持ちでいっぱいでした。女の子は、笑顔いっぱい楽しんでいました。最近では、年齢の違う子どもとたくさん的人数で遊ぶという経験が少なくなっていると思います。きっと女の子は、小さな子どもと遊んでいなかったのだと思います。この年齢が違う子どもたちが集まり、楽しくふれあう事によって、女の子も学び、そして、その輝いている笑顔や協力して楽しむ姿から、私たちが学ばせてもらったような気がします。もっとこのような機会を増やしていけたらと感じました。

小学三年生の男の子に好評だったのが、四角錐の棒でした。そこにしゃぼん玉液を張ると、中に表面張力のつりあい、線が現れます。男の子は、そこになんとかして息を吹き込もうとしていました。「この線はどうしてできるの。」と疑問をスタッフのお兄さんに聞きながら、どうしてもしゃぼん玉を作りたい様子でした。スタッフのお兄さんもいろいろと説明をしながら作っていました。それを見ていた幼稚園児は、「どうして三角形いっばいなのに、しゃぼん玉は丸いの。」と言いながら、その棒でしゃぼん玉を作ろうとしていた姿がありました。この棒は、小学生がきた時に退屈しないようなものを作っておこうと、スタッフみんなで作ったもので、とても喜んでもらえ、幼稚園児の興味も引くことができ、大成功でした。

うちわのほねでしゃぼん玉を作るというものは、三歳児にとっても気に入ってもらえました。まだ大きな棒を振り回せないし、ストローを吹く時に、しゃぼん液を吸ってしまう危険性もあり、どうしようと考えたものです。これなら、簡単に振り回すことができ、たくさんのしゃぼん玉を一度に作れるという利点がありました。三歳児は、一生懸命しゃぼん

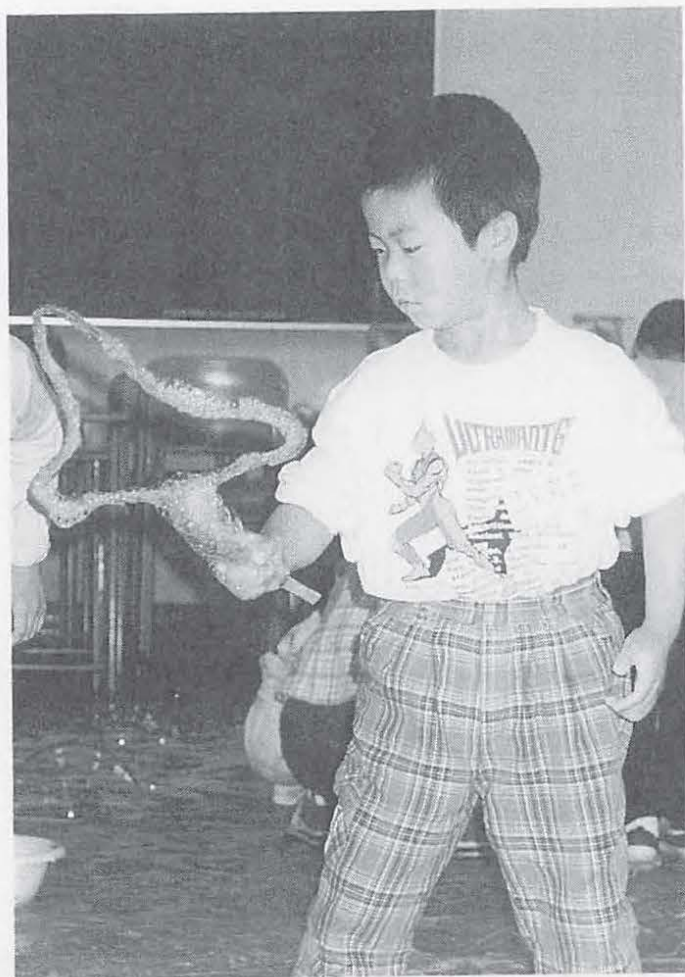
玉液を付けて、体ごとぐるぐる回って作っていました。とても楽しそうな笑顔が、しゃぼん玉いっぱいに広がっていたようでした。

最後に修了証を渡すと、とても満足そうに笑っていました。中には、スタッフのお兄さんお姉さんとすっかり仲良くなって、ずっと話をしている子どももいました。

3. 反省と今後の課題

『活動中はできるだけ子どもの自主性に任せ、必要以上に手を出さないようにする。』『キャプテンとスタッフは「教える人」ではなく、「ともに遊ぶ仲間」として子どもたちと関わって欲しい。』と強く心に思い、スタッフに伝えたつもりでした。しかし、うまく伝わらずに、子どもはそっちのけで遊んでしまったスタッフの姿も見られ、とても残念でした。また、子どもを自由にしすぎて、違う講座のスタッフにお叱りを受けたのも事実です。この微妙なバランスをどうしたら良かったのか、どうするべきだったのかは分かりませんが、子どもたちの笑顔があったことがなによりでした。子どもたちのために、学校や家ではできないことができるような場を作ってあげ、のびのびと遊べる雰囲気を作ることも必要だと感じました。

子どもたちの純粋な笑顔を見ることができたのも、スタッフの協力があったことだと思います。私は、子どもたちや子どもたちと接しているスタッフの皆さんから多くのことを学ばせて頂きました。本当にありがとうございました。



第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	ネイチャーゲームⅡ	第12回 9月27日(全日)
		アシスタントスタッフ数 2名
		参加者数 1名
キャプテン名	小池 祐介(教育実践科学専攻4年)	
指導教官名	越智 康詞教官	

・講座のねらい

飯綱高原の森の中で、五感を使い、自然を肌で感じ取りながら動いたり物を作ったりして遊ぶことによって自然の大切さ、偉大さ、不思議さに気付くことができる。

・講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
1、アイスブレーキング ・「ジャンプ」「右手前に」「もしもしかめよ」「じゃんけん列車」	・簡単な運動をすることで、参加者同士の交流がはかれるようにする。	30
2、目隠しトレイン ・視覚を閉ざして、連なって歩く。 危険があったら他の人にも伝える。 足元の状態に敏感になる。	・前の人から手を放さないようゆっくりと歩くように告げる。 ・歩くコース上に飛び出ている木の枝や、足下の状態などに気を配りながら誘導する。	30
3、私の景色、私の木 ・森の中でたった一つの自分だけの景色、木を見つける。	・視覚以外の自分の木の特徴に気付くように促す。木にも個性があり、それが絶妙にからんで森ができていることを感じとってほしい。	30
4、ネイチャーアート ・カラマツの輪切りに自然を使って思い思いに絵を描く。	・むやみに木の枝を折らないように注意する。森に落ちている枝や葉っぱなどの自然の恵みを材料にすることで、普段何気なく見ている自然の美しさに気付いてほしい。	60

ネイチャーゲームⅡ

小池 祐介(教育実践科学専攻4年)

1、講座のねらい

昨年の「ネイチャーゲームⅠ」では、別にわざわざ大自然の中に足をはこばなくても、あえて身近な信大キャンパスの中の自然を楽しむことに意義を感じてもらったが、今回は本格的な自然の中で体験を満喫し、自己と自然の関係を見直してほしかった。ちなみにフィールドはブナやカラマツ、シラカバの人工林である。

2、ネイチャーゲームについて

ネイチャーゲームとは、1979年、米国人ナチュラリスト、ジョセフ・コーネル氏により考案された、自然や環境について楽しみながら体験するための野外活動プログラムである。このプログラムは、「SHARING NATURE WITH CHILDREN」(子どもたちと自然をわかちあう)として発表され、米国の親や教師達から自然教育の画期的なプログラムとして評価を受けた。現在では、わが国をはじめ、イギリス、フランス、ドイツ、オーストリアなど世界中に広く普及されている。

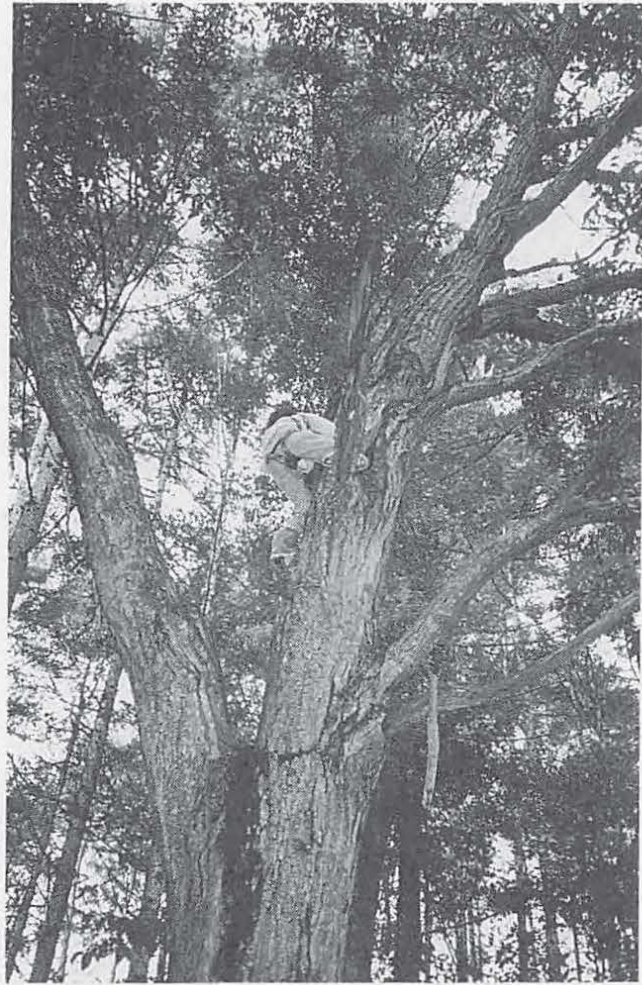
ネイチャーゲームこそ、子どもの自然への豊かな感性を育むためのもっとも重要な環境プログラムといえるだろう。ネイチャーゲームを含めた環境教育は、人類と地球環境との共存のための教育であり、最終的には一人ひとりの具体的な行動やライフスタイルの変化を呼び起こすものである。まず第一に必要なのは、身近な自然を体験し、自己を取り巻く環境を正しく認識することである。ネイチャーゲームは、その入口のプログラムとして注目されている。

3、当日の様子

正直言うと参加者は小学生の女の子1名だったが、スタッフ3名とのマンツーマン的な対応ができたと思う。まずは同じ飯綱組である山あそびグループと合同に、「もしもしかめよ」「ジャンケン列車」などのアイスブレイクを行い、参加者同士の交流を図った。そして、目隠しをして一列に連なり、視覚をさえぎり山道を歩いた。先導後の「前方に枝がある、注意。」の声に反応し、「木の枝をふんだのが分かった。」と、目ごろ意識しない感覚をつかったようだった。300メートルくらい歩いただけだったが、到着地点の視界はすべて森の中。目隠しをとった時、そのギャップに驚いたようだった。次にまた目隠しをして一本の木を触り、目隠しをといて先ほど触った木を当てるゲームをした。ここでは木には全て我々と同じ様に個性があり、匂いをかいたり手で触ることによりその違いを感じ取ってもらおうと思ったが、方向感覚で触った木を当ててしまった。午後はカラマツの枝をつかっただけの作品を思いのまま作った。枝の上に森の中の宝物をボンドで貼り、自分だけのオリジナルボードを作ってもらおう、ということだ。これはまさに自然を楽しむものであり、自然の落とし物で作品を作ると言ったりリサイクル精神あふれるゲームだった。

以上の体験により、「自然を楽しむ」と言った目的は達成されたが、「自然を感じる」

「仲間とわかちあう」という視点は不完全だった。なるべく多くの人々が、決して「教え」られるのではなく、自分なりの「自然」を体験し、感じるネイチャーゲームを目指していくことが今回の教訓である。



第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	宝さがし(ネイチャーゲーム)	第13回 11月8日(午前)
		アシスタントスタッフ数 4名
		参加者数 16名
キャプテン名	小池 祐介(教育実践科学専攻4年)	
指導教官名	越智 康詞教官	

・講座のねらい

- ..自然に対して「愛」の心を持って欲しい。.....
- ..ゲームを通し、..自然の掛け替えの無さを伝えたい。.....

・講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
<p>1、アイスブレイキング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊張をほぐすために、簡単なゲームと自己紹介をする。 ・自己紹介、「右手前に」「リーダーの命令」「じゃんけん進化論」「3人組みじゃんけん」 	<ul style="list-style-type: none"> ・絶対にレクリエーションに入っていない子がいるので、常に想定しておくこと。 	20
<p>2、フィールドビンゴ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスをフィールドに、ビンゴ大会。自然の宝物を探そう。 ・「三人組じゃんけん」のメンバーで、10回勝った組からスタート。 ・「造花」は、見つけられるかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味が出るように、見つけた宝物をシールでチェックすることにした。 ・グループには、スタッフが着く。 	40
<p>3、カモフラージュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロータリーの中の自然に溶け込んでいる「人工物」を探そう。 ・不自然なものは、いくつ見つかったかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まずはロータリーの外から観察し、10分経ったら中に入ってよい。 ・他人とコミュニケーションしてもよいが、言語を使ってはいけない。 	40
<p>4、振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日のプログラムの感想を聞き、意義を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば「カモフラージュ」なら、外敵から身を守るためにまわりの自然と一体になっている小動物がいることを説明し、子どもは自分が体験したと照らし合わせて考えてみる。 	10

宝さがし(ネイチャーゲーム)

小池 祐介(教育実践科学専攻4年)

1、講座のねらい

前回の「ネイチャーゲームⅡ」では、本格的な自然を満喫できたが、何しろ人数が少なかったため、今回はより多くの子供たちが交わってほしかった。そこで、子供たちの飛びつきそうな題名にして、フィールドをキャンパスに戻し、自然の「宝物」を見つけてほしかった。ちなみに「宝探し」といっても、ネイチャーゲームを取り入れたレクリエーションである。

2、五感について

ネイチャーゲームとは、前講座で説明した通りである。自然を感性として捉え、自然との一体感を得ることにより、自然や自分たちの生きる地球環境への愛情を育てようというものである。このプログラムは、「自然の気付き」を目的にしており、五感を使って自然を直接体験する。知性よりも感覚を磨くためのものでもあるが、ここではその「五感」について説明しよう

五感とは、言うまでもなく、五つの感覚のことである。そのひとつひとつが私たちに与えてくれる情報は、それぞれ質が違う。例えば視覚ならば、御存知のとおり目に入ってくる情報を与えてくれる。「目が見える」と「目で見る」ことは、細かく言えば違う動詞なのだが、「目で見る」ことにより、行動がコントロールされ、視覚が鍛えられる。聴覚は音という情報を与えてくれる。中でも言語は知的な理解をもたらしてくれる。その他の音(音楽、効果音など)は、聞く人の感性により処理される。触覚は共感と反感に関する情報を受ける。心地よい感触はそのまま記憶し、嫌なものに対しては触る気を無くす。嗅覚では匂いだけでなく、場の雰囲気をも感じ取ることができる。味覚では「味」を感じるが、その味は、自分の命にとって必要かどうかという、命を守ってゆく上で必要な情報を含んでいる。

このように「五感」は、ネイチャーゲームを語る上で欠かせないキーワードである。感覚を磨くことで、知能だけではなく感性で自然を愛してゆこうとしているのだから。

3、当日の様子

当日は20人もの小学生でいっぱいだった。この大勢の子供たちをどうにかして仲良くさせようと、グループに分け互いに競争させながら、協力や結束を図ることにした。まずはアイスブレイク。案の定僕の言葉を聞かなかったため、面白おかしく目で動かした。「じゃんけん進化論」で子ども同士の交わりが見られたところで、グループになってもらうことにした。まずはカードに指定された自然を探す「フィールドビンゴ」。動物の落とし物や泣き声、匂い、ざらざらしたものなど、まさに五感を必要とするゲーム。オリジナルルールとして造花を混ぜたが、不自然なものをあえて見つけることによりゲーム性が高まったようだ。「日ごろ何気なく聞いているカラスの声は、かけがえのない自然の宝物だと思

った。」という子どもからの感想を聞いた時は、このゲームの目的は半分くらい達成できたと思った。今度は「カモフラージュ」。「フィールドワーク」とは逆に、自然物の中で人工物を見つけるゲーム。各自で口を閉じて、視覚だけを頼りにやってもらったが、「どこに何があったのか」などの情報は、言葉以外の方法でなら他人に伝達してもよいことにした。隠された人工物の数を当てるのが最終目標のため、「どこに何があったのか」全て記憶しなければならず、子供たちが必死に他人とコミュニケーションを取りたがる姿が印象的でした。枯れた松の葉の中にタワシ、緑の葉っぱの中に緑のグリップ、木の枝に見せかけて鉛筆を差し込む、といった非常に紛らわしいオブジェを、子供たちは集中して「目で見」なければならず、次第に自分の世界へと没頭していった。なかには「あっ、ここに〇〇があるっ!」と、思わず口にしてしまう子もいたが、それはそれでそれだけ驚いたのだろうと理解しておく。僕としては、人工物の不自然さや、動物の中には自然と同化することで身を守っている奴もいる、ということも伝えたかったのだが、単なる「宝探し」で終わってしまった気がするのが妙に気がかりだった。それでも子どもらは「楽しい」って言っていたし、何しろ自然を楽しめたのだからまあ合格点だろう、と自分で自分を慰めている。

当日はアシスタントスタッフが4人付いてくれたが、この有能な1年生4人に心から礼を言おう。ありがとう。

4. ネイチャーゲームと現代社会

近ごろ、現代社会の歪みが、子ども世界にも魔の手を忍ばせてきているような気がする。「自信がない」故に、ナイフで武装する以外に術がない子。ストレスを溜め、ムカつき、とにかく大暴れをしたがる子。そして学校でのいじめ、不登校。いろんな意味で大人になりきれない子どもたちに対し、「環境教育」「自然体験教育」という視点からアプローチしてみてもどうだろう、と僕は考えた。これらの問題の根本には全て、「つながりの欠如」という現実が存在していることを、僕は指摘する。一言で言えば「コミュニティの崩壊」なのだが、我々には既に誰かと共同して生きてゆこうという発想はなく、できる限り一人で生きてゆこうとする。学ぶときも一人、遊ぶときも一人、生活するときも一人…。多くの人が無意識のうちに実行していることなのだが、実際人間が一人で生きてゆけると思ったら大間違いである。ど田舎で自給自足しながら自然からのメッセージをモロに受けて生活している人は別だが、「ひょっとしてオレ一人で生きてゆけるかもしれない」と多くの若者に思わせてしまっているところに、今の社会の矛盾が見え隠れする。

「トマトは土の中から出てくると思った。」こんな子どもの感想は、つながりの薄れた世の中をそのまま物語っている。尊い「生命」を「殺生」しなければ他動物を食せないはずなのに、スーパーに行けばいとも簡単にバラされた肉片が手に入る。蛇口をひねれば水が出る。スイッチを押せば明かりが点く。一見何の違和感もないこのシステムは、僕ら「人間」と「自然」「生命」とのリレイションを、完璧なまでに闇の彼方に葬り去った。一昔前までは生活する上では必ず人と協力しなければならなかったが、この便利かつ何の有り難味のないシステムは、一斉に我々を切り離しにかかった。

ここで話しを元に戻すと、ネイチャーゲームでは仲間とのシェア(分かち合い)を大切に。例えば「私は誰でしょう」というゲームでは、一人がとある動物のカードを背中に付け、周りの人にヒントを貰いながら自分は何であるか悟ることを通し、他人との交流を深

めてゆく。「ブラインドウォーク」というゲームでは、二人一組になり、一人がもう一人の目を隠し、手を触れながら丁寧に道案内をし、奇麗なものを見つけたら相方に手で触らせてあげる。互いに立場を交換し、触ったものの感想などを交換する。ここで大切なことは、常に他人が存在していることだ。他人に「伝達」し、他人を「受け入れる」ことにより、人間同士の「つながり」の復活が期待できる。目の前の自然を楽しんだり克服することを通して、コウポレイティヴの精神が生れる。特に子ども期においては、コピーワールド(疑似体験社会)からの生還を果たすことができ、体験文化を吸収でき、ダイレクトに「生きる力」と結びつくであろう。

もう少し別の視点からネイチャーゲームを見てみよう。地球が生れてから今までを一年とたとえると、7月に入ってようやく下等生物が誕生し、大晦日の夕方になってやっと人類が誕生した。それから人類は二本足で歩き始め、農耕社会を創り、王制封建社会を創り、産業社会を創り、幾多の過ちを犯しながら民主主義社会を創り、現在に至る。今、渦中の温暖化、ダイオキシン、オゾンホールなどの取り返しのつかない暗い話題は、同じく大晦日の午後11時59分58.5秒頃から叫ばれ始めたに過ぎない。今人類は、一年のうちのたったラスト1.5秒のために、最大のピンチに立たされているのだあっっ！この究極のピンチから愛する地球を救うのも、正義の味方ネイチャーゲーム君なのだ。どうやって地球を救ってくれるのかというと、まず我々人類に「愛」を教えてくれる。だから我々は、たったひとつしかない地球、自然の素晴らしさをそれぞれの感性でもって意識することができる。そうすると誰でも自然を楽しむことができ、環境問題解決の入り口に立つことができる、というわけだ。特に少年期の自然体験は、その子の一生の自然観にかかわることなので、その責任は大きい。「つながり」が見えないことは前に書いた通りだが、ネイチャーゲームは人間と自然との距離を確実に縮めてくれる。特に「木のシルエット」「大地の窓」「サウンドマップ」は、自然の中の人間の位置を再認識させてくれるだろう。

以上、きわめて社会的な考察を書かせていただいたが、「信大 YOU 遊サタデー」なるものが、もっと「子ども」を意識したもの、もっと「教育」を意識したもの、もっと「現代」を意識したものになってもよいと思う。せつかくここまで来たのだから。確かに「教師の実践的力量の形成」「学校五日制」「地域への解放」は意識している。これに「健全な子ども社会の発展を願って」「環境問題解決のために」という願いを込めたのが、僕が開くネイチャーゲームの講座である。僕自信は県内少年自然の家や清里で研修をし、相当修行を積んでいるのだが、まだまだである。早く後継者ができるのを望まばかりだ。最後に僕にこんな素敵な自己実現の場を提供して下さった方々に御礼を言いたい。ありがとう。

第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	<h1 style="font-size: 2em;">山あそび</h1>	第 12 回 9 月 27 日 (終日) アシスタントスタッフ数 7 名 参加者数 14 名
キャプテン名	千葉 綾子 (理科専攻 4 年)	
指導教官名	勝木 明夫 教官	

・講座のねらい

自然の中で、「遊ぶもの」が何もないところで自分たちで考えて遊んだり、作ったりしていくことを通して、それが普段の生活の中で応用できることに気付くことをねらいとする。……

・講座の展開

時間	活動内容	キャプテン・スタッフの動き	子どもの様子
9:00	開会式		
9:20	バスへ移動	参加者の引率	
9:30	飯網に移動	人数の確認 持ち物の確認 体調チェック	飯網までどのくらいかな。 忘れ物はないかな。 バスには酔わないよ。
10:15	飯網に到着	講座参加者の人数確認 (1 回目電話連絡) スタッフの紹介 参加者の自己紹介 講座の注意事項	キャプテン・スタッフの人ほど んな人かな。 注意する事はどんな事かな。 何をするんだろう。
10:30	飯網隊集合	心と体のコミュニケーション (ネイチャーゲームと一緒に)	
10:50	午前の部開始	木登り (40 分) ネズミの家さがし (30 分) (雨案) 野外散策	木から落ちないように気を付 けなくちゃ。 ネズミはどこへ逃げるかな? どこに家があるのかな? 葉っぱがいっぱいだね。
12:00	昼食	昼食場所の把握 (2 回目電話)	
13:00	午後の部開始	小さな家作り (雨案) しおり作り ラミネートやアルバム台紙を使 って、しおりやはがきを作ろう。	家はできるかな。 どんな家ができるかな。 中に入れるかな。
14:30	片づけ始め		
15:15	信大へ出発 (バスの中で、修 了証・アンケート を渡す。)	人数の確認 (3 回目電話)	
16:00	信大着		
16:10	閉会式		
16:30	解散	参加者の見送り	

山あそび

千葉 綾子 (理科専攻 4年)

「山あそび」を開講するにあたって

今回初めて飯綱でYOUサタを開講することになった経緯としては、飯綱の自然保護研究所の方から「飯綱でぜひYOUサタをやって欲しい」とのお声をいただいたので、こちらもぜひやってみたいという気持ちから始まった。始めは、自然保護研究所の方にキャプテンをお願いして自然に関する講座を開いてもらうつもりでいたが、学生がキャプテンをし、研究所の方はその手伝いをしてくれることとなった。

講座の内容は何回も検討を繰り返し、当日を迎える間際まで決まっていなかったという危なっかしい状態であった。キャンパスを出た場所で、初めて野外での活動を取り入れるということもあって、せっかくだからそこでしかできないことをという声もあり、飯綱でしかできないことをやることとなった。しかし、そのためには研究所の方の協力なしではできなかったことばかりであり、野外での活動の難しさを痛感することとなった。講座内容として決まった木登り、ネズミの家さがし、家作りのそれぞれには、当日を迎えるまでどうなるかわからない状態であった。それは、当日の天気も心配であったし、事前の連絡不足や、環境がどうなっているかの把握ができなかったり、どんなことに気を付けなければいけないのかその予測がつかなかったからである。すぐには行けない場所での講座開講の大変さを知ることができ、また、良い経験ができた。

講座内容について

木登り…まず木の選択から始めた。最初に決めていた木では実際には登ることができず断念し、別の木を探した。なるべく大きく足をかけ易いものを探した。はしごを用意し、木の途中からロープで保護しながら登るようにした。子どもたちの中には、怖がる子もいたが、全く登れない子は一人もいなく、登れない子もいるだろうという予想を見事に打ち砕き、皆上へ上へと登った。1度ならず2度3度とやりたがる子がたくさんで、次のネズミの家探しに移動するのが心苦しかった。また、木に登らない子への配慮を一応考えてはいたが、何も指示しなくても、自分たち自らまわりの落ち葉を拾ったり、生き物を見つれたりして、自然への興味を見出していた。

ネズミの家探し…前日、ネズミが死んでしまわないように40個近くのねずみ取りを仕掛け、当日は10匹くらいのネズミを放した。このネズミを子どもたちが追いかけて、どこに家があるのかを探した。陸さんから、「自然の生き物であるネズミを素手で触らない」という注意を受けて、子どもたちは触りたい気持ちを押しえてネズミを追っていた。あまりの速さにすぐに見失ってしまう子もいたが、ネズミを放す時、見失わないぞと皆で必死で追う姿はかわいらしかった。

お家づくり…午後の時間を使って行われた家作りだが、時間の無い中で作ったので、長い木を組んでシートをかけるという本当に簡単なものになった。しかし、陸さんの考え通り、子どもたちにどうやったら家ができるかを考えてもらって作ったため、家作りに留まらず、

テーブルも子どもたちが考えて作るという予期せぬ行動が見られた。

飯綱とキャンパスで行うときとの違い

●森の中での活動という事もあって、虫・ハチ刺されへの対応やへびに出くわしたときの対応について、薬を用意すると共に、木から落ちてしまったり、転んでしまったときに大きな怪我となってしまうたらどうすればいいのか、どこの病院へ行けばいいのか、どのようにして連れていくのか確認しておく必要があった。

●限られた時間をどう有効に使うか。余裕を持って組んだはずの予定も時間いっぱいになってしまい、全く足りなかった。1日は長いようであつという間に過ぎてしまう。飯綱までの移動の時間や、森の中の目的地までの移動の時間もかかってしまう。そんな中で、1つのことをもっと充実して行うことができると思つたと思う。子どもたちの充実感を欠いてしまったようで、時間の組み方に、少し無理が生じてしまった。しかしそれはやってみなくてはどのくらい時間がかかってしまうかわからなかったのもので、この事が次回に生かしていけたらいいと思つている。

●ゴミの片づけについて、それほど気を配っていなかったことは、大きな反省点である。というのも、子どもたちが遠足気分であることに気が付く事ができなかった。昼食時におやつを持ってきている子どもが大半で、その後もポケットに忍ばせて途中で食べていた。それを特別注意することはしなかったが、ゴミを落としてしまっている子どもがいたことは残念であった。それに気が付いたのも取材に来ていた方であり、子どもにすぐに指摘してくれたのでそのゴミに気が付くことができた。小さなゴミでも、ちゃんと対処するように言うべきだったと思う。

1日を通しての子どもたちの様子

YOUサタに参加してくれる参加者の方々は、始めどの人も割と緊張した面もちをしている。飯綱への参加を決めた方々もそうであった。飯綱へ移動のバスの中でその緊張を和らげるために、どんなことをするか考えてはいたが不十分であった。飽きさせずに時間いっぱい行う事は大変であるが、決めておく必要がある。見知らぬ人との交流の場を持つこと、リラックスした気分になってもらうことは、講座を開くうえでも次に進みやすくなるから大切なことである。今回、ネイチャーゲームの小池キャプテンが、講座を始める前に2つの講座一緒に何かしようと提案してくれたおかげで、講座を始めるときには、参加者とスタッフがお互いリラックスした気分で参加してくれていた。こういった交流の場を持ったり、1日中一緒にいると、半日で終わってしまうキャンパスでの講座にはない参加者と学生とのつながりができ、閉会式ではその違いは明らかに見られた。そのため、終日の講座のよりいっそうの充実した内容を持つことは大変大事であると思う。

もし、次回があるならば

私はぜひ次期YOUサタでも山あそびを開いて欲しいと思つている。研究所のような自然に恵まれたところでの活動はそうないだろうし、あつたとしても同じように木登りや、ネズ

ミを追いかけたりできるとは限らないだろう。今回開いてみて、子どもたちの持つ勇氣に大変驚かされた。その勇氣をどの子も自信を持って行動で示していける場をこれからもどんどん持ってあげて欲しい。男の子も女の子も関係なく、木登りに夢中になって上を目指していたときの子どもたちの輝く目を、私はどの人にも見てもらいたいと思っている。ぜひ、これをきっかけに今後も飯綱の自然保護研究所と交流を持っていただきたい。

最後に

今回、陸さんを始めとする自然保護研究所のみなさん、スタッフのみなさんのおかげで、「山あそび」を無事開くことができ、大変感謝している。講座の内容が当日間際まで決まらず、大変ご迷惑をおかけしたと共に、ご心配をおかけして申し訳なかった。みなさんのおかげで、山あそびは大きな怪我人がでることなく終わることができた。言い尽くせない感謝の気持ちを込めて、ありがとうございました。



第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	こま・コマ・独楽であそぼ！	第12回 9月27日 (午前)
		アシスタントスタッフ数 3名
		参加者数 13名
キャプテン名	竹下 雅道 (数学 専攻 4年)	
指導教官名	吉田 稔 教官	

・講座のねらい 昔からのあそびのひとつであるコマ回しの面白さを実感し、自分なりに試行錯誤したり、練習して技ができた時の喜びを感じてほしいです。

・講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
1. コマの歴史のお話&パフォーマンス キャプテン、スタッフの自己紹介 コマを一人ずつ渡しなが、参加者の自己紹介	・子どもたちをコマの世界に引き込むようなパフォーマンスありの話。 ・子ども一人ずつコマを渡しなが、自己紹介してもらおう。	10分
2. コマのまき方、まわし方の説明・実演 練習 みんなでゲーム(ながいき、ケンカ)をする	・ひものまき方、投げ方を丁寧に絵を使いなが説明する。 ・はじめはスタッフがひもをまいてあげ、投げる練習をたくさんする。 ・まわし方のコツを体で覚えるまで、一緒に繰り返す。	40分
3. コマの技を披露する 技にチャレンジ、発表	・簡単な技を披露して、子どもたちにもチャレンジしてもらおう。 ・できたら、みんなに発表。	30分
4. いろんなコマの紹介・実演 いろんなコマで遊ぶ	・日本各地のコマや手作りコマを一つずつまわして、一緒に遊ぶ。	30分
5. コマまわし発表 (子どもたち) 修了証と「コマ名人への道」を渡す	・みんなで一斉にまわせるようにする。	10分

第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	こまであそぼ！	第13回 11月 8日(午前)
		アシスタントスタッフ数 6名
		参加者数 20名
キャプテン名	竹下 雅道 (数学専攻 4年)	
指導教官名	吉田 稔 教官	

・講座のねらい

..昔ながらの遊びの一つであるコマ回しの面白さを実感し...また技ができたときの喜び..
..感じてほしい...この講座に参加した人たち同士のふれあいを大切にしたい。.....

・講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
1. コマの歴史のお話 パフォーマンス キャプテン・スタッフの自己紹介 コマを一人一つ渡す 参加者の自己紹介	・子どもや参加者をコマの世界に引きこむようなパフォーマンスありのお話しをする。 ・参加者一人ずつにコマを渡しながら簡単に自己紹介をしてもらう。	10分
2. コマのまき方、まわし方の基本を説明・実演する 練習 いろんなものの上でまわす	・ひものまき方、投げ方を丁寧に絵を使って説明する。 ・始めはスタッフがひもをまいてあげる。 ・投げる練習をたくさんする。 ・まわし方のコツを身体で覚えるまで一緒にまわす。	30分
3. コマの技を披露する 技にチャレンジ、発表	・簡単な技を披露して、参加者にもチャレンジしてもらう。 ・できたらみんなの前で披露する。	20分
4. いろんなコマの紹介・実演	・日本各地のコマや世界のコマを一つずつまわして遊ぶ。	30分
5. コマを使った遊び 「ながいき」「けんか」「どこゆき」	・みんなでコマを使っているような遊びをして楽しむ。	20分
6. コマまわし発表 修了証と「こま名人への道」を渡す	・みんなで一斉にまわせるようにする。 ・これからも精進するように励ます。	10分

こま・コマ・独楽であそぼ！ (第12回)

こまであそぼ！ (第13回)

竹下 雅道 (数学専攻 4年)

1. 講座を開くにあたって

子どもたちのあそびが変わってきたのは、今に始まったことではありません。TVゲームの普及により昔からのあそびは、だんだん姿を消していきました。昔からのあそびは、自分でそれなりに試行錯誤したり、練習をしなければ上手くなりません。自分で何か技が出来た時の喜びは絶大なものです。自分の体を使って得た楽しみは、心に残ります。心の躍動を一人一人に感じてもらいたいと思いこの講座を開きました。

2. 体験を大切に

テレビやビデオの世界が、所詮触れることのできない作り物の世界であることを理解するためには、直接体験をたくさん持っていることが必要です。絵や本やテレビで見たことがあることと、本当に知っていることとは違います。間接的に知っていることの数、直接的に体験して知っていることの数ギャップが広がれば広がるほど、無意識のうちに空しさのようなものが心の中に残ります。

一方、汗を流し、自分の手や足を使い、五感を使って直接体験したものは、得られる満足も大きく、体の記憶として定着します。汗を流したり、失敗したり、感激したりして実際に体を動かすことで、人は生きている実感を深めていくのだと思います。機械の力や文明の利器に頼りすぎていると、どうしても汗を流したりする機会が少なくなります。楽をして能率の上がる近代的な暮らしには、目には見えない所に大きな落とし穴があります。そして今、その落とし穴の弊害が出ているように思えます。

孤独な時間の中で育まれるある種の才能があることは否定できませんが、子ども時代というものは群れて暮らさなければならぬ時期です。大勢の仲間の中で、悔しい体験、嬉しい体験、痛みを伴う体験、助け合う体験、心を通わす体験を積むことで育つものがたくさんあります。子ども時代にしか育たないものがたくさんあります。大勢でいると煩わしいことや嫌なことも確かにたくさんあります。だからと言って、そこから逃げ出して何が育つのかしっかりと見極めなければなりません。子どもの集団というものは、子どもたちを健全に育ててくれる土壌のようなものです。友達と一緒にいることが楽しい、人の中にいることが楽しいと感じられるような人間に育つためには、子ども時代に大勢であそぶ体験を持つことがとても大切です。

3. 講座の様子

・「こま・コマ・独楽であそぼ！」

天気にも恵まれて、外で思いっきりコマであそぶことができました。12名の参加者のうち8名がコマをまわすのが初めてでしたが、スタッフの協力があって全員がまわせるようになりました。スタッフが少なかったおかげで、子ども同士の触れ合いがあったことがとても良かったです。

最初の頃、6才の女の子が恥ずかしがってなかなか輪の中に入って来れなかったが、スタッフが一人着くことで最後には一人でまわせるようになって、とてもいい笑顔を見せていました。まわせる子が、まわせない子の面倒を見ていたのが、とても印象的でした。まわせる子も飽きないように、友達と一斉にまわしたり、技にチャレンジしたり、いろんなコマを思い思いにまわしてみたりして、思いっきりコマまわしを楽しんでくれました。コマがまわせるようになった子は、何度も「見て、見て！」とせがんで来ました。子どもたちのコマをまわす構えが、とてもかっこよかったです。

・「こまであそぼ！」

前回の「こま・コマ・独楽であそぼ！」の講座に来てくれた子が、再び6人も来てくれました。この6人は難しい技にどんどん挑戦していました。それと同時に、まわせない子の面倒をよく見てくれました。スペシャルゲストとしてアメリカから来てくれた女性も日本語は全く分からないけれど、日本の伝統的なあそびの独楽にとっても感心していました。

コマを使って、伝承あそびの一つである「どこゆき」というあそびをしました。予想以上にみんなエキサイトして楽しんでくれました。

今回は、参加対象の幅を広げてたのでお母さん方の参加もありました。お母さんも子どもたちに負けないように、コマまわしに奮闘していました。あそびというものは、大人子ども関係がないということを実感しました。

4. 反省にかえて

今回2度にわたり、自分の講座を開くことが出来たのは、実行委員長はじめ実行委員の皆さんやOBの先輩方や土井先生はじめ多くの先生方のご支援があつてからこそです。無事に講座を終えることができたことを皆さんに感謝します。

古きものに新しい価値を見出す創造力をこれからは、身に付けていかねばなりません。まさに温故知新です。これから21世紀、新しい時代がやって来ます。そこで私たちがしなければならないことは、いかに子どもたちのために明るい未来社会を築いていくかを考えて、行動していくことです。明るい未来社会を！



第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	銅が金になる！？ 錬金術の秘密	第12回 9月27日(午後)	アシスタントスタッフ数 5名	参加者数 1名
キャプテン名	中條 悟 (理科専攻 4年)			
指導教官名	漆戸 邦夫 教官			

・講座のねらい

銅が金色になるという、意外な事象に対する驚きから、自然科学のおもしろさに.....
気づき、興味を持ってほしい。.....

・講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
導入 自己紹介をする	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介は、キャプテン、スタッフが先に行い、場の雰囲気のを和らげる。 ・実験室、薬品、器具の使用上の注意 	10分
展開 (実験) 1. 銅が銀色、金色に変わる 銅の表面に亜鉛をメッキし、バーナーで溶解させて合金 (真鍮) をつくる。 2. 葉や布に電気が通る 試料の葉や布を脱脂し、表面に酸化還元触媒を付着させた上で、無電解メッキ法によりニッケルメッキを施す。 3. 黒く金属メッキされた葉や布が赤く変わる 2でニッケルメッキした試料を陰極、炭素棒を陽極として塩化銅(II)の電気分解を行うことにより、ニッケルメッキの上に更に銅メッキを施す。	<ul style="list-style-type: none"> ・危険な実験なので、薬品の扱いには特に注意する。 ・スタッフは各実験ごとに担当を決めておき、他のスタッフの担当する実験が行われているときには、アシスタントにまわる。 ・使用した薬品は流しに流さず、必ず保存する。 ・「銅が金色になる」「葉や布が金属のようになる」といった意外な事象に対する子供たちの驚きを大切にしながら、錬金術がどのように始まり、伝えられていったかを話す。 ・これらの意外な事象が起こる化学的な理由を考えさせる。 	実験 1 20分 実験 2 40分 実験 3 40分
まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・修了証を受け取る。 ・時間があれば、感想を言ってもらおう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・器具・薬品の片付けは、危険なものが多いので参加者には行わせず、スタッフが行う。 	10分

第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	つくってみよう銀の鏡	第13回 11月8日(午後) アシスタントスタッフ数 6名 参加者数 6名
キャプテン名	中條 悟 (理科専攻 4年)	
指導教官名	漆戸 邦夫 教官	

・講座のねらい

鏡という、子ども達にとって身近なものを実際を作ることにより、科学を身近に感じ、その面白さに気付いて、興味をもってほしい。

・講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
導入 自己紹介をする	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介は、キャプテン、スタッフが先に行い、場の雰囲気のを和らげる。 ・実験室、薬品、器具の使用上の注意 	10分
展開(実験) 1. アルデヒドの還元性を利用した銀鏡反応 試験管に硝酸銀とアンモニアの混合水溶液を入れ、ホルムアルデヒドで還元して管内壁に銀鏡を作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・危険な実験なので、薬品の扱いには特に注意する。 ・スタッフは各実験ごとに2人ずつ担当を決めておき、他のスタッフの担当する実験が行われているときには、アシスタントにまわる。 ・使用した薬品は流しに流さず、必ず保存する。 	実験 1 20分
2. グルコースの還元性を利用した銀鏡反応 スライドガラスを硝酸銀とアンモニアの混合水溶液に浸け、グルコースで還元して銀鏡を作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような原理で鏡ができるのか、ということ、子供たちの興味を大切にしながら、わかりやすく説明する。 ・実験を進めながら、「昔の鏡は鏡職人さんたちが、今自分たちが行っているのと同じ方法で作っていた」ということを説明する。 	実験 2 40分
3. マジックミラーの作成 2と同じ操作を、溶液の濃度や実験手順を変えて行うことにより、マジックミラーを作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・器具・薬品の片付けは、危険なものが多いので参加者には行わず、スタッフが行う。 	実験 3 40分
まとめ ・修了証を受け取る。 ・時間があれば、感想を言ってもらおう。	<ul style="list-style-type: none"> ・器具・薬品の片付けは、危険なものが多いので参加者には行わず、スタッフが行う。 	10分

化学実験講座

銅が金になる!? 錬金術の秘密 (第12回)

つくってみよう銀の鏡 (第13回)

中條 悟 (理科専攻 4年)

1. 講座を開くにあたって

「自然科学のおもしろさに気付き、興味をもってほしい。」この願いを持って私は化学実験の講座を開きました。

この講座は中学生以上を対象として行ったものですが、小学校の頃は理科が好きだった子でも、中学校、高校に上がる頃から理科が嫌いになる傾向があるようです。その理由の一つとして、実験や自主的な探求活動に費やされる時間が、少なくならざるをえない現状があるように思います。特に受験生ともなると、暗記や問題集の取り組みが中心になり、理科は難しいもの、わからないもの、ということになってしまい、また、机上の理論が理科の中心であるようなイメージを受けやすくなります。

しかし、本当は自然科学とはそんなものではない、実験あってこそその自然科学であり、私たちにとって、とても身近でおもしろいものです。その事に気付いて欲しいというのが私の願いでした。

従って、用意した講座の内容は、見た目におもしろく、鮮やかな化学反応であり、しかも中学校、高校で子どもたちが学ぶ科学理論の内容を多く含むものとししました。特に鏡作りの講座では、日常生活で、当たり前につかっている鏡というものをテーマにとりあげ、学校で学ぶ化学が、身近なものの中に生かされていることを実感して欲しいと考えました。

2. 講座に取り入れた内容 [() 内は学校で学ぶ関連事項を示す]

「銅が金になる!? 錬金術の秘密」講座

- ・電解、及び無電解メッキ (中学3年「イオン」、高校化学「無機化学、イオン化傾向」)
- ・熔融による合金の作成 (中学2年「原子と分子」、高校化学「無機化学、融点」)
- ・スズ-パラジウム触媒による試料の感受性化、活性化 (高校化学「酸化還元反応」)

「つくってみよう銀の鏡」講座

- ・アルデヒドによる銀鏡反応 (中学3年「イオン」、高校化学「有機化学、アルデヒドの還元性」)
- ・スズ-パラジウム触媒による試料の感受性化、活性化 (高校化学「酸化還元反応」)
- ・グルコースによる銀鏡反応 (中学3年「イオン」、高校化学「有機化学、直鎖状グルコース」)
- ・銀イオンのアンミン錯体生成 (高校化学「無機化学、錯イオン」)

3. 参加者の取り組みの様子

錬金術の講座では、対象を中学生以上にしたためもあり、参加者が1人だけだったので、心細く思うのではないかと、とても心配でした。しかし当日は、開会式の前から早くも打ち解けることができ、実験がうまく行ったこともあって、とても喜んでくれました。

実験中、こちらで用意していた「見せ場」以外にも、化学のおもしろさ、楽しさに数多く触れることができ、よかったと思います。閉会式の成果発表では、ビニール袋に入れてあった作品 (金色にし

た銅板や、金属メッキした葉、布など)を自分から取り出して見せてくれました。

この時の参加者は中学1年生の男の子だったのですが、講座の終わりに、次(第13回)も化学実験の講座を開くと聞くと、「次は友達を連れてくる」と言ってくれました。そう言うただけでも嬉しかったのですが、鏡作りの講座のときに本当に友達を連れてきてくれたので、私をはじめスタッフたちの感激はたいへんなものでした。参加者の子が充分に楽しんで満足してくれた、何よりの証ではないかと思えます。

鏡作りの講座は、この中学生2人に、大学見学希望の高校生3人と、一般の方1人をあわせて6人の参加がありました。一般で参加された方は、本当は子どもが鏡作りの講座に参加したかったのだが、小学生で参加できなかったので、ご自分1人で来られたとのことでした。

高校生3人は、最初「受験生で、この学部を受験するので見学したいと思って来たが、化学には興味がない」ということだったので、どうしようかと戸惑いましたが、実験をしているうちにだんだん楽しくなってきたようで、「わーっ」と歓声をあげてくれるところもあって良かったと思えました。

2回の講座で、共に参加者の「おーっ」とか「やったー」という歓声を数多く聞くことができ、とても楽しんでくれたようで、良かったと思えます。後日送られてきたアンケートにも、とても楽しかった、ということが書かれていました。

4. スタッフの取り組みの様子

2回の講座で扱った内容は、共にかなりレベルの高いもので、スタッフにとってはたいへんな苦勞になってしまいました。

反応を鮮やかに起こさせるため、使用する薬品の濃度や温度を細かく調整し、器具の洗浄にもたいへん気をつかいました。事前の打ち合わせや予備実験も何回も行い、特に鏡作りの講座では、前日の夜10時までかかりました。そのような大変な作業だったわけですが、皆、非常によく動いてくれました。スタッフに書いてもらったアンケートを読むと、準備は大変だったが参加者の皆さんが喜んでくれてやりがいがあった、という感想をもってくれたようで、キャプテンとして大変嬉しく思いました。

また、今回の講座の準備を通して、化学実験の際に配慮すべきこと(事前の準備、薬品の調整や管理の仕方、反応を鮮やかに起こさせるための工夫、事故を防ぐための安全管理、事故が起こってしまったときの対応への配慮、など)を数多く学ぶことができ、私たちキャプテンやスタッフにとっても成長の場となりました。特に来年教育実習に行く2年生にとっては、大変勉強になったことと思えます。

5. 講座を通しての成果・反省及び今後の課題

2回の講座共に、参加者が大変喜んでくれたということが、何よりの成果ではないかと思えます。錬金術の講座の時の唯一の参加者が、次の講座の時に友達を連れてきてくれたこと、また、化学に興味がなく鏡作りの講座に参加した高校生達が、実験を進めていくうちに歓声をあげるほどに楽しんで興味をもってくれたことなど、当初抱いていた「自然科学のおもしろさに気づき、興味をもってほしい」という願いにもかない、大きな成果と言ってよいと思えます。また前項にも述べた通り、私たちキャプテンやスタッフにとっても多くのことを学ぶことができました。

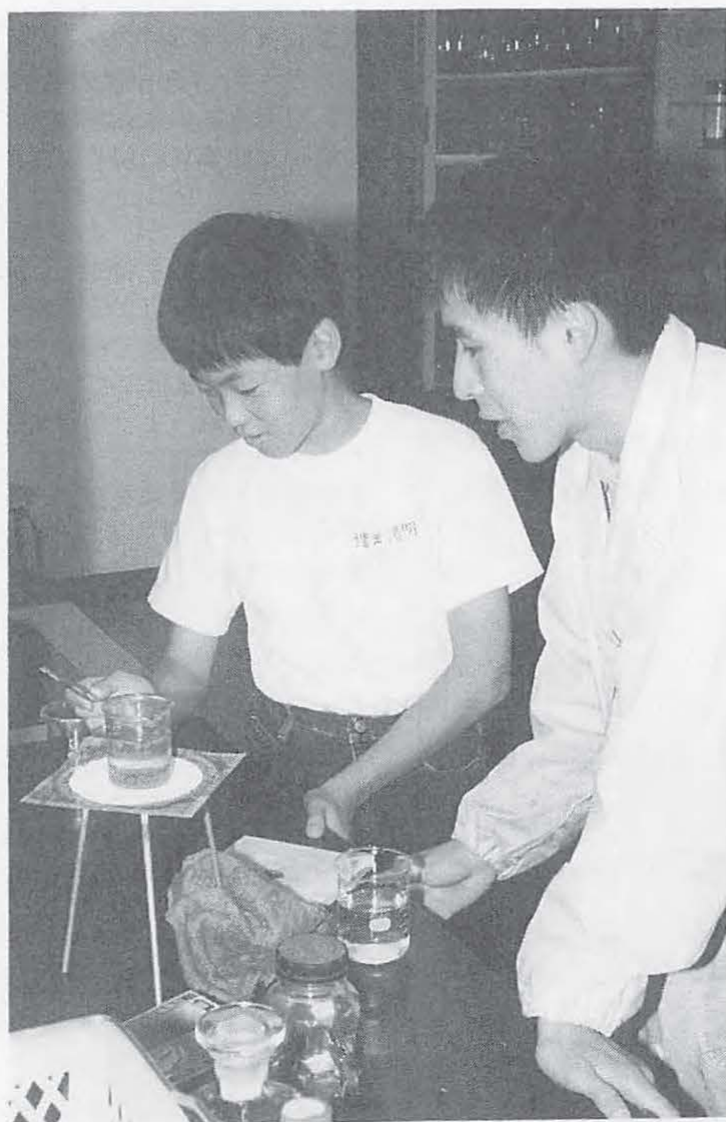
この講座を開くにあたっては、理論的に難しい部分が多く、薬品や器具の用意も大変でしたが、理科教室化学科の漆戸邦夫先生、村松久和先生、勝木明夫先生、及び地学科の岩井邦中先生より多大な御援助を賜り、滞りなく準備等進めることができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

それから反省点についてですが、参加者、スタッフとも限定しすぎたということが挙げられると思います。

この講座では中学生以上を対象としましたが、鏡作りの講座では小学生の参加希望者も多かったようです。他講座に参加した小学5年生の子が、本当は鏡作りの講座に参加したかったけれども小学生なので参加できなかったということで、2年後も鏡作りの講座をやって欲しいと言っていた、ということとその講座のキャプテンから聞きました。

対象を中学生以上に限定したのは、前述のようなキャプテンとしての願いもあり、また実験そのものが危険なものでもあったからですが、こちらの思惑にこだわりすぎ、子ども達の希望に反する結果となってしまったように思います。また、スタッフも化学の知識のあるメンバーでかためてしまいましたが、できれば他学科のスタッフの参加も積極的に受け入れ、輪を広めていければよかった、と感じました。

今後も化学実験の講座を引き継いでくれる後輩達がいれば、このような課題を是非解決して、子供から大人まで、誰もが楽しめる講座としてくれるよう、願って止みません。



第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	気分はめいたんてい	第13回 11月8日(午後) アシスタントスタッフ数 8名 参加者数 16名
キャプテン名	平林 徹 (数学専攻3年)	
指導教官名	宮崎 樹夫 教官	

・講座のねらい

.....
 オリエンテーリングなどの活動から、名探偵の気分になりきる。また、友達と協力しあいながら、大学の中がどうなっているのか、見ていくことができる。

・講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
1. 自己紹介をして、早速事件の概要を知ろう。 ・事件が解決できたらいいな。	・N202で自己紹介をする。ここが探偵局になる。スタッフは一緒に行動はするが、あまり手を出さない。	10
2, 1 調査開始。 ・これはどう読むんだらう。 ・この講座ではこんなことをやってるんだ。 ・この暗号は難しいなあ。	・出発時に犯人からのパズルを解き、答えられたら暗号を渡す。そして、6講座+重さ当てのアトラクションをまわりながらスタッフの名前を記録していくようにする。集めた7つの暗号を持って探偵局に戻るようにする。	70
2, 2 犯人特定。 ・この人が犯人だ。 ・この人はどこにいたらう。	・7つの暗号の中に一つの文字を書いておき(と、さ、か、た、け、ひ、と)登坂くんの名前を特定し、どこにいたのかを思い出せるよう指示する。	10
2, 3 犯人からの挑戦。(部屋の調査) ・よく調べてこよう。 ・わかりやすく絵も書いておこう。	・一つの部屋を隅まで調査する。そのあと、調査した部屋のことについての質問に答えられるよう助言する。	10
3. 修了証発見。 ・あった、これだ。 ・とうとう捜し出したぞ。	・犯人の出す質問に答えたら、修了証の在処を書いた暗号を渡す。その場所を確定し、捜す。	10
4. 修了証授与。 ・やったあ。うれしいな。	・時間の中でどこが良かったかを見つけて、声をかける。	

注意事項。

- ・黄色い腕章(スタッフ)を見つけたら、その人の名前を必ず聞くこと。(情報収集)
- ・学校内は走ってはいけない。(探偵は冷静かつ迅速に)
- ・すぐに暗号をもらえるわけではない。(ある時には講座に参加せよ)

気分はめいたんてい

平林 徹（数学専攻 3年）

1. 講座設定の理由

どんな講座を開こうかと考えていた私でしたが、さて、何をやったらいいのやらと考え込んでしまいました。どうせやるのなら今までやったことのない講座にしよう、と考えてたため、なかなか思いつきません。思いつかないまま、家に帰ってテレビをつけた。とそこに推理もののテレビが放映されていたのです。

近頃、テレビでは『名探偵コナン』や『金田一少年の事件簿』などの推理マンガが流行っています。確かに面白くてついつい見てしまいます。その中で、事件などを解決したときに、「この推理は僕にもわかったぞ」というように見ている人々が共感できるのはとても興味深いと感じていました。こんなことが実際に体験できたらどんなに興奮するだろう、という思いが私の脳裏に浮かびました。「そうだ、みんなが名探偵になって事件を解決しよう」と考えてこの講座を設定しました。

2. 目標と事件設定

この講座の目標は次の3つになりました。

- ①身の回りのことに注意して、考えて行動する。
- ②チームが協力して事件を解決する。
- ③他の講座が何をやっているのか把握する。

しかし、当日の姿になるにはかなりの時間を要しました。名探偵ということもあり、事件を設定しなければなりません。スタッフと考えた結果、このようになりました。

「11月7日金曜日。YOU遊サタデーの前日。この講座の一番重要な修了証が盗まれた。盗まれた時間は午後7時から9時の間。授業は終わっているため、次の日の準備をしているYOUサタスタッフ以外はこの学校にはいなかった。また、7時から9時までの間に、この学校に忍び込んだ形跡はない、と守衛さんは話している。修了証がないとこの講座は終わることができない。君たちが優秀なYOUサタ探偵事務局の局員として依頼する。ぜひ犯人を特定し、盗まれた修了証を取り返してほしい。」

このことから、犯人はYOUサタスタッフの中にまぎれ込んでいる、ということになります。ということで講座に入っているスタッフの名前を記録するようになりました。オリエンテーリング方式という形をとり、他講座が何をやっているのかを知らながらスタッフの名前を記録していくことになりました。ただ講座をまわるだけではつまらない、いくつかの講座には参加しようということで、パフィーの講座には実際に参加し、スライムの講座では材料を調べて答えることにしました。

3. 取り組みの様子

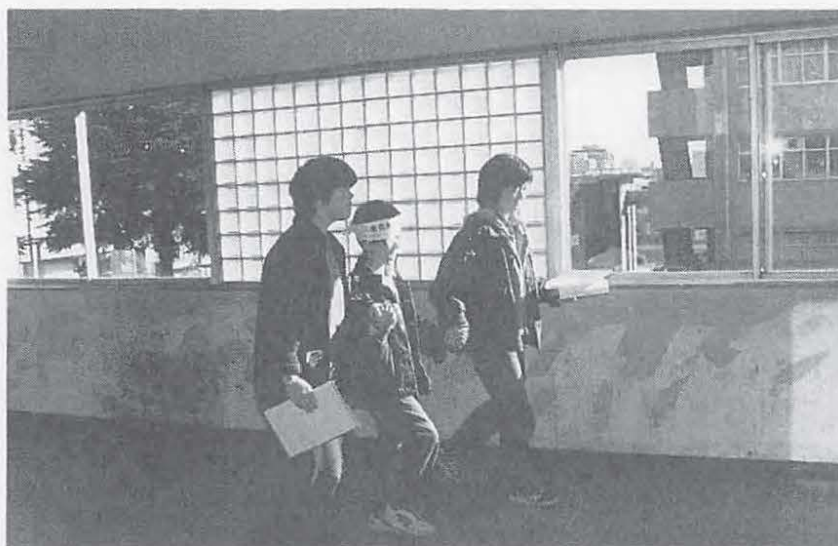
対象年齢を決めなかったことで、たくさんのお子どもたちがこの講座に来ました。最初はざわざわしていた子どもたちも、状況を聞くと、「これは迷宮入りだ」「誰が犯人なんだろう」「絶対犯人を特定してやるぞ」という意欲を持ちはじめたように、私もピリピリと感じてきました。中にはキャプテンが話していることを、もうすでにメモしている子ど

もまでいました。最初の暗号が配られたとき、それを見る子どもたちの目はとても生き生きしていました。その暗号を解読し、次に行く場所がはっきりと分かると、すぐに行きたがりですが、チームの中で目隠しをしている人がいるため、すぐには行けません。急ぎながらも協力して一緒に行動していました。スタッフは子ども3人に1人という割合でしたが、スタッフが先導するのではなく、チームの一員という感じで関わっていました。パフイーの講座では恥ずかしいながらもダンスを踊っていました。講座をすべてまわると、その暗号からある一人の名前が浮かび上がります。今まで記録した名前と見比べて、その名前が犯人だとわかると、犯人がどこにいたのかを思い出して、また捜しに出かけていきました。その犯人は登坂くんでしたが、犯人を捜し出し、犯人のだす問題（部屋の調査）をすべて答えると、もう大急ぎで盗まれた修了証を見つけに行きました。見つけたときには「見つけたよ」と言って嬉しそうな顔でいそいで教室に戻って行きました。

4. この講座を通しての反省

本当に講座が開けるのだろうかと考えていましたが、スタッフの皆さんが手伝ってくれたので、なんとか講座になりました。「地図はどうするの」「時間は大丈夫か」「メモ帳はどのような形にするのか」という細かい所までの指摘があったので事前の準備は良かったと思っていました。しかし、当日では最初の暗号がスタッフにもわからずに時間がかかってしまい、時間的に足りなくなってしまうました。速いチームと遅いチームの差がはっきりしてしまい、皆さんにも申し訳なく思っています。最後は走っていて疲れていました。子どもの声にも「疲れた」というほうが多かったようです。もっと時間に厳しくしていきたいと思います。また、暗号が全部入手できないチームがあったため混乱してしまい、どうしたらいいか迷っていました。そんなときの対応が必要だとも思いました。

しかし、たくさんの笑顔が見られたことはとても嬉しかったです。大事なのは子どもの中にどれだけ感動を残すことができるか、ということだと思います。この講座を開いて、考えている真剣な顔、解いた笑顔、走って疲れた顔のすべてが見られて良かったのではないのでしょうか。他の講座のスタッフ全員がこの講座のスタッフであるため、協力なしでは成立しません。皆さんに感謝したいと思います。とくに登坂くんには犯人役をしていただき、ありがとうございました。



食べ物講座



1.

講座名
No. 5 うどんとうどんを作ってみよう

講座紹介



小麦粉からつくるうどんって
どんな味がするだろう。
さあ、君もやってみよう。

2.

講座名
No. 8 電気でパン

講座紹介

オーブンを使わずに
パンが焼けるよ!!
みるみるうちに、
パンがモコモコふくらむ!!
おいしいぞー。



3.

講座名
No. 19 缶でアイスクリーム

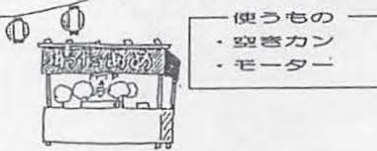
講座紹介



4.

講座名
No. 15 木目 わたあめ屋さん

講座紹介



使うもの
・空き缶
・モーター

"おいしい" わたあめを、
みんなで作ろう!!

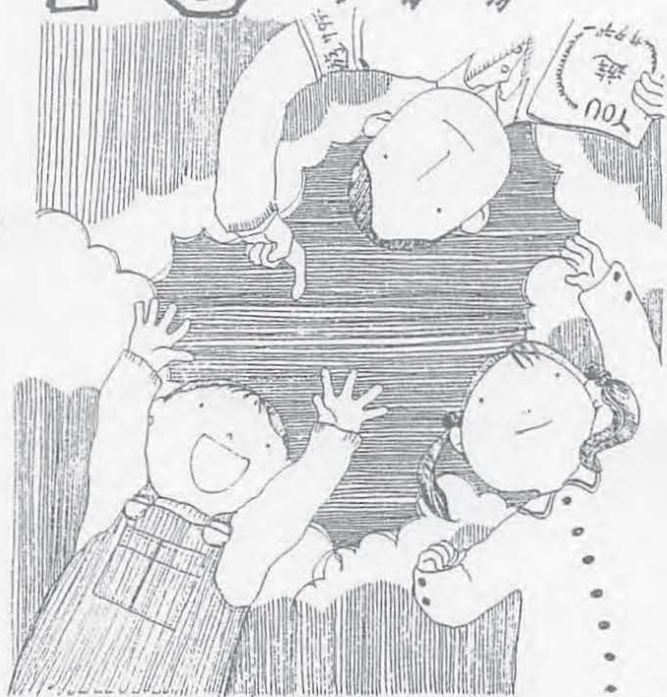
参加費は
200円です。



HOW TO サタデー

この「HOW TO サタデー」は、
YOU遊サタデーの講座の中で
御家庭や地域でも手軽にできる
講座を紹介したものです。ぜひ
御活用ください。

第4期 信大YOU遊サタデー
実行委員会
発行日 1997.9.27



どーんとうどんを作ってみよう!

準備おむの、中力粉 200g 熱湯 90g
塩 10g、打ち粉、ボール、棒、台。

1 作り



ボウルの下に塩の
のれんを
敷くと
滑りやすい

2 かなざが大団、団に

カップに熱湯を注ぎ、塩を入れて
とかし冷ます。ボウルに中力粉を
入れ、湯水を少しずつ注ぎ、かな
ざをみながら、湯水と粉を混ぜ合
わせる。手のひらを上に向け、棒
で粉を盛り上げるようにして混ぜ
るのがコツ。次第にヒラヒラとし
た紙片状の塊がいくつもできる。

3 けっころ力がいりんだね

団の紙片状の塊を、重ねて押し
つけるという動作をくり返す。こ
のとき、体重をかけて真上から押
しつける。ダンゴツで押すと力が
入りやすい。



4 手が傷れるから保護に

バラバラだった紙片状の塊が次第
に1つになる。さらに押しつけ、
平たくなったら、折り裏に、
団の押しつける動作をくり返す。
よーん、おーん!

5 やつと、ここまで来たよ

団と水が均等に混ざったらさらし
の布で包んで包み、さらにビニール
のふろしき(またはビニール袋)で
包む。

6 団は固まるのかな?

団をかかてま
ろみつぶす。こ
れは水分を団の
隙の間に押し込
むため、団が
つぶしては固
まる。固まり
すぎると少し
柔らかくなるま
で戻ける。

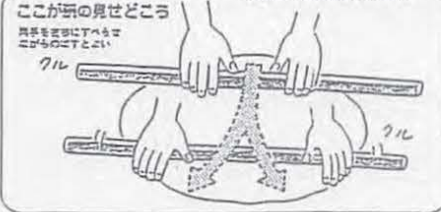


7 打ち粉をする とくっつきにくいんだって

団を半分
にして、そのチ
割を丸める。さ
うさうさ
(1つ以外にラ
ップに包んで
おく)また
打ち粉(また
はかたくり粉)
をまぶす。生地をのばすとめん
棒に打ち粉をすりこんでおく。

8 なんだか、 プロになった気分

テーブルなどの広い面に生地をの
せ、めん棒で均等に厚さを均等に
していき、厚さ2mmくらいになる
まで薄く伸ばすこと。ほかの4つ
の生地も同様に薄く伸ばす。



9 ここが研の見せどころ

両手を動かす
ときは必ず
このように

10 ここがポイント じつと棒とら

団のさらし、ふろしきをはずして
丸める。ボウルに入れ、ラップをか
けて蓋で30分ぐらい休ませる。
なかせることにより、コシの強
いうどんができる。



11 どうなるどんが できるかな

薄くのびた生地は、くっ
つかないように打ち粉を
まぶして二重にする。
それぞれに打ち
粉をまぶした
の刃渡りが短い
場合(3重に折
ると長い)、玉子の折り目側に団下
の刃渡りを3mm幅に切っていく。
その間に団にお湯を掛かしておく。



ゆでる



12 湯をこぼれそうでも、 あけていないで

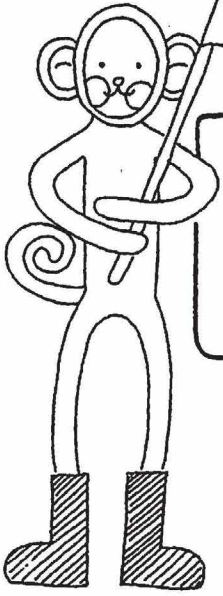
湯が溢れそうでも、こぼれ
ないように注意
しながら、手火で湯をゆでる。ふ
きこぼれそうになったら水を注
ぎ込んでゆでます。これを2回くり
くり返す。

13 すくまわるのが、 おいしいぞのヒケツ

好みのかたまりにゆで上がった湯を
ザルにあけ、大きめの容器の中で、
冷たい水をザーザー流して水洗い
する。このとき、手のひらで水を
受けてから、器にかけること。(既
済に水をかけると麺が切れやすく、
全体に水が付き傷むため)



カリカン アイスクリーム



用意するもの(2人分)

- アイスクリームのもと
- ① 卵黄 1こ
 - ② さとう 40g
 - ③ 牛乳 150cc
 - ④ 生クリーム 75cc

その他に...

- ① 氷 ② 塩 ③ ガムテープ
- ④ ラップ ⑤ 断熱材(タオルなど)
- ⑥ ふたつきの缶(大・小各1こ)

*断熱材は缶に巻いて冷気を逃さないようにするもの。

つくりかた

- ① 小さいカンに卵黄とさとうを入れてよく混ぜる。
 - ② さらに牛乳と生クリームを入れてよく混ぜる。
 - ③ アイスクリームのもとをこぼれないようにラップをはさんでしっかりとふたをさせる。
 - ④ 大きいカンの中に小さいカンをいれて、大きいカンと小さいカンのあいだに氷と塩を入れる。
 - ⑤ 大きいカンにふたをして、ガムテープでしっかりとめたあと、カンのまわりに断熱材を巻く。
 - ⑥ ⑤のカンを20分間こころがすと.....
- おいしいアイスクリームのできあがり

おうちの方と一緒にやろう!

HOW TO モコモコ デンゴギ パン

用意するもの

- | | | |
|----------|------------|-------|
| 牛乳パック | ホットケーキミックス | 100g |
| ステンレス板 | 卵 | 1/2個 |
| ワニ口クリップ | 水 | 70cc位 |
| 導線 | 好きな具 | |
| コンセントプラグ | | |

作り方

1. 牛乳パックを高さ10cmに切る。
 2. ホットケーキミックスと卵と水と具を入れて混ぜる。
 3. 生地を入った牛乳パックにステンレス板を入れる。
 4. ワニ口クリップをステンレス板にはさむ。
- * ステンレス板が割れて、ステンレス板屑が入ると味が変になるので注意してください。

5. プラグをコンセントに入れる。
 6. 出来上がった後、コンセントを抜いてクリップを外す。
- そのまゝ7~8分。3~5分でモコモコしてきます。生地が、ステンレス板から、はなれはじめたら、出来上がり♡
- 注意: わけとをしないように、牛乳パックから、パンを取り出す。紅茶などと一緒にいただきます。
- * 10秒クリップを外してから、コンセントを入れること。(作る時)
* コンセントが入っている間は絶対に触らないこと。
* 10秒、コンセントを抜いたら、クリップを外すまで。(終わる時)

材料について(配線)

- 導線 コンセントプラグ } → ホームセンター
 - ワニ口クリップ → 学校や工作で(100円ショップでも買えます。お家のクリップでも代用できます。)
 - ステンレス板 → 家電店
 - ハンダハンタグ →
- ハンダハンタグ

ワンポイントアドバイス

- 牛乳パックの方がよくふくらんで、モコモコのパンができるよ。
- 具を入すぎるとあんまりフワフワにならないかもよ。

第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	どーんとうどんを作ってみよう	第12回 9月27日(午後) アシスタントスタッフ数 6名 参加者数 10名
キャプテン名	平林 徹 (数学専攻 3年)	
指導教官名	宮崎 樹夫教官 栗津原 宏子教官	

・講座のねらい

小麦粉から自分でうどんを作ってうどんを食べることにより、できたという達成感を
感じることで、何にでも挑戦するという心を持つことができる。

・講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
1. 自己紹介。 ・みんなと頑張ろうどんを作るぞ。	○自己紹介をして、交流をはかる。 ・あらかじめ、作る台の場所を決めておく。自己紹介が終了したらその台にすばやくつれていく。	10分
2. こねる。 ・ボールに小麦粉を入れ、ぬるま湯を少しずつ注ぎながらこねる。どんだんこねる。まとまってきたら袋に入れて足でこねる。できたら打ち粉をしてねかしておく。	○やり方などを書いて壁にはっておき、いつでもやり方がわかるようにする。 ・小麦粉が散らばらないようボールを固定しておく。お湯は少しずつ入れていく。背の小さい子には踏み台を用意しておく。	40分
3. のばす。 ・打ち粉をまぶして棒などにくっつかないようにのばす。厚さ2ミリぐらいで。できたら4つまたは6つ折りにしておく。	○生地が平らになるように補助する。 ・生地が多い場合は2つに分ける。台はきれいにしておく。形がくずれても補助で何とかする。見本をキャプテンが見せる。	15分
4. 切る。 ・打ち粉をたくさんしておき、生地をのせ、切る。自分が麺と感じるくらいなら多少太くてもよい。	○ここはゆっくりやるよう指示する。 ・包丁に特に気をつける。持ち場は離れない。いらぬものは片づける。最初はスタッフが見本を見せる。 ・のばしている途中で、ゆでるお湯の用意。	10分
5. ゆでる。 ・少しずつゆでる。さし水を入れ、いいころあいで上げて、冷水にさらす。手を入れてはいけない。ざるを動かす。 ・ざるにもり、のり、ねぎなどをのせる。	○ばらばらといれる。お湯に注意。ゆで具合は一緒に見る。 ・前日にねぎを切っておく。	5分
6. 食す。 ・自分で作ったもの、友達の作ったものを食べ比べるのもよい。	○うまくいった点などスタッフがほめる。つゆはゆでている時に用意する。 ○家庭でもできることを伝え、またやってみよう勧める。	20分
7. 修了式、後片付け。 ・片付ける。	○とにかく、ほうき、雑巾、モップ、総動員。	残り

どーんとうどんを作ってみよう

平林 徹 (数学専攻 3年)

1. 講座設定の理由

YOU遊サタデーに何回か参加しているうちに、「自分で講座を開きたい」という思いが浮かんできました。これは去年の秋から私が考えてきたことです。感動してもう一度やってみたい、という思いを子どもが持って欲しいという考えがありました。そこで考えたのが食べ物という講座です。手軽で、しかもおいしく作れるものがありました。また、たくさんある食べ物講座の中で、主食などがあまりないということに気がつき、自分たちで作ったものをそのままお昼ご飯にしてしまおうという考えが浮かびました。そばという講座が前例としてありましたが、私はそばというものを作ったことがありません。それに、はっきり言ってそばは難しいのです。そこで考えたのがうどんです。私が大学2年のときに、生活科という教科のなかで、うどんを小麦粉からちゃんとこねて作ってみました。最初は難しいと思っていたのですが、やってみると案外簡単でおいしいということがわかり、これはいいと思ってすぐに決めてしまいました。

2. 前日までの準備

うどんを作ると簡単に考えていた私に待っていたのは、質問の連続でした。「すべての行程を2時間以内でできるのか」「作業がバラバラになってしまわないか」「子どもの力でこねることができるのか」「第一にちゃんとしたうどんが作れるのか」など、自分自身でもやめてしまおうかな、とも思うくらいでした。今まで前例があまりない講座なので、問題はたくさんあります。一つずつ解決していくしかありません。

のし棒や台は幸い調理室にありました。調理台に手が届かない子どもに対しては体育科から踏み台を借りてきて解決しました。一人分の量がどのくらいか、ちゃんとしたうどんが作れるのか、時間は大丈夫かという問題に対しては、教材研究をかねて、2回の練習を行いました。その結果、一人分は約小麦粉200グラムという結果になりました。時間についてはなんとか2時間でまとめられました。薬味はどうするのかという問題については、のり、ねぎ、わさび、天かすにしました。行程と必要なものを書いた模造紙を作り、いつでも見られるようにしました。何か少しでも問題があると、それについて考えていくようにして、準備を進めていきました。

3. 取り組みの様子

子どもたちは最初、「本当にできるのかなあ」と疑問に思い、不安がっていましたが、こねていく場面になると子どもたちの目つきが変わってきました。一人の子は年長でしたが、こねていく回数と比例して、顔つきが柔らかくなってきました。こねていく途中ではみんなが手を真っ白にしながらかんぱっていました。すこし固い生地も二人で協力していきました。足でこねていくときには、「何か気持ち悪い」と言いながらゆっくりとこねていました。のばしていく場面では、子どもたちだけではうまくいかないようでした。そこでスタッフが「魔法をかけます」と言っただけで、それを見ていた子どもたちが「こんなにも大きくなるんだ、すごーい」と言って喜んでいました。切る、ゆでる場面ではスタッフが気をつけていたので一人のけがもなく、順調に進んだと思います。

食べる時になると、子どもたちみんなが用意しておいたタッパーに自分のつくったうどんを少しですが入れていました。なぜなのか聞くと、「家に帰ってみんなに食べさせる」と言っていました。家でもやってみようという感動が伝わったのではないのでしょうか。

私はみんなの状況をはかるために自分の分のうどんは作ってはいなかったのですが、ある一人の女の子が私の分まで残しておいてくれました。写真係の人も「おいしい」といいながら食べていきました。

4. 講座での反省

うどんを作っていく時はよかったです。そのつゆのことについては何も考えていなかったというのが事実です。そのうどんのつゆが濃かったせいか「のどがかわいた」と水を飲む姿がみられました。子どもから少しお金をもらっていたので、お茶を用意しておけばよかったと思いました。また、こねる時に足を使うのですが、そこでビニール袋を使います。そのビニール袋が子どもの踏みかたによって破けてしまいます。ビニール袋をたくさん使うので、「大切に使おう」といったら子どもが「いいよいいよ」と拒否してしまいました。うどんを作ることよりもまず環境に気をつけたほうがよかったのかもしれない。

私は作るのも大事ですが、片付けるのも大事と思ってちゃんと片付ける時間を設定しておきました。けれども作るのに精いっぱい片付ける時間にはもうあと5分ぐらいになっていて、急いで片付けても時間が間に合わなく、結果的に閉会式に遅れてしまう、ということになってしまいました。

それでも2人でうどんを作り上げていく姿には、とても感動しました。協力して作っていくことで、絆が深まったと思います。子どもたちもスタッフの皆さんも「おいしい」と絶賛していました。いままで教材研究で作った2回のうどんよりもおいしかったとスタッフは言っていました。もし、今度うどんを作ることになったら、時間的にも余裕のあるようにしたいと思っています。



第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	モコモコ デンキパン	第12回 9月27日(午後) アシスタントスタッフ数 4名 参加者数 10名
キャプテン名	唐木紫織 清水麻紀子 (家庭専攻3年)	第13回 11月8日(午前) アシスタントスタッフ数 7名 参加者数 14名
指導教官名	萩原應至教官	

・講座のねらい

火を使わずに、パンをつくるという、体験を通して、家庭科、理科、技術科など、さまざまな方面に興味を持つことができる。

・講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
・自己紹介	・自己紹介をして、みんなと友達になろう。 *小さい子どももいるので、キャプテン・スタッフから行う。	15
・作り方の説明	・作り方を知ろう *模造紙にしたがって、模範を見せながら、作業の手順を説明する。	15
・各グループに別れて、パンを作る	・スタッフのお兄さん、お姉さんと一緒においしいデンキパンを作ろう。 *スタッフは、安全面に十分注意する。	40
・試食	・自分の作ったパンと、紅茶で楽しいお茶会をしよう。 *スタッフは、子どもたちの間に入り、みんなが仲良くできるよう配慮する。 *良くできた点を認める。 *紙芝居で、デンキパンが何故できるかを説明する。	20
・片づけ	・それぞれつけたものをきれいに片づけよう。 *全員が片づけに参加できるよう配慮する。	20
・修了式	・修了証を受け取ろう。 *修了証を渡すときに必ず、声をかける。	10

モコモコデンキパン

唐木紫織・清水麻紀子(家庭専攻3年)

*講座を開設するにあたって

私が小学校2年生の頃、担任の先生の指導のもと「デンキパン」というものを作った。コンセントを入れるだけで、みるみるうちに生地が膨らんできたことがとても不思議で、今でも印象に残っている。これをYOUサタで行えば、子どもたちも興味深く取り組めるのではないかと考え、本講座を開設した。

何かを学ぶ上で、子どもたち自身が実際に体験してみることで「不思議さ」「疑問」を感じたり、出来たことに喜びを感じることは、とても大切だと私達は考える。子どもたちは、モコモコと膨らむパンを見て「何故パンが膨らむの?」「どうして電気でできるの?」といった疑問を持つであろう。そして、自分でパンが作れたという喜びを得るだろう。このような疑問や感動から、いろいろな方向に興味をもってもらいたいと考える。

*第12回について

・教材研究および教材づくり

通常のホットケーキでは、牛乳を使うところ、今回は水を用いた。これは、牛乳よりも水の方が電気を通しやすと考え、実際に牛乳のものと水のものを比較してみたところ、若干、水のものの方が膨らみが良かったからである。また、牛乳のものは、時間が経つにつれて固くなっていたのに対して、水のものは、それほど変化が見られなかった。よって、水を使用することにした。また、よりソフト感をだすために、通常分量よりもやや大目の水を使用することにした。

卵に関しては、入れたものと入れないものを比較し、膨らみにはあまり影響がなく、卵を入れたものの方がよりおいしく感じたので、使用することにした。

具については、クルミやアーモンドなど、固形のものなるべく小さく、ココアパウダーなどは量を加減しなければならない。これは、固形のが生地の中に混ざることによって電気を通しにくくし、生焼けが生じる可能性があるからである。

それぞれの分量については、一度に食べられる量を考え、設定した。

実際に行う手順を考える上で、最も大切なことは、安全性であった。今回のこの講座では、電気をを用いるため、感電・漏電には、特に注意しなければならなかった。そこで、「手順を必ず守ること」「濡れた手では絶対に触らないこと」などを子どもたちに守らせるよう、スタッフに徹底するとともに、模造紙にわかりやすく提示することにした。

・当日の様子

家族(母子・兄弟)で参加して下さった方が多く、最初からなごやかな雰囲気であった。そんな中で、一人で参加してくれた子どもたちは、恥ずかしそうにしていた。しかし、デンキパンを作り終わるころには、スタッフともすっかりうちとけ、そのはしゃぎぶりはすごいものであった。作っているときは、「これでいいの?」とスタッフの顔や、同じ班のお友達のものを見比べながら、真剣に取り組んでいた。具を入れる時には、「これとこれを入れて

みよう」と、自分で工夫して行っていた。

作業は、安全面に最も注意をして行う必要があったが、どの子どももみな、スタッフの助言のもと安全に行うことができた。子供2人にスタッフ1人といった班の構成で行ったのが良かったのかもしれない。パンがモコモコと膨らんでくる様子に、歓声を上げる子、真剣なまなざしで見つめている子、他の班のパンも気になって覗きにいく子、など様々であったが、みなとても興味を持ってきているようであった。全員が成功し、自分で作ったという喜びと満足感も加わって、おいしく試食を行うことができた。中には、家族へのお土産として自分の分を半分持ち帰る子どもも見うけられた。

しかしながら、最後の片づけができない子がおり、その対応に困惑しているスタッフもいた。そのような子にどう対処していけばよいか、課題として残ったように思う。

*第13回について

・教材研究および教材づくり

第13回で、新たに取り組んだことは、デンキパンができる仕組みについての説明をしようとして試みたことである。これに関しては、講座の対象が、小学1年からということもあり、最初は「理解することができるだろうか。」とか、「説明をしても興味を示すだろうか」といった不安があった。しかし、「なるべくかみ砕いて、わかりやすく簡潔に」を心がけ、とにかくやってみよう、ということになった。そして、なるべく多くの子どもたちに興味を示してもらいたいと考え、低学年の参加者が多かったこともあり、1枚の大きな画用紙を使って、切り込みをいれたり、洗濯ばさみや、ビニールテープなどを用いて、絵全体を実物に近づけ、さらに動きをつけるようにした。

今回の、教材研究で、最も課題となったのが、事前の試し作りで、調理室の後ろ半分のブレーカーが落ちてしまったことである。当日の各グループの進度や、電気の入れ方によっては当日もブレーカーが落ちてしまう可能性が0とは言いきれなかったため、電気を入れる段階だけ、3グループだけ、各グループのスタッフの指導のもと、部屋を移動することで対応することにした。

・当日の様子

今回も、兄弟や家族で参加された方が多かったが、YOUサタをきっかけに少しでも多くの友達を作ってもらいたいという願いから、グループ分けをあえて、それぞれ、初対面の子どもも同志にしてみた。すると、はじめは、各々恥ずかしさから、戸惑う面も見られたが、実際に活動に入り、時間の経過とともに、徐々に同じグループの子どもも同志が話しをするようになり、仲良くなっていったように思う。

今回、初の試みである、デンキパンのできる仕組みの説明に関しては、全体的に、静かに一生懸命聞いてくれたように思う。しかし、理解できたかどうか、また、それによる子供に与える影響は何なのかなど、これからの課題となる部分もあったのではないかと感じた。

部屋の移動も、スムーズに行うことができ、ブレーカーを落とすことなく、無事に活動を終えることができた。

*まとめと反省、次回へ向けて

今回のこの講座は、初めての開講ということもあり、教材研究をする度に課題や問題点が出てきたように思う。しかし、それらの課題を少しずつでも解決し、講座にのぞむことができたと思う。また、第12回・第13回と連続して開講したわけだが、それぞれにおいて、できる限りの努力をし、第12回から第13回にかけては、少しではあるがレベルアップすることができたのではないかと考えている。

しかし、第13回における直前でのトラブルなど、まだ、いくつかの課題が残っている。アシスタントスタッフと連絡の取り方や、準備段階での取り掛かりの時間など、これからまた、改善していきたいと考えている。

講座に関しては、子どもたちが、デンキパンを作るという体験を通して、デンキパン自体にとっても興味を示し、楽しんでいたようにみえた。この講座での体験が、それぞれに興味を持った方向（たとえば、どうしてパンが膨らむのか〈家庭科〉なぜ、パンに電気が流れるのか〈理科・技術科〉といった、様々な方向）への発展へつながっていけば幸いである。



第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	カンカンアイスクリーム	第12回 9月27日(午後)
キャプテン名	長田 ひろみ (家庭専攻4年)	アシスタントスタッフ数 8名 参加者数 16名
指導教官名	渡辺 敏明 教官 入江 建久 教官	活動場所 N104 教室

・講座のねらい

アイスクリーム作りを楽しみながら、氷と塩を混ぜることによってアイスクリームが固まるくらい冷たくなるという不思議さを味わってほしい。

・講座の展開

時間	子どもたちの活動内容	キャプテン・スタッフの支援	教材
15	<ul style="list-style-type: none"> ○あいさつをする ・グループの友達やお兄さん、お姉さんと仲良くなる ○手を洗う 	<ul style="list-style-type: none"> ○「名前を呼ばれたら大きな声でお返事をしよう！」 ・子ども二人につきスタッフが一人つく ○「食べ物をつくる時に一番始めにしなくちゃならないことは何だったっけ？」 	アイスクリーム ・ 蓋つき缶 ・ 氷、塩、 ・ 卵黄、砂糖、牛乳、生クリーム ・ かき混ぜ用割り箸 ・ ラップ ・ ガムテープ ・ ビニル袋 ・ 断熱材 (アルミマット) ・ 皿、スプーン
30	<ul style="list-style-type: none"> ○アイスクリームの作り方を大まかに知る ○アイスクリームを作る 	<ul style="list-style-type: none"> ○キャプテンがアイスの作り方を一通り子どもたちにやってみせる ・作り方の絵を黒板に予め示しておく ○「次は何をすればいいのかな」 ・氷と塩はたくさんつめるよう励ます 	遊具 ・ 板 (滑り台用) ・ ペットボトル ・ ビニルテープ ・ ラップの筒 ・ 大きな缶
30	<ul style="list-style-type: none"> ○缶を転がして遊ぶ ・子どもたちが自由に考え出した遊びを楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ○仲良く、けがのないように遊ぶことができるか見守る (於 ロビー) ・実験を始める 	
25	<ul style="list-style-type: none"> ○缶を開けてみる ・手を洗う ・固まったアイスクリームを食べてみる ○片づける 	<ul style="list-style-type: none"> ○アイスクリームをお皿に盛る ○「机の上はきれいになったかな」 	片付け ・ ぞうきん ・ バケツ ・ ごみ袋
10	<ul style="list-style-type: none"> ○実験を見る ・氷と塩を混ぜた方は缶の中の水が凍るという不思議さを味わう 	<ul style="list-style-type: none"> ○実験の結果を見せる ・アイスクリームの材料の代わりに水を使い、氷だけで冷やしたものと、氷と塩を混ぜたもので冷やしたものとの違いを示す 	
10	<ul style="list-style-type: none"> ○修了証をもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ○「ありがとう」のあいさつをみんなでする 	・ 修了証

カンカンアイスクリーム

長田 ひろみ (理科専攻 4年)

1. 講座を開くにあたって

この講座は何回も繰り返されてきた人気講座である。しかし、今回は低年齢の子ども（幼児～小学校1・2年生）の参加者が大半を占めたため、様々な配慮が必要であった。具体的には、子どもたちの身長に合わせて低い机を用意したり、字が読めない子のために動物の絵を描いてグループ分けをしたり、アシスタントスタッフ数を多くして子ども二人につき一人のスタッフがつくなどした。

また、事前にスタッフが集まり、アイスクリームの試作を何回も行った。そのなかで、缶の大きさとアイスクリームの出来具合の関係、作る時にどこが難しいのか、どうやって缶を転がしたら子どもたちが飽きずに遊べるのかを考えていった。その結果、ミルクの缶の中に入れる缶が小さすぎるとアイスクリームが固まらないことがわかったり、いろいろな遊び（ペットボトルのボーリング、滑り台、カーリングのようなゲームなど）のアイデアが生まれた。

また何よりもよかったことは、スタッフ同士が「3歳児には缶が重過ぎるから足の上に落とさないようにしなきゃ」とか、「ガムテープは扱いが難しいからゆっくり励まそう」などと自分の発見をお互いに教えあったことであり、これが講座の中でとても生きた。

2. カンカンアイスクリームについて

この講座のアイスクリームが固まるのは、氷に塩を混ぜることで凝固点降下がおこり、結果的にアイスクリームの缶を冷やすという非常に難しい原理による。しかし、今回の参加者が幼児主体ということもあり、「氷と塩を混ぜることによりとても冷たくなる」という現象の不思議さを味わうことにとどめた。

3. 子どもたちの様子

子どもたちは大好きなアイスクリームを作るということもあって、たいへんな勢いで製作を行った。特に、アイスクリームの缶を転がす段階になると待ちかねたようにロビーに飛び出して行って遊び始めた。次々といろいろな遊びを考えついて遊ぶ子どもたちの様子に、講座前の「子どもたちが缶を転がすことに飽きてしまったらどうしよう」という心配もふきとんでしまった。創造力次第でいろいろなことができるような遊具をたくさん用意したのがよかったようだ。子どもたちは年齢・性別・性格の差があっても、遊んでいるうちにすっかり仲良くなりスタッフともうちとけていった。

最後に自分達の手で作ったアイスクリームを満足げに食べおわりほっと一息ついた子どもたちの前に、氷だけで冷やした水と、氷と塩を混ぜたもので冷やした水を示した。後者の水が凍ってしまった様子に子どもたちは「うわー」と驚き、実際に触れてみたいと身を乗り出した。目で見て、次に自分の手で氷に触れて冷たさを実感した子どもたちは「氷と塩を混ぜるととても冷たくなるんだ」という発見に少し興奮気味だった。

4. 講座を通して感じたこと

スタッフが子どもたちととてもいい関わり方をしてくれたため、子どもたちの笑顔に囲まれて講座を終えることができた。アイスクリームを食べる前に、子どもたちが自発的に「手を洗うんだよね」と水道へ向かう様子が見られたのは、スタッフが常に「次は何をするの？」と、子ども自身が考えて行動することを助けるような声がけをしてくれたことによる。

また、危険のないようにしっかりと準備をした場（環境）を用意し、適切な助言をすれば、たとえ幼い子どもでも想像以上にいろいろな作業ができるということを実感できた。

最後になりましたが、この講座を開講するにあたり多くの人の協力があったことに感謝いたします。ミルクの缶をたくさん持ってきてくださった土井進先生、快く相談にのってくださり、たくさんのおもしろい科学実験を紹介してくださった渡辺敏明先生、凝固点降下の原理についてわかりやすく教えてくれた理科のスタッフ、缶を転がす滑り台用の板を快く貸してくれた技術科木工研究室のスタッフ、クーラーボックス、コーヒーの缶やペットボトルを集めてくれたYOUサタスタッフなど、大勢の方の協力によってカンカンアイスクリームは開講することができました。本当にありがとうございました。



第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	— 本日 わたあめ屋さん —	第 13 回 11 月 8 日 (午後)
		アシスタントスタッフ数 10 名
		参加者数 16 名
キャプテン名	宮下 聡 (理科専攻 院 2 年)	
指導教官名	巽 勇吉 教官	

・ 講座のねらい

- ..身近で手に入る材料を使って、楽しいことをする。.....
- ..人と助け合って作業することを通して、協調性を養う。工夫して工作する。.....

・ 講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
① 自己紹介 全員の前で一人ずつ自己紹介する。	・ キャプテン、スタッフ、子供の順番で行う。緊張している子供をリラックスさせる。	15 分 5 分
② 作業手順の説明 今日何をするのか説明を聞いて、見通しをつかむ。	・ キャプテンが説明をする。スタッフはどのグループの担当か確認。	60 分
③ 作業開始 (1) アルミ缶の下部 3~5cm に小さな穴を、ピンを用いてたくさん開ける。 (2) アルミ缶にシャフトをつける。 (3) シャフトとモーターをつなげる。 (4) モーターを電池につなげる。	・ 安全に留意する。特に缶に穴を開けるときにピンで怪我しないように注意する。 ・ 進度はなるべく同じになるようにするが、なかなか出来ない子供に対しては、ゆっくり時間をかける。スタッフは、手をあまりださないように支援し、子供に自分でやらせる。	25 分
① わたあめをつくる ザラメを缶の中に入れて、アルコールランプで熱し、溶けてきたところでモーターのスイッチを入れ缶を回す。	・ 火傷をしないように、火の取り扱いには十分気を付ける。	10 分
② 後かたづけ 協力して片づける。	・ 全員で行う。	5 分
③ 修了証の授与 修了証を受け取り、わたあめづくりを思い返す	・ 今日の成果を認めあう。	5 分

本日 わたあめ屋さん

宮下 聡 (理科専攻 院2年)

1 講座を開くにあたって

私をはじめでYOU遊サタデーに参加したのは、この講座が開かれたひとつ前の第12回であった。理科専攻の後輩である柚木亘君が声をかけてくれて、彼がキャプテンとなり開講した講座「ブーメランをとばそう」のアシスタントスタッフとして初めて参加したのである。普段、私は大学院生として実験室にこもりがちな生活だったので、子ども達と触れ合う機会は皆無であり、第12回で子ども達と接したのは、実に教育実習以来のことであった。子ども達と一緒にブーメランを作り飛ばしたことは、非常に新鮮な感じがするとともに楽しかった。教育学部に在籍していながら忘れかけていた、子供と共に学ぶ喜びを再発見することができた。その時の感動が原動力となり、第13回に自分がキャプテンとなって講座を開こうと思い立ったのである。

講座内容の「わたあめ作り」については、特にこだわりがあった訳ではない。子ども達と一緒に何か作り出すことができるものであれば何でも良かった。生徒たちが楽しめる内容であることと、身近な材料で手軽にできることを基準に考え、「わたあめづくり」をすることにした。

講座は、次の2点を目標として立て、取り組んだ。

- | |
|----------------------------------------|
| ①けがをしないように工夫して工作しよう。
②友達と協力してがんばろう。 |
|----------------------------------------|

2 教材研究

教材研究は、『いきいき物理わくわく実験』（愛知・岐阜物理サークル編著、新生出版）を参考にした。このアルミ缶とモーターを使った簡単わたあめ製造機は有名であり、長野県下の公立小学校の生活科や理科の授業において行われているようである。実践例があるため、わたあめが本当にできるのかどうかといった心配は無かったが、缶に穴を開けるところはピンや錐を使うので、安全面に気をつける必要があった。

予備実験としていろいろな缶を使ったが、アサヒのスーパードライか三ツ矢サイダーの缶が作りやすかった。

3 講座の様子（子どもの動きとスタッフの働きかけ）

- ・参加者16名（当日参加1名）という大人数だった。
- ・参加者は幼稚園児から小学校高学年までと幅広い年齢層だった。
- ・5つのグループに分かれて、講座を進めた。グループ内の年長者は年少者に対して面倒を見てあげていた。
- ・講座の目標に向かって頑張っていた。
- ・途中、工作に飽きてしまった子どももいた。
- ・スタッフはキャプテンの指示に適切に従っていた。子ども達とは仲良く、楽しく、礼儀

正しく接していた。

- ・小学校低学年の参加者は、工作が難しくて出来ないところがあった。その部分は、スタッフがうまく支援していた。
- ・時間が足りなくなって、わたあめを十分につくれなかったグループがあり、残念だった。

4 講座を通しての反省と今後の課題

○良かった点

- ・子どもと接し、共に楽しい時間をおくることができた。
- ・グループに分かれることで、作業が能率良く行えた。同時に、互いに助け合う態度を養うことが出来たと思う。
- ・相手に何か伝えるときに、相手の立場に立って分かりやすい言葉で伝えることの大切さを実感できた。
- ・ひとつの物事をするためには、その前段階として準備することが、いかに大切かが分かった。
- ・みんなでひとつのことを目指す結束感、それを達成したときの充実感を味わえた。

○反省点

- ・スタッフとの連絡が完全にとれていなかったのも、行き違いがあった。事前の連絡を密にとる必要がある。
- ・時間配分がうまくいかず、時間が足りなくなってしまったので、事前に講座の進め方のシミュレーションをもっとする必要があった。
- ・小学生がどんなことを知っていて、どこまでのことができるのか、といった実態がつかめていなかった。発達段階に合わせた講座の進め方を考えなければならない。

最後に、普段の授業では得られない貴重な体験を与えて下さったYOU遊サタデーと、御指導頂いた土井先生に感謝致します。ありがとうございました。

運動講座



1.

No. 9 春の大運動会

講座紹介

どこの国旗かな?

風船おみこし

長ぐつを
とびしたネコ

水うし

サメに
回された島

ほいほい
ブルドガー

他にも楽しいゲームがいっぱい!!
遊び感覚のゲームだから誰にでも簡単にできるよ。
お父さんお母さんと一緒に参加してもいいよ。

2.

No. 7 ドキドキの世界

講座紹介

ドキドキの世界にようこそ!
何ができるかわからない
たんけんたいんは、
運動できるまで
次のものをもってくること。
・たいいくかんシューズ
・タオル

ドキドキ

3.

No. 5 みんなでジャンプ!

講座紹介

みんなで
跳なわとびを
するよ!

持ち物
・体育館シューズ
・タオル

4.

No. 11 これで私もパパパ PUFFYでイ感じ!

講座紹介

これで
私もパパパ
PUFFY

* delicious balance of
natural water and apple *

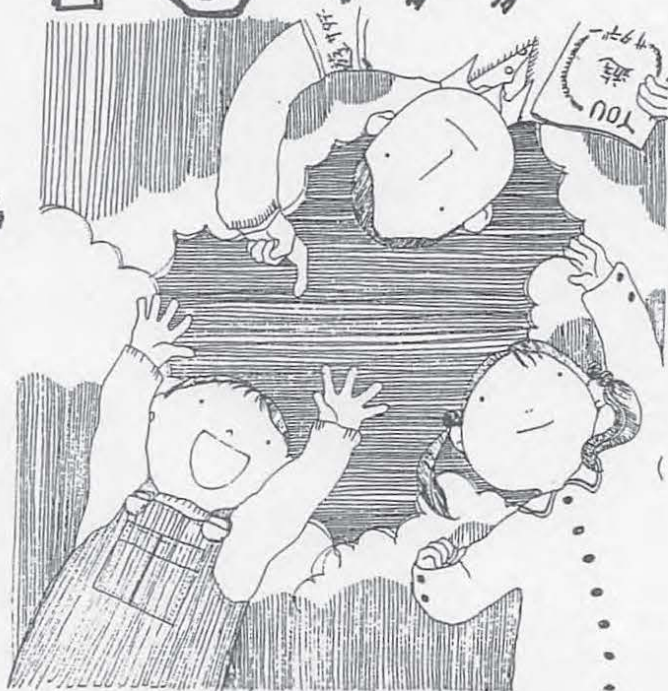
なりもりパフィーで
うたて! おどて! おしゃべりして!



HOW TO サタデー

この「HOW TO サタデー」は、YOU遊サタデーの講座の中で御家庭や地域でも手軽にできる講座を紹介したものです。ぜひ御活用ください。

第4期 信大YOU遊サタデー
実行委員会
発行日 1997.9.27



いい汗かこう!! 春の大運動会



みんなで遊ぼう

風船おみこし

▶用意するもの 風船、新聞紙
さあ、4人で協力して! 大きく広げた新聞紙の上に風船をのせて、4人で新聞紙の4隅をもって風船を運ぼう。風船がどどこかへとんでいってしまっただけで、難しいぞ。

水うつし

▶用意するもの 水(絵の具などで色をつけるとよい)、ペットボトル、バケツ、洗面器(コップ)

まずバケツに色水を入れよう。そして少し離れたところにペットボトルを置いて、そこへ洗面器(コップ)でくんだバケツの水を移していこう。うまく移せるかな?

長ぐつをとばしたネコ

▶用意するもの 長ぐつ
このゲームは、ただはいっている長ぐつをとばすだけ。でも、ほかほかうまくはとびませんよ。

はいはいブルドーザー

▶用意するもの ダンボール、ガムテープ
まず用意した大ききダンボールで幅1~2m、長さ3~4mの長方形をつくります。そしてその長方形で輪をつくれば、ブルドーザーのローラーのできあがり。その輪の中に入り、はいはいで進ませよう。

サメに囲まれた島

▶用意するもの 新聞紙(布)
新聞紙(布)が島でそのまわりにはサメがいっぱい。チームをつくってチームごとにその島の上に全員のリマス。しかしジャンケンをして負けたチームはその島を半分の大さきにしていつかたけられまいけません。さて、あなたはサメにおそわれずにいられるかな?

ジャンケン列車

▶用意するもの 列車
道具は何もありません。大勢でひとりひとり列車になり、そして他の列車と出会ったらジャンケンをして、負けた人は勝った人の後ろにつきます(前の人の肩に手を)。しかしその後ろへつときは、前の人の足の間をくぐって後ろへいかなければいけません。足のトンネルだ。
ここに紹介したゲームは、大人数でチームをつかって、そしてコースをつかって遊ぶと楽しいよ。他にもみんなで楽しいゲームをいろいろ考えよう!!

これでわたしたちもパンプキンプリンツでいいかんじ！
みんなでおどろく「者」にまつわるエトセトラ

作詞：井上陽水 作曲：奥田民生 歌：PUFFY (拝啓神様)



①両指を立てて
おどろくはうらやまし
顔を前から横に動かす



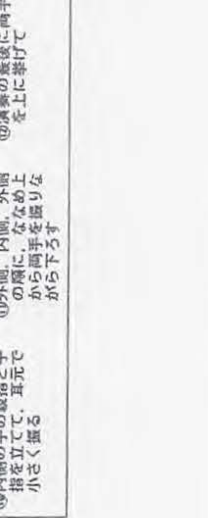
②手のひらを下に向けて
顔を前から横に動かす



③両手を
手のひらを前に



④先に出した右手に
左手をつつける



⑤(右側) 内側の手
指を立てて、耳元で
小さく振る



⑥(右側) 内側の
指を立てて、耳元で
小さく振る



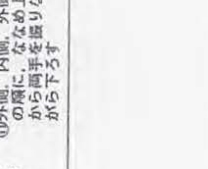
⑦(両側) 内側の
指を立てて、耳元で
小さく振る



⑧両手を上げて顔ら
しながら後ろに少
し下がると、その場
で軽い足踏み



⑨外側、内側、内側
の順に、ななめ上
から両手を振り下
がらす



⑩(両側) 内側の順に
外側、内側、内側
の順に、ななめ上
から後ろに両手
を上げて振る



⑪(両側) 内側の順に
外側、内側、内側
の順に、ななめ上
から後ろに両手
を上げて振る



⑫(両側) 内側の順に
外側、内側、内側
の順に、ななめ上
から後ろに両手
を上げて振る



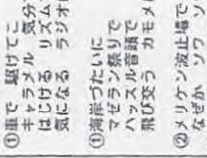
⑬(両側) 内側の順に
外側、内側、内側
の順に、ななめ上
から後ろに両手
を上げて振る



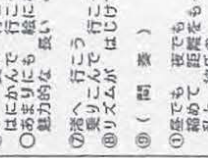
⑭(両側) 内側の順に
外側、内側、内側
の順に、ななめ上
から後ろに両手
を上げて振る



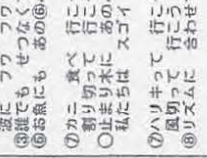
⑮(両側) 内側の順に
外側、内側、内側
の順に、ななめ上
から後ろに両手
を上げて振る



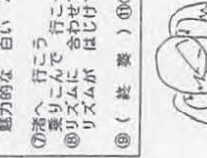
⑯(両側) 内側の順に
外側、内側、内側
の順に、ななめ上
から後ろに両手
を上げて振る



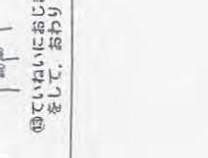
⑰(両側) 内側の順に
外側、内側、内側
の順に、ななめ上
から後ろに両手
を上げて振る



⑱(両側) 内側の順に
外側、内側、内側
の順に、ななめ上
から後ろに両手
を上げて振る



⑲(両側) 内側の順に
外側、内側、内側
の順に、ななめ上
から後ろに両手
を上げて振る



⑳(両側) 内側の順に
外側、内側、内側
の順に、ななめ上
から後ろに両手
を上げて振る

①重で 駈けてこ
キトラメル 気分
はじける リズム
気になる ラジオは BBC

②海岸つたいに
マゼラン祭り
ハマスル音頭
飛び交う カモメは BOAC

③(間奏)

④(間奏)

⑤(間奏)

⑥(間奏)

⑦(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
⑧(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
⑨(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

⑩(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
⑪(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
⑫(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

⑬(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
⑭(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
⑮(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

⑯(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
⑰(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
⑱(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

⑲(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
⑳(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
㉑(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

㉒(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

⑳(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
㉑(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
㉒(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

㉓(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
㉔(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
㉕(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

㉖(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
㉗(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
㉘(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

㉙(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
㉚(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
㉛(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

㉜(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
㉝(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
㉞(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

㉟(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

㊱(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
㊲(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
㊳(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

㊴(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
㊵(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
㊶(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

㊷(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
㊸(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
㊹(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

㊺(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
㊻(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
㊼(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

㊽(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
㊾(カニ) 重べ
はにかんで
行こう
㊿(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

㊿(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

㊿(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

㊿(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

㊿(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

㊿(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

㊿(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

㊿(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

㊿(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

㊿(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

㊿(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

㊿(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

㊿(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

㊿(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

㊿(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

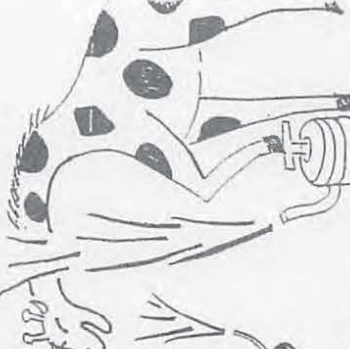
㊿(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

㊿(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

㊿(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

㊿(カニ) 重べ
はにかんで
行こう

㊿(カニ) 重べ
はにかんで
行こう



だれのしんぞうポンプキがカワ?

運動してしんぞうがポンプキするどどうなるの?

しんぞうがどきどきするのには、体についてい
る血をおくついているからなんだね。
運動すると、筋肉はいつもよりたくさん
のしんぞうを動かすので、血をたくさん出す回数
も増えるから、心臓は血をたくさん動かして、
体に届けるのよ。



しんぞうのうごきをかかんでみましょう!

みま、しんぞうのうごきをかかんでみましょう!

しんぞうのうごきをかかんでみましょう!

しんぞうのうごきをかかんでみましょう!

しんぞうのうごきをかかんでみましょう!

しんぞうのうごきをかかんでみましょう!



だれのしんぞうポンプキがカワ?

運動してしんぞうがポンプキするどどうなるの?

しんぞうがどきどきするのには、体についてい
る血をおくついているからなんだね。
運動すると、筋肉はいつもよりたくさん
のしんぞうを動かすので、血をたくさん出す回数
も増えるから、心臓は血をたくさん動かして、
体に届けるのよ。



しんぞうのうごきをかかんでみましょう!

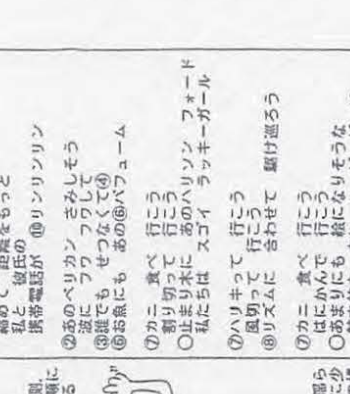
みま、しんぞうのうごきをかかんでみましょう!

しんぞうのうごきをかかんでみましょう!

しんぞうのうごきをかかんでみましょう!

しんぞうのうごきをかかんでみましょう!

しんぞうのうごきをかかんでみましょう!



だれのしんぞうポンプキがカワ?

運動してしんぞうがポンプキするどどうなるの?

しんぞうがどきどきするのには、体についてい
る血をおくついているからなんだね。
運動すると、筋肉はいつもよりたくさん
のしんぞうを動かすので、血をたくさん出す回数
も増えるから、心臓は血をたくさん動かして、
体に届けるのよ。



しんぞうのうごきをかかんでみましょう!

みま、しんぞうのうごきをかかんでみましょう!

しんぞうのうごきをかかんでみましょう!

しんぞうのうごきをかかんでみましょう!

しんぞうのうごきをかかんでみましょう!

しんぞうのうごきをかかんでみましょう!



だれのしんぞうポンプキがカワ?

運動してしんぞうがポンプキするどどうなるの?

しんぞうがどきどきするのには、体についてい
る血をおくついているからなんだね。
運動すると、筋肉はいつもよりたくさん
のしんぞうを動かすので、血をたくさん出す回数
も増えるから、心臓は血をたくさん動かして、
体に届けるのよ。



しんぞうのうごきをかかんでみましょう!

みま、しんぞうのうごきをかかんでみましょう!

しんぞうのうごきをかかんでみましょう!

しんぞうのうごきをかかんでみましょう!

しんぞうのうごきをかかんでみましょう!

しんぞうのうごきをかかんでみましょう!



だれのしんぞうポンプキがカワ?

運動してしんぞうがポンプキするどどうなるの?

しんぞうがどきどきするのには、体についてい
る血をおくついているからなんだね。
運動すると、筋肉はいつもよりたくさん
のしんぞうを動かすので、血をたくさん出す回数
も増えるから、心臓は血をたくさん動かして、
体に届けるのよ。



しんぞうのうごきをかかんでみましょう!

みま、しんぞうのうごきをかかんでみましょう!

しんぞうのうごきをかかんでみましょう!

しんぞうのうごきをかかんでみましょう!

しんぞうのうごきをかかんでみましょう!

しんぞうのうごきをかかんでみましょう!

第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	いい汗かこう！！ 春の大運動会	第11回 5月24日(午後)
		アシスタントスタッフ数 16名
		参加者数 17名
キャプテン名	佐々木 美恵 (家庭専攻 4年)	
指導教官名	粟津原 宏子 教官	

・ 講座のねらい

- ・ 身の回りにあるもので、手軽で楽しいゲームができること.....
- ・ 仲間と協力して行うこと.....

・ 講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
<ul style="list-style-type: none"> ・ チームを発表しながら、自己紹介をする。(スタッフ、参加者) ・ 準備運動、身仕度をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予めつくっておいたチームを発表し、名前を呼ばれた人に自己紹介をするよう働きかける。チーム別に色のついたハチマキを渡す。 	20'
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各ゲーム方法や道具を説明し、ゲームを行う。 ①風船おみこし:新聞紙の四隅を四人で持ち、その上へ風船をのせ運ぶ。 ②長靴をとばしたネコ:長靴とばしをする。 ③はいはいブルドーザー:二人で、輪になったダンボールの中に入りはいはいをしながら進む。 ④サメに囲まれた島:チーム全員で新聞紙の上ののる。ジャンケンに勝たないとそれはどんどん小さくなっていく。 ⑤水うつし:バケツに入った色水を洗面器でペットボトルへ移していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交代しながらチームに加わってゲームをしたりゲームの補助にまわったりする。(①～⑤のゲームが終了しても時間があるようなら、予め考えておいた他のゲームをする) ・ 途中、トイレタイムと水飲みタイムを兼ねて休憩をとる。 ・ 万一、参加者がケガをしたら、応急処置をしたり本部へ連絡したりする。 ・ 勝ち負けにこだわらず、チームで協力してがんばったことなどを褒める。 	85'
<ul style="list-style-type: none"> ・ 後片付けをする。(グラウンド整備など) ・ アンケートと終了証を渡しながら感想を発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもと一緒に後片付けをし、服が汚れた子どもは着がえさせる。 	15'

備品：風船、新聞紙、ペットボトル、バケツ、洗面器、絵の具、長靴、ダンボール、ゴールテープ、折り返しボールになるもの、ハチマキ、笛、救急道具、ガムテープ、コップ

いい汗かこう！！春の大運動会

佐々木美恵（家庭専攻 4年）

【講座を開いて】

この講座は、幅広い年齢層の人たちが集まって一緒に簡単なゲームをし楽しむことを目的に開講した。

実際には親子での参加が多く、雨が降ったものの、体育館の中でできる簡単なゲームをいくつも楽しくやることができた。特に、チームごとに行うゲームでは親子やスタッフが協力する姿を見ることができた。本来各講座で使っている名札は運動するには危険だと考え、またチーム分けする意味でも、各色のハチマキを作りそこに大きく名前を書いたことによりお互いの名前が呼びやすかったのが効果的だったと思う。

しかし、2時間の中でいくつものゲームを行うという、私にとって初めてのかたちの講座には、多くの見落としがあった。まず、幅広い年齢層の人たちに楽しんでもらおうと考えて簡単なゲームを用意したが、やはり運動レベルに差があり、幼稚園の女の子には少し大変だが、元気の良い小学生の男の子には物足りないという状況もあった。スタッフがカバーにまわってくれたが、幅広い年齢層の人たちそれぞれが一度に楽しめるようにするのは難しいことだと感じた。みんなで何かひとつのゲームを協力して行うことも重視したいが、例えばそれぞれの運動レベルに見合ったゲームを交互に行いリレーしていく、などのかたちも取り入れてみれば良かったと思う。また、物作りの講座では、ひとつのものを作るという2時間の流れがあるが、今回の場合は、ひとつひとつのゲームごとに時間が切れてしまうのを感じた。各ゲームの間には、簡単ではあるが準備をしたり、やり方などの説明をしたりしなければならぬが、その時間や自分が休んでいる時間などにもっと声をかけ合うなどして雰囲気盛り上げ、次のゲームへ入る流れを作れば良かったと思う。つまり、もっと2時間という時間の流れを考えて講座を組み立ててみたかった。

このように、反省点も多くあるが、新しいかたちの講座を開くことによって勉強になったことは多くあったと思う。

【本部の仕事との兼ね合い】

11回は、この講座の準備と本部の仕事を同時進行ですすめていったが、終わってみると、双方が曖昧なまま終わってしまったような感じがした。本部の仕事も初めてな上に、松本キャンパスということで、それだけでも精一杯だったにもかかわらず、新しい講座を開いたため、先にも書いたとおりの見落としが多くあった。このYOU遊サタデーでひとつの講座を開くからには、そこに参加してくれる全ての人たちに来て良かったと楽しんで帰ってもらいたいが、そのためには本当に様々なことを事前に考え準備しておく必要があると思う。また、本部の仕事も、それら講座のひとつひとつやYOU遊サタデー全体が円滑に行われるためには欠かすことのできない重要な仕事であり、それぞれが大変勉強になるものである。この2つが、決して両立できないものとは思わないが、両立させるためにはスタッフをはじめ、まわりの人たちと協力していく必要があると思う。

第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	ドキドキの世界	第12回 9月27日(午前)
		アシスタントスタッフ数 5名
		参加者数 6名
キャプテン名	佐野 美佳 (保体専攻 4年)	
指導教官名	渡部 かなえ	教官

・講座のねらい 自分の心臓の音を聞いたり、教材からその大きさや重さを感じ、心臓の働きについて興味をもつ。また、ダンスを楽しみながら、安静時と運動後の脈拍を比べ、運動によって心臓は活発に動くことを知る。

講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
1. 自己紹介	・元気よく。	5分
2. 舞踊室に設定した、暗室に入る。 「ドキドキの世界へようこそ！」 (入り口を「口」にみたくて体内に入っていく感じをだしてある。)	・心臓のBGMを流しておく。 ・安全の確認。スタッフの誘導。 ・自由に発言	
3. BGMの音はなんだろう	4. 左胸の少し内側にあることを確認。	
4. 心臓はどこにあるか触ってみる。	5. 水風船配布。トリ、ネズミ、ウサギ、イヌ、コドモ、オトナ、ブタの心臓と同じ重さの水風船を用意する。スライドで、ウマやゾウやクジラの心臓の大きさとも比べてみる。	30分
5. 水風船を用いて、心臓の重さと大きさを知る。	6. スライドを用いる。	
6. 心臓の働きの説明	7. 聴診器の使い方の注意。	
7. 聴診器で心臓の音を聞いてみる。	8. スタッフは、脈のとれない子どもを支援する。ペットボトルの用意。	
8. 1分間脈拍をはかってみる。1分間にどのくらいの血が心臓から送り出されているか、ペットボトルに入った色水で考える。	9. 自由に発言。スライドで説明。	
9. 心臓がドキドキするのはどんな時か考える。	10. 音楽に合わせて、だんだんと脈拍をあげる。急に運動することの危険性を伝える。心拍数をはかってみる。	
10. 準備体操	11. 簡単なステップ。「SHAKE」に合わせてダンスをする。成果を見合う。様子を見て休憩をいれる。音に合わせて体を動かすことの楽しさを知る。	15分
11. ダンス		50分
12. 運動した時の脈拍の変化をみる。	12. 黒板に今までの結果と比較できるように書いておく。13. 修了書を渡す。	10分
13. まとめ		

ドキドキの世界

佐野 美佳 (保体専攻 4年)

1. 講座開講の理由

ただ運動して、いい汗かいた、という満足感だけでなく、運動することでえられる身体的効果に、少しでも興味を持ってもらえればと開講した。

運動としては、ダンスを取り上げようと考えていた。それは、小学生は筋力をつけるにはまだ早い、調整力はこの頃最も発達すると言われており、ダンスのように、人の動きを模倣したり、左右違う運動をすることは、調整力を伸ばすのに適していると思ったからだ。子どもたちに、こんな理屈を言うつもりはなく、たった2時間であるが、先生の動きを模倣したり、リズムに合わせて踊るといったダンスの楽しさに触れてほしかった。

運動が身体に及ぼす効果について、何を取り上げるか悩んだが、変化が分かりやすく、だれでもなくてはならないものとして、知っているであろう心臓の働きについて今回は取り上げることにした。

2. 教材の工夫について

YOUサタの講座は、学校の授業とは違う。先生の話をつい聞きすぎて子どもたちは望んでいない。何か新しいことが起こるのを、ワクワクしながら待っている。そんな子どもたちにどうやって、心臓の働きなんて教えようか。講座を開くとはいったもの問題はたくさんあった。とにかく、教材をたくさん作って子供たちの目をひくことにした。今回は準備期間が長かったので、静岡県にある、東海大学人体科学博物館を見に行った。博物館内に、「口」からはいついっていくところや、心臓の説明の部屋には拍動のBGMをかけているところなど参考になった。また、体験コーナーがたくさん設けられていて、子どもたちに人気だった。そこで、本講座では、舞踊室の一部屋を、心臓の部屋として暗室にし、心臓のドキドキというBGMを流して、本当にドキドキの世界を作ることからスタートした。入り口はもちろん、段ボールと、新聞紙と、カラービニールで作られた「口」である。心臓の大きさを感じてもらう為に、いろいろな動物の心臓と同じ大きさの水風船を用意した。より、はっきり心臓の音を聞いてもらう為に、安全面で不安もあったが、自分が初めて心臓の音を聞いた時の感動を子どもたちにも伝えたくて、聴診器を使うことにした。説明はなるべく短く、スライドを用いて行うことにした。

ダンスは、子どもたちが大好きな歌に振り付けしたかった。また、学校でやっている、体操風のものではなく、ちょっとかっこいいものがないか、と思い、SMAPの「SHAKE」に体育科の友人に振り付けしてもらった。動きとしては簡単で、2時間で充分覚えられるものであることを、模擬授業を行って確かめた。

3. 参加者やスタッフの様子および反省

女の子が多いかなと思っていたのだが、受講してくれたのは、小2の男の子2人、小5の男の子1人、そしてお母さんたち3人であった。元気いっぱいの男の子たちも、教材のおかげで、心臓についての説明は聞いてくれた。特に聴診器で聞いた心臓の音には

びっくりしたようで、何回も聞きたがった。しかし、ダンスとなると、「つまらないよー」、「恥ずかしいよ。やだ。何か他のことして遊ぼうよ。」の連発であった。小学生の男の子には、ダンスは楽しめるものではなかったらしい。お母さんたちは、私のつたない講義を聞き、ダンスも真剣に覚えて下さった。「子どもも、この曲で踊ってるの。」という方もいて、馴染みのある曲にしてよかった。

小2の男の子たちは、どうしてもダンスが嫌でほとんど踊らなかった。お母さんたちが、飽きてしまった男の子たちに気遣って、「私たちは充分ダンスも覚えられたんで、あの子たちの好きな遊びをしてやって下さい。」と、申し出てくれた。私も、そうするよりしかたがなく、椅子とりゲームや、色おにをすることになってしまった。しかし、安全面を考えると、突然の企画はやるべきではなかったと思う。子どもたちが講義に対してどんな反応を示すか、それに対してどう対応していくか、一通りでない考えが必要だと思った。また、どんなことがおこるかわからないので、十分なスタッフの確保をしなければならない。今回初めから決まっていたスタッフは2人だけであり、当日2人の友人が手伝ってくれたのだが、この2人の協力とお母さんたちの理解がなかったら講座は成り立たなかったと思う。それだけ、子どもは元気がよく、いろいろな物に興味を示すから、会場の安全確認も怠れない。

スタッフの構成であるが、私は運動をするのだから体育科の子にやってほしいと考えていたが、むしろ、いろいろな学科の人が新しい観点から意見を言ってくれたことが、とてもヒントになった。またスタッフとして参加してくれた人も、運動の楽しさに気づいてくれたらと思う。YOUサタは子どもたちの交流の場であるとともに、私たちスタッフの交流の場でもあってほしい。

4. 次回に向けて

今回講座名を、「ドキドキの世界」としたのは、理由がある。この題名だけからは、何をするのかわからない、一体なにをするのかなあと子どもたちがドキドキしながら参加してくれるのではないかと、思ったからだ。しかし、あまりに何をするかわからなくても、子どもたちは集まってこないことがわかった。確かに、運動はいつでもやっているだろうが、簡単にできる運動を今までとはちょっと違うやり方で楽しめるような講座を次回は開き、たくさん子どもたちに伝えたい。そのために、講座名やチラシ作りにも力をいれたい。



第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	みんなでジャンプ	第13回 11月 8日(午前)
キャプテン名	佐野 美佳 (保体専攻 4年)	アシスタントスタッフ数 7名
指導教官名	渡部 かなえ 教官	参加者数 4名

・ 講座のねらい 縄にはいるタイミングをつかみ、三角跳びができるようになる。また、縄だけで手軽にできる長縄跳びを、少し工夫することでもっと楽しみが広がり、テクニックが必要なスポーツにもなることに気づく。

・ 講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他
1.準備運動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽に合わせて体をほぐす ・ 膝、腰、足首は念入りに ・ 縄を持つ時すぐ放せるように手に巻き付けけない。 ・ 縄を激しく床にたたきつけないようにする。 ・ できたらほめあおう。 ・ どこを飛んだら一番跳びやすいか考える。 ・ スタッフは入るタイミングがつかめない子にアドバイスしたり、励ます。自分も楽しむ。 ・ 20回連続で跳ぶことを目標にする。 ・ 跳んだ後、次の縄がくるのを考えた姿勢を取るよう声をかける。 ・ 三角跳びの練習は、はじめの縄で奥に入り過ぎないように注意する。 ・ まわし手は、ゆっくり跳びやすいようにタイミングをあわせてまわす。 ・ 回転しながら、あまり大きく遠回りしないように跳ぶ。 ・ 入る時に声をかけあう。
2.動いている縄を跳ぶ。 足の下を通す 頭の上を通す	
3.遮断機	
4.かぶり縄 くぐりぬけ	
5.揺り縄 迎え跳び	
6.迎え縄 直交跳び	
7.かぶり縄 屈折跳び	
8.迎え縄 屈折跳び	
9.休憩	
10.大学生のデモンストレーション 三角跳び	
11.屈折跳び	
12.屈折跳び連続	
13.屈折跳び連続2	
14.屈折跳びーかぶり縄くぐりぬけ	
15.むかえ縄直交跳びーかぶり縄屈折跳び	
16.むかえ縄直交跳びーかぶり縄屈折跳び ーかぶり縄くぐりぬけ	
17.16 の跳び方で三方から同時に3人入って跳ぶ。	

みんなでジャンプ

佐野 美佳 (保健体育専攻 4年)

1. 講座を開くに当たって

皆さん、長縄の跳び方をいくつかごぞんじですか？私は、大学の体育の授業で長縄跳びのおもしろさを知りました。縄だけで手軽にでき、工夫次第で簡単なものから、高度なテクニックを必要とするものまで、跳ぶ人の運動レベルに合わせていくつでも違う跳び方ができます。しかも、かなりの運動量があるんですよ。上手に続けて跳ぶには、縄とのタイミングをはかり、どこで跳んだら縄にひっかからないか考えたり、次にどこに自分がいくのか、縄はどこから回ってくるのか予測しなければならない、難しさがあります。これを克服できたり、みんなで何回も続けて跳べた時の感激はひとしおです。子どもたちの知っている大波小波や、かぶり縄や、向い縄の連続跳び以外の跳び方をこの講座で紹介して、友だち同志で是非やってほしいと思い、この講座を開きました。

2. 教材について

用意するのは、登山用のロープです。細くて軽いので誰でも回しやすい。回す時注意しなければならないことは、余った縄の端を手に巻き付けたりしないことです。もし、跳ぶ人が縄にひっかかってもすぐに縄を放せるようにしておきます。縄は跳ぶ人のタイミングに合わせるようにします。回し手によって跳びやすさもずいぶん変わってくるものです。始める前に、準備運動を充分に行うことが必要です。特にアキレス腱、膝、腰などの下半身は補強運動を加えるとよいでしょう。アキレス腱は意外と簡単に切れてしまうものです。

今回は、三角跳びができるようになることを目標に、講座を設定しました。

3. 参加者の様子

4人の女の子が参加してくれました。スタッフは7名でした。みんな、同じ小学校の友だち同志で、いつもの仲間に私たちが加わったという感じになってしまいました。もっといろいろな学校の子にも参加してほしいと思ったが、初めからわいわい言いながら楽しく進めることができました。4人とも運動感覚がよく、何回か跳べば、すぐにタイミングを覚えてしまい、つかえてしまって困るということはありませんでした。スタッフが、アドバイスする前に、自分たちでコツを教え合い、つかえても「もう1回挑戦しなよ。」と励まし合い、また新しい跳び方に意欲的に挑戦する姿が見られました。スタッフも一緒になって跳び、たくさんおしゃべりをすることができました。すっかりお互いの名前を覚えて、講座を終えるのが名残惜しかったです。

4. 反省

参加者が少なかったため、すぐに自分の番がきてしまい、みんな疲れてしまったようです。

休憩を頻繁にとるようにしましたが、何か長縄以外にも用意すれば良かったかもしれません。子どもたちには難しいかなと思い、縄はスタッフが終始回していたが、子どもたちが家に帰っても自分たちでできるように、回すことも体験させてあげれば良かったです。

第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	これで私もパパパ PUFFY でイイ感じ！	第13回 11月8日(午後) アシスタントスタッフ数 6名 参加者数 9名
キャプテン名	山木 隆行 (数学専攻4年)	
指導教官名	吉田 稔 教官	

・講座のねらい……人気女性デュオ Puffy になりきる講座で、本人と同じような衣装を作ったり、同じ振り付けができるように体を動かすことを通して、自分で楽しみを広げたり工夫を取り入れた表現活動ができる。

・講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
1. Puffy のどんなところが好き？ 試作Tシャツや型紙の提示をしたり踊りを披露して、具体的なイメージをつかみやすくする。 活動に入る前の注意点を伝える。	・映像や音楽を流しながら、子どもたちが Puffy の好きなおとこや真似してみたいところを明確にできるようにし、気持ちをたかめる。 ・準備した型紙等の使い方を説明する。	10
2. いよいよ Puffy になっちゃおうぞ！ ・オリジナルTシャツを作っちゃおう！ 家庭から持参してもらった無地のTシャツ（長袖可、書き込んでよいもの古着等で十分）にカラーマジック等でイラストやマーク、文字等を自由に描き込み、自分なりに工夫してオリジナル衣装を作る。	・スタッフも子どもと同じ活動をし、子どもたちの気持ちを高め、支援する。 ・Puffy になりきる気持ちを忘れることのないようにB.G.M等の配慮をする。 ・その際、本物の衣装を参考にできるように資料（雑誌のファイル及びボスター等）を用意する。また、できる限り多くの資料を提供し、自由に表現できるようにする。	50
3. Puffy になって踊っちゃおう！ オリジナル T シャツを着用し（長袖の上からの着用）、マイクを首に掛けて振り付けをマスターする。 課題曲： 渚にまつわるエトセトラ	・模造紙にイラストによる解説を書いておく（HOW TO サタデーと同様にする）。 ・子どもの傍らにスタッフが並んで音楽に合わせて一緒に練習し、お互いに確認しあいながら習得する。	40
4. これで私もパパパ Puffy でイイ感じ！ 成果発表に向けて衣装を整え、修了証を渡し、全員で後片付けをする。	・成果発表での自分の立ち位置を確認したり振り付けを再度確認して、来るべきステージへの気持ちを高める。	20

これで私もパパパ PUFFY でイイ感じ！

山木 隆行（数学専攻 4年）

1. 講座開設の経緯と目的

「これが私の生きた道」と自信を持って学生生活を振り返ることができるようにしたい。そのためにはどうすればよいか考えた結果、他の誰にも真似できない内容で自分らしさをアピールできる講座を開き、成功させることが一番だという結論に達した。そして、キャプテンとして終始講座の中心となって活動をすすめ、この講座に対する自分自身の思い入りをスタッフに具体的な形で伝え、全員で作りに上げる講座をめざして準備を開始した。

音楽に合わせて自分で体を動かしたり他の人の動きを模倣する活動は、子どもだけではなくわれわれ大人も普段から行っていることである。特に、飲んだ勢いで熱唱したり踊ったりしているときの表情は、本心で楽しんでいるからこそ出てくるのだ。本講座では、このような表現活動の楽しさを子どもたちと共に活動する中で伝えると同時に、自分で表現の幅を広げていくことのできる力の基礎を養うことを目的とする。

2. 講座内容と方法

講座名からもわかるように、本講座は人気シンガーPuffy になりきる活動を展開する。Puffy になりきるために条件は二つある。ひとつはジーパンを履き T シャツを着ること、もう一つはとっても簡単な振り付けを覚えることである。そこで、子どもたちに当日は古着を持参することとジーパン着用を連絡しておく。活動の前半は、Puffy が実際に着ている T シャツと同じデザインの型紙を用意し、それをシャツの上に当ててボスカでなぞり色を塗ってオリジナル T シャツを作る。このとき、何種類もの型紙を複数用意しておき、活動が中断してしまわないようにする。後半は、振り付けをマスターする。その際、スタッフが子どもの傍らに立ち、左右の動作やわかりにくい説明など身振り手振りで教えたりする。歌詞を書き解説イラストを準備して音楽に合わせて歌いながら楽しく練習し、自分の手で作った衣装（オリジナル T シャツ）を着てステージの上で活動の成果を発表する。

3. スタッフの講座把握

表現講座で大切なのは、スタッフが積極的に自分の体を動かして楽しみながら子どもに接することである。もう少し砕いて言えば、人前でも恥ずかしくなく自分らしさを表現できるかである。これができないと、子どもたちの動きも徐々に小さくなってしまい、気持ちも寒くさせてしまうからだ。だから、この講座のスタッフにはビデオテープを見ながら振り付けを覚えることを他の講座の準備しているその横で行い、互いに活動の幅を広げてもらふことにした。そして、子どもに教えるときのポイントを各スタッフが実際に経験する中から見出して、講座の流れを考えながら議論しあい最善の方法を見つけ出して本番に備えるようにした。T シャツ作りを通してボスカの上手な使い方を発見したり、子どもたちにプレゼントするマイクをかわいらしく作り上げたりして、試行錯誤を繰り返しながら実際に手を動かすことによって「教材研究」如き経験をした。このような準備が講座の成功を導き、同時に我々の実践的指導力を高めていくものとなったと考えたい。

4. 参加者の取り組み

受付や開会式の時分から講座の活動について簡単に説明しておいたので、スムーズに活動に入ることができた。スタッフ全員で試作したTシャツを着て臨んだので、子どもたちも具体的にイメージしやすかったようだ。用意した型紙も様々な種類に渡って幾つかそろえておいたので、前の人を使い終わるまで待ちくたびれてしまうことはなかったようである。型紙にこだわらずに自分で書きたいものを描いたり、斬新な色使いでカラフルにデザインしたりして、お互いの出来具合を見合う姿も見ることができた。マジックを使うときも「赤のマジック使ってもいいですか」と一言断わってから持っていく場面も見られたし、「私は由美ちゃんのほうが好き」という話を友達としながら活動を進めていく様子も見られた。スタッフの言葉掛けにも快く返事をしたり、積極的に話しかけてくる子どももいたし、Tシャツ作成時のB.G.M.に用意した「アジアの純真」「これが私の生きる道」「サーキットの娘」を口ずさみながら手を動かす姿もあり、楽しく製作できた。踊りのときにも恥ずかしがることなく、まじめに取り組んで真剣に覚えようとしていたので、成果発表では全員でしっかりと踊ることができ、全員で元気よく体を動かして楽しめた。自分たちの出番を前にして子どもたちのドキドキした表情や終わったあとのホッとした様子、そして見送りのときの嬉しそうな顔は、十分楽しめたことの現れであろう。また、後日FAXで楽しかった気持ちを伝えてくれたり、出来上がったTシャツを着て街を歩きたいと話したり、誕生会でTシャツを着てみんなの前で踊ったという報告からも、参加した9名が思い思いに工夫を凝らしてPuffyになりきる目標を十分に達成できたと判断したい。

5. 反省と今後の課題

今回はポスカを利用してTシャツ作りを行ったが、水性インクという最大の弱点を指摘されながらもついつい聞き流してしまい、一回限りのTシャツになってしまった。ステンシルという手段があるものを知りながら目を向けようとしなかったのが次回以降は活用できるように考えて欲しい。また、映像機器や音響機器の活用についても改善しなければならない。曲の頭出しの準備、リズムに合わせた拍子の取り方、他の講座に対する配慮など数え上げればきりが無い。しかし、突発的なトラブルが起きたときでも全体の流れを考えて落ち着いた判断が下せるよう、この活動に積極的に参加し、多くのことを経験していく姿勢を大事にしていきたい。その姿勢がキャプテンとしての自信につながり、その講座の特色を前面に押し出した内容を生み出すきっかけになるからである。

6. 本講座の将来的展望

本講座は、今回限りで終了せず形を変え内容を変えてこれからも続けていくべき価値のある講座である。今回は素材にPuffyを取り上げて試みたのだが、次回以降も流行に合わせた素材を活用することが重要である。なぜなら、講座を体験した子どもたちがその成果をすぐに活用できる場が、その時勢に広がっているからである。今回のスタッフの中でも、既に次回の開催に向けて素材を探している有志がいるようだ。今回以上に充実した振り付けをよりハイレベルな内容で行い、歌って踊れる能力を子ども自身が発見できるように、今回同様じっくりと時間をかけた準備と周りの人を驚かせる程の意気込みでこの活動に当たって欲しい。そうすれば子どもは必ず我々に講座の成功をもたらしてくれるはずだ。

その他



1.

講座名
No. 3 いじめフォーラム'97

講座紹介

山上絹代さんの息子さんは、中学校時代にいじめを受け学校へ行けなくなりました。高校時代にもその思いは心の中に残っていたようですが、その時のことを山上さんにお話しいただけます。そんなお話しを中心に、いじめをめぐって子どもと共に生きる意味について考えてみませんか。

当日はみなさんとゆっくりお話しをしたいと思います。多くのみなさんの参加をお待ちしています。

2.

講座名
No. 16 大学生の考えるいじめ問題

講座紹介



-参加対象-
小学校3年生
~成年一般です

この講座は、基本的には大学生をその対象としています。

誰もが、当事者ないし傍観者でありえたこの問題を、この場でディスカッションしてみたいと思います。

今、大切なのは犯人探しではなく、各自がこの問題を多くの人との対話の中から考え、「事実」を知っていくことだと考えます。

また、大学生とともに、この問題を考えたい・教師のタマゴにひとこと言いたい、そんな皆様の参加も大歓迎です。

3.

講座名
No. 4 ソクソク教育学部ってヒメなとろ

講座紹介

教育学部に進学を希望している皆さんの疑問・悩みにお答えします。希望する専攻と開講していることをハッキリと記入して申し込み下さい。恐らく「ソクソク」する講座になるでしょう。

4.

講座名
No. 15 世界の言葉と遊びを
楽しもう!

講座紹介



第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	いじめフォーラム '97	第11回 5月24日(午後) アシスタントスタッフ数 9名 参加者数 15名
キャプテン名	北島茂樹(数学4年) 吉沢麻衣子(国語3年)	
指導教官名	越智 康司 北澤 勝親 教官	

・ 講座のねらい

...一般論や形式的な見解ではなく...本音を語り...いじめられる子どもをどのように支えることができるか...またいじめを克服し...生きる意味を考えることができるかを伝えたい。...

・ 講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
<p>PART 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山上絹代氏 (自営業) ・ 葛田英男氏 (社会保険労務士/ 産業カウンセラー) ・ 小林見法氏 (中学校教諭) <p>の3名による体験発表(1人20分)</p>	<p>司会は北澤先生が行なう。</p>	<p>60分</p>
<p>PART 2</p> <p>参加者によるフリーディスカッション</p>	<p>意見は、司会者が特に方向づけせず、参加者が自分の判断で取捨選択できるようにする。</p>	<p>50分</p>
<p>PART 3</p> <p>まとめ</p>		<p>10分</p>

第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	いじめフォーラム '97 秋	第 12 回 9 月 27 日 (午後)
		アシスタントスタッフ数 1 名
		参加者数 11 名
キャプテン名	北島 茂樹 (数学専攻 4 年)	
指導教官名	越智 康司 教官	

・講座のねらい

・フリーディスカッションという場で、当事者ないし傍観者であった各参加者が、各自のテーマを自身の切実な問題として討論することを通して、深められた新たな課題として持ち帰ることができる。

・講座の展開

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
発表者 A による問題提起	発表者の話が長くならないようにする。	15 分
発表者 B による問題提起	タイムキーパーは「5 分前」「1 分前」を知らせ、時間が超過した場合には、時間が過ぎた旨を伝え、速やかにまとめてもらうようにする	15 分
発表者による問題提起を受けて、参加者によるフリーディスカッションに入る。	テープが止まっていないか確認する 途中入室も考えられるので、資料等は、スタッフが手渡し、席に誘導する。 キャプテンが司会を兼ねる。 特定の人が長く話し過ぎないように注意する	80 分
本日のまとめを兼ねて、参加者数人に感想を述べてもらう。	60 分経過した段階で、タイムキーパーがテープを裏返す。 感想には、スタッフも参加する。 退出の誘導はスタッフが行う。 修了証は配布しない。	10 分

「いじめフォーラム'97」

北島 茂樹（数学専攻4年） 吉澤麻衣子（国語専攻3年）

1. いじめフォーラム'97開催の経緯

昨年、「いじめ研究会」は「YOU遊サタデー」とタイ・アップし、「いじめフォーラム'96」を開催した。それは、大学関係者、学生、一般の教育関係者や市民からなる「いじめ研究会」が「いじめ問題」解消のために重ねてきた討議を、もっと多くの人々とともに共有し考えていきたいという願いからだった。そして、今年もその願いを引き継ぎ、より多くの方々に参加の機会を、との考えから第11回（5/24, 松本会場）・第12回（9/27, 長野会場）の2回にわたり「YOU遊サタデー」とのタイ・アップのもと「いじめフォーラム'97」が開催された。

2. いじめフォーラム'97（5/24, 松本会場）の様子

(1)「いじめをめぐって子どもと共に生きる意味」

長野市在住の山上絹代さんをメインパネラーに、「いじめをめぐって子どもと共に生きる意味」と題し、自らの体験を発表していただいた。山上さんは現在、自分の経営する雑貨店の一角に相談室のようなものを設けている。山上さん自身も、小6～高2にかけいじめを経験した息子さんと共に、長年この問題に関わってきた親の一人である。いくら言っても本気で取り組んでくれない学校、他人事として自ら関わることをしない多くの親たち、何を信じたらいいのかわからない中、「全ては親の責任なのでは」と悩んだ時期もあったという。息子の個性を認め、最後は息子さんの出した「学校へは行きたくない」という考えを尊重した。「いじめの問題は、忘れたい事実でもあり、まだ納得はしていない」としながらも「5年前に終わったこととして自分では乗り越えられた」のだという。とはいえ、その渦中にあった6年という歳月は、決して短くない。「『うちの子にかぎって』というのはあるし、『明るいし信じられない』と思ったこともある」、山上さんは「本当のことはなかなか言ってくれないが、親の『カン』というのはあるのだと思う」と語る。山上さんが相談室を開くきっかけになった出来事がある。それは、ある高校生の女の子との関わりである。ある時期、山上さんのお店はその子にとっての「居場所」であった。親に虐待され、友達にも先生にも言えず、悩みを抱えたままの彼女の話に耳を傾けているうち、山上さんは、自分のできることの意味について考えるようになったのだという。聞いて、聞いて、考える。その中で自身も模索していくのである。「心理学をずっとやってきたことが、自分を救ったのだと思う」という山上さん、その中で「癒しとは何なのだろう？」と常に問い続ける。「3年前までは、『いじめ』というものに目を向けられなかった。ここ1、2年、（息子をいじめた）相手の親と会っても挨拶ができるようになった」という。山上さんの、いじめ・不登校問題への取り組みは、今もなお続いている。

(2)フリーディスカッション

続いて産業カウンセラーである葛田英男さんから、社会人・カウンセラーから見たいじめ問題を語っていただき、また小林見法先生からは、現職の中学校教諭の立場からいじめへの取り組みを語っていただいた。また、須坂市の前島さんや、松本地区のいじめ・不登校に悩む親御さんたちの意見も交えて、家庭・地域・学校の持つそれぞれの問題点についての考えを、率直に語っていただいた。中には厳しい意見も多かった。ここで大切なのは、いわゆる「犯人探し」ではなく、お互いがそれぞれのもつ問題点を認め合い、共に協力しようという意識の高め合いにあるのではないだろうか。まずは、それぞれの「事実」をお互いが知り、何が問題であるのかを受容していくことにある。誰もが、こうした問題が簡

単に解消できるとは考えてないし、家庭・地域・学校の相互間の協力なくしては、その解消がなされるはずもないことも知っている。第一歩は、まさに「知らない」ことを知ることから始まるのではないだろうか。

(3)参加者の様子

参加者の平均年齢が高かったこともあり、皆それぞれに当事者であり、積極的参加者であり、発言者であった。全体としては、まさに時間のたつのも忘れるくらいに、活発な議論が展開され、全体として2時間では足りないのではないかと、というのが実感であった。ただ、時間が限られていたということもあり、傾く人が多かった反面、意見を言う人も決まっていた。また、発言したいのだが、そのタイミングをはかれずにいる人たちも多かった。

(4)参加者の声

「長野市だけでなく、松本地区でも、もっとこうしたフォーラムをおこなってほしい」など、フォーラムの開催の回数を増やし、参加の機会をもっと多くしてほしいという意見が多かった。また、「経験を通じての生の声に触れることで価値観が広がった。知らなかったことを知る良い機会に恵まれた」「見識が広がった。もっと多くの人に知ってほしい」など、普段の生活からは知ることのできなかったこと・発言や発表を通じて知って欲しかったことが、こうした場を通じて共有できたことが伺える。また、それを多くの人にも知って欲しいという願いは、当事者たちだけでなく参加者たちにも広がったのではないだろうか。

(5)反省点

今回の主な反省点は2つ、発言者の時間配分を、もう少し事前に打ち合わせておくべきだったという点、とフリーディスカッションの時間をもう少し欲し確保すべきだったという点にある。それぞれに大変中身のある内容ではあったが、発言者によって、その時間にムラがでてしまったのも事実である。また、音響面に関しても、声の小さい人がいることをもう少し配慮すべきだった。こうした点は次回以降にいかしていきたいと思う。あと、今回は問題にならなかったが、写真や取材についてもプライバシーに関わる問題であるので、事前によく打ち合わせておきたい。

3. いじめフォーラム'97秋(9/27,長野会場)の様子

(1)「大学生の考えるいじめ問題」

今回のいじめフォーラムは「大学生の考えるいじめ問題」と題し、大学生を中心としたフリーディスカッションとして企画された。これは、前回の「フリーディスカッションの時間が足りなかった」という反省と、いじめ研究会における「たまには大学生の声も聞いてみたい」という要望を受けてのものである。しかし、事前のアナウンスが足りなかったせいもあり、学生の参加はキャプテン・スタッフをも含めて4人足らずであった。参加者の大半を占める一般参加者からも、「学生は、どういうことを考えているのか、知りたかったのに主旨が違う」との意見が出た。それに対し、「学生が出てこないこと自体が1つの答え」という厳しい意見も聞かれた。

(2) フリーディスカッション

こうした出席状況だけを見て、これが教育学部の「今」を表しているのかどうかを判断することはできないが、そうした「事実」をふまえた上で「学生の立場からの意見をまず

聞きたい」、という流れでフリーディスカッションが行なわれた。学生からの意見として「いじめている人に出会いたい」というものがあった。それを受けて「(いじめ問題は)マスコミが騒ぐと実感できるという程度、だから実感する場がないのでは」という意見も出た。特に、教職希望の学生にとっては「教員になりたいけれど、なってから考えればいいというのが事実」という考えも出された。また、「こういう教採(教員採用試験)が終わった時こそ学生に来て欲しかった」という声も聞かれた。全体としては、「いじめ問題」の当事者として、これから学校教育に携わっていく教育学部の学生に期待をよせる一般参加者にとっては学生の顔が見えず、学生にとっては当の「いじめ問題」が見えない、というお互いに顔の見えないもどかしさ、のようなものが感じられた。

(3)参加者の様子

学生の意見による学生中心のディスカッションという主旨には必ずしも即していなかったものの、結果的には「学生が来ない」ことに触発された意見が、議論を活性化させたのも事実であった。こうした、活発な議論は、参加者たちの歯に衣着せぬ意見の応酬があったのである。また、飛び入りの参加者の中には、現在子供が不登校の状態にある親御さんもあり、貴重な意見をいただいた。

(4)参加者の声

やはり、「とにかく(参加してくれる)学生を増やして欲しい」という意見が大半であった。また、「親もせっぱつまっている。先生はいじめを見抜けないばかりか、先頭になって集団のいじめをしていることがある。教育学部の人がそういう点を学んでもらわないと。痛みを感じることができない学生に現状を分かって欲しい。」という切実な意見もあり、教育学部の学生へよせる期待が大きい反面、こうした現状に期待を裏切られたという不満も数多くあった。

(5)反省点

今回の反省点は、やはり事前のアナウンス不足であった。「大学生の考えるいじめ問題」というテーマでありながら、肝心の学生の参加が少なかったのは残念なことである。とはいえ、こうした問題に対し、学生の多くは、潜在的に問題意識をもっているのだと考えたい。事実「今回は参加できなかったが、YOUサタと重なってしまって無理だった。いっそのこと別の日にしたらどうか」という意見もある。このように意欲ある学生にとって、YOU遊サタデー自体が自身の活躍の場であることが多い。一方で、当日飛び入りで参加してくれる親御さんの存在も無視できない。こうした点は今後の検討課題としたい。

4. まとめと結び

毎回、多くのパネラー・参加者の話を聞くにつけ、この「いじめ」というキーワードのもつ広がり大きさや、その根の深さを思い知らされる。当たり前のことを言うようだが、こうした問題の多くは、世論が以前ほどそれを取り上げなくなった程には、少なくなっていない。その意味では、始まりもなく終わりもない問題であることがわかる。しかし、その誰もが、自分の思っているほどには、この問題について「わかっていない」、というのがこのフォーラムを学生の立場からみた実感である。ただし、誰もが当事者でありうるこの問題を、ただ「知る」だけでは何も変わらない。大切なのは、このフォーラムで学んだこと、感じたことをもとに、一人ひとりがどう行動を起こすか、ということではないだろうか。

最後に、いじめフォーラムの開催にあたり、快く責任を引き受けてくださった発表者ならびに、スタッフの皆様方に深く感謝申し上げたい。

第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	ゾクゾク教育学部ってどんなところ	第11回5月24日(午後)
		アシスタントスタッフ数 2名
		参加者数 1名
キャプテン名	片桐 宏 (技術教育専修2年)	
指導教官名	北澤 競 教官	

・講座のねらい

...教育学部に進学を希望している高校生や教育学部に興味を持つ一般市民に対して、...
 学生の立場から教育学部・YOU遊サタデーを紹介し、理解を深めてもらう。.....

・講座の展開

- ◎自己紹介をする(今日の抱負も交えて)
 (参加者→スタッフ→キャプテン)
 - ◎「ゾクゾク教育学部ってどんなところ」の趣旨説明(キャプテン)
 - ◎教育学部の紹介ビデオを鑑賞する
 - ◎ビデオの内容について質疑・応答を行う
 - ◎参加者の志望する専攻についての個別相談(スタッフ)
 - ◎YOU遊サタデーの参観
 (参加できる講座には積極的に参加してもらい、言葉では表現できない教育の現象を肌で感じてもらう)
 - ◎感想発表
 - ◎修了証授与
- ★参加者が一人であったので、実際にはこのような形式的な講座展開はせず、ざっくばらんに行った
- ★実際には当日参加の保護者の方が1名参加されたが、キャプテンが個別に対応した

ゾクゾク教育学部ってどんなところ

片桐 宏（技術教育・院2年）

（1）講座の意図

「ゾクゾク教育学部ってどんなところ」は、教育学部進学を志す高校生を主な対象とする、学生の今までの生活体験に基づきながら教育学部を紹介する講座で、昨年に引き続き開講した。YOU遊サタデーでは小学生を対象とした講座数非常に多いが、高校生以上を対象にした講座もあったらどうか、という素朴な考えより、本講座は対象を高校生～一般成人とした。

（2）当日の様子

今回の参加者は音楽専攻志望の長野市内に住む高校2年生一人だけであった。学生スタッフには音楽専攻4年の岡田さんをお願いし、「講座」という形態はとりながらも、非常に和やかな雰囲気で行われた。また、途中より1名の保護者の方の参加もあり、こちらの方は主に私が担当した。

最初に教育学部の紹介ビデオを鑑賞した後に、大学生活・学部全体に関わる話題以外は、岡田さんに全て一任し、参加者にとっては非常に有益な示唆が得られたものと確信している。一通りの進学相談が終わった後、全員で他の講座を参観することにした。この試みは、参加者に教育という現象を実際に見てもらい、言葉では表現できない教育の実際を肌で感じてもらうために行っている。参加者には実際に参観する時も参加できる講座には大いに参加してもらうように勧めた。

当日受付で保護者の方が途中より参加された。「現在の教育学部生がどんなことを考えて勉学に励んでいるかを聞いてみたい」といった趣旨で参加された。本講座の趣旨とはだいぶかけ離れており、また、突然のこのような発言に高校生も驚き、対応に非常に苦労した。保護者の方には、本講座の主要な趣旨を説明し、教育学部の紹介ビデオを鑑賞していただくなかで、私たちの教育学部についてご理解いただくようお願いした。講座参観の際には、「現在の学生は…」といった愚言をもいただいたが、私が第一回目よりYOU遊サタデーに関わっている理由と、YOU遊サタデーの営みについてご理解いただくように説明した。

（3）結びにかえて

今回は参加者が一人であったが、「一人の参加でも大切にする」というねらいから敢えて休講しなかった。音楽専攻の岡田さんには、進学相談の部分はほとんど任せっきりになってしまった。この場をかりて心より御礼申し上げます。

正直言って、私は当日受付の保護者の方の対応に苦労した。子どもがYOU遊サタデーに参加している親御さんは、少なくともYOU遊サタデーの趣旨に賛同していて下さるものと信じていた。しかし、私の対応した保護者の方は違った。この保護者の子どもは、しゃぼん玉講座に参加していた。保護者の方としゃぼん玉講座を参観しに行き、なぜこの親御さんが不満を表していたのかがわかった。その子どもは、他の子どもと関わることができず、すみの方で独りぼっちになってシャボン玉を作っていたのだった。私はハッとしました。私はその親御さんの対応を忘れて「ねえ、一緒にシャボン玉作る！」と夢中になった。このことは後日の反省会でも問題にされたが、「YOU遊サタデーを良し」と考えていた私にとって、この出来事は今でも忘れることができない。

第四期 信大 YOU 遊サタデー遊学プラン

講座名	世界の言葉と遊びを楽しもう	第12回 9月27日(午後)
		アシスタントスタッフ数 23名
		参加者数 30名
キャプテン名	矢澤 由紀子 (英語専攻 4年)	
指導教官名	渡邊時夫 教官、北澤勝親 教官	

・講座のねらい

外国の人々と様々な国の言葉や遊びを共有することを通して、他の国や文化に関心を持

ち、どの人とも仲良くなれることを知る。

・講座内容

活 動 内 容	注意すること、支援、その他	時間
1.外国人招待者の自己紹介と、各国の紹介を聞く。(ロシア、韓国、中国、フィリピン、バングラデシュ、インド、ホンジュラス、オーストリア、アメリカ合衆国)	○スタッフが外国人招待者にインタビューをする形で、各国の紹介をしてもらう。(国名、食べ物、有名なもの、等) ・世界地図・国旗を用い、子どもたちに、国の位置、国旗を当ててもらう。	40分
2.それぞれの言葉で、「おはよう」、「ありがとう」をどのように言うか教えてもらい、練習する。	○各言葉の挨拶を書いた画用紙を示し、スタッフも一緒に練習する。画用紙の言葉には、カタカナでふりがなを付けておく。	10分
3.外国の歌("The Happy Song")を教してもらい、一緒に歌ったり、体を動かしたりする。	○英語を話す方々にステージに上がって、歌ってもらう。(ピアノ伴奏：三沢さん) スタッフも、参加者と一緒に歌ったり、体を動かしたりする。	40分
4."World Word Basket" 外国人招待者に教えてもらった、各言葉の挨拶を使って、椅子取りゲームをする。外国人招待者、スタッフも参加。	○ステージ上で、実際にスタッフがゲームをしながら、ルールを説明する。 ・ゲーム中、やり方が分からなくて困っている子には、スタッフが付いて支援する。	10分
5.外国人招待者の方々から、修了証を受け取る。	○招待者全員にステージに上がってもらい、一人ひとり修了証を手渡してもらう。(コカリナ演奏：竹下さん)	

世界の言語と世界の遊びを楽しもう

矢澤 由紀子 (英語専攻 4年)

1. 講座開設の理由

今日、多くの外国人が日本を訪れたり、住んだりするようになり、日本も国際化が進んできている。また、1998年の2月には、長野オリンピックが開催されるため、ますます多くの外国人が日本を訪れるようになってきている。長野市内の小中学校でも「一校一国運動」という、一つの学校が一つの国について学び、その国との交流を深める活動が行われている。学校教育においても、国際理解教育に関心が向けられてきていることがわかる。

現在長野県にも、様々な国の方々が住んでいる。しかし、その方々と交流したり、各国の言葉・文化に触れたりする機会が少ないことは残念なことである。そこで、他の国や文化について知ったり、外国の方と交流する機会を設けたいと思い、この講座を開設した。

2. 講座内容と考察

講座には招待者として、9カ国から約20名の方に来ていただいた。その多くは、日本語を話すことのできる方である。この方たちは、留学や仕事等、様々な理由で長野県に住む、海外出身者である。親子で参加して下さった方々もいた。

対象は、小学生から大人までと、幅広く設定した。できるだけ多くの方に、外国の方との交流を深めてもらいたいと思ったからである。当日は、小学校1年生から大人の方まで約30名の参加があった。

(1) 各国の紹介

始めに、招待者に国ごとにステージへ上がってもらい、自己紹介と、出身国の紹介をしていただいた。各国に一人ずつスタッフが付き、外国の招待者にインタビューをする形で進めていった。参加者が紹介をただ聞いているだけになってしまうように、次の二点を工夫した。

一点目は、スタッフで作った世界地図・国旗を黒板に貼り、国の位置・国旗を参加者に当ててもらおうようにした。参加者は地図や国旗を指差したりしながら、説明を聞いていた。9カ国もの紹介があったにもかかわらず、参加者が最後まで興味を持って聞いてくれていたことは、嬉しいことである。二点目は、各国の紹介の後に、外国の方への質問の時間を取った。多くの人の前なので恥ずかしがっていたのか、参加者からの自発的な質問はなかった。しかし、指名して尋ねてみると、「どんなお家に住んでいるのですか。」というような質問が出され、他の国に対する参加者の関心は高まっていたように思う。会場にいるスタッフからも質問を出してもらったりして、もう少し質問しやすい雰囲気になれば、参加者からの質問ももっと活発に出たかもしれない。

また、「こんにちは」、「ありがとう」という二つの挨拶をそれぞれの言葉ではどのように言うのかも教えていただいた。招待者の後について練習もしたが、参加者は初めて聞く言葉に戸惑ったのか、初めのうちは練習する声が小さかった。しかし、スタッフが一緒に声を出すようにしたり、招待者の方が「ちょっと声が小さいですね。もっと元

気に言ってみましょう。」というような語りかけをしてくれたりすることで、次第に大きな声が出るようになってきた。外国人招待者やスタッフが交流を楽しんでいる雰囲気、参加者にも伝わっていったのだと思う。

外国の歌も教えていただいて、全員で歌った。参加者にもなじみのある歌が良いと思い、英語の“The Happy Song”（幸せなら手をたたこう）を選んだ。カタカナでふりがなをつけた楽譜を配り、中学生や大人の方には一緒に歌ってもらった。小学生にはその場で歌うのは難しいと思われたので、歌に合わせて手をたたいたり、足踏みをしたりと、主にゼスチャーをしてもらうようにした。歌ったり体を動かしたりと、それぞれのやり方で楽しめる歌を選んだことで、みんなで楽しめる活動にすることができたと思う。

(2) World Word Basket

これは、「フルーツ・バスケット」という椅子取りゲームをアレンジしたものである。本来は果物の名前を使うところを、世界の挨拶を使って行った。挨拶は、各国の紹介のときに招待者に教えていただいたものを使用した。ゲームの中ではあったが、教えていただいた挨拶を使う機会を作ったことは、良い工夫であったと思う。

椅子を並べて大きな一つの円を作り、参加者も外国の招待者もスタッフも、全員ゲームに参加した。ゲームの中で、椅子が取れなくて困っている子どもが見られた。付き添ってくださった小学校の先生のお陰で、その子どもは最後までゲームを楽しんでくれたが、そのようなときに、スタッフの方でもっと支援すべきであったということが、一つの反省点である。

参加者は、ゲームに熱中して楽しんでくれたようである。このゲームによって、「外国の方々ともこんなに楽しむことができる。」ということを実感できる機会を作ることができたと思う。そして、ゲームの中で、参加者が外国の招待者に「ここが空いているよ!」と、空いている席を教えてあげたりと、自然に関わりを持っている場面も見られた。これをきっかけに、参加者が普段の生活の中でも、自然に外国の方と交流を持てるようになっていってくれたらと思う。

(3) 修了証

講座の最後に、参加者は、外国の招待者の方から修了証を受け取った。握手をしたり、「ありがとうございます。」とお礼を言ったり、僅かではあったが、一対一に関わり合える場を作れたと思う。自分の名前を呼ばれて招待者の方へ行くとき、緊張している参加者も見られたが、外国の招待者の友好的な雰囲気に安心して、しっかりと握手や言葉を交わしていた。この活動の改善点としては、せっかく招待者の方から各言葉で「ありがとう」という言い方を教えていただいたので、それを使ってお礼を言うようにすべきであったという点が挙げられる。教えてもらったことを実際に使ってみる場面をもっと設けるようにするべきであった。

3. 講座を振り返って

参加者はどの活動にも、積極的に参加してくれていたように思う。各国の紹介のときにも真剣に聞いている様子が見られたし、ゲームのときにも外国人と自然に楽しんでいる様

子が伺えた。みんなのできるゲームのような活動を取り入れることは、参加者の緊張を和らげ、自然な形で外国の方々と交流するのに効果的であることが分かった。

この講座を通して私は外国人招待者の方々から、学ばせていただいたことがある。それは、様々な人と交流を深めていこうとする積極的な態度である。招待者の方々には、各国の紹介のとき、参加者にいろいろと問いかけて、関わりやすい雰囲気を作ってくださいました。また、初対面なのにもかかわらず、私達の講座に積極的に協力してくださり、いろいろと助けていただいた。このように相手のことを考え、協力していくことが、良い関係を作っていく上で大切なことであることを教えていただいた。

そして、こんなにたくさんの招待者を迎えることができたのは、学部の非常勤講師である北澤勝親先生のお陰である。これも、北澤先生が普段から、外国の方々に協力し、関わりを大切にされているからこそそのことであると思った。

この講座では「国際交流」をテーマとしたが、人に何かを伝えるためには、伝えたいことに対する自分自身の態度が大切であるということを感じた。人と人との関わり合いを大切にしている人であれば、その大切さが自然に相手にも伝わっていくと思う。国際理解の大切さを伝えるためには、自分が普段から人との交流を大切にし、異文化に関心を持っていることが重要であるということ、この講座を通して学ばせていただいた。

最後になりましたが、本講座のためにご協力いただいた方々にお礼を申し上げたいと思います。長野県在住の外国の方々には、お忙しい中、教育学部にお集まりいただき講座を盛り上げていただきました。本学部英語科教授の渡邊時夫先生からは、講座を開くにあたって、ご指導や励ましをいただきました。本学部非常勤講師の北澤勝親先生には、外国の方を紹介していただき、準備段階から様々な面で支えていただきました。Rebecca Ann Marck 先生には、講座のために教材やアイデアを提供していただきました。長野市立南部小学校の正村寿満子先生には、先生のクラスの小学校1年生と一緒に講座に来ていただき、当日、いろいろとご支援いただきました。そして、この講座のスタッフの方には、講座の案を立てたり教材を作ったりと、何回も集まって準備に協力していただきました。

この講座が成功いたしましたのも、皆さまのお陰です。本当にありがとうございました。

参加者アンケート



アンケート集計結果

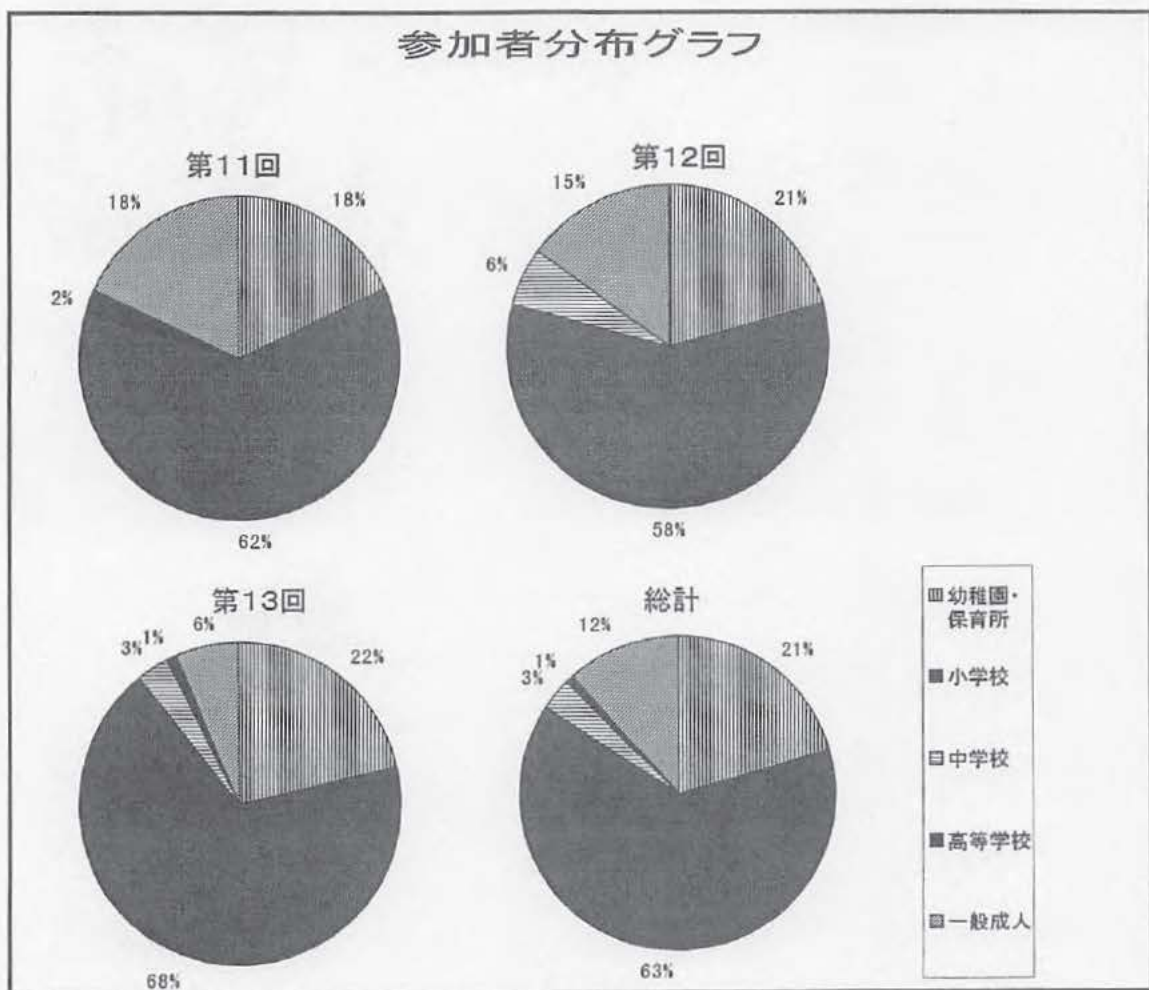
1. アンケート回収率

	第11回	第12回	第13回
参加者人数	197	187	263
回収数	46	52	100
回収率	23.4%	27.8%	38%

2. 参加者分布

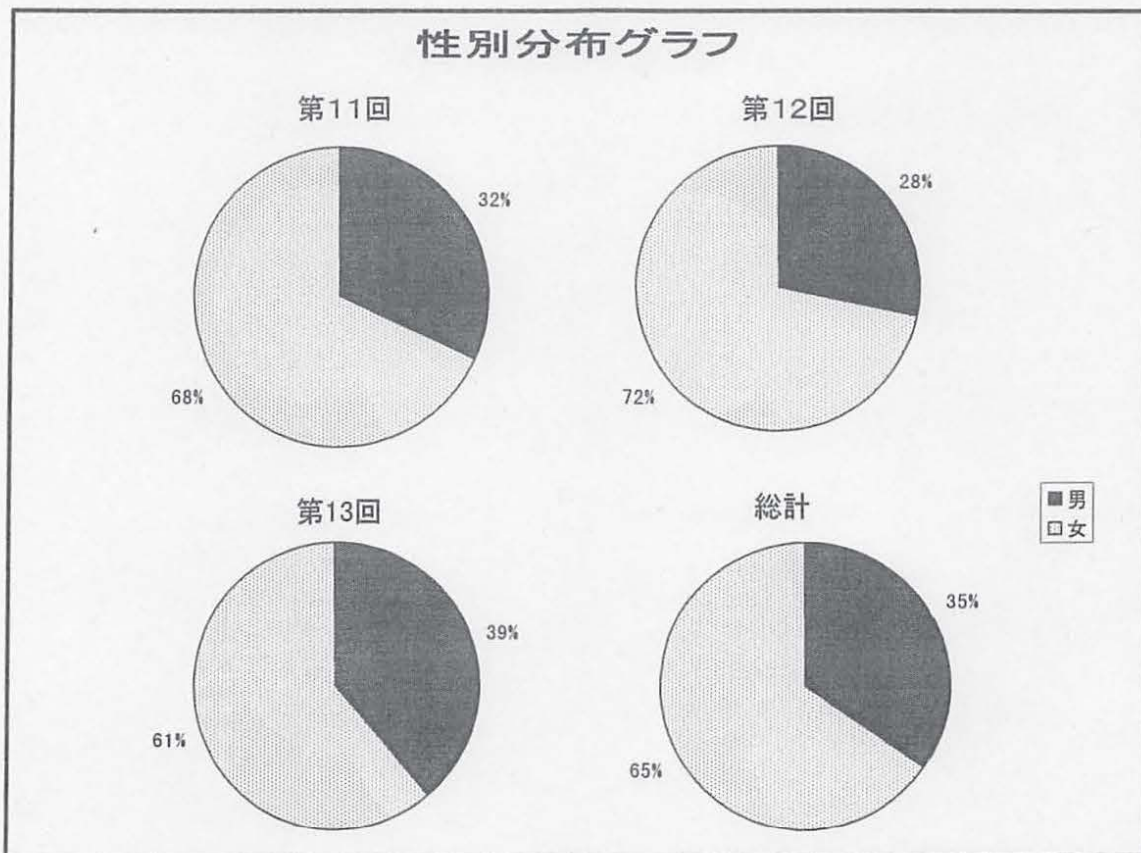
	幼稚園・保育所	小学校	中学校	高等学校	一般成人
第11回	8	27	0	1	8
第12回	11	31	3	0	8
第13回	22	68	3	1	6
総計	41	126	6	2	22

参加者分布グラフ



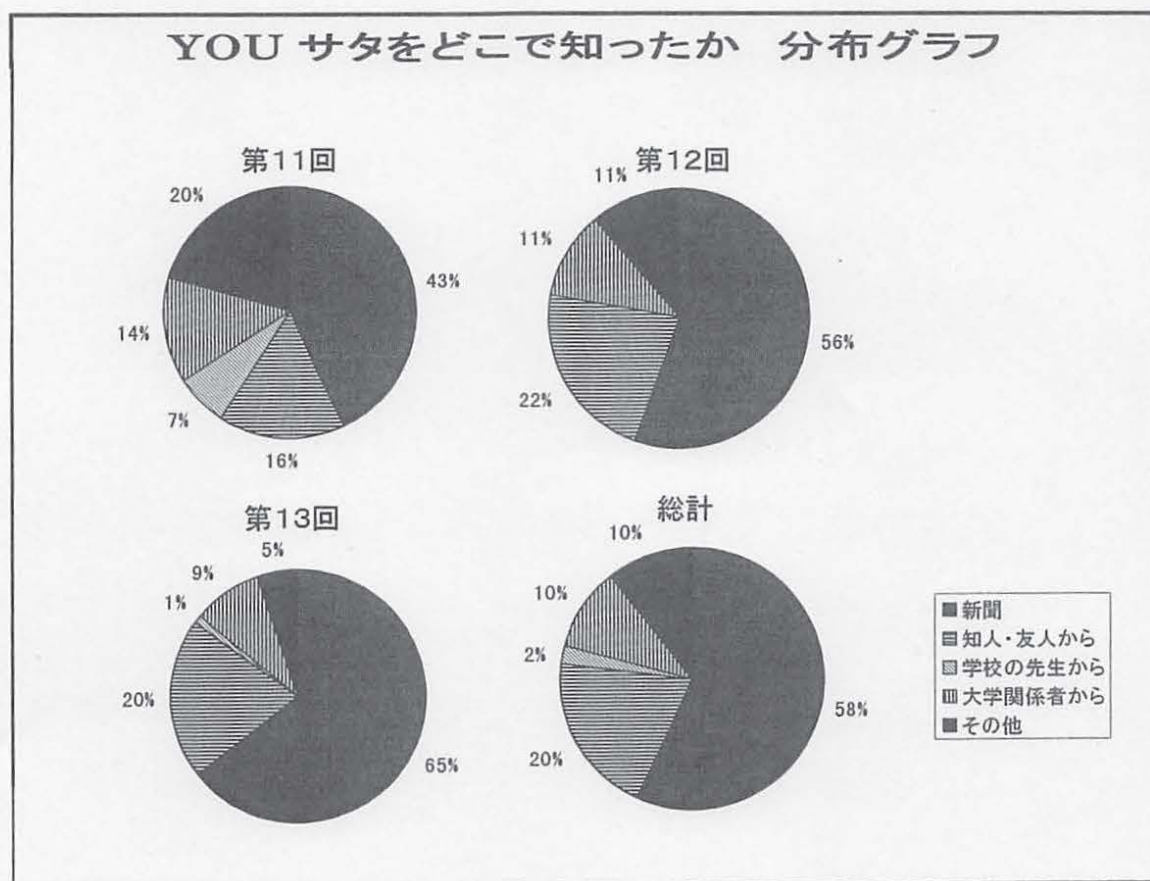
3. 性別

	男	女
第11回	14	30
第12回	15	38
第13回	39	61
総計	67	128



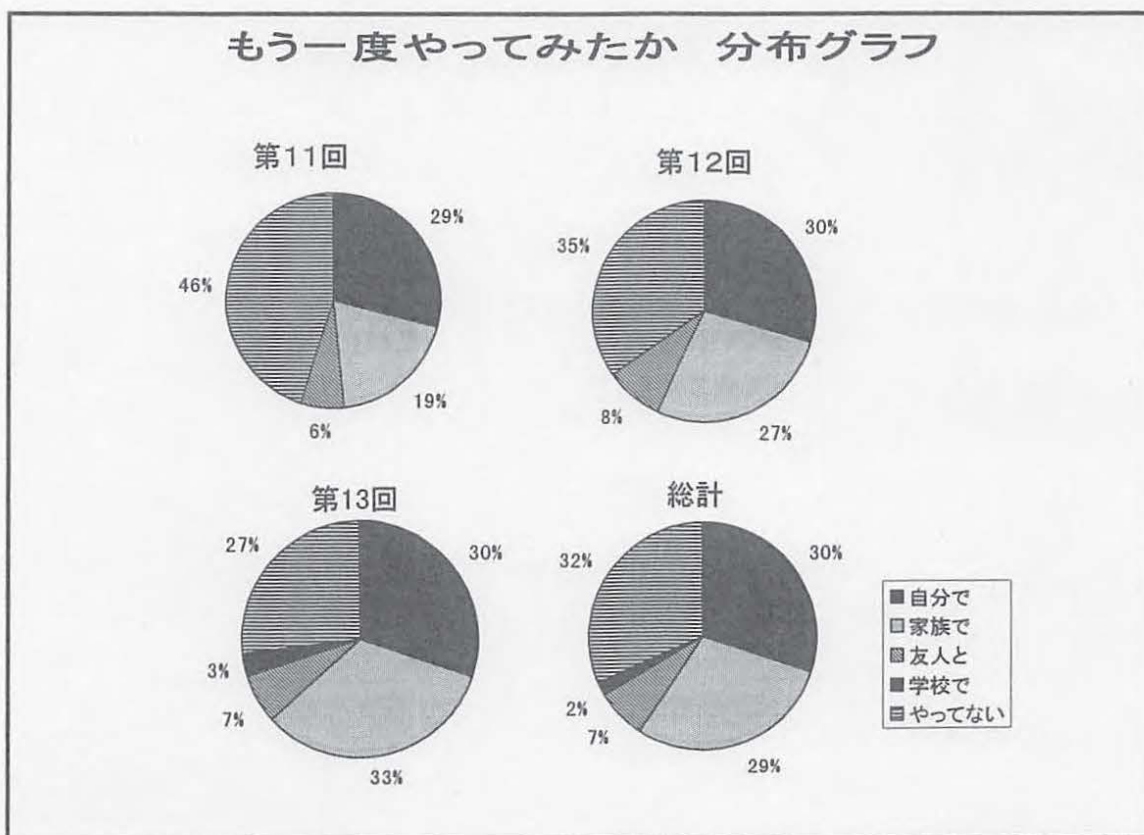
4. YOU遊サタデーをどのようにして知ったか

	新聞	知人・友人から	学校の先生から	大学関係者から	その他
第11回	19	7	3	6	9
第12回	30	12	0	6	6
第13回	63	20	1	9	7
総計	112	39	4	21	22



5. もう一度、やってみたか

	自分で	家族と	友達と	学校で	やってない
第11回	9	6	2	0	14
第12回	11	10	3	0	13
第13回	27	29	6	3	24
総計	47	45	11	3	51



なお、参加者からの声に、

「次回の YOU 遊サタデーの申し込みを、今回できるようにすることはできないか」と、いう要望があった。

そこで、検討した結果、第13回の、アンケート用紙と共に次回の申し込み用紙を希望するかたのためにダイレクトメール(DM)の希望を募ったところ(資料.10 参照→P.38)、100 通中 83 通の希望があった。

～参加者アンケートより～

○物作り講座

*ブーメランをつくろう！

- ・あまり期待していなかったのに、「ブーメランが戻って来た。」ので、ビックリした。
- ・クラスみんなにも教えたい。

*ブーメランを飛ばそう

- ・ブーメランの原理なども、少し分かった。
- ・先に、ビニールテープをつけたらよく飛んだから、それが不思議だった。

*楽しく作ろう籐かご作り

- ・こんなに簡単に籐かごを作ることができることを知って、感激しました。
- ・もらって来た籐で、早速、別のかごを作ってみました。

*宇宙生物スラスラスライム

- ・自分では「変な色」と思っていたところに、「いい色だね」と褒めてくれた。その言葉がうれしくて、家に帰って来てからも「いい色でしょ」と自慢していた。

*宇宙からやって来た SuraSura スライムくん

- ・ペットボトルや紙コップなど、子ども達にもっと声をかけて片づけをやらせても良いかと思います。
- ・前から、作ってみたかったので何色もできてよかった。

*スラスラスライム

- ・洗濯のりでスライムできて、びっくり。
- ・ハンディをもって生まれてきた子です。そのハンディを理解し、受け入れてくれる学校や社会を求めています。今回のような一般向けの中にどんどん参加していくつもりです。

*ペーパーグライダーをとばそう

- ・帰って来てからも、父親を相手に遊んでいました。

*自分で紙を作ってみよう

- ・牛乳パックからどうして紙ができるのか、とても不思議に思って参加しました。
- ・一人っ子なので、誰も知らない中へどんどんだして冒険させたいと考えており、このイベントは安心して任せられるので、とても良いと思っています。

*いい紙つくろう！世界でたった一枚の紙を。

- ・とても楽しかった。家でも、作ってみたいです。

・スタッフの全員が、大きな声で段取りよくできるといいです。

*ステンシルって何?～君もやってみよう～

- ・自分だけのステンシルができてよかった。
- ・久しぶりに、自分の時間を持って、集中して楽しむことが出来ました。YOUサタは、子供のためだけではないのですね。

*やさしい木工教室

- ・不登校の子ですが、新聞を見て自分から「やる」と言い出しました。とても、満足していました。
- ・思ったよりもすごくいい本立てができてよかった。

*からカラアート

- ・楽しかった、また、家でもやってみたい。
- ・はじめは、難しかったけど、頑張ってやれてよかった。

*うちわで書

- ・自分のうちわを作って、とっても楽しかった。

*タオルマジック～タオルを使って動物をつくろう～

- ・今まで、作ったことのないものをいろいろ作れて楽しい。
- ・自分で経験することは、子どもにとって大切なんだなあと思った。

*フィルムロケット～えっ!!フィルムケースがとぶの?～

- ・家で、フィルムケースだけでなく、いろいろな容器で試して楽しんでいた。
- ・女の子が、私一人だったから寂しかった。

*作ってうれしいカレンダー

- ・普段、家や学校で体験できないことを、これからも、どんどん計画して下さい。
- ・はじめて、カレンダーをやった。最初は、ママに「スノーレッツにしたら?」と、言われたけど、自分の考えでやった。

*天まであがれぼくのたこ

- ・もう少し定員を増やし、希望の講座に入れるようにして欲しい。
- ・作のは大変だったけど、たこあげをしている時は楽しかった。

*あけてビックリ!飛び出す絵本

- ・びっくりする絵本を2個も作れて良かったです。
- ・最初は、描くのに迷っていたけど、だんだん、面白くなりました。

*永久ゴマをつくろう

- ・ずーっと回ってるコマを作れるなんて不思議だった。

*折り紙ランド

- ・スノーレッツは、少しむずかしかった様子でした。
- ・スタッフの方が、みんな一生懸命で、親切なのが良かったです。

○体験講座

*サラサラドロドロカッチカチ（小麦粉粘土）

- ・一人で何色か作ることができれば、もっと良かったのではないのでしょうか。
- ・説明も分かりやすく、子ども達にも声を多くかけてくれて一緒に遊んでる気がした。

*でっかいでっかいシャボン玉をつくろう

- ・子どもをやさしくつつんでくださり、はげまし、自信を持たせて下さってありがとうございました。
- ・こんなでっかいシャボン玉、生まれてはじめてだった。
- ・こんな大きなシャボン玉をつくるのが夢でした。

*ネイチャーゲームⅡ

- ・すごく楽しかった。

*宝さがし（ネイチャーゲーム）

- ・何にでも、積極的に参加してみようという気持ちが強くなりました。
- ・からすの声や、水の音が宝物だとはじめて知った。

*山あそび

- ・途中で、様子を見に行きましたが、子供の目が輝いていました。
- ・家では、経験できないことをやらせてもらって、満足です。

*こま・コマ・独楽であそぼ！

- ・6歳という年齢から、ちょっと難しいかなと不安でしたが、1つ1つ丁寧に教えて下さり、まわすことができるようになりました。皆さんが、優しく根気よく接してくれたおかげです。

*コマであそぼう

- ・いろんなまわし方があって、いっぱい練習をしてできてうれしかった。
- ・ずっと、粘り強く指導して下さり、やっとできるようになった時の娘の笑顔が忘れられません。

***銅が金になる！？錬金術の秘密**

- ・今回のように、楽しい実験をいろいろ考えて次回も楽しい講座にしてください。

***つくってみよう銀の鏡**

- ・信大教育学部を志望しています。実験が成功した時のキャプテンやスタッフの方の表情をみて、「人にもものを教えた時の達成感は大いなものなんだろうなあ…」と感じました。

***気分はめいたんてい**

- ・本当に探偵になったみたいで、楽しかった。
- ・他の講座をのぞくことができ、得をした気分になった。

○食べ物講座

***どーんとうどんを作ってみよう**

- ・始めは、難しいと思ったがやってみると楽しく、おいしかった。

***モコモコデンキパン**

- ・わずかな時間の中でも、本当に子供たちにとっては楽しいひとときだと感じています。
- ・思いがけない方法でパンが出来上がり、とても喜んでいました。

***カンカンアイスクリーム**

- ・恥ずかしがりやの気持ちを、とてもよく分かってくれて、初めてあったのにとっても大好きになりました。
- ・家で、また、作りたーーーい。

***一本日わたあめ屋さん**

- ・わたあめが自分で作れて、嬉しかった。

○運動講座

***いい汗かこう!!春の大運動会**

- ・いろんな友達と遊んで、仲良くなったのに、すぐお別れするのはさみしい。
- ・このような機会がなければできない楽しいゲームができ、良かったです。

***ドキドキの世界**

- ・心臓について、改めて考えさせられました。
- ・小学生の子供達が、ちょっと参加できなかったのが残念です。

***みんなでジャンプ**

- ・いつもはできない飛び方が、たくさんできたので良かった。
- ・難しいかな、と思ったけど、飛べた時は嬉しかった。

*これで私もパパパパ PUFFY でいい感じ!

- ・絵をかいたり、おどったりしてたのしかったです。
- ・お兄さん達とも、お友だちになれてうれしかったよ。ありがとう。

○その他

*いじめフォーラム'97～いじめをめぐって子どもと共に生きる意味～

- ・時間が短かった。
- ・もっともっと、パネラーのかたやお母さん方の本音を聞きたかった。

*いじめ・不登校フォーラム'97 秋

- ・本当の人としての姿を見せていただいた部分もありました。

*ゾクゾク教育学部ってどんなところ

- ・学校で調べても分からないことなどが分かったので参考になりました。
- ・信大の教育学部にもっと興味が出ました。

*世界の言葉と世界の遊びを楽しもう

- ・普段は、なかなか交流をもつことができない外国の人と、話しができて良い機会だった。

本部係



スタッフ長

千葉 綾子 (理科専攻 4年)

子どもの視線に立ち、子どもの動きを予想し全体の動きを本部係と一緒に見て回る。そのなかで場所の使用による危険はないか、使いやすいかなどの危険性や安全性を事前に予想し、起こらないはずのことまで考え方が一に備える。いわば、小姑みたいな役割を担う。どんな事が起きてても対応できるくらいの心構えを持って当日の動きを予想し準備していく。

これは一人で考えるのではなく、本部の人やキャプテンとの間で予想して考えていく事なのでスタッフ長は主に当日の講座の動きを見て、本部係とキャプテンとの連絡を取る。当日は、時間通りに講座が行われているか、不備はないか、各講座をまわり状況を把握しておく。

「当日までにすべきこと」

●各講座の修了証・名札・領収証の数の確認をしておく。名札に漏れがないか、ふりがなをちゃんとふっているか確認する。また参加人数の状況や各教室の使用については、危険箇所はないか、使用に不便はないかキャプテンと連絡を取って子どもたちが安全に使用できるようにしておく。

●張り紙をする。使用教室の講座名を入り口にはったり、トイレの案内などをはったり、教室やトイレまでの矢印をはったりして、初めてきた人でも迷うことなく過ごせるようにする。

●救急箱・救急袋を借りておく。当日の子どもたちの怪我や、具合が悪くなってしまう子のことを考えて、保健室から救急箱1つ(本部テント用)と、救急袋(講座の数による)をお借りした。救急箱1つは必ず借りておかなければならないが、救急袋は必ずお借りするというのではなく、講座内容によってお借りするといいだろう。今回は松本キャンパスでの春の大運動会や、飯綱での山あそび、長野キャンパスでのみんなでジャンプなど、大きく動き回ったり、本部テントにすぐに行けそうもない講座に救急袋を用意しておいた。長野キャンパスでは、午前・午後行うので、午前に使ったものを午後に回すようにし、また危険と思われる講座すべてに用意するのではなく、いざというときにすぐ使えるようにいくつかの講座で使用するようにした。用意しておいても使う必要はない。救急箱・救急袋は、お借りした数を確認し、月曜日に必ず返却すること。

「当日のお仕事」

●終了時間のお知らせ。終了時間30分前ぐらいになったら各講座をまわりはじめ、閉会式に間に合うように終了出来そうか確認してまわる。特に片づけに時間のかかりそうな講座や、教室外の講座、動き回る講座は事前にチェックしよく確認しておかないといけない。これは、本部係と一緒にやる。

- 使用教室の清掃は、「使う前より美しく」を念頭に置いてやる。講座で出たごみの片づけや、使用教室の汚れについては、はじめもこのぐらい汚れていただろうと安易に考えず、より綺麗にしていくぐらいの考えで綺麗にして終わるように呼びかける。ゴミの収集場所や、清掃用具の貸し出しは、キャプテン会議などで連絡しておく。清掃後、片づけがきちんと済んでいるか各講座を確認して回る。このとき、教室が汚れていないか、もと通りに机が並んでいるか、忘れ物がないか、隅々まで目を光らせて見て回るのである。

駐車場係

小木曾雄亮（数学専攻 3年）

駐車場係というのは大学まで子どもが乗ってきた自動車を交通の妨げにならないように、そして安全に帰り道または駐車場まで誘導する係です。今年は、新しく作られた大学の駐車場を使わせていただく事ができて、昨年までとは少し異なった仕事内容になりました。昨年までは各門にそれぞれ人が着いて大々的にやっていたのを、東門、北門にはそれぞれ2人づつしてもらっただけとして、ほとんどの係の人には正門にいてもらいました。やってみたら人数は今までよりも少なくても良いことがわかったので11回、12回、13回と回を重ねていくたびに人数を減らしていき、最終的には7人で調子良くできました。東門と北門には毎回2～3人の子どもしか来ませんでした。少ない人数でも子どもたちが迷わないようにできたのは良かったことだと思います。

12回、13回は午前と午後の責任者が異なっていました。その時の事情があったわけですが、これはあまりうまくいったとは思えませんでした。うまく午前と午後の連携がとれなかったからです。その最大の理由は本部係の仕事はぎりぎりでもいいやという思いがあったためです。講座の仕事に熱中するあまりに本部係の仕事を怠りがちだったのです。これはこの先考えていかなければならない問題だと思います。講座と本部の仕事の両立は楽しく安全なYOUサタを作っていくための必要条件だと思います。これから先YOUサタを続けていくならこのことも考えに入れてやっていくことが大切だと思います。

最後に、今期駐車場係をやってくれた全ての人に。子どもがちっとも来なくて寂しい思いをした人もいたことでしょう。責任者である僕が朝遅れてどうしたら良いのだろうと自分なりに考えて動いてくれた人もいました。僕の不甲斐なさに大変多くのひとに迷惑をかけてきたような気がしています。今期の駐車場係はあなたがたのおかげでやり終えることができました。こんな僕について来てくれて本当にありがとうございました。そして、1年間おつかれさまでした。

誘導係

片桐 宏 (技術専攻 院2年)

(1) 第4期総括

今年度1回目の松本キャンパスでのYOU遊サタデーにおいては、誘導係の仕事に関して多大なクレームがついた。その概要は次の2点に集約される。即ち①誘導係から受付係への引き渡し及び開会式場までの誘導が連携をなして行われなかった、②子どもばかりに目が行き、講師として参加される一般参加者や子どもに付き添われてくる保護者の方々に対して、心配りが無さすぎた、である。これらの反省点を生かし、残り2回の長野キャンパスでのYOU遊サタデーでは、次のような改善を行った。

- 1) 誘導係は子どもを受付まで案内し、責任を持って開会式場まで誘導する。
- 2) 子どもとは視線を合わせるように努め、明るい笑顔で緊張をほぐす
- 3) 一般参加者や保護者の方々に対して「ご苦労様です」「ありがとうございます」などの声かけを積極的に行う
- 4) 学生の配置場所をあらかじめ決めておきつつも、柔軟に対応する

基本的には、スタッフマニュアルの注意事項の筆頭に掲げられている「一期一会」を大切に、キャンパスを訪れた人すべてに対し、気持ちよく、親切に、安全に誘導することである。

(2) 第5期へ向けて

- ・ 人員配置の比重としては、正門・東門(3~4名)・西門・北門(1~2名)が良いのではないか。正門(駐車場も含む)にできるだけ多く配置する。また手の空いている駐車場係にも応援を依頼しておくが良い。
- ・ 誘導係は人数が多いうえ、定例会で全員が顔合わせできるとは限らない。また当日朝の忙しい時間帯では、口頭による説明だけだと仕事内容を把握してもらえない。スタッフマニュアルに、やや詳しく仕事内容や注意点を載せるなり、当日にプリントを配布する等の対応を試してみたらどうか。
- ・ 子どもや保護者、一般参加者への対応は、YOU遊サタデーそのもの、ひいては教育学生そのものの評価にもつながってくるものだと考える。したがって、誘導係は「単なる誘導」のみに終わってはならないのではないか。

受付係

長田 ひろみ (家庭専攻 4年)

初めての場所(大学)に来て、少し緊張している子どもたちを、あたたかい笑顔と元気な挨拶で迎えるのが受付の一番の仕事です。今期の受付係となった各講座のスタッフは、

とてもいい笑顔で子供たちを迎えてくれました。受付の椅子に座っている状態からさらに身を乗り出し、視線を低くして子どもの名前をたずねるやさしい笑顔のお兄さん、お姉さんに、ほっと肩の力を抜く子供たちの様子がたくさん見られました。

受付係の当日にいたるまでの準備としては参加者名簿、名札、領収証、封筒の用意・確認などなどがあります。さまざまな事態にすばやく対応するために事前にキャプテンや本部との打ち合わせも必要です。当日は YOU 遊カード・名札・領収証・お金の授受という仕事の他に、キャプテンや本部と子どもたちとの橋渡しの役目も担わなければなりません。欠席者・講座変更者の連絡や、当日急に講座参加を希望する子どもが来た場合への対応などがこれにあたります。

とはいえ、何よりも受付は子どもたちと講座スタッフとの初めての出会いの場です。自然とゆっくりとした言葉づかいで子どもに接したり、幼い子どもには、名札をただ渡すだけでなく胸につけてあげたり、というような受付スタッフの姿勢や心遣いが受付をただの事務的な確認だけで終わらせないのだと思います。今期の受付係長として、受付スタッフの後ろから見守る子どもとスタッフの出会いはとてもあたたかいものでした。

開閉会式係

佐々木 美恵 (家庭専攻 4年)

開閉会式において、今年は様々な新しい取り組みを行ってみた。

まず、松本キャンパスで行う開閉会式は、これまで階段教室で行っていたが、そこは、子どもが椅子に座ると机が邪魔をして前がよく見えないという問題点があった。そこで今年は、靴の脱ぎ履きなど大変なこともあったが、体育館で開閉会式を行ってみた。心配していた会場への出入りはそれほど大きなトラブルもなくできたが、一方で、椅子のない広い空間だったために走りまわったり騒いだりする子どもがでてきて、騒然とした中での開閉会式になってしまった。また、広い体育館でマイクの声が十分に通るかを事前に確認しておかなかったなどの見落としもあった。今後、松本で行う開閉会式の場所は、これらの点も含めて検討する必要がある。

次に、これまで開閉会式でうたっていた歌であるが、これは受付を早く済ませてしまった子どもが開会式までの時間にこの歌を練習して、暇な時間を楽しく過ごせるというメリットがあった。そこで今年も第 11 回ではこれを行ったが、十分に練習できなかったためか、うたえない子どもや、歌自体を恥ずかしがる子どもが多く見えたため、開会式までの時間を楽しく過ごせる別の方法を考え、歌を開会式の内容からなくした。開閉会式係を中心に準備をし、簡単にできる手遊びやゲーム、ギターなどの演奏を行ったわけであるが、これは大変盛り上がり、開会式を良い雰囲気始めるきっかけにもなった。

またこの雰囲気を盛り上げるという点で、第 13 回では、それまで徹底しなかった会場の掃除に力を入れたり、飾りをつくったりした。

この YOU 遊サタデーには広い年齢層の参加者があるわけだが、それぞれが楽しく YO

U遊サタデーに参加する始まりとなる開会式になればと思う。そしてそのためには、事前に十分準備時間をとる必要がある係だと思う。

続いて閉会式であるが、内容については去年と同様に行なった。その中で特に注意したことは、予定時間通りに終わらせるということである。これは、その予定時間に合わせて迎えの保護者が来るためである。そのため、閉会式の開始時間を徹底するために、事前に各キャプテンに話しをしておくと同時に、講座終了 10 分前には本部待機のスタッフが各講座をまわってその様子を把握した。実際に各講座の終了時間はまちまちで、早く閉会式会場に来た参加者たちの中には時間を持て余している人もいたが、その時はHOW TO サタデーを配り、それを見てもらった。

そして閉会式が終わったあとも、参加者が最後まで安全に楽しく帰れるよう、見送りの徹底も忘れてはならない。

* 前日準備のため、会場は前日からとっておく必要がある。

* 午前・午後 2 回行う場合は、開閉会式の座席数も考えて講座を午前・午後に分ける必要がある。

* スタッフが参加者のまわりにずら一と立っていると、威圧感がある。参加者のそばに座って一緒に開閉会式を行うのが良いと思う。

備品係

宮沢 元 (理科専攻 4年)

備品係は、主に講座で使う備品をキャプテンから聞いて揃えるのが仕事である。必要とする備品が倉庫にない場合は、YOUサタの会計係そして実践センターを通して買ってもらわなくてはならない。そのため、2週間程度しないと注文したものが届かない。そこで、キャプテンには早めに必要な備品を聞いておくことが大切である。遊学プランを提出してもらう時に備品一覧表も提出してもらった。今年度は、YOUサタ当日の1週間前には各講座の備品をわけて、箱に入れておいた。そして、キャプテンに確認してもらうようにしていた。しかし、現実には1週間前になっても注文していたものが届かなかったり、キャプテンへの連絡が徹底せず備品の確認ができなかった。そのため、例えばボンドの数は揃っているが、中身が入っているのはあまりなくて講座中困ったということがあった。今思えば、キャプテンと一緒に備品を箱詰めするようにすれば、そのときに備品を確認してもらえるので、その様な問題点はなかったかもしれない。返却のときには、まだ使えるものと終ってしまったものを分けるようにもすれば良かった。

備品係の仕事を通して気になったことがある。それは、備品の数がかなり増えたことだ。今までに行われたことのない講座が増えたので当たり前といわれてしまうとそれまでののだが、検討してみる必要があるのではないか。今までは、講座の内容を考えて備品を注文していたが、現在ある備品を見て開ける講座を考えることもできたら良いと思う。昔、水が必要なのに水道が直接使えないという講座があった。その時は、ペットボトルに水を汲

んでおき、使うようにした。このなごりで、今もペットボトルがたくさん利用されている。このように資源を大切に考えて、リサイクルをしていくことも忘れてはいけないと思う。

本部係

中村 典史 (社会専攻 4年)

YOUサタの係名は重複しているものが多く、連絡などの際説明を加えなければならないこともある。この本部係もその一つで、私達は運営を行っている「本部」と区別するため「当日の本部係」とか「テントにいる係」などと呼んでいた。

その本部の仕事であるが、その呼び方の示すとおり、当日の講座時間にテントにいるのが主な役目である。まず各講座が受付をしている最中、本部係は当日受付をする。これはキャプテンに何人くらい受け入れできそうか、事前に聞いておく必要がある。開会式が始まった後は遅れてきた参加者の受付や、参加費の集計などにあたる。また当日受付で入った参加者の修了証を作成し、講座に届けるのも本部係の仕事になっている。

いよいよ講座が始まると、本部係はとたんに暇になる。しかしこの暇こそが重要なのである。つまりここでの本部係の仕事は、怪我人が出たとか備品が足りないなど、何か問題が発生したときのために待機することなので、何事もなく暇をつぶしていられればそれにこした事はないのである。それゆえ本部係は暇だからといってフラフラ講座の見学に行くわけにも行かない。問題が起きて本部にいても誰もいないのでは、交番に行ってもお巡りさんがいないのと同じ状態になってしまう。

講座が終わりに近づいたときを見計らって、各講座を周り、時間だよと伝えることも重要な役割である。これはせっかくながらいい雰囲気になっている講座を壊すようで心苦しい仕事だが、閉会式をスムーズに始めるには大切なことである。

Cooking 隊

酒井 由佳里 (家庭専攻 4年)

スタッフの朝食としてのおにぎりを作るのが Cooking 隊の仕事です。朝食は1日の活動源ですからね！また、なにかと忙しい本部スタッフにとっては、このおにぎりが昼食でもあります。おにぎりは時間と場所を問わないので、忙しいスタッフにはピッタリです。

Cooking 隊は、スタッフを支える裏の仕事なのですよ。

[仕事内容]

前々日；事前に連絡を取って、土井先生と共に買い出し。結構な量でかなり重い。私たち

は何人かで自転車でいったが、車を出してくれる人がいれば very good。
いたみそうなのものは、当日買い出しに行く。

前日 ; 午後1時ごろからおにぎり作り。炊飯器2台×4回(9合×4回)のご飯を炊く。
おにぎりが腐らないように、炊く前に小さじ1杯の酢を入れるとよい。ふりかけは9合につき1袋使い、のりは、1畳を8分割する。ボールがあれば、冷めるのが早くにぎりやすいし、すぐに次の分を炊けるので能率よく進められる。
麦茶を作り、お漬物も切っておく。

当日 ; スタッフよりも少し早めに集合して、おにぎり、お茶、お漬物を実践センターの前に出す。湯呑みはセンターのを借りる。8:30には片付け、湯飲みなどを洗って返す。使ったものは、しっかり決められた場所に返しておく。

[材料] …スタッフ約100人分(200個)

- ◆ お米 40kg
- ◆ ふりかけ 8袋(ゆかりなど)
- ◆ のり 25枚
- ◆ たくわん 2袋
- ◆ 白菜漬 1袋
- ◆ 麦茶 1箱

*塩や、お酢などは、あまっているので購入しなくてもよいと思います。
ふりかけなども、残りを確認してから買うようにしてください。

第11回の松本 YOU 遊サタデーでは、缶のお茶とバナナを用意し、バスの中で食べるようにしました。第12回・13回では、人数が少なく暖めるのが大変ということで、豚汁は省略しました。豚汁の材料は、第3期の実践記録を参照するとよいと思います。

Cooking 隊は前日の金曜日が勝負です。金曜日の午後に授業のないことを確認して、メンバーを集めることをお勧めします。大変な仕事ですが、みんながおいしそうに食べているのを見るとうれしくなるんですね。

写真係

成田 英直(理科専攻4年)

写真係は、YOU 遊サタデーが行われる当日と、それまでの準備の過程を、ビデオカメラや写真などで記録する係です。係を受け持っている間は他の講座に参加することが出来ませんが、すべての講座をまわって、全体の雰囲気や参加者の楽しそうな姿を写真に収めていくことは、YOU 遊サタデーを少し違う角度から見る事が出来て、とても楽しい係りです。係の人数は決まっていますが、機材の数やまわる講座の数に合わせて、2~3人ぐらいが適当だと思います。そのうち、一人がビデオカメラを受け持ち、残りの人が写真を受け持つと、全体のバランスが良く、すべての講座をまわって記録することが楽に出来ます。ビデオ撮影や、写真撮影は、スタッフが準備をしているところから、徐々に機材の使い方に慣れるつもりで記録をしていくと、当日子供たちとふれあっているスタッフとは、

少し違った表情をとらえることが出来て、楽しい記録になると思います。

当日は、写真係一人一人が、全ての講座をまわるように決めて、記録漏れを防ぐようにします。またいろいろな講座を見て、たくさんの記録を残すためにも、個人がすべての講座を時間いっぱいまわって、スタッフ全員を必ず1枚は収めるように心がけると良い記録になると思います。

前日までの準備は、フィルム、ビデオカセット、バッテリー、カメラ（写真）、ビデオカメラ、三脚、を用意します。フィルムやビデオカセットは、当日参加する講座の数や、活動時間に合わせて用意します。フィルムですと1日一人につき36枚撮りで15本前後、ビデオカセットは、1日分で6本ほど用意すれば良いと思いますが、それぞれ規模に合わせてください。バッテリーは、前日までに用意し、4~5つほど充電しておきます。足りなくなりそうなときは、早めに充電しておくとう安全です。三脚は開会式や閉会式など、長時間撮影するときなどに使用すると、とても便利です。現在、カメラ（写真）が足りません、個人で用意するか、知り合いから借りるなどして集めてください。近いうちに専用のカメラを用意しておいたほうが良いのではないかと思います。ビデオカメラの撮影や、写真のとりかたは、少し慣れれば誰でもうまく取れるようになるので、自信のない方も気軽にやってみてはいかがでしょうか。

コンピューター係

浅沼 康理（数学専攻 4年）

今までも実際には存在していたが、今期になって初めてコンピューター係なるものが設置された。コンピューター係の仕事は主に次の2つである。

まず1つめは、YOUサタのスタッフ向けのYOUサタ通信作りである。YOUサタ通信の内容は、本部での決定事項や今後の予定などをメインにして、スタッフに情報を伝達していくことである。

2つめは、ホームページの管理・運営である。YOUサタのホームページでは、YOUサタで開かれる講座一覧や参加者状況、講座の様子などの情報を発信している。最近ではこのホームページを見て、YOUサタに関心を持つ方もいるようである。一部のものに関しては、YOUサタOBの方々の協力の下で成り立っている。

今期初めての取り組みとしては、メーリングリストによる情報交換の試みがある。これはまだ試用運転中ということもあって、学生のみを対象に行われている。

このほかにも、印刷物に関する雑用やスタッフの名簿管理、データのバックアップなどがあるが、コンピューターを使うことのできる学生が増えてきているため、コンピューター係の仕事は分担してみんなで作るとというのが最近の傾向である。

会計係

土屋 淳子 (家庭専攻 4年)

1、仕事の内容

昨年まで会計は受付係が兼ねており、準備段階で使用されるお金について不明瞭な点があったため今年作った係である。仕事の内容は主に次の2つである。

① 物品請求以外で用意した備品、材料などの費用を明確にする。

YOU 遊サタデーは、実践センターから備品を提供していただいている。必要な備品を事務の方に伝えると手続きをしてもらえるのだが、備品を請求して手元に届くまで、約2週間かかる。そのため、YOU 遊サタデー直前に急に必要になったものは購入するしかない。また、籐かご作り講座で使用する籐のように特殊なお店でしか扱っていないものは、0こちらで購入する必要がある。さらに、料理講座で使う食材は直前に買わなければならない。このような、「備品請求では賄いきれない備品を購入するお金」について管理しているのが会計係である。購入したいものがある人には事前に言いに来てもらい、購入後にその際のレシート、領収書を渡してもらう。会計係は品名・金額などをノートに記入し、YOU 遊サタデー終了後にお金を返却する。

② YOU 遊サタデー当日に参加者からいただく教材費・材料費の計算、両替

各講座ごとに参加費、材料費、切手代を計算し、収入がどのくらいであったか明確にする。また、この中から、①のお金を、備品を購入した人に返す。

以上が主な仕事だが、このほかに備品係と協力して、各講座への備品の分配等も行った。

2、今期の収支

第11回、12回、13回の参加者からの参加費、教材費は以下のとおりである。

第11回YOU遊サタデー	合計44650円
第12回YOU遊サタデー	合計55420円
第13回YOU遊サタデー	合計43500円

このお金は、傷害保険料にあてられたり、①の品物を購入しお金を立て替えてくれた人に返したり、また、フィルム・現像代その他の運営費として使われ、収支はゼロになっている。

また、備品としてセンターの方から画用紙、模造紙、ケント紙、マジック、ボスカ、絵の具、のり、木工用ボンド、ピンセット、はさみ、折り紙、ガムテープ、ホチキス、セロテープ、ニス、ごみ袋、領収書、修了証、割り箸、プラスチックコップ、洗濯糊、ポリ袋、サランラップ、絵筆、マスキングテープ、塩、アルミマット、ラミネーターフィルム、アルバム台紙、障子紙、マーブリング絵の具、バブ、モーター、乾電池、洗剤、ストロー、手芸綿、紐、などなど多数の物品を買っていただいた。

他に、更埴、高遠、小諸の出張YOU遊サタデーでは講座で使用する備品を提供していただいた。

私個人の意見であるが、できるだけお金をかけないで楽しむこと、あるもので代用することをもっと追求していてもいい気がする。今期 YOU 遊サタデーの中でも、ベツトボ

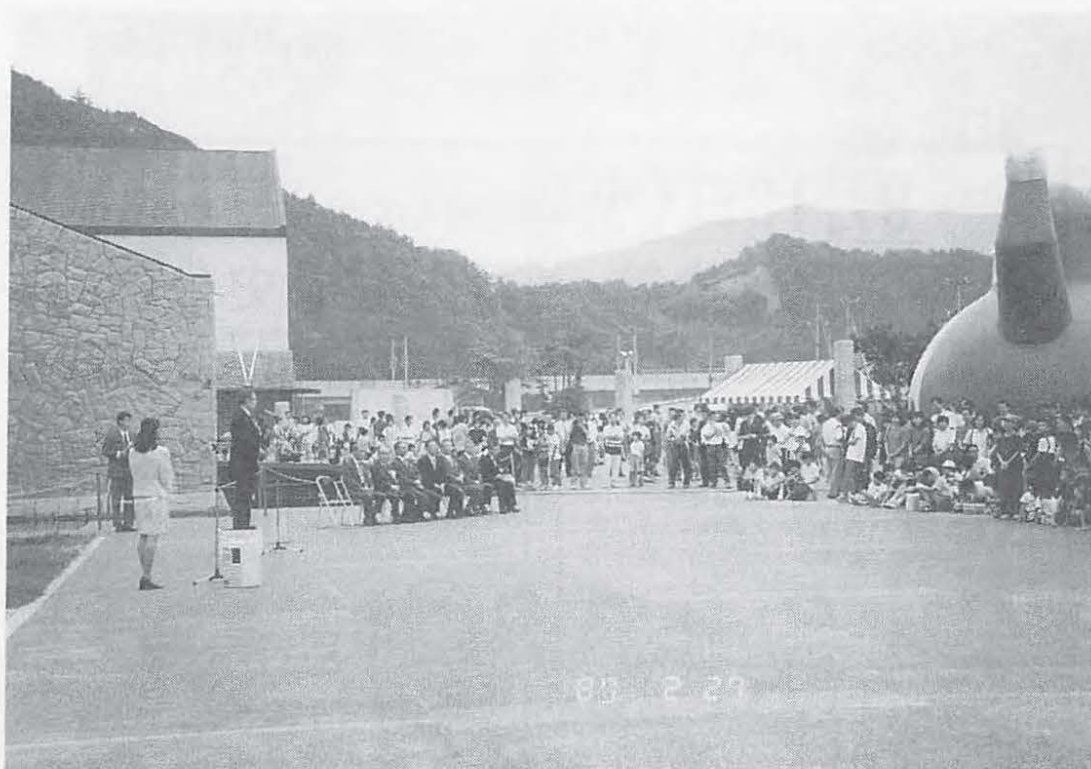
トルを活用する講座があったり、キャプテン会議の中で「缶の穴を空ける際、きりではなくてくぎでも代用できるのではないか。」などの意見が出されたりしたが、そのようなアイデアがもっともっと出てくるといいなあと思っている。

伝表番号	品名	金額	月
1	ノート	12,526	5
2	修了証	30,000	5
9	画用紙外	8,734	5
10	フルコンシート外	15,863	5
11	ポリ袋	2,205	5
12	洗剤	304	5
17	カセットテープ	8,420	5
18	雑巾	3,780	5
20	ほうき外	5,880	5
21	薄力粉外	310	5
22	洗剤外	3,369	5
19	フィルム	6,470	6
23	絵筆外	4,562	6
40081	フィルム現像外	4,056	6
38	リチウム電池	3,024	7
40145	フィルム引き伸ばし	1,541	7
54	8ミリテープ外	21,362	8
53	領収書外	17,839	9
56	割り箸外	2,047	9
59	砂糖外	2,170	9
60	スリーピングマット	1,800	9
61	ラミネーターフィルム外	5,116	9
62	クリアファイル	588	9
55	フィルム	12,940	10
100	手芸用綿外	1,207	10
101	グラニュー糖	534	10
103	油性マジック外	11,650	10
105	麦茶	286	10
106	炊事手袋	630	10
107	バブ	2,520	10
109	チャーミーコンパクト外	5,468	10
110	修正ペン	630	10
57	マーブリング用絵の具	1,512	11
58	水性ニス	472	11
102	ポスカ外	18,549	11
104	乾電池	2,040	11
108	モータ	3,150	11
112	ケント紙	2,820	11
40398	フィルム現像外	25,725	11
40412	フィルム現像	4,295	11
46563	フィルム現像外	18,294	12
	合計	274,688	

出張YOU遊サタデー講座記録



更埴出張Y O U遊サタデー



じ ちやれん児プラザ21

たくさんのももだちと交流しよう！
いろいろなモノづくりに挑戦したり、
なぜ？という体験をして、家族みんなで楽しい一日をすごそう！
みて、ふれて、しなのの歴史に詳しくなろう！

9月13日(土) ごぜん10:30~ごご4:00

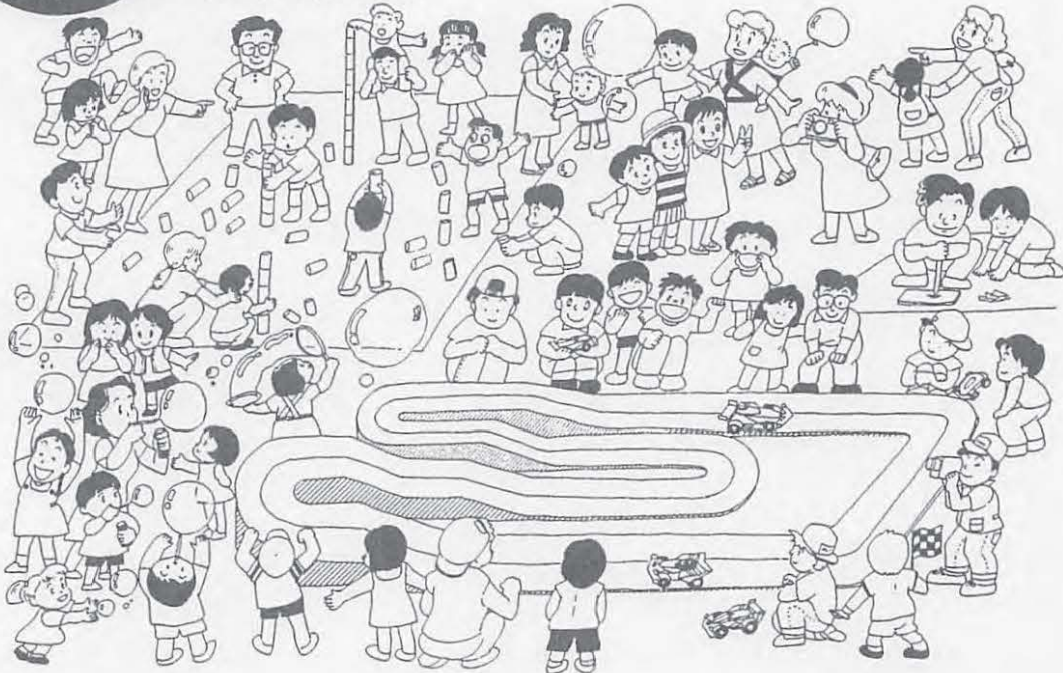
長野県立歴史館・科野の里歴史公園ほか
更埴市屋代字清水

参加
無料

(小・中学生の歴史館・
古墳館の入場料は
主催者が負担します。)

◆オープニングセレモニー(ごぜん10:15~)

更埴市立東小学校鼓笛隊
— 重山太鼓 — の皆さんの演奏



主催●ちやれん児プラザ21実行委員会

(長野県・長野県教育委員会・長野県警察本部・更埴市教育委員会・長野県子ども会育成連絡協議会・
長野県青少年育成県民会議・信大YOU遊サタデー実行委員会・長野県青年海外交流会)

共催●長野県立歴史館・更埴市森將軍塚古墳館

プログラム・お問い合わせについては、裏面を見てネ！

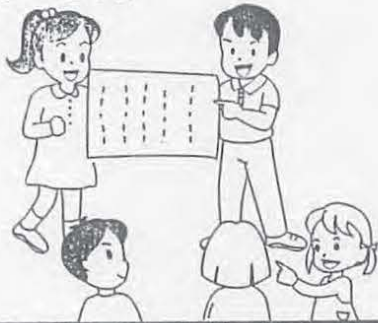
プログラム

知事と話そう

ゆめ

ひまわりっ子“夢”ひろば

県下の子どもたちの代表と、知事の話合い
(10:45~12:00)



思い切り遊ぼう!

遊びのチャンピオン大会

歴史館探検クイズラリー
空缶積み
洗面器松ぼっくり投げ
1分間空缶つり
小枝バランス



何ができるかな?

親子創作広場

びっくりカードをつくろう
宇宙生物スラスラスライム
プーメラン
しゃぼん玉
うくいす笛
紙皿ひこうき
ほか



挑戦してみよう

親子体験広場

火おこし
和太鼓(13:00~15:00)
パトロールカー試乗体験
はにわの野焼き
万華鏡
皿回し
キリギリスの耳
ほか



キミの愛車でチャレンジ!

わくわくプレイランド

ミニ四駆大会(10:50~/13:50~
各回先着150名)
ふわふわキャラクター



[交通案内] 信越本線犀代駅から徒歩25分
長野電鉄河東線東犀代駅から徒歩20分
長野自動車道・上信越自動車道更道ICから車5分
高津道バス停「上信越道 犀代」から徒歩3分



※駐車場200台あります。

●お問い合わせ 長野県庁青少年家庭課 TEL026-235-7130

出張 YOU サタ in 更埴

～ちゃれん児プラザ21～

宮沢 元 (理科専攻 4年)

はじめに

今までに行ってきた出張 YOU サタは、招待していただいた学校などで講座を開くというものだった。そのため、信州大学のキャンパス内で行っているやり方で講座を開くことができた。しかし、今回の出張 YOU サタは、参加者数、講座を開く時間など不確定であり、このような YOU サタは初めてだった。

ちゃれん児プラザ21について

9月13日(土)に更埴市にある長野県立歴史館・科野の里歴史公園で開催された。趣旨は次代を担う子供を取り巻く環境が著しく変化し、時間、空間、仲間のいわゆる「三間」の縮小化が進行する中で、子どもがたくましく成長するように、遊びや体験を通じて、子どもの創造性やチャレンジ精神を養い、長野県の歴史への理解を深めるとともに、親子のふれあいの場を提供することであった。参加者は1000人と予想されていた。具体的には火おこしやはにわの野焼きを体験したり、シャボン玉やブーメランを作ったりできる場所が設けられていた。その他にミニ四駆大会、パトロールカー試乗体験などのイベントが行われていた。その1つとして出張 YOU サタも参加させていただいた。



宇宙生物スラスラスライム

～スタッフみんながキャプテンになった YOU サタ～

宮沢 元（理科専攻 4年）

更埴の YOU サタでスライム作りの講座をやることはすぐに決まった。スライム作りは大学のキャンパス内で行われる YOU サタではすぐに定員がいっぱいになってしまうほどの人気講座である。そのため、更埴でもたくさん子どもたちが訪れることを予想し、スライム作りの材料は300人を用意した。時間は午前10時30分から午後4時までだったので、300人の参加者がスライム作りをできるようにするには、30分間に50人に教えるようにするしかなかった。（スタッフの準備・片づけの時間および講座の受付時間として講座と講座の間に30分の時間をあけるようにした。）すなわち、10時30分から30分間講座を開き、その後30分開けてまた講座を開くというようにした。このことについては、スタッフの異論もあったが、初めてということもありこのやり方でやってみることにした。

出張 YOU サタの当日の朝は天気ははっきりせず、小雨も見られた。学校のキャンパス内で行われている YOU サタのスライムは、室内で行われている。しかし、今回はイベントということもあり屋外の広場で行わなければならなかった。大雨の場合は、室内になるかもしれないので講座の準備をしながらも天気を心配していた。

講座の受付は、整理券のカードを作りそれを配って、定員の50人を超えたら次の受付時間まで待ってもらうようにしていた。しかし、お昼時には整理券をもらうための長蛇の列ができてしまった。そのため、急きょ受付方法を変えて、この日に行う講座すべての整理券を配るようにした。

講座の進行は、2人のスタッフがテーブルごとについて10人の参加者に対して教えてあげようになっていた。そして、本来のスライム講座ではスライムを平均5個作る時間があるけれど、今回は1回の時間が30分しかないことと材料の数を考えて1人1個と制限してしまった。そのため、スライムを何個か作っていくうちに、作り方がわかり、上手に作れるようになるという体験をさせてあげることができなかった。スライム作りの講座では、この場面が重要なので、参加できる人数を減らしてじっくり作れるようにした方がよかったのかもしれない。

しかし、定員がいっぱいになってしまったので、スライムを作ることができないことを知り、泣いてしまった子どもがいたことを考えると、定員を減らすことにも心が痛む。結局、この日は、300人の定員を増やして350人を超える親子とスライム作りを楽しんだ。

このスタイルの YOU サタは初めてだったので、学んだ点や問題点が多かった。初めてということで、いろいろと予想を立てて、その解決方法を考えなくてはならなかった。当日になると、予想外のこともあり臨機応変で活動しなければならないこともあった。

いちばん考えさせられたことは、多くの参加者に1つだけスライムを作ってもらおうようにするのか、少人数でじっくり作れるようにするのかという点だった。じっくり作ったほうが、心に残ると思う。しかし、スライムを1回も作ったことがない人とある人ではなにか違う

と思う。私は、この1回作ることによって、その人が何か得るのではないかということを感じてこの出張 YOU サタを行った。

今回の YOU サタを終えて、少人数でやるほうがよいと思ったスタッフもいた。これは、スタッフだからといってキャプテンの補助にとどまっているのではなく、主体的に YOU サタに参加し考えている現れと感じた。そして、スタッフみんながキャプテンとして活動した YOU サタだったと感じた。今回の出張 YOU サタは、私にとって YOU サタ全体についても考えるよい機会になった。

このような機会を与えてくださったちやれん児プラザ21実行委員会にとっても感謝しています。また、当日、手伝ってくださった更級農業高校の方にも感謝しています。そして、300人を超える参加者をサポートしてくれたスタッフにありがとう。

参加スタッフ

中村典史、土屋淳子、千葉綾子、佐々木美恵、片桐宏、長田ひろみ、浅沼康理、澤田奈奈、成田英直、竹田みどり



出張YOU遊サタデー 『びっくりカードを作ろう』

桐山 潤 (国語専攻 4年)

1. はじめに

昨年の第9回からスタッフとして参加させていただいています。今回は、『更埴チャレンジプラザ』での出張YOU遊サタデーの『びっくりカードを作ろう』の講座のキャプテンとして参加しました。もともとは、『とびだす紙しばい』という講座だったのですが、今回は、『更埴チャレンジプラザ』用にアレンジしました。

2. 今回の講座は？

皆さんは工作が好きですか？皆さんは絵を描くことが好きですか？私は嫌いではないけれど、まだ苦手です。苦手だとなつて引込み思案になってしまい、挙げ句の果てには嫌いになってしまう。そんな経験はありませんか？でも、何かを作っている時や、何かを表現している時って、まるで自分が変わったようにドキドキワクワクしながら夢中になってやっているのを感じますね。

今回は、そんなドキドキワクワクをたくさんのお友達に体験してもらいたいと思い、塗り絵バージョンとなって再登場しました。

3. 「びっくりカード」について

「とびだす絵本」というものを御存じでしょうか？そう、頁を開くと絵が飛び出すように仕掛けられている絵本のことです。今回は、昨年とは違った方法を探ってやることにしました。紙を折って、折ったところと直角にはさみを2箇所入れます。紙を開くと、切り込みが2箇所入っているはずですが、その真ん中の部分を逆に折ると、飛び出す部分の完成です。飛び出す部分に、こんどはスタッフの用意した絵（子どもたちが塗り絵をしたもの）を貼ります。最後に背景を描いて出来上がりです。あらかじめ絵を描いてからの方がやりやすいでしょう。

さて、スタッフが用意した絵というのは、更埴歴史館ということもあって、ナウマンゾウ、オオエゾシカ、埴輪の三種類を用意しました。社会専攻の溝口さん、吉池さん、絵の苦手な私の力作です。気に入ってもらえたでしょうか？

4. 子どもたちの様子

今回は、通常のYOUサタとは違い、やりたい人から始めて、完成したら出てつてもよいという体制をとっていたので、子どもの出入りが頻繁で、戸惑う子どもが出るかとも思いましたが、溝口さん、吉池さんのおかげで良い講座になったと思います。

適切な説明？（作り方が単純だったからか？）と、あらかじめ絵があったことで、子どもたちはすんなりと創作を始めることができましたようです。色鉛筆、クーピー、クレヨン、水彩絵の具などを用意したのですが、学校で使い慣れているせいか、クーピーを使う子どもが多かったようです。色鉛筆も、きれいに描けるせいか人気でした。

絵の人気の方ですが、女の子が大半を占めていたのと、男の子にも雄々しさが受け入れられたせいか、オオエゾシカが人気を独占していました（6、7割）。意外！次点がナウマンゾウだったので、動物が人気のあることと、描きやすかったのが影響しているのでしょうか。

今回も、背景がなかなか描けない子どもがいましたが、これは、子どもが描こうとす

るイメージが十分に膨らんでいないからではないかと思います。そんな時はどうすべきか戸惑ってしまった所があり、言葉がけの難しさを感じましたが、どのような言葉をかけると子どものイメージが膨らんでいくのか考えたいと思います。

また、完成した後に、「また作ってみたい」と言って、もう一組持って帰る子ども（お母さん）がいたので、おおむね好評だったようです。

5. 反省

はたして、今回の時間の使い方は良かったのか疑問が残ります。はじめは時間を決めてやろうということだったのですが、子どもが集まっていなかったので来た子どもから始めました。今後、出張YOU遊サタデーをやろうと考えているキャプテンがいれば、時間・人数はどうするのか、今回の私のように不特定時間で不特定多数の子どもたちを相手にする場合、本当に対処できるのか（安全面も含めて）を考えてみてください。

我々が用意した「例」についても少し見直さなければなりません。というのは、子どもたちが「例」を参考にするのは構わないのですが、そのために子どもたちの自由な思考(想像・創造)が害されてはならないと私は考えます。いろいろと異論もあるかとは思いますが、「例」はあくまでも参考とすべきです（そこが難しいのですが）。これから私のような講座をやる方（いればの話ですが）がんばってください！

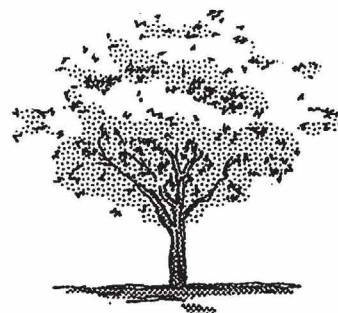
最後に、長野県社会部の今井さん、『チャレンジプラザ』スタッフの皆様、YOUサタスタッフの皆さん、一緒に活動した溝口さん、吉池さん、そして土井先生のおかげで無事に終わることができました。本当にありがとうございました。



高遠出張YOU遊サタデー



YOU遊サタデー



第7回信州高遠フェスティバルが10月11日～12日の2日間開催されます。初日の11日(土)は長野市で好評の「YOU遊サタデー」を下記のとおり実施します。多くの皆さんの参加をお待ちしています。

記

1 日 時 平成9年10月11日(土) 14時～
「第7回信州高遠フェスティバル第1日」

2 会 場 国立信州高遠少年自然の家 高遠町藤沢

3 指 導 信州大学教育学部の学生

4 内 容

1. 冒険ハイク

グループ分けした参加者が地図と磁石を持ってチェックポイントを探し、指導者からの問題を解きながら周辺の山を歩きます。

(持ち物 長袖、長ズボン、合羽、運動靴)

2. 宇宙生物ブルルスライム

「水」と「洗濯のり」と「魔法の水」を使って「スライム」をつくります。何ともいえない感触を楽しみましょう。

3. からからアート

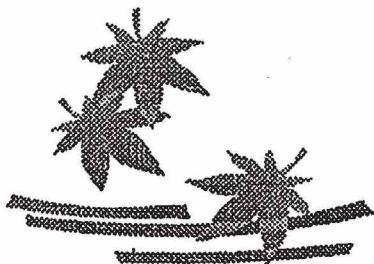
きれいに色を塗った卵のカラを使ってモザイクアートに挑戦します。

4. ネーチャーアート

森の中から絵の道具になる物を集めて、大きな布に絵を描きます。

5. ペーパーグライダーをとばそう

型紙を切り抜き、はりあわせ紙飛行機を作り、飛行コンテストを行います。



平成9年度主催事業開催要項

信州高遠 フェスティバル



— 出 会 い ・ 交 流 ・ 体 験 を あ な た に —

1. 趣 旨 広く施設を開放し、参加者が各種の催し物や野外活動等に参加するとともに、日頃学んだことがらを発表し、参加者どうしの交流ならびに、少年自然の家に対する理解を深める。
2. 主 催 国立信州高遠少年自然の家
3. 共 催 高遠町・高遠町教育委員会
4. 後 援 上伊那広域行政組合 長谷村・長谷村教育委員会
5. 協 賛 信州大学農学部・高遠町公民館・長谷村公民館・高遠町婦人団体連絡協議会・高遠町青少年育成連絡協議会・高遠町老人クラブ連合会・高遠小学校・同PTA・高遠北小学校・同PTA・高遠中学校・同PTA・高遠高等学校・高遠町保育園保護者会連合会・高遠町商工会・高遠郵便局・JA上伊那東部・高遠町農産加工組合・(株)ウッドレックス・森永フードサービス(株)
6. 期 日 平成9年10月11日(土)～12日(日)
7. 会 場 国立信州高遠少年自然の家
8. 参加対象 親子・家族・グループ・個人など・どなたでも参加できます。
・宿泊者 250名 ・日帰り参加者 随時自由
9. プログラム 別紙のとおり
10. 日 程

時	6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17・18・19・20・21・22											
10月11日(土)					受付・昼食	開 祭 式	音 楽 祭 I	プログラム I (別紙)	夕 入 食	新 浴 能	プログラム II (別紙)	就 寝
10月12日(日)	プログラム III	つ 朝 ぐ ど ぐ ラ ム 食 III	ふ る さ と の 祭	プログラム IV (別紙)	昼 食	プログラム V (別紙)	閉 祭 式					

※天候によりプログラムは変更することがあります。

11. 受 付 10月11日(土) 12:00～13:00
(日帰り参加者は11日・12日とも随時受付をしています)

12. 参加費 (宿泊者のみ) 小学生以下2400円・中学生以上2600円
(11日の昼食・夕食 12日の朝食 シーツリネン代 保険料等)
12日の昼食ならびにクラフト等の材料費は別途負担となります。
13. 服装・持ち物 (宿泊者のみ) 野外活動に適した服装・雨具・防寒衣・洗面具・タオル・着替え・パジャマ類・保険証(写し可)など
14. 申し込み方法 別紙申込書により、平成9年10月1日(水)までに、郵送またはFAXでお申し込みください。
申込者が多数の場合は抽選の上決定します。
結果については、10月5日(日)までにご連絡いたします。

〒 396-03 長野県上伊那郡高遠町大字藤沢6877-11
国立信州高遠少年自然の家事業課
☎ 0265-96-2525 FAX 0265-96-2151

15. 交通案内 別紙参照の上、国立信州高遠少年自然の家までお越しください。
宿泊者でバス輸送を希望する方はお申し込みください。(乗車定員があります)
「宿 泊 者」
※ 迎えバス
JR中央線茅野駅 11:30発
JR飯田線伊那駅 11:00発
※ 送りバス(伊那・茅野方面)
少年自然の家発 16:30発
15. みんなの広場 (団体・個人企画)
展示・発表・バザー・出店・クラフトの指導など自分たちをアピールする場として開設します。希望者はお申し込みください。

※ご不明の点がありましたら事業課までお問い合わせください。



第7回信州高遠フェスティバルプログラム一覧

日 番	プログラム	選 択	時 間	備 考
10 月 11 日 (土)	1 開 祭 式		13:00 ~ 13:20	お祭りのはじまりです。
	2 音 楽 祭 I		13:30 ~ 14:30	地元の小学生が出演します。
	3 YOU・遊 サタデー	I	14:30 ~ 16:30	信州大学教育学部の学生の指導で、リース、 からからアート、ネイチャーアート、宇宙生 物プルルンスライム、モコモコデンキパンな どを参加者と一緒に行います。
	4 軽 音 楽	I	14:30 ~ 16:00	地元の高校生が出演します。
	5 薪 能		18:30 ~ 19:30	野外で古典芸能をご覧ください。
	6 紙 芝 居	II	19:30 ~ 20:30	長谷村の糸車の出演です。
	7 自 然 体 験	II	19:30 ~ 20:30	星座観察・ナイトハイクなど行います。
	8 野 外 活 動	I	13:30 ~ 17:00	野外活動・ゲームなどに挑戦してください。
	9 ハンドクラフト	I	13:30 ~ 17:00	こけしの絵付け、白樺の絵付け、デコレーシ ョンキャンドルなどで楽しんでください。
	10 展 示	I・II	13:00 ~ 21:00	地元の学校・グループなどの作品を展示しま す。
10 月 12 日 (日)	11 野 鳥 観 察	III	6:00 ~ 8:00	周辺の野鳥観察です。
	12 キノコ探検	III	6:00 ~ 8:00	山のキノコ探しです。
	13 ふるさとの祭り		9:00 ~ 10:00	地元の保存会・保育園・学校・大学・グルー プ・利用団体の出演です。
	14 音 楽 祭 II	IV	10:00 ~ 12:00	
	15 ハンドクラフト	IV・V	9:30 ~ 16:00	世界に一つの手作り作品です。籐細工、土笛、 押し花絵、モザイクキャンドル、紙粘土、木 の人形、竹細工などからお選びください。 (草木染めは11日から実施します)
	16 水 ロ ケ ッ ト	IV・V		親子、友達どうしで体験してください。
	17 餅 つ き	IV	10:30 ~ 13:30	
	18 そ ば う ち	IV	10:30 ~ 13:30	地元、日本の味を堪能してください。
	19 抹茶・煎茶	IV・V	10:00 ~ 15:30	
	20 魚 つ か み	IV・V	10:00 ~ 14:00	川の中に入り渓流魚を手づかみします。
	21 野 外 活 動	IV・V	9:30 ~ 16:00	マレット・ディスクゴルフなどに挑戦してく ださい。
	22 O・L 大 会	IV・V	10:00 ~ 15:00	自然の家周辺を利用したオリエンテーリング 大会です。
	23 観 察 コ ー ナ ー	IV・V	9:30 ~ 16:00	周辺の動物、植物について調査しましょう。
	24 展 示	IV・V	9:00 ~ 16:00	絵画・習字・陶芸作品などを展示します。
	25 出 店	IV・V	9:30 ~ 16:00	地元の特産品、うどん・キノコ汁・ごへい餅 ・リブステーキ・焼きそば・おでんなどを販 売します。
	26 閉 祭 式		16:00 ~ 16:20	お祭りの終わりです。

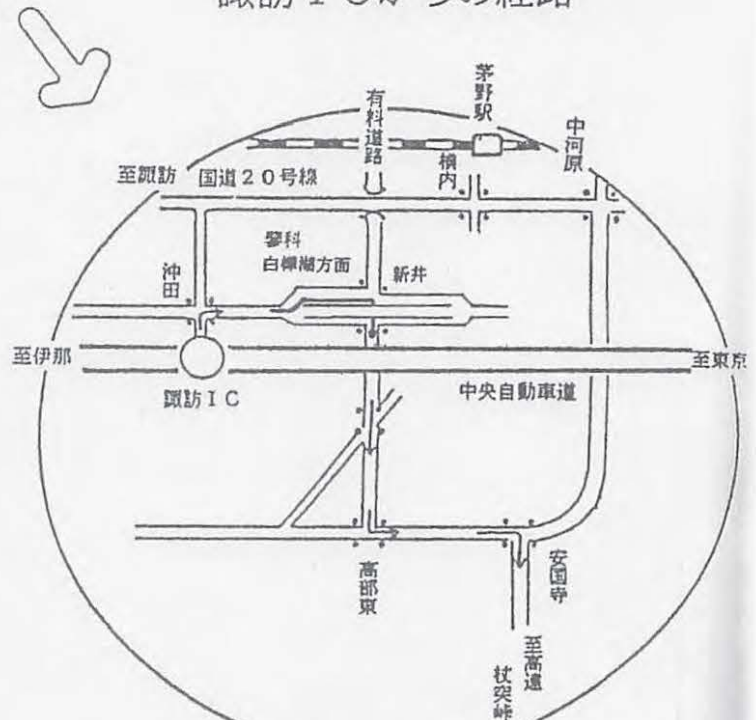
日程表を参照してください。

国立信州高遠少年自然の家 道路案内

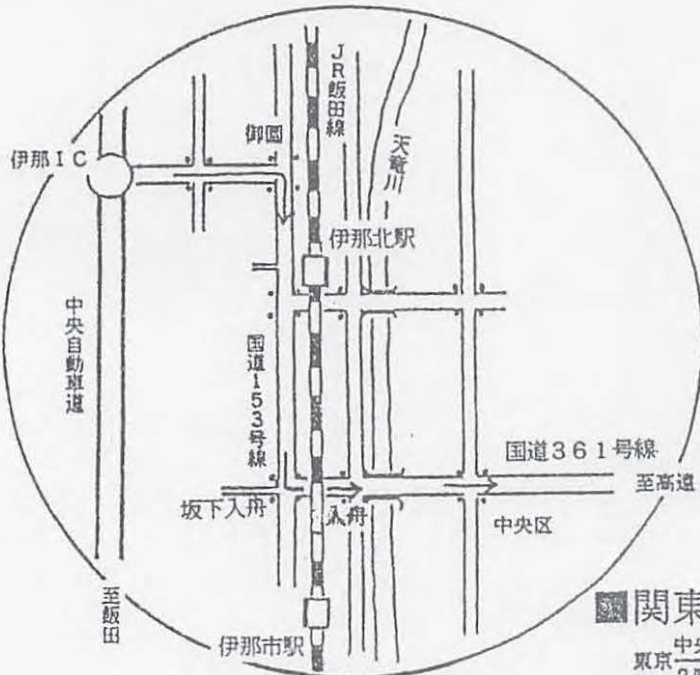
〒396-03
長野県上伊那郡高遠町藤沢6877-11
TEL 0265-96-2525
FAX 0265-96-2151



諏訪ICからの経路



伊那ICからの経路



関東方面から

東京 $\xrightarrow{\text{中央自動車道 2時間30分}}$ 諏訪IC $\xrightarrow{\text{国道152号線 40分}}$ 少年自然の家

関西・中京方面から

大阪 $\xrightarrow{\text{名神高速道 2時間30分}}$ 小牧JCT $\xrightarrow{\text{中央自動車道 2時間20分}}$ 伊那IC $\xrightarrow{\text{国道361・152号線 40分}}$ 少年自然の家

冬期間はタイヤチェーンを携行してください。
ディーゼル車の場合は燃料凍結防止のため伊那・諏訪地区周辺で給油をしてください。

出張YOU遊サタデー in 高遠

中村 典史 (社会専攻 4年)

実施日時：1997年10月11日

会場：国立信州高遠少年自然の家（第7回信州高遠フェスティバル）

主催者：国立信州高遠少年自然の家

1. なぜ出張するのか

高遠で出張YOU遊サタデーをやるという話が出たのは、今年の3月である。今期のYOUサタを行う日程を相談しているとき、高遠から出張して欲しいという依頼をいただいているとの話を土井先生より聞かされた。私個人としては、次の点から出張を取り入れていくべきだと考えており、この高遠への出張は絶好の機会であった。

1. 地域へのYOUサタの拡大。特に南信地域でYOUサタを実現する。
2. YOUサタの知名度をあげる。
3. 今までに行った事のない規模での出張YOU遊サタデーを実現する。

しかしキャンパスでのYOUサタとの兼ね合いで過密なスケジュールが予想され、キャンパスにかかる労力を削ってまで出張するものかどうか、という声もあった。そのため当初は出張専門組を作ってキャンパスとは切り離して準備をすることも考えていた。しかしこれは人数の関係と私たちの気分の問題から、結局キャンパスでやっていた人間がそのままやることになってしまった。

2. 高遠に向けた準備

高遠への下見は5月の終わりに1回と、10月の初めに1回の計2回行った。1回目は高遠の職員の方との顔合わせ程度のもので、施設の様子と、どんなことができそうか、ということを見るにとどまった。また4年生は教採前の忙しいはずの時期であり、10月のことよりも7月だ、という気持ちが高く、高遠の準備は9月に入ってから、という暗黙の了解のうちに、1回目の下見は終わった。

しかも、私たちが「これはやってもいいんですか？」と聞いたことは全て「ああどうぞやって下さい」と寛容なお言葉を頂き、高遠の方針というものはないのか、と疑問を持ってしまうほどであった。しかしこのおかげで私たちが自由にできたことはたしかである。

9月に入り、講座も順調に決まっていたが、大きな問題があった。参加者はどう集めればいいのか、という問題である。電話でのやりとりでどうも10月に入るとフェスティバルの参加者が決まらしい、その中でYOUサタに参加する人の希望をとっているらしい、というようなことがわかってきた。そこで当初はYOUサタ参加希望の人に電話をし、講座を振り分けようということになった。その名簿をもらいに行くということも含めて、講座の下見のため直前になってもう1度高遠へ行った。

2回目の下見では講座が出そろっていることもあり、具体的にどこでどの講座をするという計画や、私たちがどこに泊まるかなどの細かい打ち合わせがなされた。

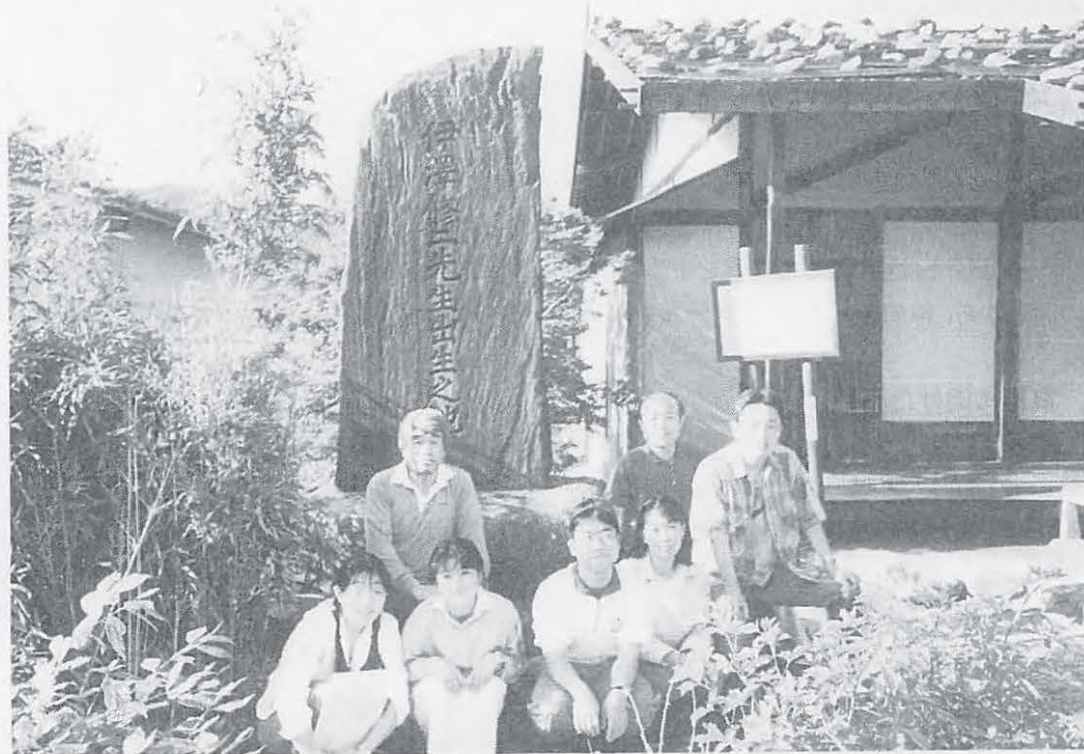
しかし結局名簿は作成中でもらえず、受付はフェスティバルの受付を済ませた人を呼び止めて

行うことにした。

3. 終わってみて

当日は今期YOUサタにふさわしくはっきりしない空模様だったが、講座は大成功であったといえる。講座の終わった後、スライムやペーパーグライダーをもって歩いている家族を見ると、「どうだった?」と聞きたくなってしまった。また次の日になっても私たちの配った名札をつけている人がたくさんいて、こんなに大勢の人が参加してくれたのかと嬉しくなった。また専門職員の皆さんなど多くの人に助けられ、私たちだけでは出来なかったレベルで講座が開けたのではないと思う。

キャンパス外で私たちが講座を開くことに関しては、問題点も指摘されている。しかしその中で私たちが目標としているものに出会えるなら、積極的に取り入れていくべきではないかと思う。そして高遠はそうしたことが可能な場所であるのではないだろうか?



宇宙生物ぷるるんスライムを作ろう

片桐 宏（技術教育・院2年）

（1）講座開設にあたって～スライムと私～

「宇宙生物ぷるるんスライムを作ろう」は、YOU遊サタデーが始まって以来の人気講座である。講座名をちょっと変えたものの「スライム」講座に変わりはない。私は以来、スライムの講座を何度か見学した際に、自分自身で触ったりしたものの、その作り方や楽しみかたまでは知っていなかった。今年度、更埴の出張YOU遊サタデーの折りに、初めてスライムのスタッフを経験した。その作り方講習会で、私は初めてスライムがどうやってできるのかを知った。また、その時、どうして子どもがあんなに楽しむのか、秘密を知った。この時の講習会の様子の写真があるが、自分が満面の笑みでスライムを作っている様子を見事に撮られ（?!）、自分がスライムの「とりこ」になっていった感じがする。このようななか、私にとっての最後のYOU遊サタデー、スライムのキャプテンをやることになった。

（2）当日まで

今回の講座が、たまたま私がボランティアで何度か足を運んでいた国立信州高遠少年自然の家で行われたので、会場等についてはある程度の見識があったので、幸いだった。しかし、何をどれくらい用意したらいいのか、どんな講座にしたらいいのか、なにぶん初めてのことで、メーリングリスト等を使って、様々な参考意見をいただいた。その結果、講座の形態としては、2個のスライムを作ること、1時間の講座を2回行うこと、チケット制で行うこと、とした。「出張」となると忘れ物は許されない。備品準備はいつもだと、備品等は備品係にお世話になっていたが、今回はキャプテンが全てやることになっていたため、備品係の仕事の苦勞を知った。しかし、遊学プランを出したものの、本当にスライム講座が自分の手で勧めることができるのか、不安は募るだけだった。

（3）前日準備

前日、スタッフと共にスライムの試作を行った。しかし部屋の温度が低かったせいか、いつもどおりにスライムができない。一同悩んだ。理科で化学を専門としている学生が、「部屋の温度に関係があるのでは？」とアドバイスをしてくれた。そこで、自然の家の方をお願いして、次の日は朝から暖房を入れてもらうようにした。スライムの試作、当日の流れを確認した後、掲示物・案内板の作成、備品のセットなどを分担して行った。

（3）当日の流れ

当日、各班ごとに、どのような活動を行ったか、以下列記する。なお文中、丸数字は子どもたちの活動、◆はスタッフの援助、◎は注意事項をそれぞれ意味している。

①グループのお兄さん・お姉さん・お友達の簡単な自己紹介を聞く

◎軽い挨拶程度

②紙コップ、箸（かきませ用と計量用）、ビニール袋をもらう

◆紙コップと箸（かきませ用と計量用）、ビニール袋を子どもに配る

◎指示するまで机の上のものには触らないように呼びかける

③もう一度注意事項を聞く

- ◆念のため注意事項をもう一度確認する
 - ・服や髪につけないようにする
 - ・絶対、口の中に入れない
 - ・お友達が嫌がることは絶対しない
 - ・わからないことがあったらお兄さんやお姉さんに相談する
 - ・材料は限られた分しかないので、仲良く使う

④スライムの作り方を知る

- ◆スライムを実際に作りながら、作り方を説明する
- ◎ユーモアなどを交えながら、子どもが「早く作りたい」と思うように工夫する
- ◎すべての子どもが見えるように配慮する
- ◎手についてしまったスライムや失敗したスライムの処理（バケツに捨てる）ことをあらかじめ知らせておく

⑤スライムを作る

- ◆子どものスライム作りを援助する
- ◎隣り同士の子どもが助け合えるような雰囲気作りに心がける
- ◆一つ目のスライムがだいたい完成したら、お互いどおしのスライムを比べてみる
- ◆二つ目のスライム作りを援助する

⑥後かたづけをする

- ◆できたスライムをビニール袋に入れるように指示する
- ◆小さい子どもについては、手についたスライムを一緒に落としてあげる
- ◆机の上を整理整頓する（机の上の新聞紙など、片づけられるものは片づける）

(4) 結びにかえて

講座自体、大変盛況で大きな混乱もなく無事に終わった。今回、1時間という短い時間のなかで2個のスライムを作ったが、初めての子ども同士でも協力の姿、親子の連携の姿を見ることができた。また、10名近い子どもたちを一人のスタッフで担当したが、正直言って無理があったような感じがした。しかし、学校現場ではもっと多くの子どもを一人の教師で見ていることを考えていると、今回の講座形態は私にとってもスタッフにとっても良い経験になったと思う。次の日、多くの子どもが袋に入ったスライムを持ち歩いていた。なかには、他の子どもに自慢している子もいた。スライム講座の計画、準備、運営と初めての経験だったが、多くの後輩が協力してくれた。この場を借りて、お礼申し上げます。スライムとは意外な場所に出逢い、そして、今回このような意外な経験をすることができた。私の望外の喜びとして、ここで経験したことをこれからの糧にしていきたいと思っている。

ペーパーグライダーを飛ばそう

芦田 英央 (社会専攻 4年)

1. 講座開設にあたって

YOU遊サタデーのスタッフとして、何回か参加しているうちに一度くらいキャプテンとして講座を開きたいと思ったのが講座開設の動機である。何を開設するかにあたっては、今までに何回かスタッフとして参加していた「ペーパーグライダーを飛ばそう」を開設することに決めた。スタッフの視点から見てきた、参考にする点を講座に生かすことができると考えたからである。

2. 長野での準備

講座の進行の仕方は、前回までの社会専攻の中村君が立てた遊学プランに手を加え使わせていただいた。ペーパーグライダーのキットも、前回までと同じA. G社から発売されているペーパーグライダーのキットを使った。また、ペーパーグライダーは、二種類用意した。子どもの年齢にもよるが、ちょうど二種類が適度な数であると考えたからである。さらに、ペーパーグライダーの種類は、ジャンボ型と競技用型のペーパーグライダーを選んだ。他にも複葉機型、戦闘機型などのペーパーグライダーもあったのだが、第一に作るのが簡単、第二に飛行距離がでるものということ念頭において選んだ。ジャンボ型はシュッと直線に飛び、競技用型はふわりと舞い上がるように飛ぶ。飛び方に差はあるものの、どちらも長く飛ぶのである。また、低学年の子どもでも簡単に作ることができる。

今回、講座の準備をするにあたって困ったのが、ペーパーグライダーを印刷した画用紙やはさみ、カッターナイフ、ボンド、色鉛筆、マジックなど工作用品をどのくらい用意するかということである。というのも、今回のYOU遊サタデーは、いつものように大学の施設を利用して行うものではなく、国立信州高遠少年の家で行われた、第七回信州高遠フェスティバル(10月11,12日)の一環として行われたからである。そのため、あらかじめ講座に申し込みがあるわけではなく、当日何人の人が講座に来るのか予測できなかったのである。そこで、前回の講座を使った材料よりも多めに用意することにした。スタッフの人数の関係で同時に20人が工作できる材料を用意することにした。といっても、画用紙は少年の家で用意していただいたので、事前にこちらで用意したのは、その他のはさみやボンドなどの材料である。

他に事前の準備として、スタッフ全員に一度ペーパーグライダーを実際に作ってもらった。説明書をみれば難なく作ることができるであろうが、自分で作り工夫することで、よりスムーズによりの確な説明や援助をすることができると思ったからである。

3. 高遠での準備と講座の中で

10月11日のYOU遊サタデーの前日から高遠に泊り、講座の残りの準備をした。まず、少年自然の家で用意していただいた画用紙にペーパーグライダーの図面を印刷した。開講時間が2時間半であることから、80人分を用意した。たくさんの参加者があると予測し、少し多めに印刷したつもりであった。次に、気楽に講座に参加しやすいように、教室の場所を示す看板を作り、教室もまた飾り付けして明るい雰囲気を出した。残りの時間は、飛ばし方の

工夫にあてた。翼に曲線を付けたり、クリップをつけてバランスを調整したり、スタッフのみんで外のオープンデッキに出て奮闘した。

高遠に来てみて、心配になったのは、ペーパーグライダーを飛ばす場所である。高遠に来たのははじめてのことで、こちらに来る前は外に出ればなんとかなるだろうと安易に考えていたのだが、意外と飛ばせるような場所がすくないことが判明した。前日、私たちが飛ばしていたオープンデッキは広くてとても適した場所だったが、当日、そこでバンドの演奏があるとのことで、使うことができなかった。また、講座の教室は二階であったため、外に飛ばしにいきにくいという難点があった。そこで、しかたなくやや広い、玄関前の場所で飛ばすことになったのだが、当日、雨が降り外に出ることもままならなかった。結局、廊下や階段で飛ばすことになってしまった。

講座が開かれる前に申し込んだのは、子どもと大人を合わせても22名で、。何だか拍子抜けした。しかし、実際に講座が始まると、急に参加する人が増え、終わってみると総勢90人以上の人が講座に参加していた。教室の最大収容人数が、54人であったにもかかわらず、席に座れず待ってもらった人もでるほど、盛況であった。私を含めた4人のスタッフでみられるのは20人が限度であったため、本部のスタッフにも手伝ってもらい、本部にも迷惑をかけてしまった。

また、「家でも作ってみたい」「家族へのプレゼントにする」などといった人にも、余分に配布したので、画用紙は130枚近く必要になった。そのため、準備段階で印刷しておいた枚数ではとても足りなくなり、途中何回も画用紙を印刷しに行かなければならなくなった。このことは、ただえさえスタッフが足りないなかで、他のスタッフに大きな負担をかける結果となってしまった。足りなくなったのは、画用紙ではなく、はさみやカッターナイフも足りなくなった。少年の家や本部の備品を借りても足りず、参加者には何人かで使いまわしていただいた。

講座を進める中で、特に注意したのが怪我人がでないようにすることであった。ホワイトボードに注意事項を書いたりして注意を促した。なかでも、カッターナイフで指を切ったり、飛ばしたペーパーグライダーが目にあたったりしないように注意した。幸い怪我人もなく、無事に講座を終了することができた。

4. 講座が終わって

講座終了後「こうやって投げるとよく飛ぶんだよ」と話しかけてくれる子や、夕食の時にも翼のとれかけているペーパーグライダーを大事そうに握りしめている子を見て、今回の講座は成功したんだという実感が湧いた。とても忙しく大変だったが、多くの子どもを始め大人の方も楽しんでいただけた講座になったと思う。

私自身の不手際もあり、多くの方に迷惑をかけたが、他のスタッフの協力もありなんとか成功にこぎつけることができた。感謝したい。

からカラアート

森下 房枝 (家庭専攻 3年)

1. 講座開講にあたって

第12回で、どんな講座を開講しようかと考えていたときに、ふと小学生の夏休みの宿題で卵の殻を使って貼り絵をしたことを思い出しました。単純な作業ではあるが、できあがった作品は、近くで見ると上手にできていなくても、遠くから見ればきれいに見えるため、誰もが満足感を味わうことができるのではないかと思います。「卵の殻を使って貼り絵をする講座」＝「からカラアート」を開講することにしました。

そこで「からカラアート」の講座では、「ものづくりの楽しさと満足感」と、「身近な材料で貼り絵を作ることができる」というこの2点をねらいとしました。

2. 講座名を考えよう

講座を開講するときにまず考えなければならないのは講座名でした。講座名は参加者が講座の内容を知る上で、一つの手がかりとなるため、「講座内容が分かり易いものを」そして「どうやってつくるのだろう」「どんなものができるのだろう」という参加意欲が湧きそうなものを、と思考しました。そこでできたのが『から(卵のから)カラ(色の付いた)アート(絵)』＝「からカラアート」なのです。しかし、「講座内容が分かり易い」という点では少し劣っていたのかもしれない。なぜならば、第12回ではなかなか参加者が集まらなかったのに、第13回においては同じ講座名でも参加者がすぐに集まったからです。これは第12回の講座紹介や成果発表で、講座の内容がやっと参加者に伝わったためではないかと思えます。

ここで私はもっと講座内容の見える講座名を、考えなければならないということ学びました。

3. 教材研究

講座名を考えた後にしなければならなかったことは、講座の流れを考えることです。

そこでまずこの講座では色を塗った殻を使うため、殻にあらかじめ色を塗ったものを用意しておくか、それとも子どもたち自身で色を塗りながら作品を作っていくかどちらにするか考えました。そこで色を塗って乾くまでの時間を見たところ、2時間の講座の中で殻の色塗りからはじめることは無理であることが分かり、あらかじめ何色か色を塗った殻を用意しておくことにしました。

つぎに、試作品をつくってみることをしました。B4の画用紙全面に割と細かな色使いをする下絵をコピーして、早速製作に取りかかりました。思っていたよりも細かいところが多く難しかったため、完成までに数日かかりました。これでは2時間の講座の中ではできないということ、また色使いが細かいと飽きることが分かったため、はがきサイズの画用紙に簡単な色使いで複雑でない下絵を用意することにしました。

4. 第12回と第13回の講座の展開

1) 第12回からカラアート

4.反省

講座の流れが、私の予想と異なり講座というよりは「催し物」的になってしまいました。そのような講座になってしまったが、参加した人々が楽しそうに作品を作り、そして他の講座へ参加しに行く姿や、他の講座で作ったものをもって、一日いろいろなことを体験できた満足の顔で教室にくる子どもをみると、このようにいろいろな講座に参加できていいのでは、と思うようになりました。

このように、いつものYOU遊サタデーとは少し異なった今回でしたが、キャンパスの外に出てみて、「講座参加の仕方」など、今まで気づかなかったものに気づくことができたので、講座を開講してよかったと思いました。

最後に、準備や当日の参加者への支援などを協力して下さったスタッフの皆さん、十分な連絡等できずご迷惑をおかけしました。この場を借りてお詫び申し上げます。そしてありがとうございました。



冒険ハイク

～自然の中を冒険しよう～

登坂 武人 (社会専攻 3年)

①動機とねらい

「高遠でしかできないことをやってみよう」これが高遠で冒険ハイクをやってみようと思ったきっかけである。

高遠で何か講座を開いてみようと思って、高遠少年自然の家のパンフレットを見ると、周りにたくさんの自然がある事を知り、もの作りではない何かこの自然の中で楽しく遊べるような講座をやってみようと思った。そこで思いついたのが冒険ハイクである。冒険ハイクは、私が小学校のとき、林間学校でやって楽しかったのもそれと同じような経験を子ども達ができればいいなと思ってやることにした。

次に、私が高遠の冒険ハイクを通して子ども達に何を伝えたいのかということについて書きたいと思う。

私が高遠の講座の詳細を決めていく中で2つのことを必ず念頭において考えていった。その2つがつまり私の本講座におけるねらいである。それが何かというと、まず1つ目は自然を感じる、2つ目は集団で動く楽しさ難しさを知ってほしい、の2つである。この2つのねらいが子どもに伝わるようコース設定や、チェックポイントでの課題などを考えていった。

②子どもの様子

次に子ども達の様子について書いておこうと思う。

高遠では、そのシステム上講座ごとの子どもの参加人数が当日までわからないという状況だったため、ドキドキしながらその当日を迎えた。そしてやはり懸念していたことが起こった。受付締め切り30分前になっても参加者が0人。他の講座は、ほとんど締め切っているのに、という状況になってしまった。しかし、周りのスタッフ達の助けもあり講座開始時には23人もの参加者が集まってくれた。

子ども達の活動の状況についてもここで書きたいと思うのだが、キャプテンの私は、トランシーバーを持ってゴールで一人待機だったので、全体の動きは把握していたが、子ども達の活動の様子や、表情は、スタート時とゴール時しかわからないので、私のわかっている範囲で、少し書きたいと思う。1チーム5~6人に、こちら側が作画的に分けたのだが(あえて友達や兄弟は別のチームにした)、そうするとスタート時はやはりいろいろと不安な様子でほとんどの子どもに笑顔が見られなかったが、ゴール地点で帰ってくる子ども達の表情を見ているとどの子どもにも笑顔が見られ、短時間でもうすでにみんな友達になって子ども達の順応性のすごさに驚かされた。スタート時での子ども達の表情を見る限り私もこのチーム分けに正直不安はあったが、ゴールに帰ってくる子ども達の表情から、それが間違いではなかったと胸をなで下ろした。そのような事実からも私の考えていたねらいの一つである「・集団で動く楽しさ難しさを知ってほしい」は達成されたと思える。

③そして今後へ

今回私としては、初めての野外活動の講座を開いたのだが、開いてみて思ったこと、今後また開くとしたら気をつけるべき事などを書いていきたいと思う。

まず野外活動的講座を開く場合、企画力が問われるということが今回やってみて痛切に思ったことである。もの作りのように、子どもが自発的に取り組もうとするような魅力のある物質というものが、野外活動にはない。つまりそこにある自然を講座の中でいかに利用し、子どもが楽しいと感じられる場を私たちがいかに提供できるかということが問題となってくる。

次に安全面についてである。けがをってしまったらせっかく楽しんでいても一瞬にしてパーになってしまう。当然のことと言えば当然のことなのだが、それが意外と難しい。少しでも危険だからといってその企画を中止してしまうと、冒険ハイクのような野外活動には何の面白味もなくなってしまうからである。すごく面白い企画には、ある程度の危険性が伴う、安全面ばかり気をつけているといまいち面白味にかけてしまう、そこが難しいところなのだ。その辺のことに注意して活動していく中、子ども達とスタッフがどのように関わっていくのかということが野外活動的な講座を開く上で最も考えなくてはならない事だろう。

安全面への配慮、何もない中でどう楽しむかを考える企画力、この2つが今回私が学んだ事であり、今後どんな講座を開く上でも、最も注意していく事であろう。



ネイチャーアート～自然を使って絵を描こう～

土屋 ひとみ (教育実践科学専攻 2年)

・講座を開くにあたって

今回はせっかく高遠という自然のなかでYOUサタをやるのだから、ここだからできることをしたいと考えた。高遠の山にはいろいろなものがある。子ども達や大人が自然に気づき、触れ、秋という季節を精一杯からだで感じてほしい。また、自然の中から自ら材料を見つけ出すことで自然の実態を知り、ふれあいと知識を深めてほしい。ふれあいとは自然のみならず、仲間たちとの交流を重視したいと考えた。そして人工の道具がなくても素敵な絵が描けることを実感してほしいと思った。そうして自然のなかに入り込み、見つけた材料で、自分が見てきて、感じ取って、また自然を描くことで、その記憶を鮮明にし、自然の素晴らしさを認識し、身近に感じてほしいと思い、この講座を設定した。通例のYOUサタに加えて、人とのふれあいを重視したかったのでレクリエーションを盛り込んだ。

絵を描くにあたっては、「自然をつかって絵を描く」ということで、学校教材として使用されるクレヨン・絵の具などの人工物でなく、落ち葉や実・枝のような自然物であり、秋ならではのものを使用した。また材料を探しに自ら森に入ること、自然を直に体験してもらうよう設定した。さらに、一人一枚の絵でも良かったが、みんなで力を合わせてつくったものを一枚の大きな絵にするという感動を体験してほしい、一人ひとりの制作が、実はみんなの大きな絵の中のパーツになる。(人と人とがつながっていく過程と似ており、)わざとその効果をもたせたかった。

そして、思い出がいつまでも手元に残るようにお土産としてクラフトを用意した。この講座は子どもだけではなく、大人も興味をもてるものにした。

キーワード：自然体験、仲間や自然との交流、想像力、創造力、充実感、満足感

・講座の様子

先述した通り、ネイチャーアートは、普段使用するクレヨンや絵の具のかわりに木の枝や実といった自然物を使用する。キャンバスは一枚のベッドシート(布)を使用した。この際、布を4枚に分割し、一班一枚仕上げ、完成時に4枚の絵を合体させることにした。各班は室内にばらばらになるため出来上がるまで他の班の様子は分からない。よって、合体したときの感動も大きかった。

当初の募集人員を大幅に上回り、最終的には50名前後の大所帯になった。また、計画時から大人の方まで楽しめる講座を設定したため、当日は年齢層が広いものになった。スタッフ6名で、大人数をまとめるのは困難であったが、できるだけたくさんの人に本講座の願いを伝えたかったので、できるだけ希望者を受け入れた。そのため、スタッフの役割としては子ども達にアドバイスしたり、一緒に作ったりとリードする面が強くなってしまい、子どもと同化したいと願ったスタッフには物足りなかったかもしれない。しかし、講座の準備を念入りにしたため、スタッフ全員が講座内容や意図を熟知してくれ、講座前にスタッフ自身が講座内容を楽しめた点が、講座のおもしろさを参加者全員に伝えられた要因になった。

この講座は、画材となる自然物を自然の森の中で採集することから始まる。材料集めと製作を通して人間関係を重視したかったので、講座開始直前に集まった参加者からエンカウンターやレクリエーションを行い、参加者のアイスブレイキングを図った。途中から

でも気軽にレクに入り込めるような配慮も行った。講座開始は簡単な柔軟体操で緊張した身体をほぐし、先程のレクで近親間をもてたところでグループ分けを行った。グループはできるだけ知らない人たちともなるようにレクを使って分けたが、小さなお子さんのいる親子や仲間同士と参加したグループはそのままにして、一人で参加した子やわかれてもいいという子にはその勇気を讃えることで寂しさを感じさせず、三つのグループに分けた。布は四分割したが、そのうちの一枚は見本として予めスタッフがネイチャーアートをした。実際には子ども達や大人たちの想像力は目を見張るものがあり、見本よりもずっと素晴らしい作品になったのは言うまでもない。グループに分けた後は、自己紹介をゲーム形式でやって、はやくクリアした班から（準備段階で布を分ける前の大きな布に下絵を描いたので）どの部分を描くかを決定した。グループは子ども班二つに大人班一つになった。当初は三班とも混合にする予定だったが、参加者の意図で変更した。参加者の意見が出るということはそれだけみんなの心がほぐれていることを意味し、レクの成功を示した。レクの効果は他にグループ内の人間関係が生じたなど様々あったが、森の中で採集するとき、ある程度の団体行動が必要だったためでもある。材料集めは天候の問題もあるし、行きたくない子を無理に連れていきたくなかったため、希望者のみにした。スタッフ半分と、保護者に援助を依頼した。木々の中にはツタ漆がまきついているものもあり、子どもがその赤の美しさに採集してしまうことのないように、参加者全員に注意を促した。スタッフにも予め準備段階で現物を示し注意した。採集から始めることの意味は、自然と人間が触れ合うことを主眼にした講座であるので、自然のなかに入っていくことも子どもたちがたいへん喜び、感動すると予想したからである。

キャンバスに下絵をしておいたのは、講座が短時間なためだが、参加者の想像力を疎外しないように、下絵はベースになるものだけにした。内容としては、木2本、山、湖である。下絵は4枚に分割したとき不公平のないように描いておいた。

レクを取り入れたことはたくさん効果をもたらしたが、まだレクをしたい子と早く製作に入りたい子にわかれた。子どもは勿論大人までもがみんな生き生きとして、普段使用しない画材で最初は戸惑っていたが、各自思い思いに描いていった。子どもも大人も力作が完成するたびに、スタッフや同じグループの人に見せ合い、グループ内の交流がたくさん見られた。背景は（山、空）はポスターカラーを水で薄めたものを霧吹きに入れ、吹きかけて色づけできるようにした。

ネイチャーアートを完成させた後は、個人のおみやげとして、クラフトづくりをした。カラマツを輪切りにしておき、各自サンドペーパーをかけ、ドングリや木の枝で表札を作った。

スタッフが準備からレクの練習や内容、誘導方法まで全員が把握してくれたため、スタッフ自身も楽しみ、打ち合わせがしっかりしていたので、スタッフ間の人間関係の結びつきが強かったことが講座がスムーズに進んだ要因である。また、講座スタッフだけでなく、他講座のスタッフの協力や自然の家職員の皆様の協力や温かい言葉のおかげで不安なく初キャプテンを勤められた。職員の皆様や参加者の大人の方、仲間のスタッフにこの講座を今回設定したことを強く賛同してもらい、多大なる協力支援をしてくださったこと、YOUサタ幹部の方々やアシスタントスタッフに心から感謝します。自然の中だから改めて実感できることや初めて体験できる感動があります。また自然とのふれあい方によっては自

然は危険なものにも優しいものにもなります。それを都会から高遠にやってきた参加者にも伝えられたので良かったと思う。

初めてYOUサタに参加したうえに、初キャプテンだったので、不安や分からないことばかりでした。それをYOUサタスタッフの全ての方に支えられました。これからYOUサタに参加しようと思っているが、不安に思って踏み込めない人がいるとしたら、勇気を出して参加してほしい。講座で子どもたちとふれあうこと以外にも大きな収穫が得られると思います。



小諸出張Y O U遊サタデー



11月9日
(日)

会場・乙女湖公園内 小諸市文化センター
参加費無料
上履きを御持参願います
一部のイベントを除き当日の参加もできます。

乙女の森フェスタ
親子で遊ぼう、作ろう!

10:00~12:00

お父さん、お母さんと作ろう
わいばしてっぼう

上田女子短期大学レク研

親子でチャレンジ!
大昔の火おこし体験

小諸市教育委員会

うちゅうから
スライム
がやってきた

信大YOU遊サタデー

ババは優しくって
力持ち!

アイアイクラブ

一緒に作ろう
ピエロさんのふうせん細工

大井郁夫

お父さんバンド「選抜草野ひとし」

小林・春原

ハイパー系電話

佐藤恵子

大きな
しゃぼんだまをつくらう

信大YOU遊サタデー

木で作ろう

花市の木工広場が
やってくる!

事前に
申し込みが
必要です

小諸市木造住宅振興会&大工組合

飛行機を作ろう

三角定規とものさしを持参

事前に
申し込みが
必要です

天井まで
上がっていくよ。

古崎仁一他

自転車に
乗れた記念日♥

写真入
記念証

友遊クラブ

魚つりゲーム

上田女子短期大学レク研

家庭教育を語る会

13:00~15:00

分科会を行います。専門の先生方のお話も聞けます。

- 第1分科会 家族を演じてみませんか? ロールプレイングによる家族の理解 臨床心理師 宮崎 忠男 (上松病院)
(小学校高学年~中学生を持つ親向き) 臨床心理師 澤地 明秀 (長野少年鑑別所)
- 第2分科会 子育てサークルの交流会 サークルの作り方、運営の課題 助産婦 永井 ひろみ (ながい母乳育児相談室)
- 第3分科会 乳幼児期の子育て 子育ての悩みと父親の役割 教授 飯田 正江 (上田女子短期大学)

▼参加申込書 各学校、園の先生、または佐久教育事務所(FAX,TELも可)へお送り願います。

◆問合せ・申込先◆ 佐久教育事務所 〒384-01 佐久市大字跡部65-1 Tel 0267-63-3182 Fax 0267-63-3187 主催 長野県教育委員会佐久教育事務所 共催 小諸市教育委員会・小諸市PTA連合会 小諸市保育園保護者会連合会 後援 小諸市	氏名(保護者)	参加に ○印 →	乙女の森フェスタ
	氏名(子)		家庭教育を語る会 → 第()分科会
	電話番号		「木で作ろう」に参加
	園・学校・サークル・団体名		「飛行機づくり」に参加

この公民館でも申し込み書を受けつけています。

出張YOU遊サタデー in 乙女の森フェスタ

11月9日 小諸市文化センター

「宇宙生物スラスラスライム」

「でっかいでっかいシャボン玉を作ろう」

「フィルムロケット」

佐々木 美恵（家庭専攻 4年）

【小諸で出張YOU遊サタデーを行うまでの経緯】

この出張YOU遊サタデーは、家庭教育を考える目的でイベントを行う佐久教育事務所の方から声をかけていただいたことがきっかけで行った。親子で様々な体験をすることを通して家庭教育について考えて欲しい、というイベントの主旨をくみ、親子で物づくりや遊びができる講座を開いたのだ。

【主催者側との打ち合わせ・準備】

- 主催者側の方とは主に私が連絡を取り、それを各キャプテンへ伝えるかたちをとった。
- ・ 実行委員会に出席し、イベント全体の打ち合わせと各講座の打ち合わせ（2回）（中村・佐々木）
 - ・ 会場の下見、各講座の打ち合わせ、備品の買い物（1回）（中村・佐々木）
 - ・ 電話で各打ち合わせ（佐々木）

【講座ごとの打ち合わせ・準備】

参加者数をはっきり把握できなかつたり、全員が会場を下見したりできなかつたので、安全面や大まかな講座の流れ、備品などを確認し合うことが主であった。当日の状況に応じて柔軟に対応していくことが多かつたり、キャンパスで行うYOU遊サタデーのように参加者の名前や年齢層がわからなかつたりしたので、事前は不安が大きかつた。

- ・ 参加者数などを仮定した游学プランをもとに、講座の流れの打ち合わせ（当日変更有）
- ・ 講座を行う場所を示すポスター作り
- ・ 各備品の準備

【乙女の森フェスタに参加して】

やはり、短時間で大人数の参加者と触れ合うということは難かつたと思う。例えばスライムの講座では、時間内に全員にスライムをつくってもらおうと考えると、その説明などに精一杯で、ゆっくり参加者と話しをしたりする時間が十分にとれないのだ。これは、他の出張YOU遊サタデーにおいても同様であつたが、大切なのは、スタッフ一人ひとりが出張YOU遊サタデーに何を求め、そのために参加者とどう関わっていくかを事前に考えておくことだと思ふ。例えば今回は、親子の触れ合いを重視するという主催者側の意図をスタッフがどう組んで参加し、それによって何を得たか、が大切だと思ふ。従来のキャンパスで行っていたYOU遊サタデーとはもちろん違ふ考えのもとで行われるイベントに

参加するわけだから、その中では、自分たちのYOU遊サタデーに対する考えとどう兼ね合わせていくかが問われる。このとき、確かにまどうことも多いが、それはYOU遊サタデーを違った側面から見直したり、違ったことを学んだりするきっかけになると思う。

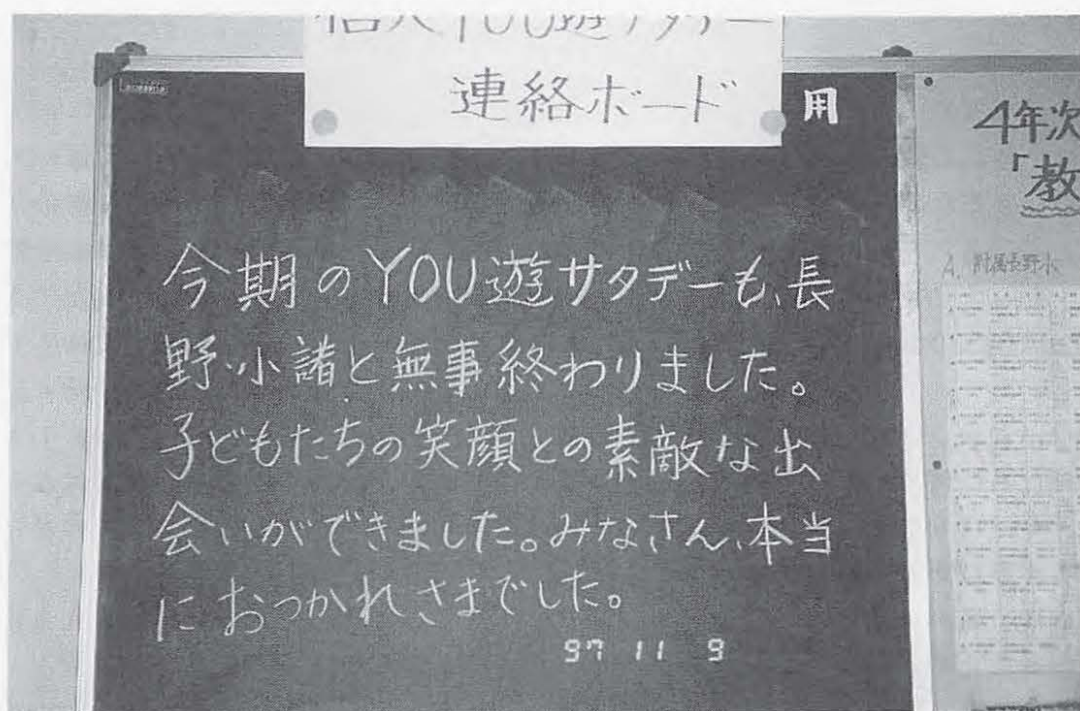
また、今回は主催者側の方の動きを見させていただき、勉強になったことも多かった。例えば、様々な講座を開くために、地域の様々な立場の方が集まって協力されていたのを見て、YOU遊サタデーも更に地域の中に入っていきたいと感じた。

最後に、私たちを快く受け入れてくださった主催者のみなさん、実行委員会のみなさんに感謝したい。

【キャンパスで行うYOU遊サタデーとの兼ね合い】

この出張YOU遊サタデーは、キャンパスで行った13回のYOU遊サタデーの翌日ということで、大変なことが多かった。3講座とも、13回で行った講座だったため、準備はほとんど同時進行で行うことができたが、スタッフの練習などはやはり13回分が中心となってしまった。また、2日連続で、前日の疲れが残ったままの出張YOU遊サタデーということで、講座中は楽しくできたが、帰路はぐったりといった感じであった。

双方を同時に進めていくために、それぞれを全く別のスタッフが関わっていければ良いが、それは人数的にも難しい。まず、自分たちがどこまでできるかを判断して出張YOU遊サタデーを取り入れ、協力し合いながらうまく両立していく必要もあると思う。



でっかいでっかいシャボン玉をつくろう

山田 尚美 (家庭専攻 3年)

私はキャプテンをするのも、シャボン玉に参加するのも、出張YOU遊サタデーに参加するのも初めてで、不安いっぱいのまま出張当日を迎えることとなった。ただ、前日に行われた「第13回YOU遊サタデー」で参加した「でっかいでっかいシャボン玉をつくろう」講座での体験が唯一の頼みとなった。

1. 前日の反省から生かしたこと

まず、子どもの安全面である。前日のYOUサタでは、地面に泡がたまっていたためすべって転ぶ子どもが出てしまった。そこで、前日以上にスタッフで協力して、新聞紙を使いこまめに泡を拭き取ることにした。さらに、当日シャボン玉講座を開いた場所は坂道になっていたので余計に転びやすいことが予想された。そこで、こぼれた泡を取り除くと同時に、たらいの位置を乾いている場所にずらすことにした。このことが功を奏してか、転ぶ子どもは一人として出なかったのではと一安心した。

また、前日は手を濡らしてしまっていて水道で洗う子どもが結構いたが、私たちスタッフは、ハンドタオルしか持っていなかったため対応が大変であった。そこで当日はフェイスタオルを用意した。けれども、当日の方はシャボン液に手を入れて遊ぶ子がいなかったため、タオルを準備したことはあまり意味がなかった。しかし、子どもはこちらが予想もしないようなことを考えるので準備に準備を重ねることは無駄ではないと思う。ただ、何を準備したらいいかの判断については、経験を積んでいく中で培っていくしかないと思った。

2. 当日の反省点

一つは、道具の設定位置である。最初は道具とシャボン液を離して整理して置いておいたのだが、次第にぐちゃぐちゃになり、使いつ放しの状態になってしまった。そのため後から来た子どもはどんな種類の道具があるのかわからなく、目の前にある道具しか使えない状況となってしまった。子どもたちが全ての道具と出会えるような状態に設定できなかったことは残念であった。また、遊んだ道具を後片づけるという活動も大切であると思うので、そのためにも、初めにきちんと整えておくことは重要であったと思う。子どもの中から片づきたいという気持ちを引き出すには、やはり初めから整頓された状態にしておいて、片づける位置や片づけ方がわかるような状態を設定しておくことも必要ではないかと感じた。今回は参加する子どもが流動的であったためか、やりにくい面もあったが、検討してみる必要はあると思う。

二つ目は、道具の設定とも関連するが、シャボン液の与え方である。今回私たちは人数が少なかったためか、シャボン液をつくるのがとても忙しかった。また、予想以上に子どもが来てくれたこともあるが、はたしてスタッフはただ単にシャボン液を作って提供するだけでよかったのかと考えると疑問が残る。適切な言葉ではないかもしれないが、ややお膳立てのし過ぎではなかったかとも感じる。こちらとしては、子どもたちに思う存分遊んでもらいたいという気持ちからシャボン液作りに一生懸命になったのだが、足りなくなったら子どもと一緒に液を作ってみるという活動も子どもにとってはよい体験となったので

はないかと考える。道具（今回はシャボン液も含めて）の与え方は事前にきちんと考えておくことが必要であると思った。

三つ目に洗剤が切れてしまったことが準備不足であったと反省している。今回はスタッフの一人が買いに行ってくれたお陰でなんとか助かったが、今回のように子どもの人数を予め把握できない出張などではできるだけ状況を予測して準備する必要があるのではないかと感じた。

3. 当日の様子から感じたこと

前日のYOUサタでは、子どもの数に比してスタッフの数が多かった。また、子どもの参加人数が最初から定まっていたためか、こちらの考える通りに講座は進み、子どもとの触れ合いも深く持てたと思う。しかし当日の方は、スタッフの数も少なく、子どもの数も流動的であったためか、スタッフはシャボン液を作るのが精いっぱい、肝心な子どもと触れ合う時間が少なかった。これは出張の特徴とも言えるかも知れないが、やや残念だった気がする。

しかし、今回の催しは親子の共同体験を通して家庭の教育力の充実を図るということが趣旨となっていたので、子どもたちがお父さんやお母さんと楽しみながら講座に参加できたことはよかったのではないかと考える。家庭での親子関係が希薄になりつつあると言われる今日、今回のような機会が設けられたことは有意義であると感じる。シャボン玉講座では、小さい子どもがお父さんのやってみせるシャボン玉を見て喜ぶ姿や、得意げにお母さんにシャボン玉をやってみせる子ども、夢中になって遊ぶ子どもを頼もしそうに見つめるお母さんの眼差しに出会えた私たちスタッフはとても温かい気持ちになれた。

4. 今後のYOUサタへの思い

今回出張YOU遊サタデーに参加させていただいて、月並みな言い方ではあるが、非常にいい経験となった。特に、キャプテンとして携わらせていただいたことで、準備の一つ一つ、当日のスタッフの人との連携の一つ一つが新たな体験で、今までに触れることのないYOUサタの一面に出会えたことは貴重であったと感じる。やや遅ればせながら、本当の意味でこれからのYOUサタが私にとっての新たな出発となるのではないかと感じている。今回参加してみて得たこと、考えたことを生かしながら来年のYOUサタに参加していきたいと思う。

フィルムロケット

～えっ！！フィルムケースがとびの？～

登坂 武人 (社会専攻 3年)

①出張YOU遊サタデーにおける「フィルムロケット」

キャンパスでの「フィルムロケット」の講座の在り方については前記した通りだが、ここでは同じ講座でもキャンパスと出張では、何がどう違ってくるのかについて書こうと思う。

まず違うことといえば子どもとの関わり方であろう。キャンパスの場合は、フィルムロケットを介在として、参加した子どもとどれだけ深く関わられるかというのが大事だが、出張の場合はそこが大きく変わってくる。出張の場合では、参加するイベントの方針にもよるが、往々にして数をさばく事に重きを置かれがちになってしまうため、子どもとの関わりが疎遠になってしまう。それを理解した上で参加しているのだから、それについてこの場でどうこう言うつもりはない、ただその方針に合わせた場合、講座の内容や進めていく状態が大きく変わっていく。どう変わっていくのかというと、形態的にやりたいと講座に来た子どもに対して、材料を渡し、作り方を教えたら、あとは子ども自身に任せ、つまづいている様子が見られたときや、「わからない」と子ども自身から聞いてきた場合のみ、こちらから指導をするというふうになってしまう。飛ばして遊ぶ時も子どもと一緒に遊べない。

この日の前日、長野キャンパスで第13回YOU遊サタデーが行われた。そこでも私は「フィルムロケット」の講座を開いたのだが、連続して同じ講座を開いたとはいっても、2つの形態を持つ講座でキャプテンをしたことは、今後のフィルムロケット講座の方向性を考えていく上で私にとって良い経験だったと言える。

②今後出張YOU遊サタデーで「フィルムロケット」の講座を開くならば

第13回のYOU遊サタデーと小諸での出張YOUサタの両方で「フィルムロケット」の講座を開いてみて、今後出張でこの講座を開くならば「こうした方が良いのではないか」という私なりの提言を、今回の反省も兼ねて書いてみたいと思う。

- ・まずスタッフの人数だが、スペースの広さにもよるが最低3人は必要だ。受付に1人、作る場所に1人、飛ばす場所に1人という内訳になる。今回は2人だったので、目の行き届かない場所が出て来てしまった。特に飛ばす場所に誰かしらスタッフがいないと危険である。
- ・フィルムロケットの燃料となるバブだが、これは初めからスタッフが細かく砕いておいた方が良く思う。キャンパスでは子どもが自分で砕いたが、出張ではそこまで時間がないので、あらかじめ粉にしておいた方が良くはないか。子どもが流動的に参加してくる形態で、フィルムロケットの講座を開くならば、この準備は必須のことである。
- ・フィルムを屋内で飛ばす場合（小諸では、体育館の中で飛ばした）は、あらかじめロケットを飛ばすスペースにダンボールを敷き詰めておいた方が良く思う。さらに飛

ばす時はロケットの下に新聞紙を敷いてから飛ばした方が良い。そうすれば片づける時にとっても楽である。これは外で飛ばすという形態を取る時でも使えることだと思う。

- 最後にこれは参加者の方に言われたことだが、バブの粉をすくうものや、水を入れておくものに、1回飛ばすのに必要な量だけの目安のラインを書いておいた方が良いかもしれない。キャンパスでやるならば、その適切な量を試行錯誤しながら子ども自身が見つけ出すのもひとつのねらいだが、出張のように数をさばくならば、1回で失敗せず飛ばせるようにしておいた方が良いのかもしれない。

以上の点が今回の出張で私が感じたことであるが、何にしる出張はハブニングが付き物であるから、これだけだとは考えにくい。次回、どこかの出張でこの講座を開いた時に、思いがけないことが起こったとしてもキャプテンやスタッフで冷静に対応して欲しい。それも出張の楽しみのひとつだろう。また、出張がキャンパスのように行かないからといって、いいかげんにやらないで欲しい。キャンパスでのYOUサタに来る子どもも、出張でのYOUサタに来る子どもも、フィルムロケットを飛ばしたいという願いに何ら変わりはないのだから。



宇宙生物スラスラスライム

佐々木 美恵 (家庭専攻 4年)

【講座の流れ】

受付で整理券(グループ、そのグループ内での番号を明示したもの)を配布し、参加者を3グループに分ける。1グループの参加者最大13人にスタッフ2人がつき、そのスタッフが作り方を説明しながら、1人ひとつスライムをつくっていく。参加者のほとんどが親子であり、このイベントは親子の触れ合いを重視するため、スタッフはその手助けにまわる。1回の講座時間は15分間で、それを4回行う。(講座と講座の間に10分間の準備時間をとる)

【講座を行って】

先のページに書いたように、短時間に大人数の参加者と触れ合うことは難しかった。しかし、多くの親子と一緒にスライムを作り楽しんでいる姿は、キャンパスで行うYOU遊サタデーではあまり見ることでできないものであり、キャンパスでももっと親子での参加を呼びかけたいと感じた。また、スライムができたときは年齢を問わず親子が「わー」と目を輝かせたことにうれしさを感じるとともに、スライムの魅力に改めて驚かされた。

また、私は受付をしていたのでスライムを作っているときの子どもの姿はあまり見ることができなかったが、「スライムをやりたいです」と一人で受付へ来たり、講座の始まる時間を必死に覚えたりしている子どもの姿を見て、子ども自身にこういったことをやらせてみることも必要だと感じた。

今回は時間の関係上から、一人ひとつのスライムを作るだけと制限を設けてしまったが、「〇〇色のスライムができたから今度は××色のスライムをつくりたい」などと、何回も受付へ来る子どもを見て、色ひとつとっても子どもには大事なことで、私たちは、子どもが色のみにとどまらず様々な発想のスライムを作れるような場を用意しておいてあげべきだと感じた。そして余裕があれば、時には少しぐちょぐちょだったり、硬すぎたりするスライムができて、何回か作ることによってコツをつかみ上手にスライムができるようになったり、どうしてこうすれば良いのかを考えるきっかけになったりすればと思った。

学生スタッフ名簿



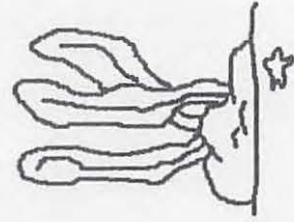
第11回 YOU 遊サタデー

1年生アシスタントスタッフ一覧

NO.	課題名	キャプテン名	アシスタントスタッフ
1	プーマランを作ろう！	松元 徹 (保4)	杉山雅幸 (生)
2	サラサラドロドロ カッチカチ (小麦粉粘土)	唐木紫織 (家3) 森下勇江 (家3)	神谷奈津子・松重千尋 (美)
3	いじめアフォーラム ～いじめをめぐって 子どもと共に生きる意味～	北澤勝親 (教官) 北島茂樹 (教4) 山上絹代 (自営業) 吉澤麻衣子 (国3)	佐々木美由紀 (国) 巻山淳 (幼) 井口哲平・榎本直樹 (教) 赤西裕 佳子・御堂島真樹子・田代奈実・齋 藤あかね (音) 小林誠 (理)
4	ソクソク 教育学部ってどんなところ	片桐宏 (院2)	
5	楽しく作ろう 簾かご作り	澤田奈奈 (理3)	速水英典 (理) 山田理恵・中尾愛 (教)
6	宇宙生物スラスラスライム	浅沼康理 (教4)	関悦子・齋藤健美 (教) 田代佑夏 (社) 河田恭志 (生)
7	ペーパーグライダーを とばそう	中村典史 (社4)	加藤豊司・浅生亮介 (理) 丸山貴弘 (国) 細田尚恵 (家)
8	自分で紙を作ってみよう	真島紀章 (数3) 市川大輔 (数3)	清水奈美 (美) 西田智昭・高橋文 子・馬場かおり (教)
9	いい汗かこう！！ 春の大運動会	佐々木美恵 (家4)	藤原佐留 (心) 浅見直子 (数) 土 江景子 (家) 那須良寛・広橋武志・ 日高祐二・上野英希 (教) 山浦俊 美 (兼)
10	ステーションって何？ ～君もやってみよう～	土屋淳子 (家4)	神原研太 (理) 天木美恵・近田由 夏・大竹絵美 (家)
11	でっかいでっかい しゃぼん玉をつくらう	金井弘子 (理3)	坂口涼子 (英) 横山邦典 (社) 神 野愛美 (音) 小林真紀 (義) 雨宮 桃子・清水華代 (理)

第11回 YOU 遊サタデー

No.	課題	キャプテン	アシスタントスタッフ
1	プーマラン	松元 徹 (保4)	日詰清香 (保4) 平林徹 (数3) 小島杏子・近森真保 (国3)
2	小麦粉粘土	唐木 紫織 (家3) 森下 勇江 (家3)	井口佳美・増田紀子・ 清水麻紀子 (家3) 西澤優子 (心2)
3	いじめアフォーラム	北澤 勝親 (教官) 北島 茂樹 (教4) 山上 絹代 (自営業) 吉澤 麻衣子 (国3)	富井暉子・佐藤和子 (一般)
4	教育学部	片桐 宏 (院2)	
5	簾かご	澤田 奈奈 (理3)	小市有希・市川明貴 (理3) 下藤陽子 (理3) 奥川礼子 (理4)
6	スライム	浅沼 康理 (教4)	酒井由佳里 (家4) 大島智子 (音3) 長谷川直紀 (理4) 中川啓 (音4)
7	ペーパーグライダー	中村 典史 (社4)	芦田英典 (社4)
8	紙作り	真島 紀章 (数3) 市川 大輔 (数3)	山田尚美・谷川美佳・ 小倉佐知子 (家3)
9	運動会	佐々木 美恵 (家4)	島谷有紀・藤沢貴子 (社3) 斎藤聖子 (家3) 青松幸子 (障2) 白畑陽子 (障2)
10	ステーション	土屋 淳子 (家4)	吉田法子・原淳子 (心2) 野村麻家 (社2) 武末杏子 (美2) 矢澤由紀子 (英4)
11	しゃぼん玉	金井 弘子 (理3)	青山朋美 (理3)



第12回大YOU遊サタデースタッフ一覧

【午前】

NO.	職種名	キャスト名	アシスタントスタッフ
1	ナイチャージャーAII	小池祐介 (数4)	桐山剛 (国4) 杉山雅幸 (生1)
2	山あそび	千葉綾子 (理4)	竹田みどり (心4) 佐々木浩 (国1) 中村祐介・鎌倉久至 (理1) 平出匡重 (国1) 渡辺智英 (幼4)
3	やさしい木工教室	片桐宏 (院2)	塚谷祐介・川井裕 (技4) 平田敬志 (技1) 入川文洋 (技3)
4	からカラ・ア〜ト	堀下房枝 (家3)	井口佳英 (家3) 滝田奈奈 (理4) 武末裕子 (院2)
5	ドールとうどんを作ってみよう	平林徹 (数3)	山本隆行 (数4) 土屋祥子 (理4) 吉池志帆・津口久仁子 (社4) 小市有希 (理3) 井上千昌 (数3)
6	こま・コマ・独楽であそぼう!	竹下雅道 (数4)	中條悟 (理4) 福島草浩 (技2) 塚城拓 (理学4) 笛木悟 (国1)
7	ドキドキの世界	佐野英佳 (保4)	日高清香・内山まゆみ・江本裕子 (保4) 青柳友英 (院講生)
8	おりがみランド	高屋聖子 (家3)	小水曾雄亮 (数3) 高戸英佳子 (家3) 白畑陽子 (理2)
9	うちわで書	村田恵 (国3)	大塚順・木内理映子 (国4) 羽生智子・竹澤志真・鈴木敬史・(国3) 黒山有英子・岩本幸恵 (国2)
10	字留からやってみよう Sura Sura スライムくん	真島紀章 (数3)	浅沼隆理・(数4) 岡田和泉 (理4) 清水麻紀子 (家3) 有岡竜也・池井幸樹 (数3) 那須良寛・山田理恵 (数1)

本部スタッフ

係名とその活動内容	スタッフ名
スタッフ長 [全体の支待にまわる]	佐々木英恵 (家4)
受付係 [参加者の受付を行う]	◎長田ひろみ (理3) 1. 小市有希 (理3) 2. 竹田みどり (心4) 3. 塚谷祐介 (技4) 4. 滝田奈奈 (理3) 5. 井上千昌 (数3) ◎小水曾雄亮 (数3) 桐山剛・大塚順・木内理映子 (国4) 北島茂樹・山本隆行 (数4) 吉池志帆・津口久仁子 (社4) 清水麻紀子 (家3) 有岡竜也・池井幸樹 (数3) 福島草浩 (技2)
駐場係 [車を誘導する] 9:05まで待ち場にいる。帰りは11:50ごろ待ち場につく。	◎片桐宏 (院2) 浅沼隆理 (数4) 白畑陽子 (理2) 赤羽恵子 (国4) 井口佳英 (家3) 羽生智子・鈴木敬史 (国3) 黒山有英子・岩本幸恵 (国2) 杉山雅幸 (生1) 那須良寛・山田理恵 (数1) 笛木悟・佐々木浩・平出匡重 (国1) 中村祐介・鎌倉久至 (理1) 平田敬志・入川文洋 (技1)
防犯係 [参加者を誘導する]	◎土屋祥子 (家4) 竹下雅道 (数4) 白畑陽子 (理2) 武末裕子 (院2) 青柳友英 (院講生) 田中新吾 (英4) ◎成田英匡 (理4) 長田ひろみ (家4) 中村典史 (社4) 佐々木英恵 (家4) 真島紀章 (社3) 唐木紫織 (家3)

【午後】

講座スタッフ

NO.	講座名	キャスト名	アシスタントスタッフ
11	ブームランを飛ばそう	柚木亘 (理4)	佐野英佳 (保4) 石下段 (院2) 福田浩紀 (内田悟 (理4) 青柳友英 (院講生)
12	カチャカチャ演奏会 ~打楽器を作ってみよう~ ステンシルって何? ~絵もやってみよう~	休講	
13	モコモコ デンキ パン	土屋祥子 (家4)	増田結子・高戸英佳子 (家3) 那須良寛・山田理恵 (院1)
14	世界の音楽と世界の遊びを楽しもう	唐木紫織 (家3)	大島智子 (音3) 塚城拓 (理学4) 小水曾雄亮 (数3)
15	世界の音楽と世界の遊びを楽しもう	清水麻紀子 (家3)	岡田大輔 (理4) 池程子 (英3) 三沢英英 (院2) 竹下雅道 (数4) 白畑陽子 (理2) 渡辺美香・花岡佑美・早川嘉英・渡辺美英・土屋亜也・平林聖奈 (音2) 岡部真英・矢沢真実子 (国講2) 伊東裕美 (幼4) 永田勝嗣 (数4) 福島草浩 (技2) 池田司 (英4)
16	いじめ・不登校フォーラム '9.7秋	北島茂樹 (数4)	岡田和泉 (音4)
17	銅が金になる!? 錬金術の秘密	中條悟 (理4)	松沢啓 (理4) 下村晴彦・小市有希・下條陽子 (理3)
18	楽しく作ろう餅かご作り	澤田奈奈 (理3)	津口久仁子 (社4) 井口佳英 (家3) 武末裕子 (院2)
19	カンカンアイスクリーム	長田ひろみ (家4)	吉池志帆 (社4) 青藤聖子 (家3) 聖坂武人 (社3) 白井裕真・深澤典子 (家1) 征矢史子・山口希 (家4) 井上千昌 (数3)

本部スタッフ

係名とその活動内容	スタッフ名
スタッフ長 [全体の支待にまわる]	佐々木英恵 (家4)
受付係 [参加者の受付を行う]	◎真島紀章 (数3) 11. 塚城拓 (理学4) 12. 井上千昌 (数3) 13. 高戸英佳子 (家3) 14. 大島智子 (音3) 15. 池程子 (英3) ◎聖坂武人 (社3) 松沢啓 (理4) 永田勝嗣 (数4) 下村晴彦 (理3) 高野彩央 (音2) 福島草浩 (技2) 岡部真英・矢沢真実子 (国講2) 渡辺美香・花岡佑美・平林聖奈 (音2) 伊東裕美 (幼4)
駐場係 [車を誘導する] 13:35まで待ち場にいる。帰りは16:20ごろ待ち場につく。	◎平林徹 (数3) 佐野英佳 (保4) 井口佳英・青藤聖子・増田結子 (家3) 三沢英英 (院2) 早川嘉英・渡辺美英・土屋亜也・森志帆・坪井和寛・小林聖穂子 (音2) 那須良寛・山田理恵・齋藤英英 (院1) 白井裕真・深澤典子 (家1)
防犯係 [参加者を誘導する]	◎土屋祥子 (家4) 竹下雅道 (数4) 岡田大輔 (理4) 白畑陽子 (理2) 武末裕子 (院2) 青柳友英 (院講生) ◎成田英匡 (理4) 浅沼隆理 (数4) 中村典史 (社4) 佐々木英恵 (家4) 真島紀章・平林徹 (数3) ◎佐々木英恵 (家4) Cooking 隊 [前日=スタッフの朝食準備、当日=朝食配布] 吉池志帆・津口久仁子 (社4) 井口佳英・高戸英佳子 (家3) ◎中村典史 (社4) 全員 ◎中村典史 (社4)
閉会式係 [会場の準備をする]	土屋祥子 (家4)
写真・記録係 [写真・ビデオで撮影する]	◎成田英匡 (理4) 浅沼隆理 (数4) 中村典史 (社4) 佐々木英恵 (家4) 真島紀章・平林徹 (数3)
本部係 [当日受付、テントで特待]	◎佐々木英恵 (家4) 吉池志帆・津口久仁子 (社4) 井口佳英・高戸英佳子 (家3)
備品係 [当日までの備品管理、講座後備品回収]	◎中村典史 (社4)
会計係 [会計]	土屋祥子 (家4)
販路本部係 [教念、連絡、写真など]	宮沢元 (理4)

第1.3回信大YOU遊サタデースタッフ一覧表
【午前】

No.	講座名	キャプテン	アシスタントスタッフ
1	タオルマジック	小倉佐知子(家3)	橋下房枝(家3) 溝口久仁子(社4) 武末裕子(美2) 野村舞美(社2) 土屋輝子(家4)
2	フィルムロケット	荻坂武人(社3)	原博子(心2) 相馬真(技4) 尾沼直也(幼2) 加藤豊司(理1) 山田理恵(美1) 久保田洋(理1) 渡邊智哉(高3)
3	宝さがし	小池祐介(美4)	田代奈美(音1) 須須良寛(美1) 杉山雅幸(生1) 平田智志(技1)
4	こまであそび!	竹下直道(家4)	岩田智也(技2) 常盤井美和(家3) 大島智子(音3) 藤原拓(理字4) 中尾愛・間悦子(美1) 林祐介(技1) 中村祐介(理1) 三井克高(中1) 日高清香・正木淑子・瀬尾高子・高橋恵理(保4) 庄司昭子・丹下亜衣(社2)
5	みんなでジャンプ	佐野真佳(保4)	中橋浩(理4) 青柳聖子(国3) 小南有希・下塚陽子・市川明良(理3) 斎藤聖子・山田尚美・谷川美佳(家3) 千原綾子(理4)
6	でっかいでっかいしゃぼん玉をつくらう	金井弘子(理3)	吉池志帆(社4) 西沢優子(心2) 渡辺智美(幼4) 網山潤(国4) 小林真紀(理1)
7	いい眠つくらう!	市川大輔・油井幸雄(家3)	増田紀子(家3) 吉沢麻衣子(国3) 早川千絵美(心3) 長田ひろみ(家4) 内田亜矢子(家1) 有田恵也(家3)
8	モニモニペン	清水常雄・阿部利恵(美3)	中嶋亮太・水野優子(美3) 青柳友美(聴講生) 遠藤明里(心3) 成田英直(理4)
9	作ってうれしいカレンダー		

本部スタッフ		スタッフ名
係名とその活動内容		佐々木美恵(家4)
スタッフ長【全体の指示にまわる】	受付係【参加者の受付を行う】	◎吉沢麻衣子(国3) 1. 溝口久仁子(社4) 2. 相馬真(技4) 3. 大島智子(家3) 4. 幸嶋宏江(家3) 5. 日高清香(保4)
狂喜場係【本名披露する】	9:05まで持ち場にいる。帰りは11:50頃持ち場につく。	◎小木曾達亮(家3) 山本隆行(家4) 成田英直(幼2) 庄司昭子・丹下亜衣(社2)
訪談係【参加者を誘導する】		◎平林直(家3) 藤原拓(理字4) 長田ひろみ(家4) 中橋浩(理4) 橋下房枝・青柳聖子・谷川美佳(家3) 下塚陽子(心3) 常盤井美和(家3) 金井弘子(理3) 原博子(心2) 武末裕子(美2) 野村舞美(社2) 早川千絵美(心3) 有田恵也・油井幸雄(聴講生) 田代奈美(音1) 加藤豊司・久保田洋・中村祐介(理1) 須須良寛・中尾愛・間悦子・山田理恵(美1) 下塚陽子・市川明良(理3) 網山潤(国4) 小林真紀(理1) 林祐介(技1) 内田亜矢子(家1) 杉山雅幸(生1)
閉会係【会場の準備をする】		◎佐々木美恵(家4) 吉池志帆(社4) 遠藤明里(心3) 渡辺智美(幼4) 竹下直道(家4) 小池祐介(美4) 佐野真佳(保4)
写真・記録係【写真・ビデオで撮影する】		◎井口佳美(家3) 渡辺理恵(家4) 寺町知江子(家4)
本部係【当日受付、テントで待機】		中村舞史(社4) 佐々木美恵(家4) 平林直・小木曾達亮(家3)
Cooking隊【当日のおにぎりを作る】		◎山田尚美(家3) 溝口久仁子(社4) 寺町知江子(家4) 大島智子(音3) 谷川美佳(家3)

【午後】

No.	講座名	キャプテン	アシスタントスタッフ
10	たこ	小木曾達亮(家3)	相馬真(技4) 藤原拓(理字4) 長田ひろみ(家4) 芦田英矢(社4) 成田英直(理4) 林祐介(技1) 原洋行(家1) 加藤豊司(理1)
11	パペルPUPPY	山本隆行(家4)	渡辺理恵(家4) 尾沼直也(幼2) 丹下亜衣(社2) 吉池志帆(社4) 田代奈美(音1)
12	気分はめいんでい	平林直(家3)	岩田智也(技2) 下塚陽子・遠藤明里(心3) 伊東裕美・渡辺智美(幼4) 常盤井美和(家3) 庄司昭子(理1) 平田智志(技1)
13	つくってみよう狼の鏡	中橋浩(理4)	渡辺拓一・小南有希(理3) 田代義人・橋本哲・宮崎五月(理3) 青柳友美(聴講生)
14	スラスラタイム	吉沢麻衣子(国3)	原博子(心2) 日高清香(保4) 山田理恵(家1) 杉山雅幸(生1) 渡辺智美(家3) 阿部利恵(美3) 佐々木美恵(家4) 久保田洋(理1)
15	本日わたあめさん	宮下島(院2)	小倉佐知子・谷川美佳・山田尚美(家3) 溝口久仁子(社4) 大島智子(音3) 望月政和(家2) 伊賀直樹(理4) 須須良寛(美1) 中村祐介(理1)
16	からがら・ア〜ト	橋下房枝(家3)	寺町知江子(家4) 幸嶋宏江(家3) 増田紀子(家3) 小林真紀(理1)
17	あけてびつくり!	武末裕子(美2)	西沢優子(心2) 清水麻紀子・唐木常雄(家3) 野村舞美(社2) 早川千絵美(心3) 網山潤(国4)
18	水八玉をつくらう	油木豆(理4)	増田紀子(理4)

本部スタッフ		スタッフ名
係名とその活動内容	スタッフ長【全体の指示にまわる】	千原綾子(理4)
受付係【参加者の受付を行う】		◎吉沢麻衣子(国3) 10. 相馬真(技4) 11. 尾沼直也(幼2) 12. 常盤井美和(家3) 13. 小南有希(理3) 14. 日高清香(保4)
狂喜場係【本名披露する】	13:05まで持ち場にいる。帰りは16:25頃持ち場につく。	◎斎藤聖子(家3) 岩田智也(技2) 成田英直(家4) 中嶋亮太(家3) 庄司昭子・丹下亜衣(社2) 増田紀子(家3) 渡辺理恵(家4)
訪談係【参加者を誘導する】		◎荻坂武人(社3) 唐木常雄・清水麻紀子・小倉佐知子・谷川美佳(家3) 下塚陽子(心3) 原博子(心2) 阿部利恵(美3) 金井弘子・宮崎五月(理3) 伊東裕美(幼4) 寺町知江子・長田ひろみ(家4) 藤原拓(理字4) 野村舞美(社2) 早川千絵美(心3) 渡辺拓一(理3) 田代義人・橋本哲(理2) 青柳友美(聴講生) 田代奈美(音1) 加藤豊司・久保田洋(理1) 山田理恵(美1) 小林真紀(理1) 原洋行(家1) 伊賀直樹(理4) 林祐介(技1) 杉山雅幸(生1) 網山潤(国4) 中村祐介(理1)
閉会係【会場の準備をする】		◎佐々木美恵(家4) 竹下直道(家4) 佐野真佳(保4) 吉池志帆(社4) 小池祐介(美4) 遠藤明里(心3) 渡辺智美(幼4) 中村舞史(社4) 竹下直道(家4)
写真・記録係【写真・ビデオで撮影する】		◎井口佳美(家3) 中村舞史(社4) 竹下直道(家4)
本部係【当日受付、テントで待機】		土屋輝子(家4) 荻坂武人(社3) 斎藤聖子(家3) 千原綾子(理4)
備品係【備品の管理】		斎藤聖子・増田紀子(家3) 土屋輝子(家4)

平成9年度「信大YOU遊サタデー」学年別参加者数

1. 「信大YOU遊サタデー」のねらい

- ① 学生生活の充実
- ② 大学開放
- ③ 学校週五日制への対応
- ④ 実践的指導力

2. 「信大YOU遊サタデー」の実施日時

- 第11回 平成9年5月24日(第4土曜日) 12:30～16:00 (松本キャンパス)
- 第12回 平成9年9月27日(第4土曜日) 8:30～16:30 (長野キャンパス)
- 第13回 平成9年11月8日(第2土曜日) 8:30～16:30 (長野キャンパス)
- 出張 平成9年9月13日(第2土曜日) 10:00～16:00 (長野県立歴史館)
- 出張 平成9年10月11日(第2土曜日) 9:00～17:00 (国立信州高遠少年自然の家)
- 出張 平成9年11月9日(第2日曜日) 9:00～14:00 (小諸市民会館)

3. 学年別参加者数と指導にあたった学生数

	第1～10回	第11回	第12回	第13回	合計
幼稚園	182	38	20	47	287
小学生1年	253	21	17	27	318
2年	298	26	24	44	392
3年	277	25	21	48	371
4年	260	17	36	43	356
5年	319	12	19	18	368
6年	115	7	11	9	142
中学生	41	1	13	8	63
高校生	95	1	0	3	99
一般成人	254	49	26	16	345
合計	2115	197	187	263	2762
学生	863	96	96	89	1144
(キャプテン)	(189)	(14)	(21)	(19)	(243)
(スタッフ)	(674)	(82)	(75)	(70)	(901)
学部教官	13	4	4	2	23
地域社会人	19	3	1	0	22
開設講座数	161	11	20	18	210

出張YOU遊サタデー 参加者数と学生数

	歴史館	高遠	小諸
参加者	約400	約300	約250
学生	13	33	12
学部教官	1	1	1
開設講座	2	5	3

あとがき

今、第18回長野冬季オリンピック競技大会の開会式が始まった。その模様をラジオで聞きながらこのあとがきを書いている。YOU遊サタデーを担った学生たちも、オリンピックボランティアとして、今それぞれの任務に参加している。オリンピックが始まる前にこの実践記録を完成しようと、学生たちは原稿の執筆に日夜頑張った。

信大YOU遊サタデーは、児童生徒の新しい“荒れ”が始まったといわれる今日の教育界に、敢えて自分の道を求めようとしている学生たちによって推進されている。21世紀の我が国の教育を担っていくのは、間違いなくこの学生たちである。この青年たちの活躍に期待する以外にない。2年前にキャプテンをつとめた卒業生から、3度目の挑戦で教員採用試験に合格できたという報告を受けた時は、本当にうれしかった。どんなに状況が厳しかろうとあきらめないで、勝つまで努力を続ける、その心こそが未来を拓く鍵であると思う。

学生たちが、子どもたちと触れ合い、ともに喜べる場を共有したいと考え、そのための具体的な講座を準備して実践し、その結果、何が得られたのかを考察し、記録に残していくことは、教育実践研究に生きる教師を目指す者にとって不可欠の労作業である。学生の実践には未熟さがついてまわるが、それを凌駕して尊いのは、他者との関わりを求めて人間の中に飛び込み、自他ともに喜びを求めて実践活動に身を挺している、その事実である。

第4集となるこの報告書を世に出すことができたのは、学生たちのこのような実践を終始温かく見守ってくださっている全教職員の皆様のご指導・ご鞭撻の賜物であり、信州大学本部のご支援のおかげである。衷心より感謝を捧げたいと思う。

まもなく第5期実行委員会が発足する。信大YOU遊サタデー5周年記念大会は、オリンピック施設ビッグハットを会場に、平成10年8月15日(土)・16日(日)に「青少年のための科学の祭典」長野大会と同時開催される予定である。今後とも、さらに一層のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。平成10年2月7日 土井進

【参考文献】

土井進「信大YOU遊サタデーの講座づくり」『授業づくりネットワーク』

No.130 pp.64~66 学事出版 1997年9月

土井進「使命感・熱意をもつ教師のたまごを育てる、いま、教員養成の現場から—信州大学教育学部1年生の「教育参加」の可能性—」『総合教育技術』

第52巻第11号 pp.67~70 小学館 1997年10月

山口直行「信大YOU遊サタデー第1回実行委員長でした」谷川彰英編『連続セミナー授業を創る Part II』N0.42 p.21 1997年11月

(口頭発表)

土井進「臨床経験の授業科目「教育参加」の開設と効果」アジア・太平洋地域教師教育国際シンポジウム発表資料 p.12 北京師範大学 1997年8月

林向達・土井進「信大YOU遊サタデーの講座づくり」日本教材学会第9回研究発表大会プログラム p.75 日本女子大学 1997年11月

土井進・貝原豪「フレンドシップ事業を契機とした信州大学と地元教育機関との連携」シンポジウム「フレンドシップ事業は優れた教師を生み出すか」発表資料集 pp.37~42、66~67 1997年11月

中村典史・佐々木美恵「学生が創造する信大YOU遊サタデー」同上 pp.43~48

(テレビ放送)

「信大YOU遊サタデー—先生になりたい—」1997年10月18日放映 15分

提供長野市 編集：赤井智志(長野市広報課) 江村裕子(長野朝日放送)

— 編集後記 —

オリンピック 4日目の 2月 10日、第 4期 YOU 遊サタデー実践記録の編集作業が終わった。今年はオリンピックがあるため例年よりも早めに作業を進めなくてはならず大変あわただしい編集作業だった。しかしこの実践記録を見てみると、過去の実践記録と比べても遜色の無いものに仕上がったと言えるだろう。これで第 4期 YOU 遊サタデー全ての活動が無事締めくくられたことになる。だからといってそれが第 5期 YOU 遊サタデー始動の合図になるというわけではないと思う。第 4期は第 4期、第 5期は第 5期全くの別物だと思うからだ。名前は同じ YOU 遊サタデーかもしれないが、色は全く違うものになるだろう。また、違う色にしなくてはならないと思う。「模倣から伝統は生まれない」、「保守が継続の最善の道とは思えない」。この 2つの言葉を胸にとどめておきたい。

(登坂 武人 社会専攻 3年)

— 第 4期 YOU 遊サタデー実践記録編集委員会 —

- ◎登坂武人(社 3) ○真島紀章(数 3) ○清水麻紀子(家 3)
・浅沼康理(数 4) ・井口佳美(家 3) ・小木曾雄亮(数 3)
・佐々木美恵(家 4) ・中村典史(社 4) ・森下房枝(家 3)
・平林徹(数 3) ・土井進(教官)

平成 9 年度
第四期「信大 YOU 遊サタデー」の実践
— 体験的学習の指導による実践的力量的形成 —

平成 10 年 3 月 17 日 発行
編集・発行 信州大学教育学部
附属教育実践研究指導センター

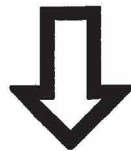
〒380-0871 長野市西長野 6-10
TEL/FAX 026-237-6127
TEL/FAX 026-237-9296

HomePage : <http://cert.shinshu-u.ac.jp/>
E-Mail : doisusm@gipnc.shinshu-u.ac.jp
higashi@gipnc.shinshu-u.ac.jp

信大YOU遊サタデーHome Page

信州大学教育学部生が、平成6年度に全国に先駆けてスタートさせた
新しい空間をご紹介します。

是非ご覧ください



<http://cert.shinshu-u.ac.jp/st/you/index.html>